
会津若松市斎場新築工事

建築主体工事



会津若松市斎場 新築工事 設計図

建築主体工事



図面目録

会津若松市斎場新築

No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺
A - 01	表紙		A - 37	男子、女子 便所 矩計図	S=1/30	S - 01	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 1	
A - 02	図面目録		A - 38	炉前ホール、告別ホール 平面詳細図	S=1/50	S - 02	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 2	
A - 03	工事概要書 No. 1		A - 39	炉前ホール、告別ホール 展開図	S=1/50	S - 03	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 3	
A - 04	工事概要書 No. 2		A - 40	収骨室、前室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 04	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 4	
A - 05	特記仕様書 No. 1		A - 41	収骨室前室 展開図	S=1/50	S - 05	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 5	
A - 06	特記仕様書 No. 2		A - 42	男子、女子 便所 平面詳細図 展開図	S=1/50	S - 06	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 6	
A - 07	特記仕様書 No. 3		A - 43	便所前室、湯沸室 展開図	S=1/50	S - 07	福島県鉄骨仕様標準図 No. 1	
A - 08	特記仕様書 No. 4		A - 44	待合ホール 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 08	福島県鉄骨仕様標準図 No. 2	
A - 09	特記仕様書 No. 5		A - 45	エントランスホール 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 09	福島県鉄骨仕様標準図 No. 3	
A - 10	屋根防水工事、下地及び押入コンクリート工事仕様書		A - 46	事務室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 10	福島県鉄骨仕様標準図 No. 4	
A - 11	内装工事仕様書 No. 1		A - 47	便所、シャワー室、湯沸室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 11	福島県鉄骨仕様標準図 No. 5	
A - 12	内装工事仕様書 No. 2		A - 48	車庫、倉庫 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 12	福島県鉄骨仕様標準図 No. 6	
A - 13	木製建具工事標準図		A - 49	階段 詳細図	S=1/30	S - 13	基礎、地中梁伏図	S=1/100
A - 14	案内図		A - 50	建具KEYPLAN 1階	S=1/100	S - 14	1階柱、2階梁伏図	S=1/100
A - 15	敷地面積求積図	S=1/200	A - 51	建具KEYPLAN 2階	S=1/100	S - 15	2階柱、R階梁伏図	S=1/100
A - 16	配置図	S=1/200	A - 52	建具表 No. 1	S=1/50	S - 16	柱 配筋リスト	S=1/30
A - 17	新築部分 面積計算図	S=1/200	A - 53	建具表 No. 2	S=1/50	S - 17	梁 配筋リスト No. 1	S=1/30
A - 18	既存建物、解体建物 面積計算図	S=1/200	A - 54	建具表 No. 3	S=1/50	S - 18	梁 配筋リスト No. 2	S=1/30
A - 19	室別 面積計算図 排煙 面積計算図	S=1/200	A - 55	建具表 No. 4	S=1/50	S - 19	梁 配筋リスト No. 3	S=1/30
A - 20	現況 平面測量図	S=1/200	A - 56	建具表 No. 5	S=1/50	S - 20	基礎詳細図 No. 1	S=1/30
A - 21	現況 断面測量図	S=1/200	A - 57	建具表 No. 6	S=1/50	S - 21	基礎詳細図 No. 2	S=1/30
A - 22	敷地 横断面図	S=1/200	A - 58	建具表 No. 7	S=1/50	S - 22	軸組図 No. 1	S=1/100
A - 23	敷地 縦断面図	S=1/200	A - 59	部分詳細図 No. 1		S - 23	軸組図 No. 2	S=1/100
A - 24	外構工事 平面図	S=1/200	A - 60	部分詳細図 No. 2		S - 24	軸組図 No. 3	S=1/100
A - 25	外部、内部 仕上表		A - 61	部分詳細図 No. 3		S - 25	軸組図 No. 4	S=1/100
A - 26	1階 平面図	S=1/100				S - 26	ラーメン詳細図 No. 1	S=1/30
A - 27	2階 平面図	S=1/100				S - 27	ラーメン詳細図 No. 2	S=1/30
A - 28	屋根伏図 断面図	S=1/100				S - 28	スラブ、壁 配筋リスト	S=1/30
A - 29	立面図 南面 西面	S=1/100				S - 29	ベタ基礎 詳細図	S=1/30
A - 30	立面図 北面 東面	S=1/100				S - 30	各部配筋詳細図	S=1/30 S=1/20
A - 31	1階 天井伏図	S=1/100				S - 31	車寄 構造図	S=1/100 S=1/30
A - 32	2階 天井伏図	S=1/100				S - 32	渡り廊下 構造図	S=1/30 S=1/50 S=1/20
A - 33	一般矩計図	S=1/30						
A - 34	炉前ホール、告別ホール 矩計図	S=1/30						
A - 35	作業室 矩計図	S=1/30						
A - 36	車庫、エントランスホール 矩計図	S=1/30						

工事概要書

1. 工事名称その他	工事名称	会津若松市斎場新築工事	建築主	会津若松市長 早川広中	建設地 地名地番	会津若松市門田町大字黒岩 字石高甲833番地	主要用途	火葬場	工事種別	新築・増築・改築・改修・模様替・その他
------------	------	-------------	-----	-------------	-------------	---------------------------	------	-----	------	---------------------

2. 敷地状況	敷地面積	3,343.0805 m ²	都市計画区域	○内 ・市街化区域 ○市街化調整区域 ・外	用途地域	・第1種住専・第2種住専 ・住居・近隣商業・商業 ・準工業・工業・工業専用〇無	防火地域	・防火 ・準防火 ○無	道路種別幅員	○前面 市道 m ・右側面 道 m ・背面 道 m ・左側面 道 m	都市計画道路	○無・計画決定・事業決定 ・名称幅員 ・処置	規制地域等の指定	・騒音規制 ・振動規制 ・その他	その他の許可届出等 (縦断法令等・届出・許可番号・年月日)
---------	------	---------------------------	--------	--------------------------------	------	---	------	-------------------	--------	---	--------	------------------------------	----------	------------------------	-------------------------------

3. 構造・規模面積	計画部分	計画以外の部分	合計	棟別名	構造	基礎工法	階数	建築面積	床面積				合計	
	建築面積	1,120.9285 m ²	332.51265 m ²	1,453.44115 m ²	火葬場	RC 2F	直接独立	1	1,120.9285	1階	2階	廊	階	1,003.5575
	延べ面積	1,003.5575 m ²	332.51265 m ²	1,336.07015 m ²										
	各種高さ	最高高さ 7.7 m 最高軒高 6.7 m 居室の床高 20 cm その他	増築予定 ○有 ・無	建ぺい率 43.48 % 容積率 39.97 %	その他 (ピロティ・コーニャ・ドライエリア・屋外階段・テラス・ぬれえん・吹抜等)									

4. 法規制概要	項目	規制概要	計画実施概要	適否	備考 (参照図面等)	項目	規制概要	計画実施概要	適否	備考 (参照図面等)	項目	規制概要	計画実施概要	適否	備考 (参照図面等)		
	一般事項	建ぺい率	43.48			防火	屋根	777mm防水 コンクリート押入	適		消防						
一般構造及び設備規制	容積率	容積率	39.97			防火	延焼のおそれのある部分				その他						
		斜線制限	道路				防火	位置	異種用途区画	車庫		適	その他				
			北側 (日影規制)					防火	構造	耐火構造		RC造		適	その他		
	最高の高さ			防火	区画部の外壁	耐火構造	RC造		適	その他							
	最高の軒の高さ				防火	貫通部の処理	不燃材料	実施	適		その他						
	床高			防火		防火戸	乙種防火戸以上	甲種防火戸 常時閉鎖式	適	その他							
	地域規模による構造 (耐火・備耐等)				防火	防火戸 感知器とその位置	他用途境界部分	実施	適		その他						
	幅員 (階場)	75 cm 以上		適		防火	内装制限	要延1.00m ² 以上	実施	適		その他					
	階段	廊上・踏面	22 cm 以下 21 cm 以上		適		防火	廊下の幅員	除外		適		その他				
		手摺高	110 cm 以上		適	防火		階段の数及び種類	除外		管理用	その他					
屋上広場等の手摺高 (バルコニー含)					防火		階段との歩行距離	除外		管理用	その他						
有効採光面積の算定	A/20 以上		適			防火	排煙	台13-2-1 要S47告-33-3	居室以外 100m ² 以内防煙区画 居室 自然排煙	適		その他					
居室の換気	A/10 以上		適		防火		非常用照明	要延1.00m ² 以上	実施	適	その他						
避難計画						防火	非常用の出入口	不要				その他					
便所・浄化槽	1-1 集会所	50人槽単独処理	適		防火		敷地内の避難通路	要		適	その他						
						防火	非常用出口の解説方法及び表示	要	実施	適		その他					

5. 工事範囲

種 別	有		備 考
	含む	別途	
電 気	受変電	○	
	自家発電	○	
	蓄電池	○	
	非常照明	○	
	電灯・コンセント	○	
	照明器具	○	
	避雷針	○	
	電話	○	
	インターホン	○	
	拡声	○	
	電気時計	○	
	表示管制	○	
	テレビ・ラジオ共同受信	○	
	火災報知	○	
住宅情報機器	○		
給排水衛生	給水	○	
	給湯	○	
	排水・通気	○	
	衛生器具	○	
	消火栓	○	
	ガス	○	
冷暖房	空気調和	○	
	暖房	○	
	冷房	○	
	換気	○	
昇降機	エレベーター		
	ダムウェーター		
準 備	敷地造成		○
	既存物件の処理	○	
	擁壁		○
	道路補償		○
	解体工事	○	
仕 上	可動間仕切		○
	造付家具	○	
	カーテンボックス	○	
外 構	造園		○
	構内施設		○
	門		○
	外灯	○	
そ の 他	駐車場設備		○
	シャッター	○	
	自動ドア		○
	エアーカーテン		○
	非常用救助袋		○
	移動家具		○
	その他の備品		○
	カーテン類	○	
	カーペット類	○	
	マット類	○	
	ダストシュート		○
	郵便受		○
	洗濯器具		○
	表示板文字	○	
掲示物	○		

6. 建築・機械電気各工事の分担区分表
(※適用欄○印が該当する。)

工事項目	適用	工事区分					備 考	工事項目	適用	工事区分					備 考	
		建 築	空 調	衛 生	電 気	昇 降 機				建 築	空 調	衛 生	電 気	昇 降 機		
各 工 事 共 通 事 項	○	機械搬入口の設置 (ELV用含む)						開口部補強及び搬入後閉鎖含む	○						マンホール・タラップ 清掃を含む	
	○	機械搬入用吊り下げビーム又はフック						位置、t数	○						地上受水槽基礎、フェンス築造	
	○	ボイラー用自家発電用煙突工事(接続フランジ含む) (耐火被覆の穴明けを含む)						煙突までの煙導及び接続は各設備工事	○						高架水槽、貯湯槽ポンプ等の床補強及び機器基礎	
	○	梁の貫通スリーブの補強						スリーブ及び周辺モルタル充填は設備工事	○						機械室厨房等の排水溝及び蓋工事(車庫)	
	○	床・壁の貫通穴及び貫通スリーブ						周辺補強は建築工事	○						天井・床・壁の点検口	
	○	各壁面ガラリ、フード並びに通風坂						機械換気用については設備工事	○						造り付流し、ガス台(配管の特殊な穴あけを含む)	
	○	パイプシャフト及び点検口、シャフト内デッキ						パイプユニット取付用金物は設備工事	○						便器取付開口部	
	○	天井・壁・床の改め口(点検機作用)							○						雨樋	
	○	天井・壁・床・貫通パイプ箇所の穴埋め							○						フロートスイッチ、フロートレススイッチ取付	
	○	屋内外トレンチ及び便所ピットの築造							○						同上用配管配線	
	○	外装関連貫通パイプ等周辺のコーキング							○						浄化槽用動力工事	
	電 気	○	電々ケーブル引込みマンホール						特殊なものは建築工事	○						鏡及び化粧棚(洗面器上部)
		○	電力ケーブル引込みマンホール							○						屋外防水用水槽
		○	電気等の床ピット及びセパレータ、蓋工事							○						屋外浄化槽躯体発熱部 の 築造
○		変圧器等床ピット基礎工事							○						軽鉄間仕切に取付ける消火栓湯沸器等の補強(パイプ貫通含む)	
○		自家発電機器の床補強・機器基礎工事							○							
○		の床ピット及び蓋工事							○							
○		の天井ビーム・フック工事							○							
○		の地下オイルタンク、オイル配管工事						自家発電室内は電気工事	○							
○		の水配管工事							○							
○		埋込照明器具及びスピーカの取付用地下地及補強						切込み並びに補強共(墨出しは電気)	○							
○		軽鉄間仕切壁に取付ける熱パイプ貫通の補強							○							
○		電動シャッターの配管配線(接続迄)						本体は建築	○							
○		オートドアの電源供給配管・配線(接続迄)							○							
○		防火戸の煙遮断制御盤及び配管・配線(接続迄)							○							
機 設 備	○	可動間仕切内配管工事(接続迄)							○							
	○	アンテナ・マスト等基礎工事							○							
	○	蓄熱槽の築造工事						新築工事、連通管、マンホール タラップ、清掃を含む	○							
	○	オイルタンク基礎及び外部のコンクリート工事						解体は、設備工事	○							
	○	冷凍機・冷却塔の床補強、機器基礎工事						機器アンカー並びに仕上工事は空調	○							
	○	ポンプ、空調機、ファン等の機器基礎工事							○							
	○	天井、吹出し等の取付用下地枠						切込み補強共(墨出しは空調)	○							
	○	照明器具併設吹出し口							○							
	○	吸気用ガラリ							○							
	○	窓下ファンコイルユニットの化粧面						吹出口、点検口を含む	○							
	○	ファンコイル用配管配線(3Pコンセント迄)						100V電源	○							
	○	手元調整器							○							
	○	自動制御関係計器類							○							
	○	自動盤(現場)以降の配管配線							○							
空 調 設 備	○	天井換気扇(100V単独運転の電源は電気工事)						全熱交換形のコントロールスイッチは空調	○							
	○	壁換気扇							○							
	○								○							
昇 降 機 機 設 備	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							
	○								○							

福島県建築工事仕様書 (昭和61年版)

I 工事概要
別紙工事概要による
II 工事仕様
福島県建築・設備工事共通仕様書(昭和62年版)
1. 共通仕様
2. 特記仕様

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 特記事項 (Special Notes). It lists various construction standards and specifications for different parts of the building, such as concrete, steel, and electrical work.

11. 地質調査結果表
12. 設備工事との取合い
13. 設計G.L.
14. 火災保険
15. 現寸型板
16. 完成図

17. 工事現場事務所内に常備すべき書類等
18. 検査用具
19. 工事用表示板

Table for 工事用表示板 (Construction Signage) showing details for 90cm and 25cm signs, including fields for project name, dates, and personnel.

20. 施工履歴
21. 監督員事務所及び備品
22. 仮囲い
23. 危険防止
24. 足場
25. 工事用水
26. 工事用電力
27. 工事用進入路
28. ベンチマーク

Table for 埋めもどし及び盛土 (Backfilling and Soil Lifting) showing methods and materials for different types of soil and backfilling.

2. 残土処分
3. 常水面の深さ
4. 建物周囲の整地
5. 山止め
6. 騒音、振動の防止

4. 地業
1. くり石、砂利地業
2. 幅、厚さ

Table for 地業 (Groundwork) showing specifications for cutting stones and gravel, including design strength and thickness.

3. 持コンクリート地業
1. 設計基準強度
2. 幅、厚さ

Table for 持コンクリート地業 (Supported Concrete Groundwork) showing design strength and thickness for different types of concrete.

5. 1. くい地業
2. くり石、砂利地業
3. 防湿層
4. 割石コンクリート地業

5. 2. 設計基準強度
5. 3. 軽量コンクリート
5. 4. レザーミクス
5. 5. 軽量コンクリートの種類
5. 6. セメントの最低使用量
5. 7. 水セメント比
5. 8. 混和材
5. 9. コンクリートの割合

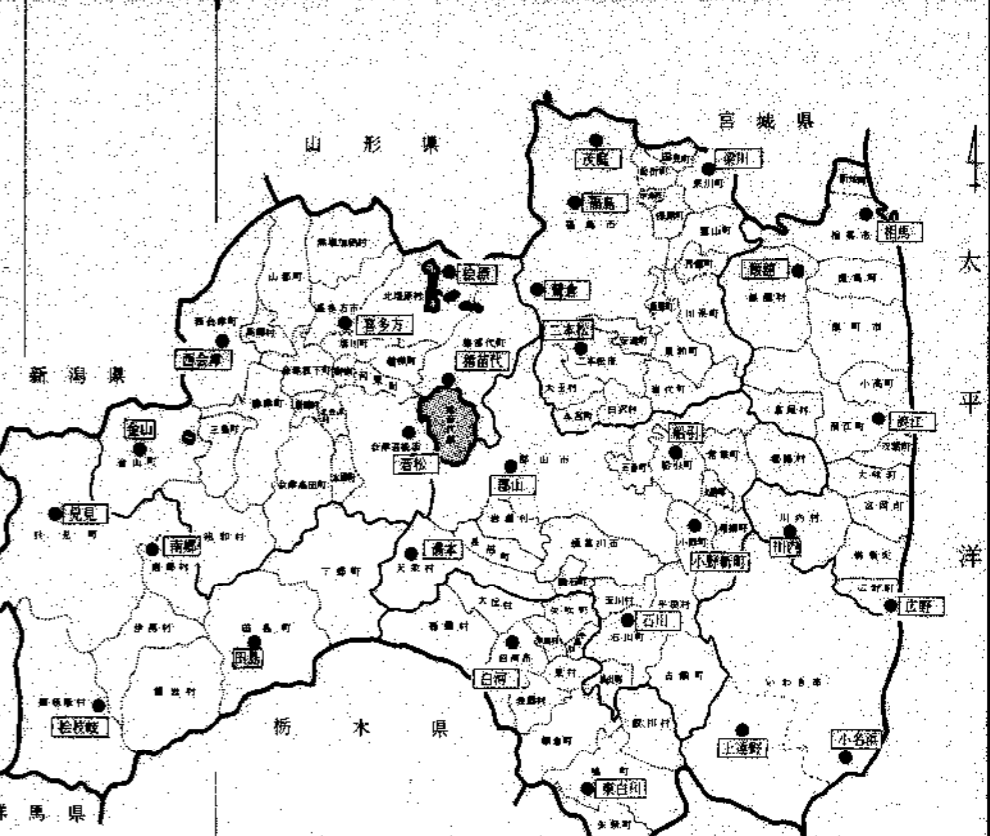


Table showing weather data for various locations in Fukushima Prefecture, including station names, dates, and temperature ranges.

8. コンクリートの所要スランブ (住5.3.1)(営6.3.1)
9. コンクリートの所要空気量 (住5.3.2表)(営6.3.2)
10. 寒中コンクリート (住5.8.1)(営6.8.1)
11. 無筋コンクリートの調合 (住5.9.1表)(営6.9.1表)

12. コンクリート仕上面の種類及び精度
表: 部位, 種類, 用途, 仕上がり精度, 必要回数

6. 1. 型枠の種類
6. 2. コンクリート面の仕上がり程度
表: 種類, コンクリート面の仕上がり程度, 部位

7. 1. 鉄筋の種類
表: 種類, 規格, 径

7. 2. 鉄筋の継手
表: 接合方法, 径, 施工箇所

2. 鉄筋の継手 (住7.2.1)(営5.2.1)
3. 溶接金網 (住7.1.3)(営5.1.3)
4. 配筋
表: 形状, 寸法, 鉄線の径

8. 1. 一般事項
8. 2. 鋼材の種類
8. 3. 高力ボルト
8. 4. スタッド溶接用材料
8. 5. 溶接部の検査

8. 6. さび止め塗料の種類
8. 7. 素地調整
表: 工程, 種類, 塗料, 面の処置, 簡要

8. 耐火被覆の種類
表: 部位, 性能, 時間

10. 柱底ならしモルタル
11. 鉄骨足場
12. 鉄骨の製作所
表: 工法, 種類, 規格

9. コンクリートブロック・レンガ工事
表: 種類, 用途, 主筋, 配力筋

4. 1. 間仕切壁の取付け方法
表: 種類, 工法, 取付け方法

4. 2. レンガ積
表: 種類, 工法, 取付け方法

11. 1. 一般事項
11. 2. アスファルト防水
表: 施工箇所, 工法, 種類

11. 3. 合成高分子防水
表: 種類, 厚さ, 使用分類, 表面仕上げ, 施工箇所

11. 4. 塗膜防水
表: 種類, 厚さ, 使用分類, 表面仕上げ, 施工箇所

11. 5. コンクリート防水
表: 種類, 厚さ, 使用分類, 表面仕上げ, 施工箇所

11. 6. 木張り試験施工工種及び保証書
表: 種類, 材種, 施工箇所, 寸法

11. 7. シーリング
表: 種類, 材種, 施工箇所, 寸法

11. 8. 石材の品質, 石, 仕上げの種類
表: 施工箇所, 石材の品質, 種類・産地・名称, 仕上げの種類

12. タイル工事

1. 陶磁器質タイル張り

1) 材料、工法

タイルの種類	工法	磁器	セッコ	陶器	滑り止め	色調	調
セラミック	モザイク	○	○	○	○	○	○
セラミック	モザイク	○	○	○	○	○	○
セラミック	モザイク	○	○	○	○	○	○

2) 伸縮目地

3) 保水剤

4) 検査

2. 陶磁器質タイル型わく先付

1) 種類及び材料

種類	施工箇所	磁器	セッコ	陶器	滑り止め	色調	調
タイルシート法		○	○	○	○	○	○
目地ます法		○	○	○	○	○	○
さん木法		○	○	○	○	○	○

2) タイル型わく先付け面のせき板

3) 伸縮目地

4) 検査

13. 木

1. 木材の含水率

2. 木材の材質

3. 造作材の等級

使用箇所	部材名称	A種	B種
生地のまま又は透明塗料塗りの場合	柱、額縁、敷居、かまの類	1等	1等
	押入、戸簾などの内面造作の類	1等	1等
不透明塗料塗りの場合		1等	1等

4. 木材の樹種

区分	代用樹種
構造材	※認める・認めない
造作材	※認める・認めない
下地材	※認める・認めない

5. 表面仕上げの程度

種類	仕上がり程度
A種	超自動機械かんながけ仕上げ。
B種	サンダ#240がけ仕上げ。
C種	自動機械かんながけ仕上げ。

6. 集材

種類	等級	樹種	厚さ(mm)
化粧ばり造作用集材	※1等	表面仕上げ化粧単板	()
造作用集材	※1等	単材	()

7. 防蟻材塗

使用箇所	種類

8. 防蟻処理

9. ラワン材

10. 屋根野地板

14. 金属工事

1. 長尺亜鉛鉄板

屋根ふき形式	材質	板厚(mm)	備考
※着色亜鉛鉄板(片面)屋根用の規格品	亜鉛鉄板	※0.4	※アスファルトルーフィング厚さ22kg/21㎡

2. 折板

屋根ふき形式	材質	板厚(mm)	備考
※着色亜鉛鉄板(片面)屋根用の規格品	亜鉛鉄板	※0.8	H:BO 断熱防止

3. 屋根工専門業者

4. 監督員の承諾を受けたもの。

5. 配管用鋼管

6. 防露

7. 掃除口

8. 天井内、壁内パイプシャフト内

9. 浴室、ちゅう房内露出

10. 屋外

11. 下の箇所には行わない

12. 防露

13. 天井内、壁内パイプシャフト内

14. 浴室、ちゅう房内露出

15. 屋外

16. 監督員の承諾を受けたもの。

17. ルーフドレイン

18. ステンレスの表面仕上

19. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

種類	施工箇所	備考
A-1種		金属カーテンウォール等
A-2種		一般アルミサッシ、外装材等
B-1種		アルミ内外装材、屋根材等
B-2種		アルミ内部造作材等
C-1種		
C-2種		
D種		

20. 鉄の亜鉛めっき

分類	方法	種類	使用箇所
A類	溶融亜鉛めっき	A種	重要なもので、特に厚いめっきが必要な箇所。屋外で塗装を行いたくない箇所。比較的重要なもので、やや厚めのめっきが必要で主として塗装下地となる箇所。
		B種	屋外で通常の塗装下地となる箇所。ホルト類などで溶融亜鉛めっきの困難な箇所。
B類	電気亜鉛めっき	A種	屋内で通常のさび止めを必要とする箇所。
		B種	又は塗装下地でやや程度のよい箇所。
		C種	屋内で簡単なさび止めを必要とする箇所。
C類	連続ラインによる溶融亜鉛めっき	表面処理亜鉛めっき鉄板、軽量鉄鋼の天井、壁下地材、あるいは建具材などの塗装下地となる箇所。	

21. 試験

22. 野縁などの種類

23. 屋外

24. スタッドランナなどの種類

25. 手すり及びグラップ

種類	材質	表面処理
手すり	アルミニウム製	14.8による
グラップ	鋼製	亜鉛めっきの場合14.9による

15. 金属形成板張り

材種	凸面処理	工法
アルミニウム		吹付け
ステンレス		吹付け

16. インサート

17. ノンスリップ

材種	幅(mm)	工法
ステンレス製ビニルダイヤス	35	アンカー(足金物)
ステンレス製ビニルダイヤス無し	40	張付(埋込アンカー併用)

18. 床用見切材

19. コーナービード

20. 物干金物

21. カーテンレール

22. 点検口

種類	天	井	床
材種	アルミニウム製	アルミニウム製	アルミニウム製
寸法	450角	600角	450角

23. 屋上丸環

24. 屋上点検口

25. 防火材料など

26. モルタル塗り

下地	施工箇所	下塗り	中塗り	上塗り	塗り厚
コンクリート、ブロック	仕上げ	セメント	セメント	セメント	25
	張り下地	セメント	セメント	セメント	20
鉄	内	1	2	3	15
	外	1	2	3	15
ラスチック、ワイヤラス、メタルラス	内	1	3	3	15
	外	1	3	3	15

27. 仕上塗材仕上げ

種類	種類	工法
厚付け仕上塗材	外装セメント系厚塗材	吹付け
	内装セメント系厚塗材	吹付け
	外装合成樹脂エマルジョン系	吹付け
	内装合成樹脂エマルジョン系	吹付け

1. 下地処理

2. ALCパネルの場合の内壁目地の形状

3. 軽量骨材吹付

種類	厚さ(mm)
セメント系	5
粘結材系	5
合成樹脂エマルジョン系	5

4. ALCパネル用特殊プラスチック

種類	塗り厚(mm)
合成樹脂エマルジョン系	3
ALC用骨材入りセッコ石膏	5~7

5. ロックワール吹付け

種類	厚さ(mm)	製造所
一般用	10・30	基準法に基づく防火材料の認定のあるもの。
耐火被覆	15・20	基準法に基づく耐火構造の指定のあるもの。

6. 床の伸縮目地の種類

7. 目地

面	所	法(mm)
外壁目地		15×10
内壁目地		10×6
サッシ廻り		9×9
シーリング目地		

8. 防水モルタルの防水剤

9. 結露防止モルタル

10. 耐酸モルタル

11. 防火材料

12. 一般塗料

13. 業地ごしえ

面	種類
鉄	A種・B種・C種
モルタル、プラスチック	A種・B種
コンクリート、ALC版	A種・B種
石綿セメント板	A種・B種
石膏ボード、その他板面	A種・B種
石綿セメントけい酸カルシウム板	A種・B種

14. 調査ポイント塗料の種類

種類	種類	工法
屋外	油性調査用塗料又は合成樹脂調査用塗料の2種	吹付け
屋内	合成樹脂調査用塗料1種	吹付け

5. 塗装工程
鉄面合成樹脂塗料(ペイント)塗り
さび止めの塗装
鋼製の建具

6. 鉄骨工事のさび止塗装
区分 さび止めの塗料 回数
工事 屋内
現場 屋外

7. マスチック塗料塗り
種別 A種・B種・C種
A種の凸面処理仕上
C種の仕上材塗り

8. 塗装業者
監督員の承諾を受けたもの。

17. 金属性建具
1) 性能
性能の種別 区分 性能 適用

2) 取付方法
現場後付・現場先付・工場製作先付

2) アルミニウム製建具
1) 表面仕上
種別 皮膜厚さ(μm) 塗膜厚さ(μm)

2) 出入口部
ステンレス(SUS304)φ2.0mm

3. 鋼製建具
1) 出入口部
2. 鋼製軽量建具
3. ステンレス製建具
4. 自動とびら

9. 木製建具
1) 建具材の種類
2) 工法

11. 網
1) 丁番
2) マスターキー

12. 網
1) 丁番
2) マスターキー
3) 本締め付

13. ガラス
みがき板ガラス
網入りガラス
強化ガラス

14. ガラス留め材
種別 ガラスの留め材
アルミニウム製建具

15. ガラス周囲のシーリング材
材料 C種・D種

16. ガラスブロック
形状寸法(mm) ガラスの色 模様による種類

18. 1) ビニル床シート張り
材種 材質 厚さ(mm) 接合剤

2) ビニル床タイル張り
材種 材質 厚さ(mm) 接合剤

3) ビニル幅木
材種 材質 厚さ(mm) 高さ(mm) 接合剤

4. 塗り床材
弾性ウレタン塗床
エポキシ樹脂塗床

5. 天井見切線
石こうボード張り及び合板張り

6. 合板
材種 樹種など 厚さ

7. フローリング
フローリングボード
フローリングブロック

8. 断熱防露
1. 材料種別
2. 断熱防露

9. 吸音材
材種 品質 規格 厚さ(mm)

13. 量数
福島県土木部監修「量数工事仕様書」

14. じゅうたん敷き
種別 種別 敷込み 色柄 帯電防止

8. 天然木化粧複合フローリング張り
形状 樹種 厚さ 最大間隔

9. モザイクパーケット張り
種類 樹種 厚さ(mm) 大きさ(mm) 表面塗装

10. 壁紙張り
施工箇所 品質 防火性能の級別

11. 断熱防露
1. 材料種別
2. 断熱防露

12. 吸音材
材種 品質 規格 厚さ(mm)

13. 量数
福島県土木部監修「量数工事仕様書」

14. じゅうたん敷き
種別 種別 敷込み 色柄 帯電防止

下敷き材
品質検査成績表

15. 波形石綿スレートおき (住18.2.1) (営13.3.1, 13.3.2)

種別	寸法
・大波規格品 ・中波規格品 ・小波規格品	ボルト締め工法としボルトは屋根面丸頭とし受材ナット止めとする

留付け金物その他

名称	受材が鋼材の場合	受材が木材の場合
留付け金物	亜鉛めっきボルト呼び径6mm	亜鉛めっきスレート用くぎ穴5mm (受材に打ち込める長さが40mm以上) 又はねじくぎ径5mm (受材に打ち込める長さが25mm以上)。
座金	径25mm	厚さ1.6mm以上の亜鉛めっき鉄製。
銅い物	径30mm	厚さ5mm以上のアスファルトを被覆した牛毛フェルト製。
鼻がらみ	19×3 (mm) 程度の平鋼とし、継手は60mm以上折曲げて重ね掛け、径4mm程度のボルト又はびょう2本締めとし、塗装を行う。	

スレートの重ねなど

区分	重ね		留付け金物の本数 (受材当たり板幅1枚につき)	
	横 (山)	縦 (mm)		
一般	中波 大波	1.5 0.5	150程度	3
軽易な吹抜き廊下	中波 大波	1.5 0.5	150程度	3

19. その他

品目	BLマーク表示品	材質	寸法	形状その他
・庁舎室内板	・BLマーク表示品外			
・フロアー室内板	・BLマーク表示品外			プラスチック
・階数表示板	・BLマーク表示品外			文字、写真、数字
・誘導標識	・BLマーク表示品外			・ゴシック字体 (印文)
○電名札	・BLマーク表示品外	スチール	40×60	○アルスクリーン印刷
○エクトグラフ	・BLマーク表示品外			
○晒示板	・BLマーク表示品外			
・郵便受	・BLマーク表示品外	・ステンレス製		
・標識	・BLマーク表示品外			表面の 開閉
・遊具椅子	・BLマーク表示品外 (固定適合品)	スチール	600×600	遊具ハッチ、椅子、取っ手
・キッチンユニット	・BLマーク表示品外			
・手すりユニット	・BLマーク表示品外			
○洗し台	・BLマーク表示品外			
○コンロ台	・BLマーク表示品外			
○冷蔵庫	・BLマーク表示品外			
・キッチン、キャビネット	・BLマーク表示品外			
・水切機	・BLマーク表示品外			
○掃除用具入れ	・BLマーク表示品外	スチール		
・洗濯機ハン	・BLマーク表示品外	・A.B.S.樹脂 ・F.R.P.製品	約 800×600	
・便器	・BLマーク表示品外	・F.R.P.製品	容量300ℓ	
・タオル掛	・BLマーク表示品外	ステンレス、パイプ	φ600 134 φ300 9.5φ	
・洗面器取付板	・BLマーク表示品外			
・洗面所棚板	・BLマーク表示品外			
・格納棚	・BLマーク表示品外	(カンキ隔棒) (バランステー)	SOP ₂ SOP ₁	

16. 鏡板 (住19.1.1) (営22.1.3) (営22.1.4)

種別	わく	色	形状
・鋼製黒板 ・木製黒板 ・ほうろう黒板	・アルミニウム合金製 ・()	・黒 ・白	・緑

17. スリーブ (住19.2.3) (営22.2.1表)

18. カーテン (営22.3.1) (営22.3.1表) (営22.3.2) (営22.3.3)

施工箇所	名称・品質など	ひだの種類	型式	引分け装置
シャワールーム	シャワーカーテン	・A種 ・B種 ・C種	○片引き、引分け	・有○無
		・A種 ・B種 ・C種	・片引き、引分け	・有・無

19. ブラインド (営22.4.1)

形式	※横形ブラインド	※縦形ブラインド
材種	・アルミニウム合金製 ・()	・アルミニウム合金製 ○ガラス繊維 ・()
開閉	※ギヤード○コード式	※片開き ○両開き
スラットの形状	※C形・S形	
スラットの幅(mm)	○25※35・50・()	※100 ○80又は75

20. カーテンボックス

21. アコーディオンドア

表面材	形式	折りたたみ幅
※ビニルレザー張り(防炎加工) ・()	・両開き ・片開き	() mm

22. スライディングドア

パネル厚さ (mm)	表面仕上げ	接天、接床装置
		・有・無

23. 鋼製書架及びたな

24. カウンター

25. かぎ箱

26. くつきマット

27. 旗ざお

材種	形状	形式
・アルミニウム合金製 ・()	・テーパー式 ・同一断面式	

28. 旗ざお受金物

29. 非常用救助袋など

30. 定礎

31. 成形パイプ

材種	寸法
・アクリル製 ○ポリカーボネート製 ・()	1,300×700

32. トップライト

20. 外構整備工事

1. 舗装工事

1) シャ断層及び凍上抑制層材料

2) 路床土の支持力比試験

3) 路盤材料

4) 支持力係数試験

5) アスファルト舗装

加熱混合物の種類 (住21.2.5) (営19.4.2)

一般地区 (浜通り)	密粒度アスファルト混合物(13)
寒冷地区 (浜・中通り)	細粒度アスファルト混合物(13)
積雪地区 (中通り・会津)	細粒度アスファルト混合物(13)

アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない (住21.2.5) (営19.4.4)

6) コンクリート舗装

7) 特殊舗装

8) 緑石

9) コンクリート側溝

10) 白線引き

11) 視覚障害者用誘導ブロック

2. 排水工事

材種	規格	材質その他
遠心力鉄筋コンクリート管	JIS A 5303 (遠心力鉄筋コンクリート管) の JIS マーク表示品	外圧管
鉄筋コンクリート管	JIS A 5302 (鉄筋コンクリート管) の JIS マーク表示品	
鋼管 (ねじ込み式排水継手)	JIS G 3442 (水道用亜鉛めっき鋼管) JIS B 2303 (ねじ込み式排水継手) の JIS マーク表示品	亜鉛めっき
硬質塩化ビニル管 (排水用硬質塩化ビニル管継手)	JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) の JIS マーク表示品 JIS K 6739 (排水用硬質塩化ビニル管継手)	V.P (管の種類)
陶管 直管	JIS R 1201 (陶管(直管))	並管
陶管 異形管	JIS R 1202 (陶管(異形管))	

側溝の形状、寸法 ()
排水ます、ふたの種類、寸法 ()
埋戻し土 ※根切り土の中の良質土 ・山砂

3. 植栽工事

1) 植栽

1. 材料

植込み用土 ※現場発生土の良質土 ・山砂

2. 工法

支柱

種類 ・三脚 ・四脚 ・鳥居形
・布掛け ・()
防腐処理 ※防腐剤塗布 ・焼丸太

3. 樹木の移植

活着率 ・()

2) 芝張り、吹付けは種

1. 材料

芝の種類 ※こうらい芝 ・野芝
土壌改良剤種別及び適用 ※する() ・しない

2. 工法

(1) 芝張り

工法 ※平地は目地張り、切り土のり面はべた張り、盛土のり面は筋芝張り

客土 ※する (厚100) ・しない

(2) 吹付けは種

酸性及び硬度の測定 ・する ・しない
種子の量 g/m²
被覆養生 ※する ・しない

3) 承認

4) 施肥

5) 銘板

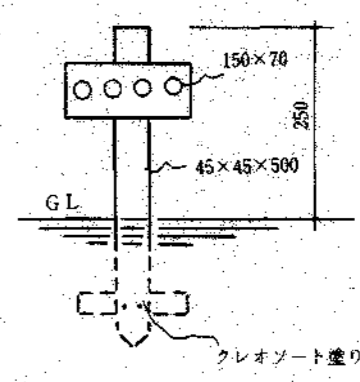
6) 開知石及びコンクリート開知ブロック積み (住21.5.2) (営22.6.2)

種別	開知石	コンクリート開知ブロック
材種等	※花コウ岩 ・()	・長方形 ・正方形 ・六角形 ・日形 ・垂直区分 ※ブロックA ・ブロックB
地業	※割石及び砕石 ・()	
コンクリート	※基礎F ₀ =180kg/cm ² 表込150kg/cm ² ・()	
積み方	※谷積み ・布積み	
目盛り	・行う ※行わない	
目地	材種 ()	

7) 敷地境界石

8) 砂利砕石敷

区分	適用箇所	厚さ	砂利砕石の大きさ	工法	
A種	・通路	100	下敷き	切込み砕石又は切込み砕石で45mm以下	(1) 下地は、水はけよくこう配をとり、地均しのうえ転圧機器で締固める。 (2) 下敷きは、厚さ60mm程度に敷込み、きょう雑物を除いた粘質土、砕石などを100mm当り2㎡の割合で敷均し、転圧機器で締固める。 (3) 上敷きは、厚さ30mm程度に敷均して仕上げる。
			上敷き	砂利又は砕石で25mm以下	
B種	○建物周囲	60	砂利又は砕石で40mm以下	(1) 下地は、水はけよくこう配をとり、地均しのうえ転圧機器で締固める。 (2) 砂利又は砕石を、厚さ60mm程度に敷均して仕上げる。	



福島県屋根防水(アスファルト、合成高分子ルーフィング等)工事 下地及び防水押えコンクリート工事仕様書 (昭和61年版)

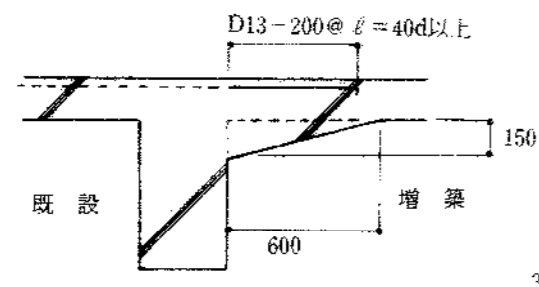
I. 共通仕様 福島県建築・設備工事共通仕様書(昭和62年版)
 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、「建設省住宅局監修公共住宅建設工事共通仕様書建築編(昭和60年版)」及び「建設大臣官庁住宅局監修建築工事共通仕様書(昭和60年版)」(以下「共通仕様書」という。)による。

II. 特記仕様

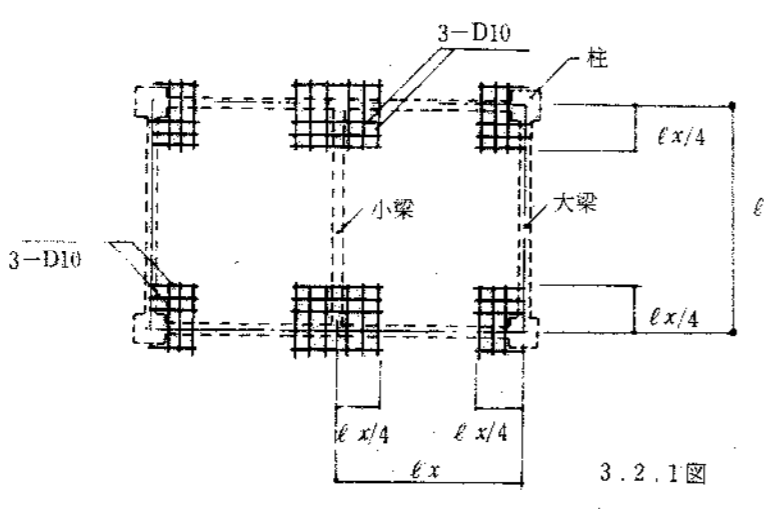
- 章及び項目は番号に○印を付けたものを適用する。
- 特記事項は◎印を付けたものを適用する。ただし×印と◎印を記したものは適用しない。
 ◎印のない場合は※印を付けたものを適用する。
 ◎印と◎印を付けた場合はともに適用する。
- 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「共通仕様書」の当該項目を示す。

章 項 目	特 記 事 項
① 一般事項	
① 適用範囲	この仕様は、アスファルト防水、合成高分子ルーフィング防水工事、並びに下地コンクリート及び防水押えコンクリート工事に適用する。
② 施工業者	防水工事の施工業者は監督員の承諾を受ける。
② 材	
① セメント・水・骨材	共通仕様書(住5章2節、営6章2節)による。
② 混和剤	AE剤又はAE減水剤標準型とする。
③ 鉄筋	屋根スラブに使用する鉄筋は異形鉄筋とし、JIS G3112の規格品とする。
④ 溶接金網	JIS G3551の規格品とし、網目の形状、寸法及び鉄線の径は下記による。 (1) 網目の形状 正方形 (2) 網目の寸法 100mm (3) 鉄線の径 3.2mm(アスファルト防水は6mmとする。)

③ 屋根スラブ	① 構造	(a) コンクリート厚さは160mm以上とする。 (b) 水勾配は1/100以上の片流れ又は両流れとする。 (c) 増築工事を行う場合、接納部には、3.1.1図により、せい150mm幅600mmのスラブハンチを設ける。又、増築用上端筋にD13-200@で補強する。
	② 配筋	(a) 屋根スラブは、1スラブ単位に対して各角部に下記及び3.2.1図による補強をした構造とする。ただし長辺短辺の上下筋共径10mm以上で200mm以内の間隔に配筋した場合は、補強を省略することができる。 (1) 補強筋の範囲 各角部から短辺長の1/4の線で囲まれる範囲 (2) 補強筋の径及び本数 タテヨコ共3-D10 (3) 補強筋の長さ 短辺長の1/4、ただし最大1.20m



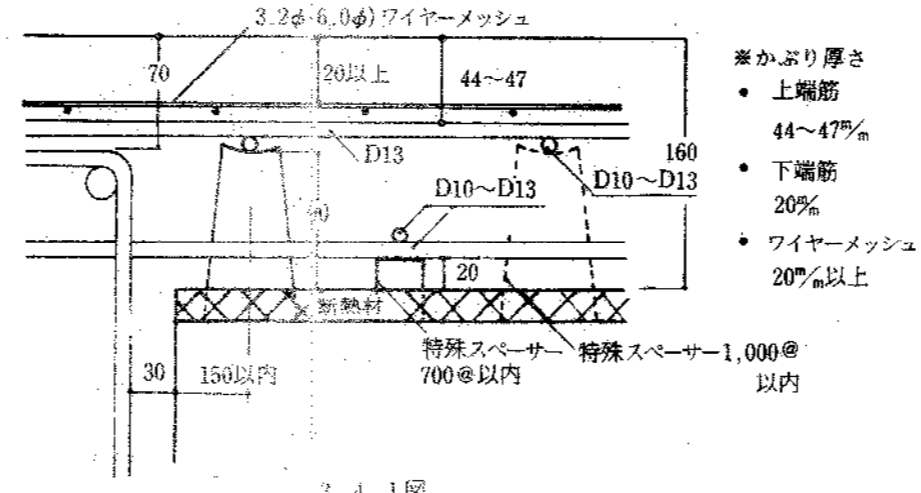
3.1.1図



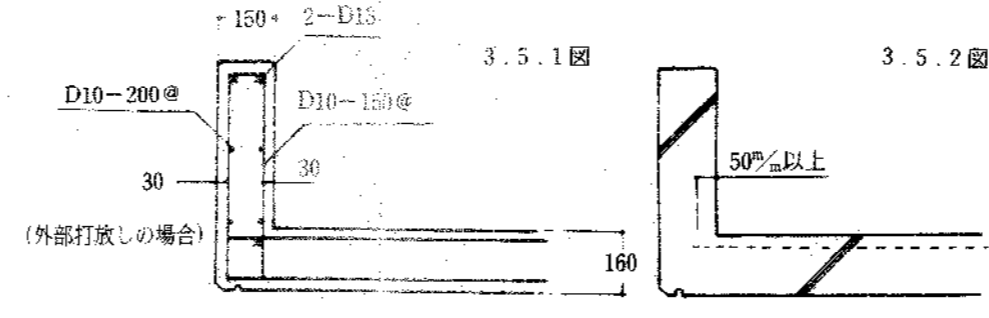
3.2.1図

(b) 屋根スラブの中央部分は、上端筋をタテヨコ共径10mm、間隔300mm以内に配筋する。

③ 溶接金網の施工	(a) 屋根スラブは全面に溶接金網を敷込む。
	(b) 溶接金網の施工は、コンクリート打設に先立ち、上端鉄筋に纏みをもって結束し、コンクリート打設の進捗に並行して、金網の許容幅より厚さ内で、できるだけ持ち上げ、定着させる。
④ かぶり厚さ	(c) 溶接金網の継手は1節半以上かつ150mm以上とする。
	(d) 溶接金網の結束部は、原則として結束する。中間は原則として1ヶ所以上結束する。鉄筋及び溶接金網のかぶり厚さは3.4.1図による。
⑤ パラベットの構造	(a) パラベット及び底立上り壁は3.5.1図により、厚さ150mmとし鉄筋はダブル配筋とする。
	(b) 外部打放しの場合、鉄筋のかぶり厚さは30mmとする。
④ コンクリートの調査	(c) 溶接金網は、パラベット等の立上りがある場合、3.5.2図によりパラベット等の立上り壁内に50mm以上差し込ませる。
	① 水セメント比及び呼び強度 60%以下とする。(Fc=210kg/cm ² 以上)
⑤ コンクリートの打込み	② 単位セメント量 最少値は280kg/m ² とする。
	③ スランプ 18cm以下とする。
⑥ 表面仕上げ	④ 単位水量 共通仕様書(住5章2節、営6章2節)による。
	⑤ 計画調査 共通仕様書(住5章2節、営6章2節)による。
⑦ 養生	① 打込み (a) 屋根スラブコンクリートの打込みは、躯体コンクリートを屋根スラブ下端まで打込み、これが十分に落着いた後、打込むことを原則とする。 (b) 打込みには振動機を使用することを原則とし、コンクリートが分離しないように注意する。 (c) コンクリートを所定の厚さに打込んだ後、定規等を使用して厚み、水勾配をみながら、水下から水上へと打上げる。 (d) コンクリートの打継ぎ箇所はつらぬかない。
	② タンピング (a) コンクリートの打込み後、たたきこみ、ショベル等で荒ならしし、粗骨材が表面より沈み込まないよう、タンピングしながら水勾配をくわい、平らにならす。 (b) 打込み後、60分前後にコンクリートのおちつきを見計らい、再びタンピングを行う。 (c) タンピングには90~100mm(長さ3m~4m)の角材又は振動タンパー等を使用する。
⑧ 押えコンクリート	① 表面仕上げ (a) 下地コンクリートの仕上げは、2種(木こて1回、金こて2回、精度+5mm)とし、工法は共通仕様書(住5.11.3、営6.12.1)による。 (b) 立上りのコンクリートは打放し仕上げとし、仕上りの程度はB種とする。 (c) 金ゴテ仕上げにあたりセメント、水などを表面に散布してはならない。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。



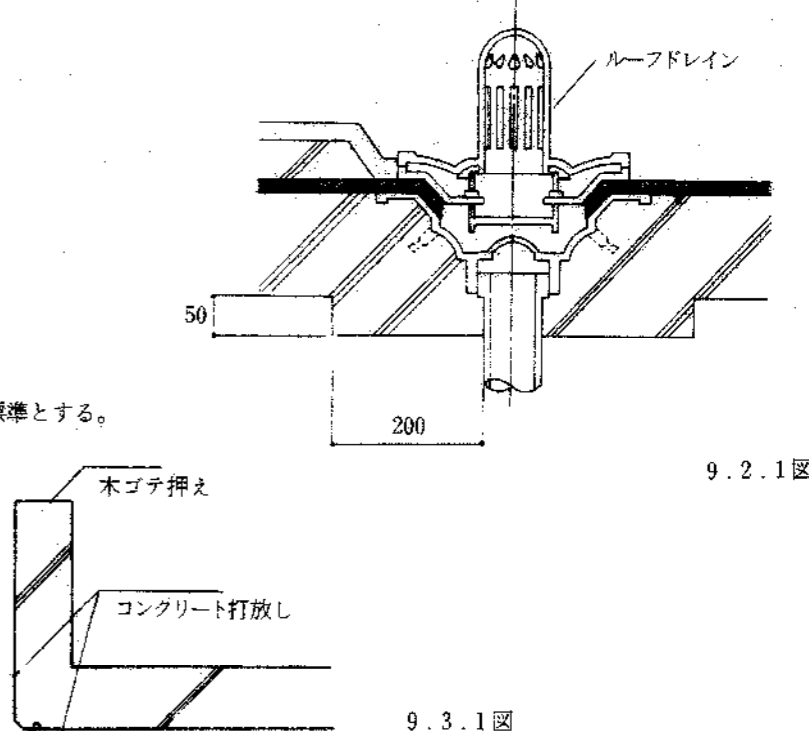
3.4.1図



3.5.1図

3.5.2図

⑧ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑨ その他	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑩ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑪ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑫ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑬ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑭ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑮ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑯ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑰ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑱ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑲ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
⑳ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉑ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉒ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉓ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉔ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉕ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉖ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉗ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉘ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉙ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉚ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉛ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉜ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉝ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉞ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㉟ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊱ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊲ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊳ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊴ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊵ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊶ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊷ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊸ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊹ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊺ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊻ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊼ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊽ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊾ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
㊿ 養生	① 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。
	② 養生 (a) 養生は、金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。



9.2.1図

9.3.1図

福島県内装工事仕様書 (昭和61年版)

I 共通仕様

福島県建築・設備工事共通仕様書 (昭和62年版)

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、建設省住宅局監修公共建築工事共通仕様書(昭和60年版)及び建設大臣官庁官庁建築部監修建築工事共通仕様書(昭和60年版)以下「共通仕様書」というによる。

II 特記仕様

特記事項は◎印を付けたものを適用する。ただし◎印のない場合は*印を付けたものを適用する。

業	項目	特記事項								
① ビニル床シート ビニル床タイル ゴムタイル張り	① 材料	<p>(a) 接着剤の種類及び施工箇所は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系 合成ゴム系</td> <td>・一般の床</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂系</td> <td>・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び標準備室などの水を使用する床 ・海岸より4km範囲の建物の床 ・階段(踏面) ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所</td> </tr> <tr> <td>酢酸ビニル樹脂系 溶剤系(垂直面用)</td> <td>・欄干、階段のけあげ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎ 全床エポキシ系接着剤で使用する。</p>	種別	施工箇所	酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系 合成ゴム系	・一般の床	エポキシ樹脂系	・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び標準備室などの水を使用する床 ・海岸より4km範囲の建物の床 ・階段(踏面) ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所	酢酸ビニル樹脂系 溶剤系(垂直面用)	・欄干、階段のけあげ
	種別	施工箇所								
酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系 合成ゴム系	・一般の床									
エポキシ樹脂系	・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び標準備室などの水を使用する床 ・海岸より4km範囲の建物の床 ・階段(踏面) ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所									
酢酸ビニル樹脂系 溶剤系(垂直面用)	・欄干、階段のけあげ									
② 工法	<p>(a) モルタル塗り下地は、施工後14日以上、コンクリート下地は、28日以上放置し、十分乾燥したものとする。</p> <p>(b) 木造下地は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>下張りがある場合</th> <th>下張りがない場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。 下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。 </td> <td>合板は厚さ12mmとし上記合板張りにない留付ける。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) (合板の規格) 1. 合板は「普通合板の日本農林規格」の規格品とし1類2等を標準とする。</p> <p>(c) 版敷(シートの場合) *する *しない (d) 割付け図(タイルの場合) *作成する *作成しない (e) 張付け時の室温が5℃以下又は接着剤の硬化前に5℃以下になる恐れのある場合は、施工を中止する。やむを得ず施工する場合は、採暖をするなどの養生を行う。</p> <p>(f) 表面仕上げ 1) ビニル床シート、ビニル床タイル 接着剤の硬化を見計らい(1~2週間)、全面を水ぶき清掃し、乾燥後は水溶性ワックスを用いてつや出しを行う。 2) ゴムタイル張り 潤滑なこくすなどを散布し、ポリッシャーを用いて清掃つや出しを行う。</p>	下張りがある場合	下張りがない場合	<ul style="list-style-type: none"> 下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。 下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。 	合板は厚さ12mmとし上記合板張りにない留付ける。					
下張りがある場合	下張りがない場合									
<ul style="list-style-type: none"> 下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。 下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。 	合板は厚さ12mmとし上記合板張りにない留付ける。									
2. 合成樹脂塗り床	<p>1. 材料 (a) プライマー、下塗り材、トップコート、有機骨材などの材料は、製造所の指定する製品とする。</p> <p>2. 工法 (a) 施工場所の気温が5℃以下及び湿度80%以上又は換気が十分でない場合は、原則として施工してはならない。やむを得ず施工する場合は採暖、換気などの養生を行う。</p>									
③ セッコウボード その他ボード及び合板張り	① 材料	<p>(a) 天井及び壁に使用されるものは、すべて防火材料の認定表示のあるものとする。</p> <p>(b) 合板 (i) 合板の表面の品質は1等。両面見え掛りとなる場合は、裏面も表面と同程度のものとする。 (ii) 水掛り箇所は、接着性の種類が1類、その他は2類とする。 (iii) 樹種は生地のまま又は透明塗料塗りの場合はラワンとし、不透明塗料塗りの場合はしなどとする。</p> <p>(c) 小ねじ・くぎ (i) 浴室、洗面所、便所、湯沸室、厨房などきびやうい箇所を使用する小ねじ、くぎなどは、鍍金又はステンレス製(SUS305の類)とする。見え掛りとなる小ねじ、くぎなどの頭は、仕上げ材と同色のものとする。</p>								

② 工法

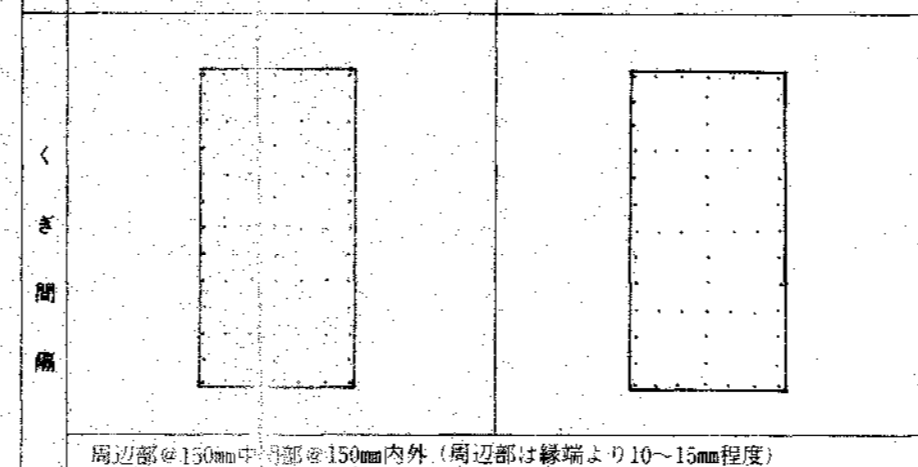
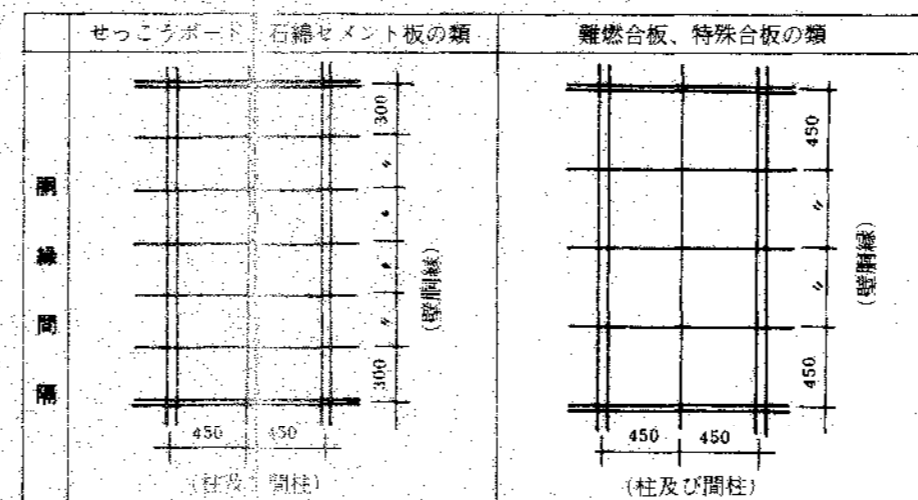
(d) 接着剤

- (1) 壁面の場合はJIS-A5538(壁用ボード接着剤)による。
- (2) 天井面の場合はJIS-A5539(天井用ボード接着剤)による。

(a) ボード類合板などの張付け

- (1) 下地及びボード類の小ねじ、くぎなどの留付間隔

(i) 木造壁下地



野縁部@150mm中間部@150mm内外(周辺部は縁端より10~15mm程度)

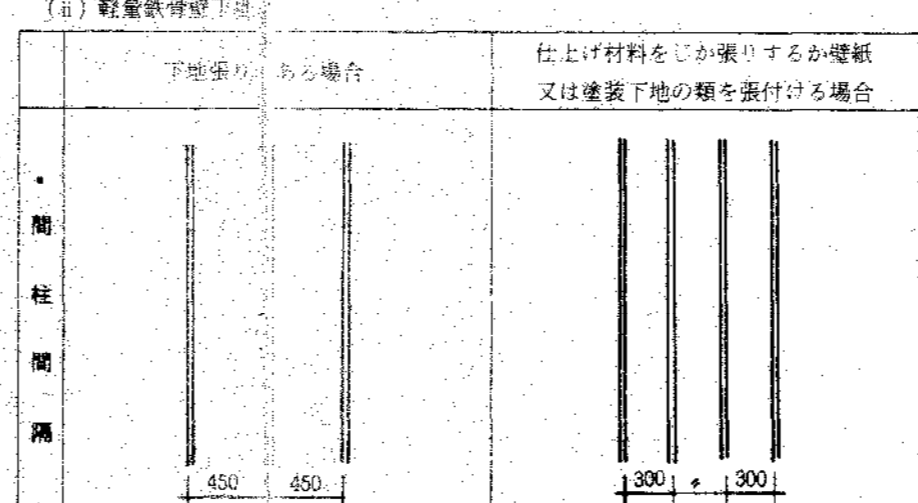
野縁部@150mm中間部@150mm内外(周辺部は縁端より10~15mm程度)

断面寸法
野縁は24×45(mm)
板継ぎ位置の野縁は24×90(mm)

野縁取付け
柱、間柱に木込又は添付けくぎ打ち。添付けの場合は板継ぎ位置の柱、間柱と野縁とのすき間は製木を当てくぎ打ち。
内装材を直接取付ける野縁の取付け面は、機械かんな1回削り。

化粧目地
化粧目地となる場合は、洞縁又は裏当て材にあらかじめ仕上塗装又はテープ張りを行った後、化粧材を張付ける。

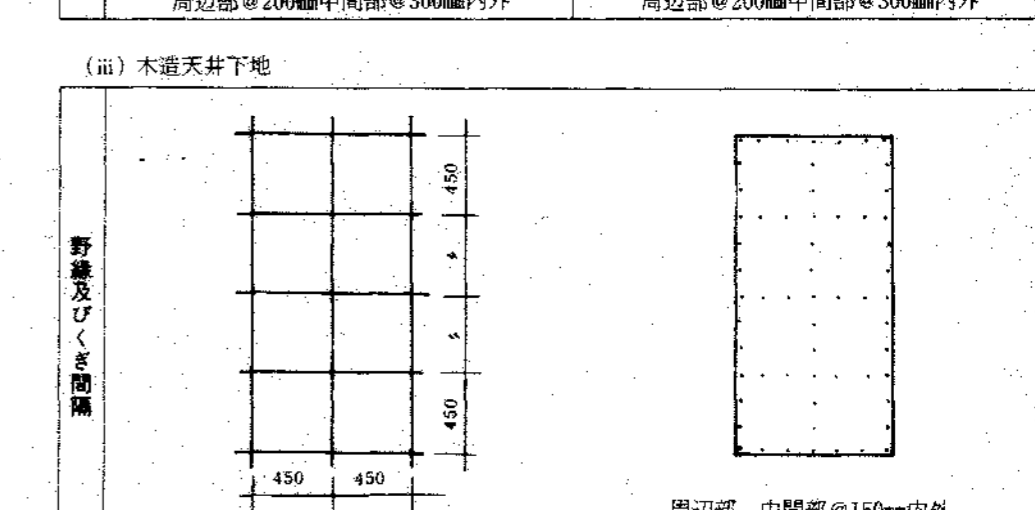
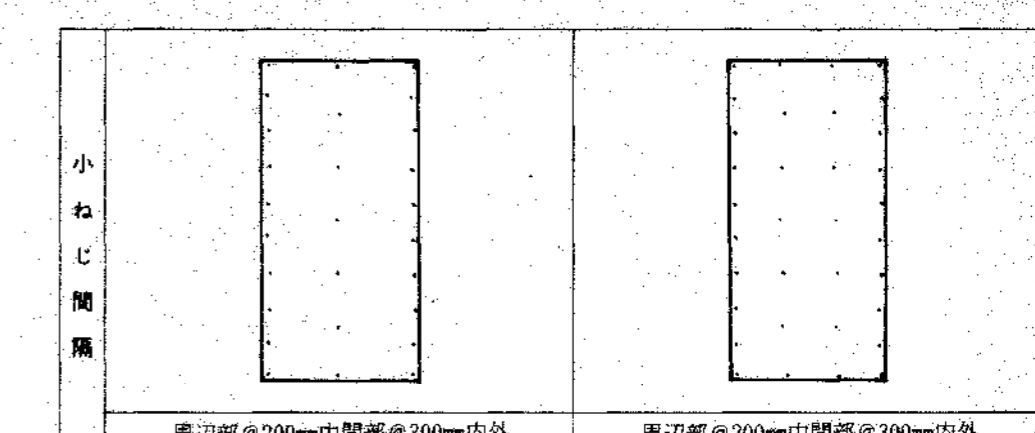
(ii) 軽量鉄骨壁下地



材料	スタッド	ランナ	振止め	出入口及びこれに準ずる開口部の補強材	補強材取付用金物	スタッドの高さによる換気
65形	65×45×9	67×40×9	25×10×1.2	□-60×30×10×2.3	L-30×30×3	高さ3.7m以下
90形	90×45×9	92×40×9	25×10×1.2	□-75×45×15×2.3	L-50×50×4	高さ3.7mを超え4.5m以下
109形	100×45×9	102×40×9	25×10×1.2	□-75×45×15×2.3	L-50×50×4	高さ4.5mを超え5.5m以下

(注) 1. ダクト等の小規模な開口部の補強材は、それぞれ使用した種類のスタッド又はランナとする。
2. スタッドの高さに高低がある場合は、高い方を適用する。

振止め
振止めは、開口部の高さにスタッドに引通し設ける。

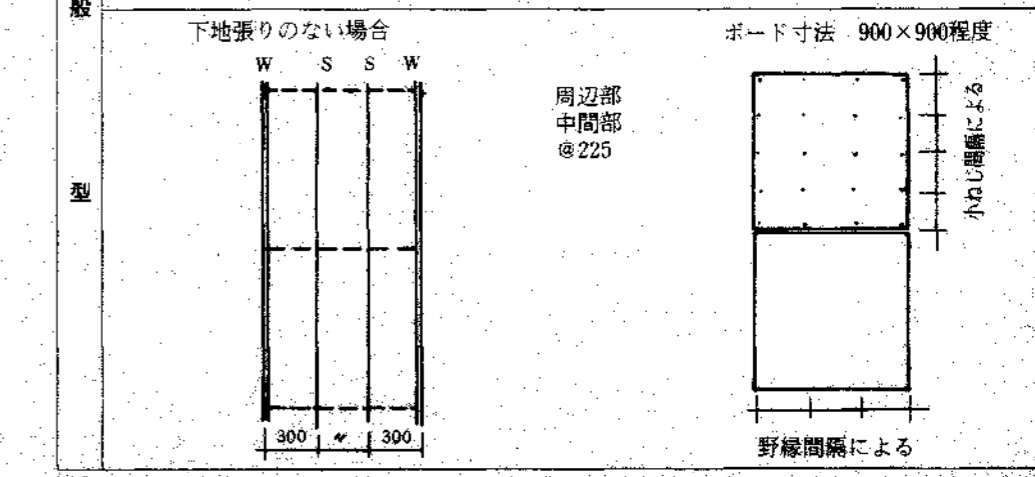
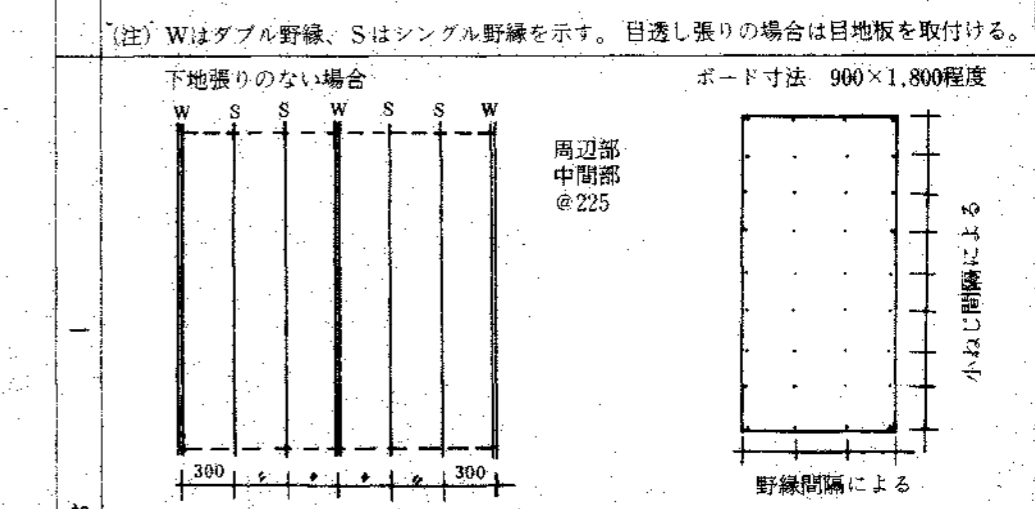
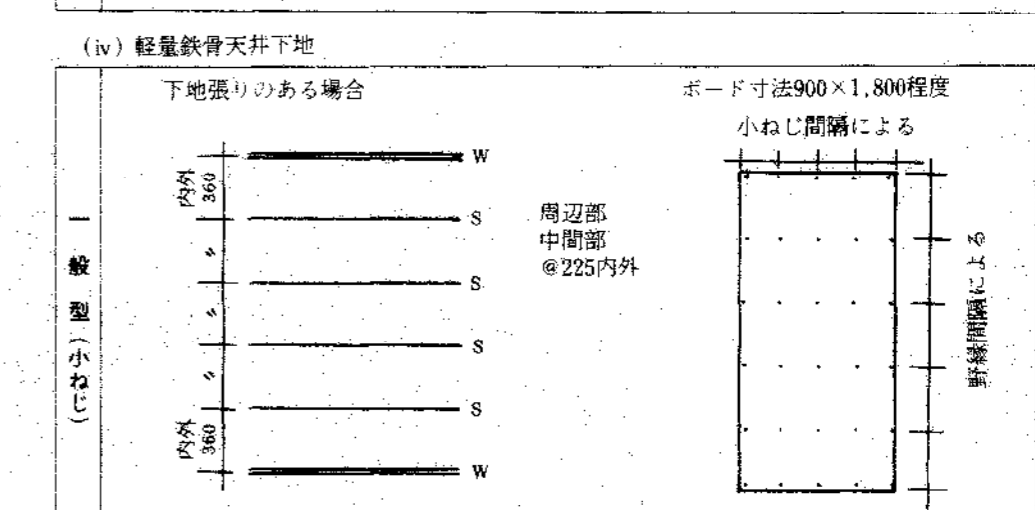


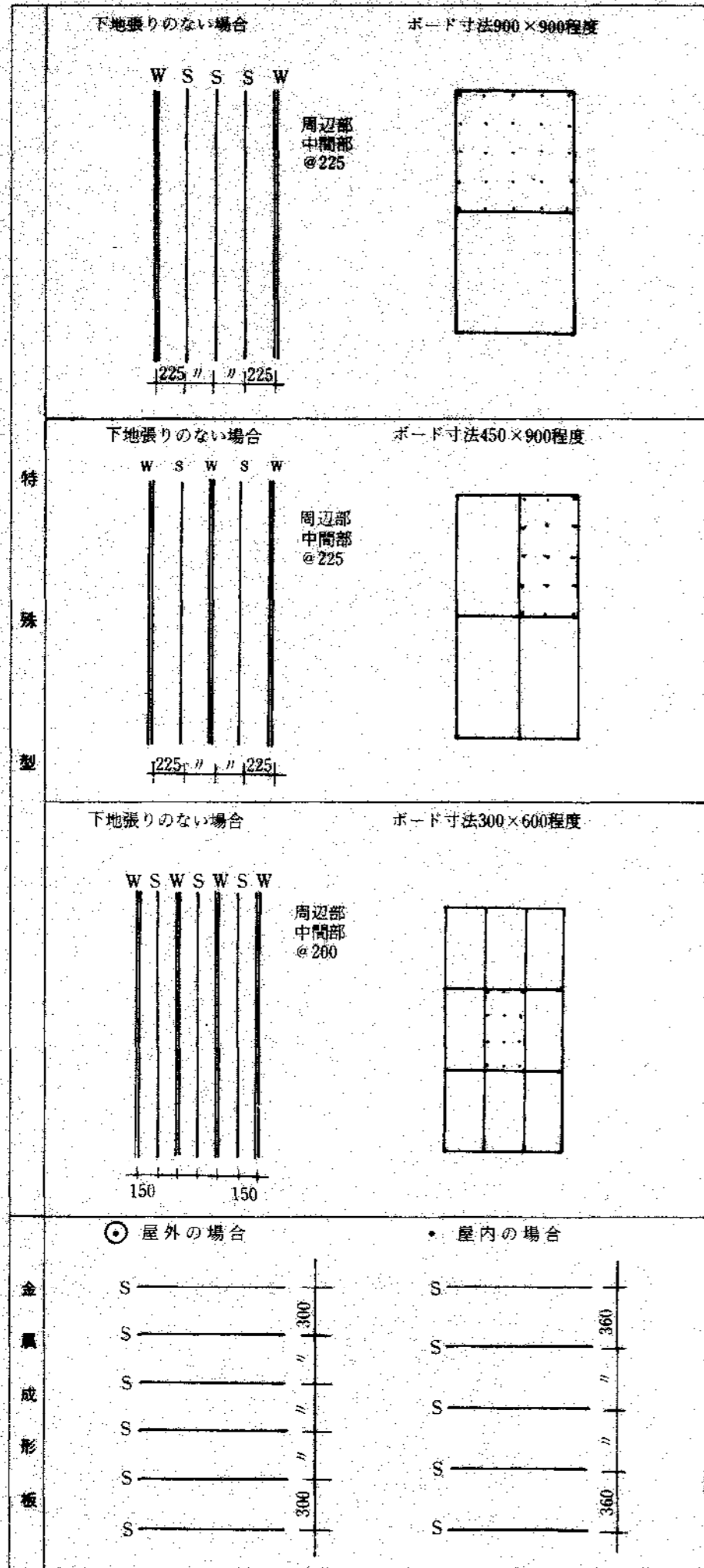
断面寸法
40×45(mm)ただし、せっこうボード、石綿セメント板の板継ぎ位置の野縁は55×45(mm)。

継手
野縁、野縁受けざん共、交差箇所を避け、乱に両面添板を当て、くぎ打ち。

野縁受けざん
@900mm 野縁 @450mm

野縁取付け
難燃合板、特殊合板、せっこうボード、石綿セメント板の類の天井野縁は、下端をろえ、450×450(mm)の格子組とし、くぎ打ち組め。なお、野縁格子組の場合は、野縁受けざんを省略することができる。
内装材を直接取付ける野縁の取付け面は、機械かんな1回削り。





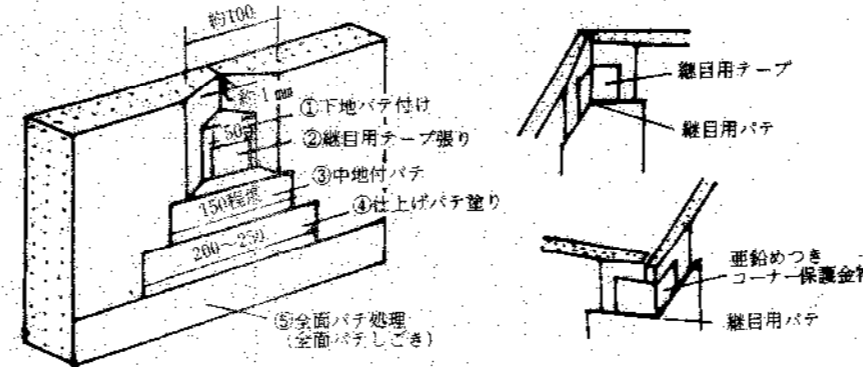
部材	種類	19形 (屋内)	25形 (屋外)
野縁などの種類	シングル野縁	25×19×0.5	25×25×0.5
	ダブル野縁	50×19×0.5	50×25×0.5
	野縁受け	38×12×1.2	38×12×1.6
	野縁受けハンガ	厚さ 2.0mm以上	
	野縁受けクリップ	厚さ 0.6mm以上 / 厚さ 0.8mm以上	
インサート	鉄製		
吊りボルト	呼び径 9mm (転造ねじ、ブランク径 8.1mm以上)		
ナット	ホームナット厚 7.7mm以上、防せい地置済		
(注) I. 仕上げボードを接着剤とタッカーによるステープル又はくぎ留めで じか張りとする野縁は、19形にスリット加工したものとす。			
野縁受け、つりボルト及インサートの間隔		900mm程度、周辺部は端から150mm以内	
天井ふとところが、屋内1.5m以上、屋外1.0m以上の場合は、縦横間隔1.8m程度に丸 鋼φ9又は□19×10×1.2mm以上を用いてつりボルトの張止め補強を行う。			

(b) ボード類を下地張りの上に張る場合は、接着剤を主とし、必要に応じて小ねじ、くぎ、タッカーによるステープルなどを併用して張付ける。

合板類の張付けは下表による。

種別	張付け工法
・A種	接着剤を使用し、沈めくぎ打ちして張付け、くぎ穴は表面仕上げ材と同色のパテ詰めとする。
・B種	くぎ又は木ねじを使用して張付けるか、これと接着剤を併用して張付ける。

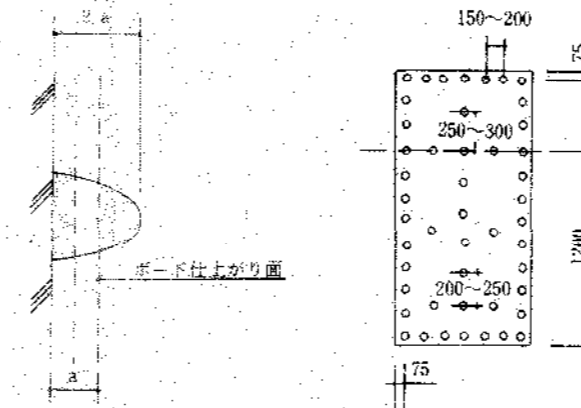
(c) せっこうボード (テープ付き) の継目処理工法



(d) せっこうボードのせっこうによるじか張り工法

(i) 張付け用接着剤の間隔は下表による。

ボード周辺部	150~200
床上1.2m以下の部分	200~250
床上1.2mを超える部分	250~300



4. フローリング張り

1. 材料

(a) 「フローリングの日本製規格」の規格品とする。

(b) フローリングボードの種類、等級及び寸法は下表による。

樹種	等級	板厚	板幅	平均板長さ	備考
ぶな	1,2等混合、ただし2等は50%以下	15mm	64~75mm	500mm以上かつ平均の長さが820mm以上	下張りがない場合は裏面に防湿加工を行ったものとする。

(注) フローリングボードには、積層フローリングを含む。

(c) 天然木化粧複合フローリング張り

(i) 種別については、下表による。

種別	厚さ	表層	備考
・A種	15mm	ひき板の厚さ2mm以上	下張りがない場合は、裏面にアスファルト系高粘度防湿塗料などの塗布による防湿処理
・B種	下張りがある場合	12mm	裏面にアスファルト系高粘度防湿塗料などの塗布による防湿処理
	下張りがない場合	14mm	

(注) A種の場合

- 下張り用合板は、合板厚さ15mm、1種2等とする。
- 表面及び裏面は単板の厚さ2mm、内部積層単板は、材厚2.2mm内外のぶな2層、ラワン層の互層で、計7層熱圧加工したものとし、加圧力は15kg/cm²とする。板そば、木口とも本業加工及び面取りとする。

(ii) 工法

割付け	標準寸法 (幅99mm又は150mm、長さ909mm) を予鳥に割付け施工する。
取付け	根太に直角に張り、小口継手は根太上とし、根太当り雄妻上からスクリークぎを隠しくぎ打ち、さらに接着剤をくぎ打ち部の裏面にダンゴ付、隅部は必要に応じて鋼製スクリークぎをポンチ締め又は裏面に接着剤付けとする。

(d) フローリングブロックは、裏面に防水処理を行い、垂鉛めつきを行った鋼板製足金物 (厚さ0.7mm以上) 付きのものとする。

⑤ 壁紙張り

① 材料

(a) 壁紙は、建築基準法に基づく防火材料の認定表示のあるものとし、品質及び防火性能の級別は下表による。

材料名	認定級別	下地	防火性能	建設大臣認定番号	重量制限	種別
紙壁紙	1級	不燃	不燃	化粧(不燃) 第0001号	300g/m ² 以下	1
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0001号		
織物壁紙	1級	不燃	不燃	化粧(不燃) 第0002号	450	2
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0002号		
ビニール壁紙	1級	不燃	不燃	化粧(不燃) 第0003号	400	4
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃) 第0003号		
	4級	不燃	難燃	化粧(不燃) 第0003号		
壁紙	1級	不燃	難燃	化粧(不燃・準不燃) 第0003号	500	5
	2級	準不燃	難燃	化粧(不燃・準不燃) 第0003号		
化繊壁紙	(1) 2級	不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0004号	350	7
	(2) 2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0004号		
無機質壁紙	1級	不燃	不燃	化粧(不燃) 第0005号	500	9
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃) 第0005号		

(b) 材料名

紙壁紙	加工紙壁紙、紙布壁紙、金属箔壁紙、合成紙壁紙等
織物壁紙	レーヨン壁紙、麻壁紙等セルローズによる壁紙
ビニール壁紙	塩ビレザー壁紙
化学繊維壁紙(1)	アクリル壁紙等含塩素系の化学繊維による壁紙
化学繊維壁紙(2)	ポリクラル繊維、ポリ塩化ビニル繊維等含塩素系の化学繊維による壁紙
無機質壁紙	ガラス繊維、アスベスト、蛭石等無機質を主とした壁紙

(c) 建設大臣認定番号下地 (例) 化粧 (不燃) 第0001号の場合は (不燃) の下地使用。

(不燃)	金属及び不燃せっこうボードを除く、法定不燃材料
(準不燃)	法定準不燃材料(法定準不燃せっこうボードを含む)及び法定不燃せっこうボード
(不燃・準不燃)	金属を除く法定不燃材料及び法定準不燃材料

2. 工法

(a) 素地ごしらえ

- モルタル及びプラスター面
- せっこうボード面
- 石綿セメントけい酸カルシウム板面

(a) じゅうたんは、消防法に定める防炎性能を有するものとし、認定表示のあるものとする。

(b) 種別は下表による。

(i) ウイルトンカーベットの種別

種別	パイル糸の品質	糸の番手・本数	密度 (25.4mm当り)	パイル長 (mm)
・A種	そ毛糸	10番手2本より4本引きそろえ	8×9	12
・B種	紡毛糸	7番手2本より3本引きそろえ	8×8	10
※C種	紡毛糸	5番手2本より2本引きそろえ	8×8	7

(注) 糸の番手は、そ毛糸は英国番手、紡毛糸はメートル番手とする。

(ii) タフテッドカーベットの種別

種別	表面の形状	パイル糸の品質・規格	パイルの重量 (g/m ²)	パイル長 (mm)
・A種	レベルループ	BCFナイロンフィラメント 1225~1300デニール	250以上	4
・B種	マルチレベルループ	同上	375以上	4~6

(注) パイルの重量は、JISL1021 (敷物試験方法) によるパイルの質量とする。

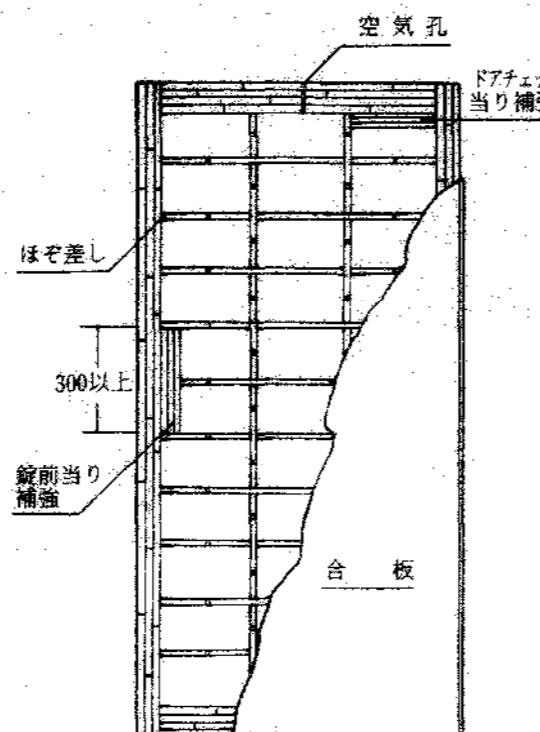
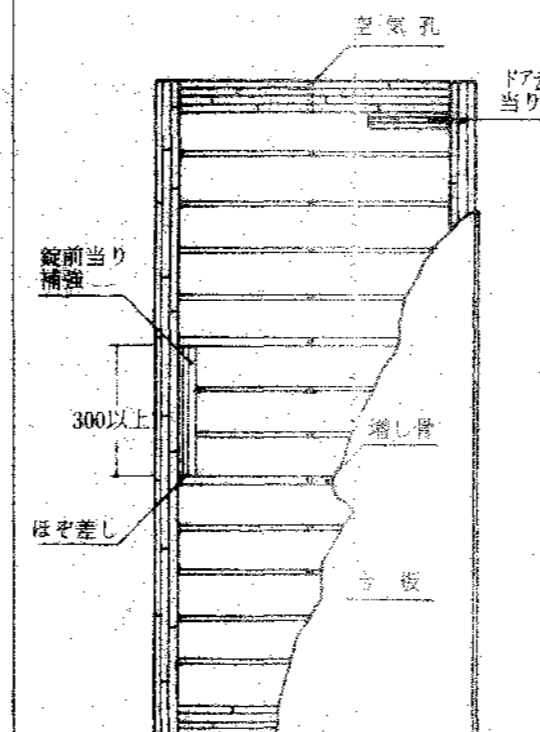
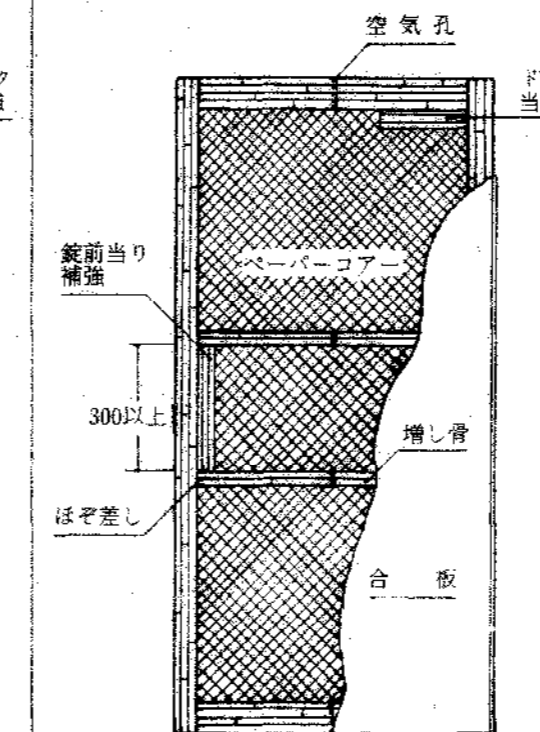
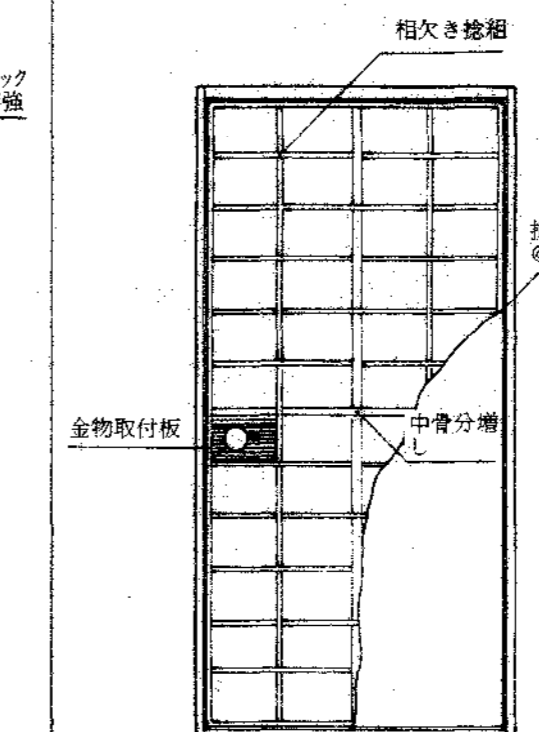
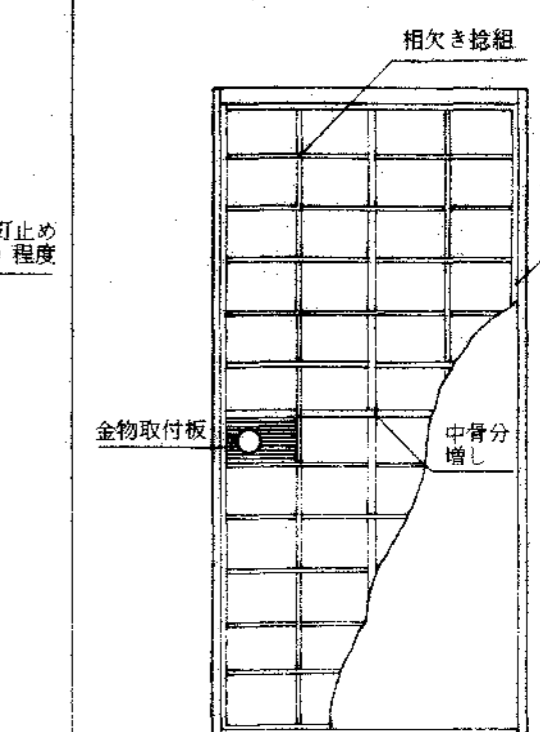
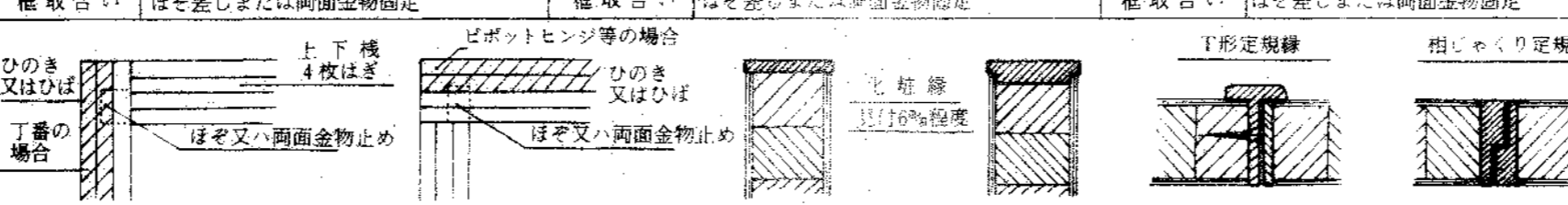
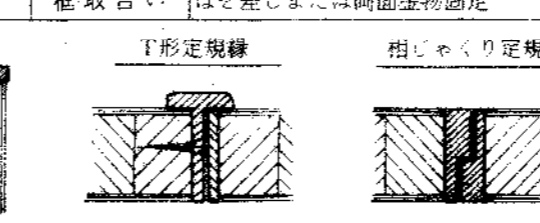
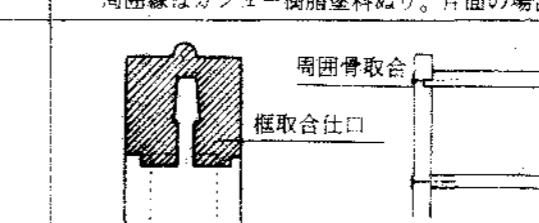
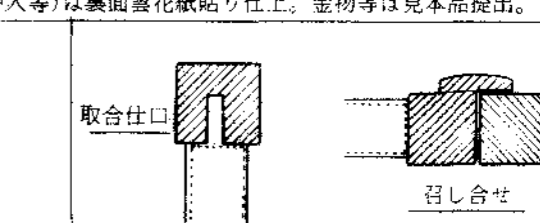
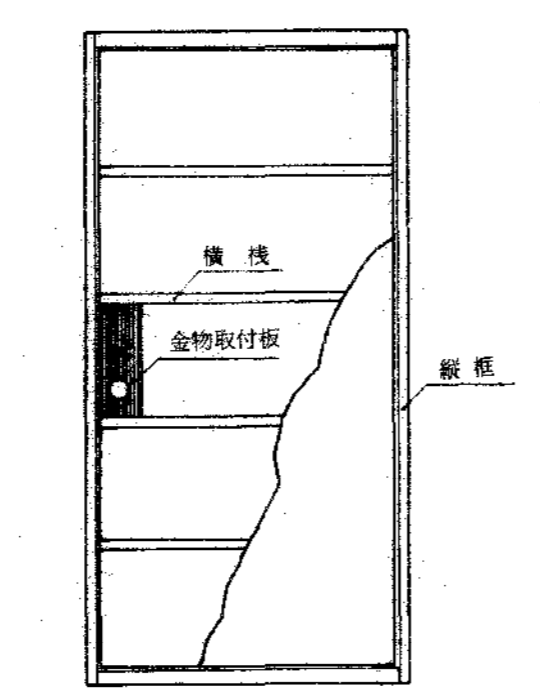
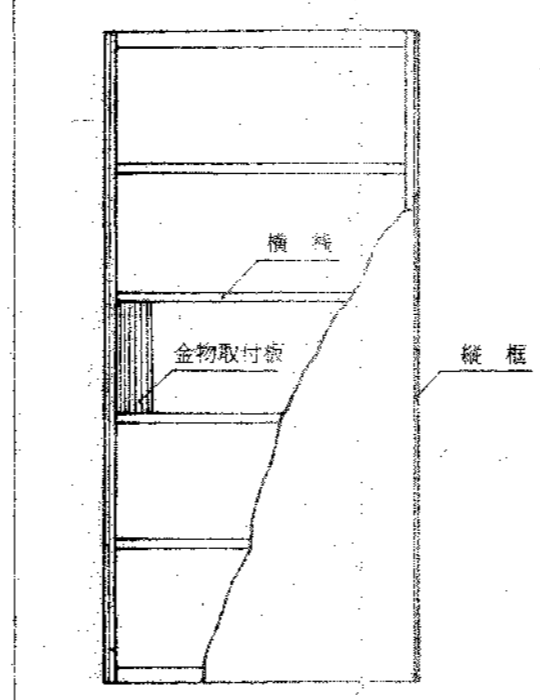
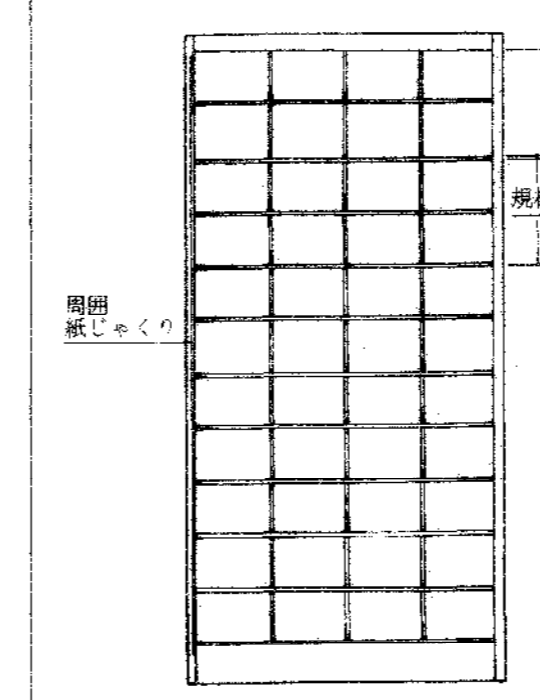
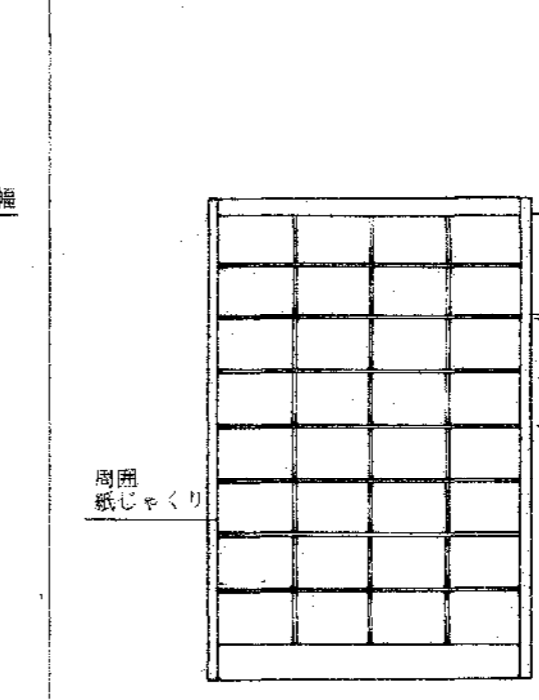
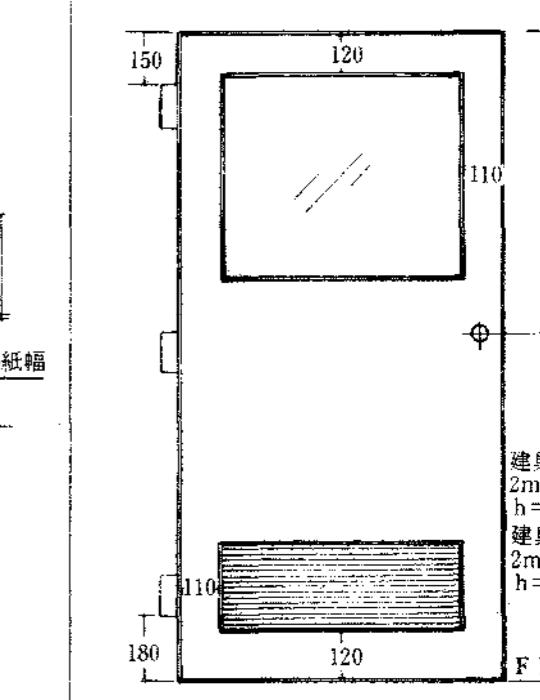
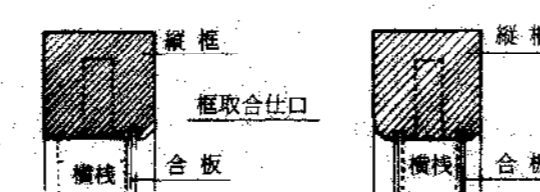
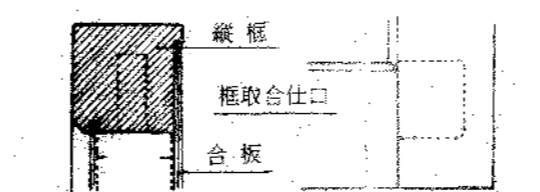
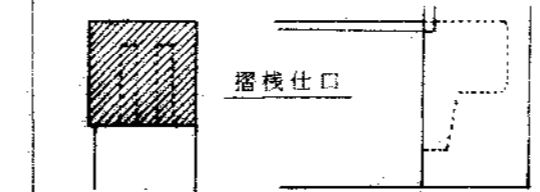
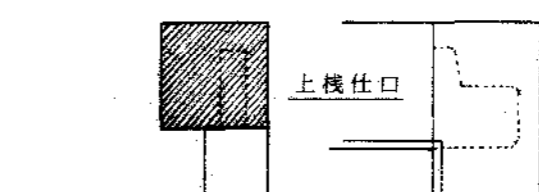
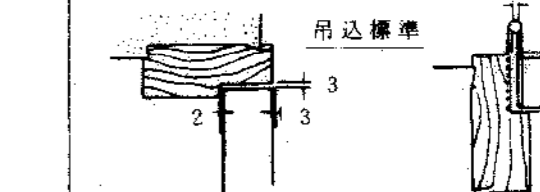
福島県木製建具工作標準図 (昭和61年版)

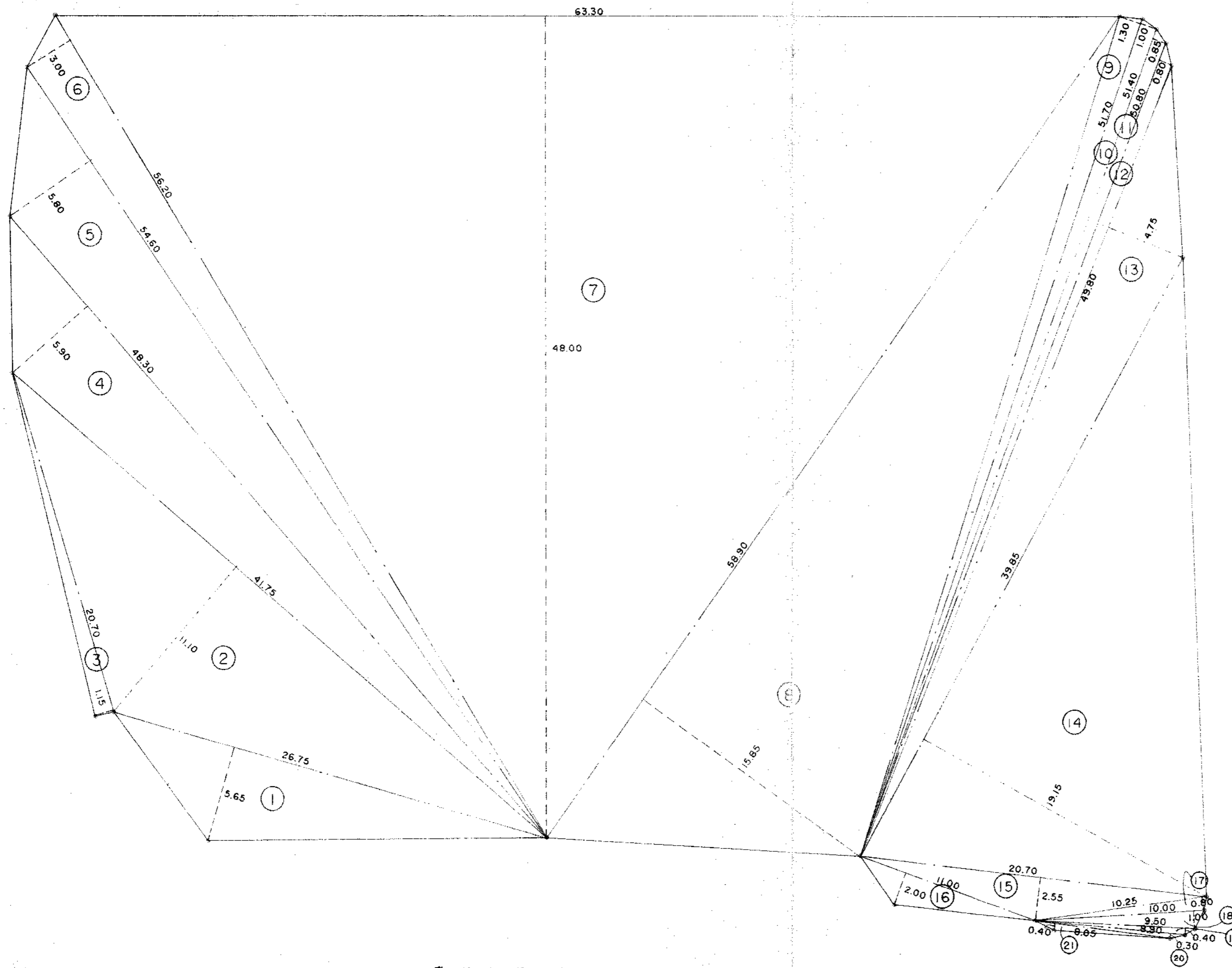
工作図の使用取扱いについては次による。

1. 特記事項は○印を付けたものを適用する。ただし○印のない場合は※印を付けたものを適用する。
2. 建具寸法は「設計図面」による。
3. フラッシュ戸については庁舎等に適用する。

項目	特記事項																																		
1. 材料	<p>(a) 木材の等級、含水率及び樹種</p> <p>(1) 木材は、原則として「建具材の日本農林規格」に準じる。</p> <p>(2) 建具材の種別は1表による。</p> <p>1表 建具材の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>建具材の等級</th> <th>加工組立て時の含水率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>1等</td> <td>15%/wt以下</td> </tr> <tr> <td>※B種</td> <td>2等</td> <td>天然乾燥18%/wt以下、人工乾燥15%/wt以下</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>3等</td> <td>18%/wt以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 樹種</p> <p>(i) 樹種は2表による。</p> <p>2表 樹種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>樹種</th> <th>代用樹種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つり元となる部材及び定規線</td> <td>ひのき</td> <td>ひば、米ひ、米ひば、台ひ</td> </tr> <tr> <td>フラッシュ戸の上下棧、縦框、中骨</td> <td>すぎ</td> <td>紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、米つが、米もみ、えぞ松</td> </tr> <tr> <td>その他建具の上下棧、縦框、組子等</td> <td>すぎ</td> <td>紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 合板</p> <p>(1) 合板は、普通合板、特殊合板、難燃合板及び防火用合板の日本農林規格の規格品とする。</p>	種別	建具材の等級	加工組立て時の含水率	・A種	1等	15%/wt以下	※B種	2等	天然乾燥18%/wt以下、人工乾燥15%/wt以下	・C種	3等	18%/wt以下	名称	樹種	代用樹種	つり元となる部材及び定規線	ひのき	ひば、米ひ、米ひば、台ひ	フラッシュ戸の上下棧、縦框、中骨	すぎ	紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、米つが、米もみ、えぞ松	その他建具の上下棧、縦框、組子等	すぎ	紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ										
種別	建具材の等級	加工組立て時の含水率																																	
・A種	1等	15%/wt以下																																	
※B種	2等	天然乾燥18%/wt以下、人工乾燥15%/wt以下																																	
・C種	3等	18%/wt以下																																	
名称	樹種	代用樹種																																	
つり元となる部材及び定規線	ひのき	ひば、米ひ、米ひば、台ひ																																	
フラッシュ戸の上下棧、縦框、中骨	すぎ	紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、米つが、米もみ、えぞ松																																	
その他建具の上下棧、縦框、組子等	すぎ	紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ																																	
2. 金物	<p>(a) 木製建具の丁番など</p> <p>(1) 丁番は、3表により材質は軸を含めステンレスとする。形式と金物の種類は共通仕様による。</p> <p>3表 木製建具用丁番</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">使用枚数</th> <th colspan="2">大きさ%</th> <th rowspan="2">木ねじ本数(材径%)</th> </tr> <tr> <th>長さ</th> <th>厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出入口</td> <td>2枚</td> <td>3枚</td> <td>127</td> <td>2.5</td> <td>10</td> <td>4.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 戸車はJISA5512(引戸用戸車)により、断面は4表による。</p> <p>(3) レールはJISA5509(引戸用レール)により、断面は4表による。</p> <p>4表 木製建具の戸車とレール(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">戸車の外径</th> <th colspan="2">レールの断面</th> </tr> <tr> <th>断面の形</th> <th>幅×高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出入口及び特に大きな窓</td> <td>36</td> <td>甲</td> <td>丸 7.0×9.0</td> </tr> <tr> <td>一般の窓</td> <td>30</td> <td>甲</td> <td>丸 5.6×7.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 握り玉、押板類の取付け位置は5表を標準とする。</p> <p>5表 握り玉押板類の取付け位置(m)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>金物の種類</th> <th>床上端から金物までの高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>握り玉・とっ手類</td> <td>建具H2m以上 1.0 建具H2m以下建具Hの1/2</td> </tr> <tr> <td>押板類</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table>	使用箇所	使用枚数	大きさ%		木ねじ本数(材径%)	長さ	厚さ	出入口	2枚	3枚	127	2.5	10	4.1	使用箇所	戸車の外径	レールの断面		断面の形	幅×高さ	出入口及び特に大きな窓	36	甲	丸 7.0×9.0	一般の窓	30	甲	丸 5.6×7.0	金物の種類	床上端から金物までの高さ	握り玉・とっ手類	建具H2m以上 1.0 建具H2m以下建具Hの1/2	押板類	1.1
使用箇所	使用枚数			大きさ%			木ねじ本数(材径%)																												
		長さ	厚さ																																
出入口	2枚	3枚	127	2.5	10	4.1																													
使用箇所	戸車の外径	レールの断面																																	
		断面の形	幅×高さ																																
出入口及び特に大きな窓	36	甲	丸 7.0×9.0																																
一般の窓	30	甲	丸 5.6×7.0																																
金物の種類	床上端から金物までの高さ																																		
握り玉・とっ手類	建具H2m以上 1.0 建具H2m以下建具Hの1/2																																		
押板類	1.1																																		
4. その他(特記)																																			

3. 建具種別

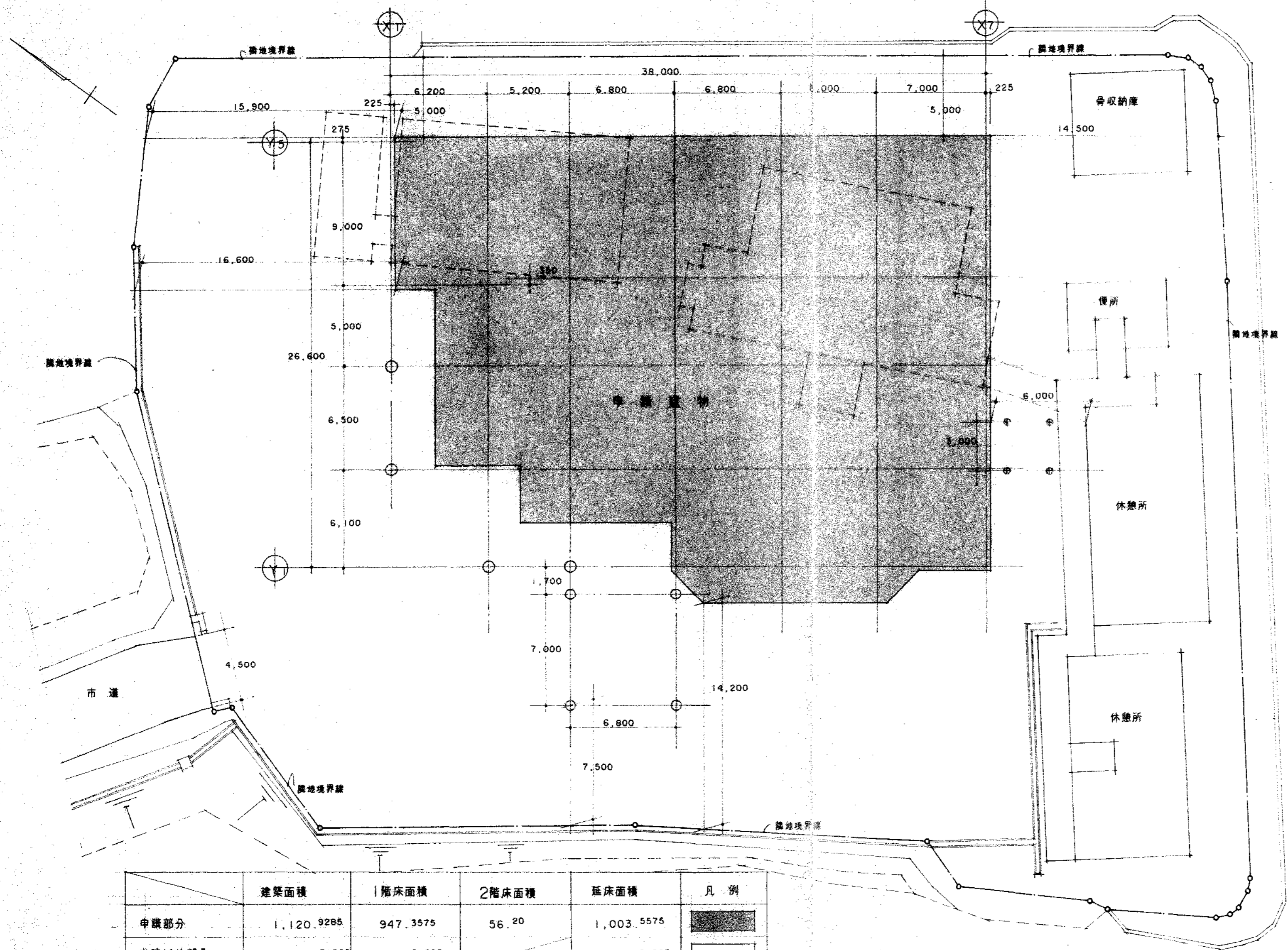
1 フラッシュ戸 (中骨、縦横の場合)	2 フラッシュ戸 (中骨、横方向の場合)	3 フラッシュ戸 (ペーパーコーターの場合)	4 いんろうふすま	5 付繰ふすま
				
縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300%程度	縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300%程度	縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300%程度	周 囲 骨 16.5%×21%すみずみ入り輸入釘打ち	周 囲 骨 16.5%×21%すみずみ入り輸入釘打ち
上 下 棧 25%程度4枚はぎ、同 上	上 下 棧 25%程度4枚はぎ、同 上	上 下 棧 25%程度4枚はぎ、同 上	縦 子 12%×13.5%3本内1本分増し力骨	縦 子 12%×13.5%3本内1本分増し力骨
中 骨 見付25%以上、間隔150%程度 縦横交差部は相欠き、中骨には空気孔を設ける。間隔300%程度。	中 骨 見付13%以上、間隔100%程度 中間2ヶ所の中骨は分増し筋差し、中骨は空気孔を設ける。	中 骨 中棧2ヶ所25%程度2枚はぎ、空気孔を設ける。	横 子 " 11本 "	横 子 " 11本 "
吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上、ひのき又はひば材とし、鏡前当りドアチェック当り3枚以上増骨	吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上、ひのき又はひば材とし、鏡前当りドアチェック当り3枚以上増骨	吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上、ひのき又はひば材とし、鏡前当りドアチェック当り3枚以上増骨	" 骨しぼり 1回	" 骨しぼり 1回
框 取 合 い ほぞ差しまたは両面金物固定	框 取 合 い ほぞ差しまたは両面金物固定	框 取 合 い ほぞ差しまたは両面金物固定	" べたばり 1回	" べたばり 1回
			" 袋ばり 1回 3枚がけ以上	" 袋ばり 1回 3枚がけ以上
			" 上ばり 1回 見本提出	" 上ばり 1回 見本提出
周囲縁はカシュー樹脂塗料ぬり。片面の場合(押入等)は裏面雲花紙貼り仕上。金物等は見本品提出。				
				
6 片面、両面、板ふすま	7 片面プリン、板ふすま	8 障子戸	9 障子戸	10 各個所取付寸法
				
横 棧 4本以上	横 棧 4本以上	縦 框 紙じゃくり	縦 框 紙じゃくり	建具金物 見本品提出
紙 貼 り 下 貼 り 1回	紙 貼 り 下 貼 り 1回	上 下 框 "	上 下 框 "	材 種 形 状 JISによる
" 上 貼 り 1回 見本提出	" 上 貼 り 1回	組 子 規格紙幅に合わせる。片組とする。	組 子 規格紙幅に合わせる。片組とする。	(注) 便所、洗面所、浴室、厨房等の金物はステンレス鋼、亜鉛合金、黄銅、または青銅製とする。ステンレス以外のものはクロムめっきを行ったものとする。
釘 亜鉛メッキ	合 板 接着剤貼り			
	釘 亜鉛メッキ			
				



敷地面積

①	26.75	×	5.65	=	151.1375
②	41.75	×	11.10	=	463.4250
③	20.70	×	1.15	=	23.8050
④	48.30	×	5.90	=	284.9700
⑤	54.60	×	5.80	=	316.6800
⑥	56.20	×	3.00	=	168.6000
⑦	63.30	×	48.00	=	3,038.4000
⑧	58.90	×	15.85	=	933.5650
⑨	51.70	×	1.30	=	67.2100
⑩	51.70	×	1.00	=	51.7000
⑪	51.40	×	0.85	=	43.6900
⑫	50.80	×	0.80	=	40.6400
⑬	49.80	×	4.75	=	236.5500
⑭	39.85	×	19.15	=	763.1275
⑮	20.70	×	2.55	=	52.7850
⑯	11.00	×	2.00	=	22.0000
⑰	10.25	×	0.80	=	8.2000
⑱	10.00	×	1.00	=	10.0000
⑲	9.50	×	0.40	=	3.8000
⑳	8.90	×	0.30	=	2.6700
㉑	8.05	×	0.40	=	3.2200
6,686.1750					
× 1/2 = <u>3,343.0875 M²</u>					

敷地面積 求積図 S=1/200

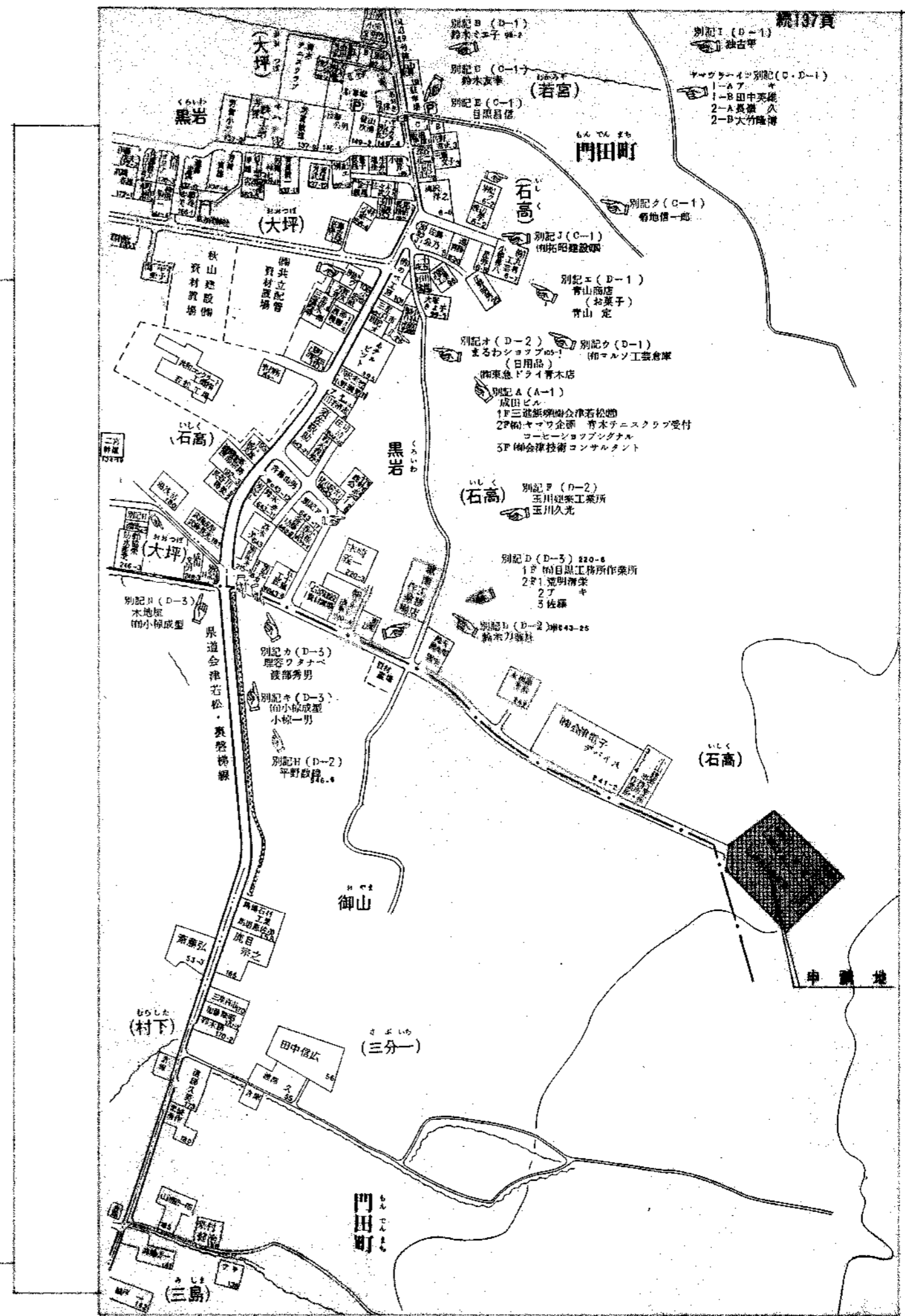
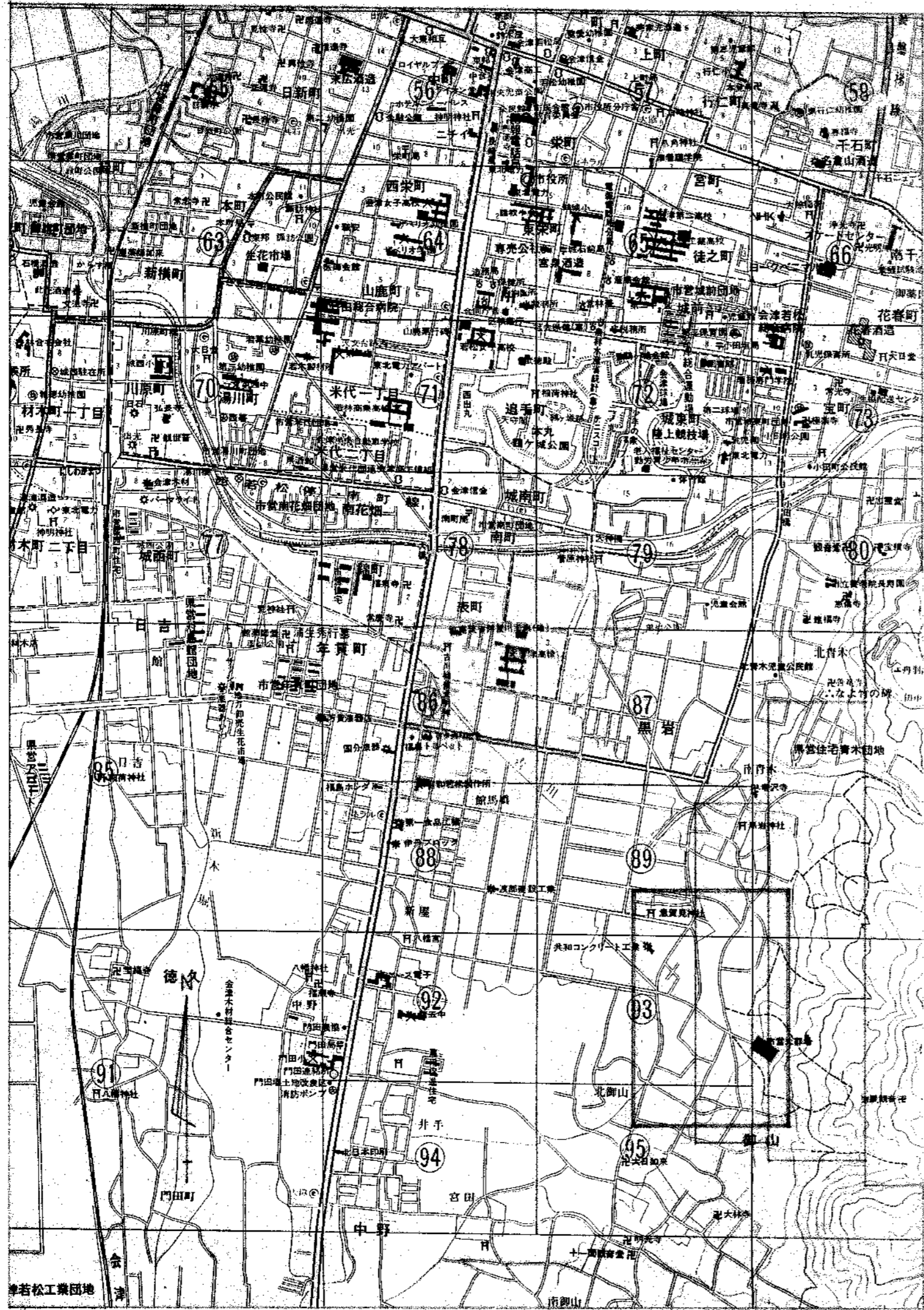


建 ¹ 率	$\frac{1,453.4415}{3,343.0805}$	43.48 %
容積率	$\frac{1,336.07015}{3,343.0805}$	39.97 %

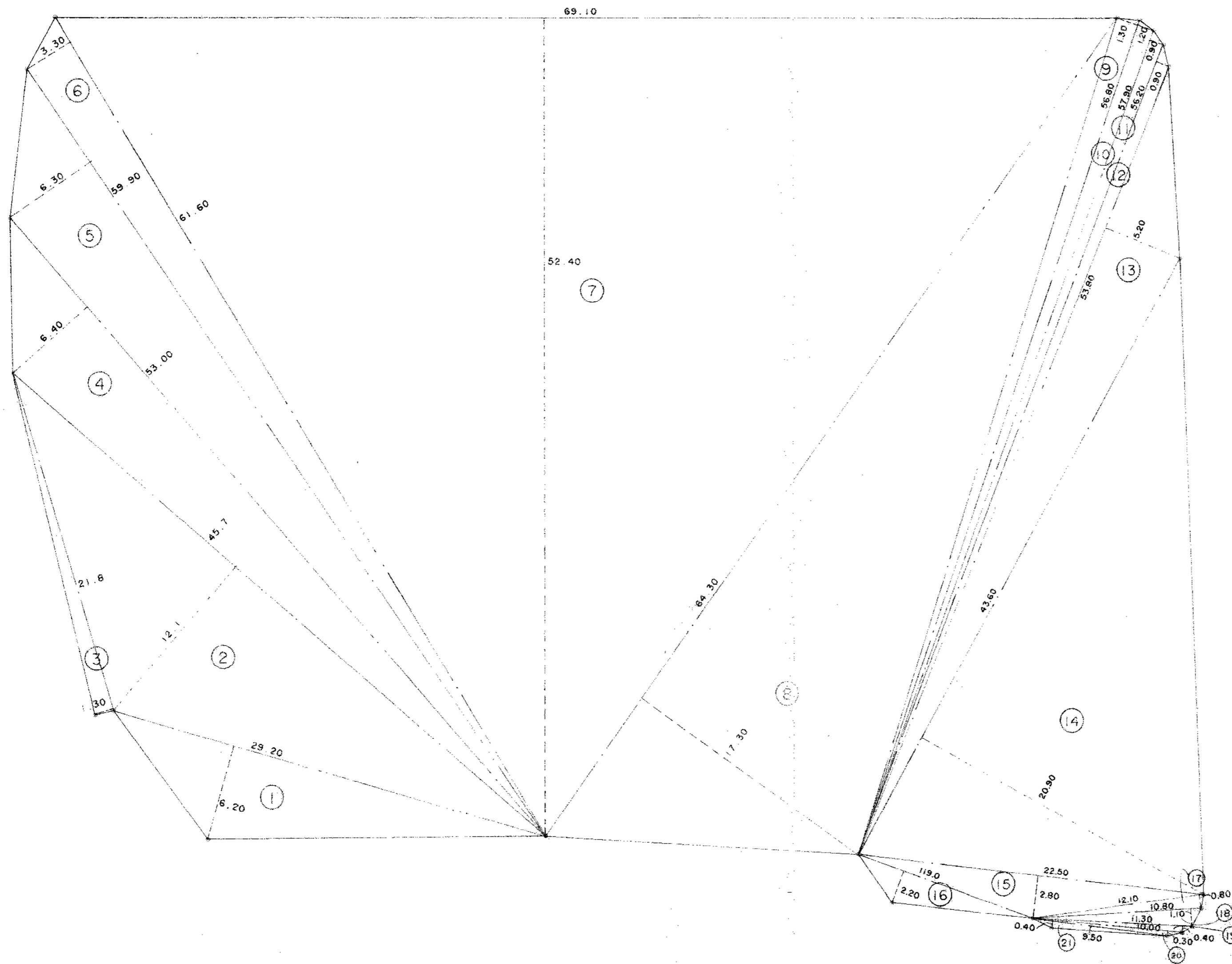
	建築面積	1階床面積	2階床面積	延床面積	凡例
申請部分	1,120.9285	947.3575	56.20	1,003.5575	
申請以外部分	332.51265	332.51265		332.51265	
合計	1,453.44115	1,279.87015	56.20	1,336.07015	

解体部分	351.4685	332.1485		332.1485	
------	----------	----------	--	----------	--

配置図 S=1/200



案内図



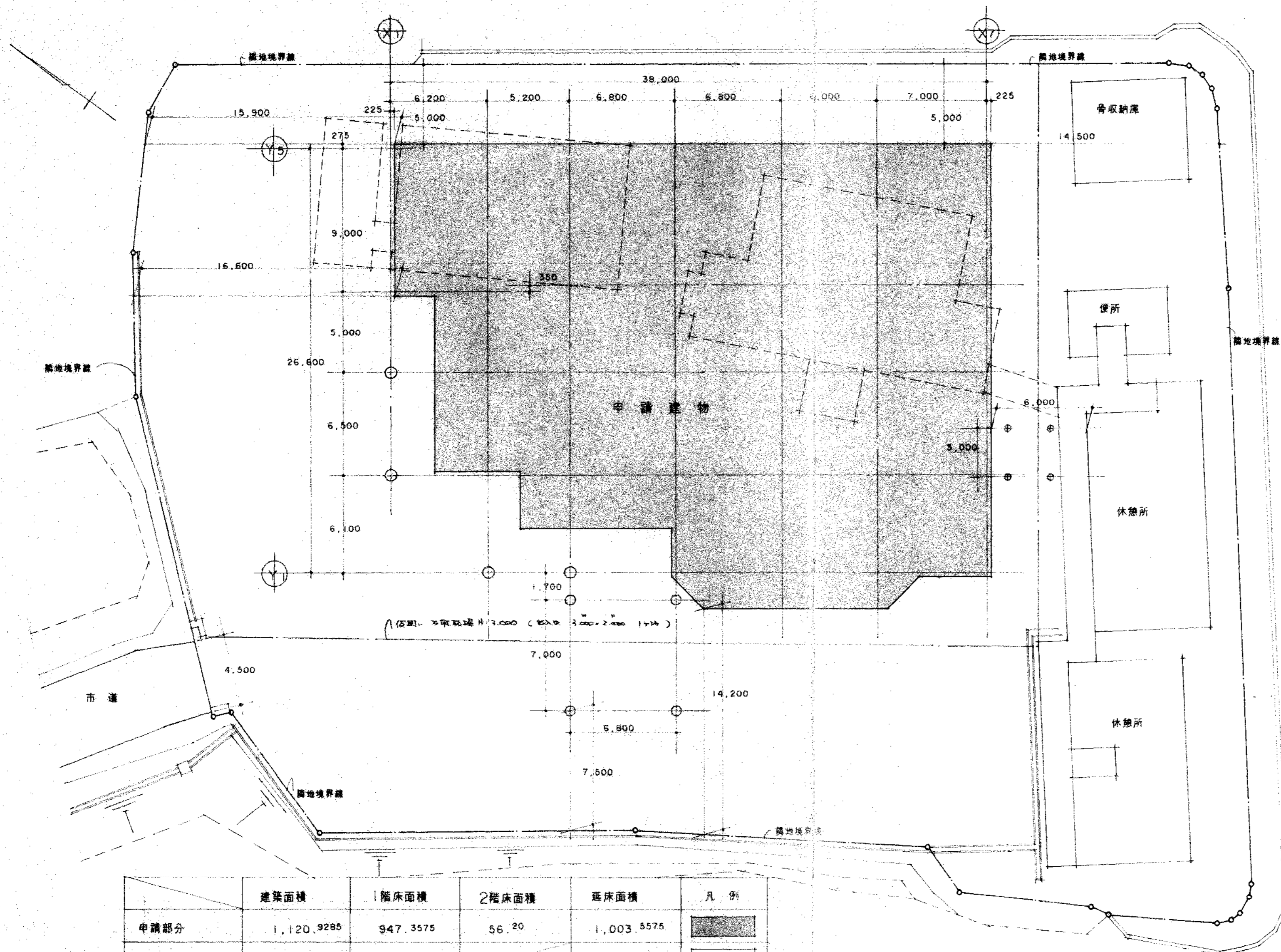
敷地面積 求積図 S=1/200

敷地面積

①	29.20	×	6.20	=	181.04
②	45.70	×	12.10	=	552.97
③	21.80	×	1.30	=	28.34
④	53.00	×	6.40	=	339.20
⑤	59.90	×	6.30	=	377.37
⑥	61.60	×	3.30	=	203.28
⑦	69.10	×	52.40	=	3,620.84
⑧	64.30	×	17.30	=	1,112.39
⑨	56.80	×	1.30	=	73.84
⑩	56.80	×	1.20	=	68.16
⑪	57.90	×	0.90	=	52.11
⑫	56.20	×	0.90	=	50.58
⑬	53.80	×	5.20	=	279.76
⑭	43.60	×	20.90	=	911.24
⑮	22.50	×	2.80	=	63.00
⑯	11.90	×	2.20	=	26.18
⑰	12.10	×	0.80	=	9.68
⑱	10.80	×	1.10	=	11.88
⑲	11.30	×	0.40	=	4.52
⑳	10.00	×	0.30	=	3.00
㉑	9.50	×	0.40	=	3.80

7,973.18

× 1/2 = 3,986.59 M²

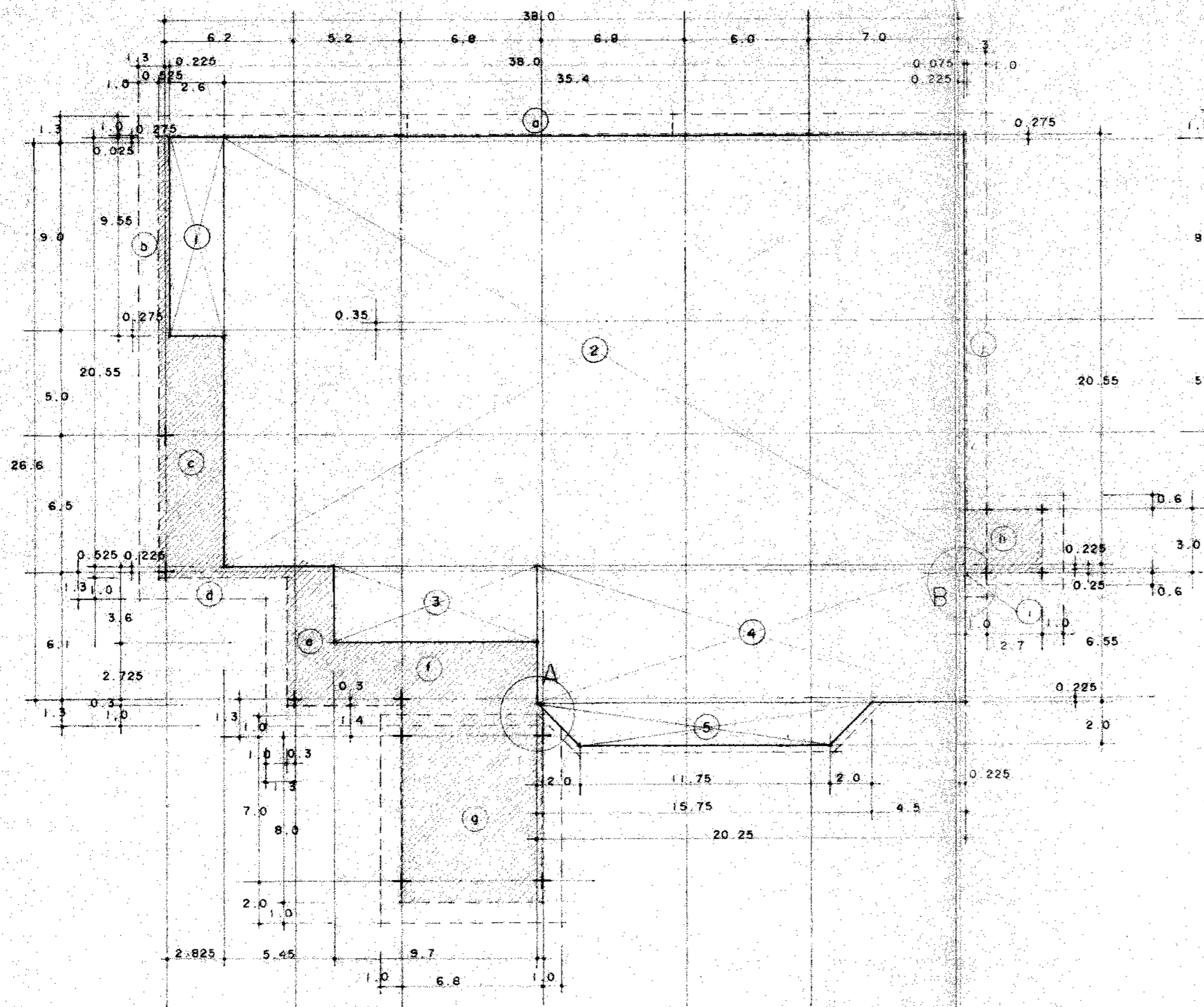


建坪率	$\frac{1,453.4415}{3,986.590}$	36.45 %
容積率	$\frac{1,336.07015}{3,986.590}$	33.51 %

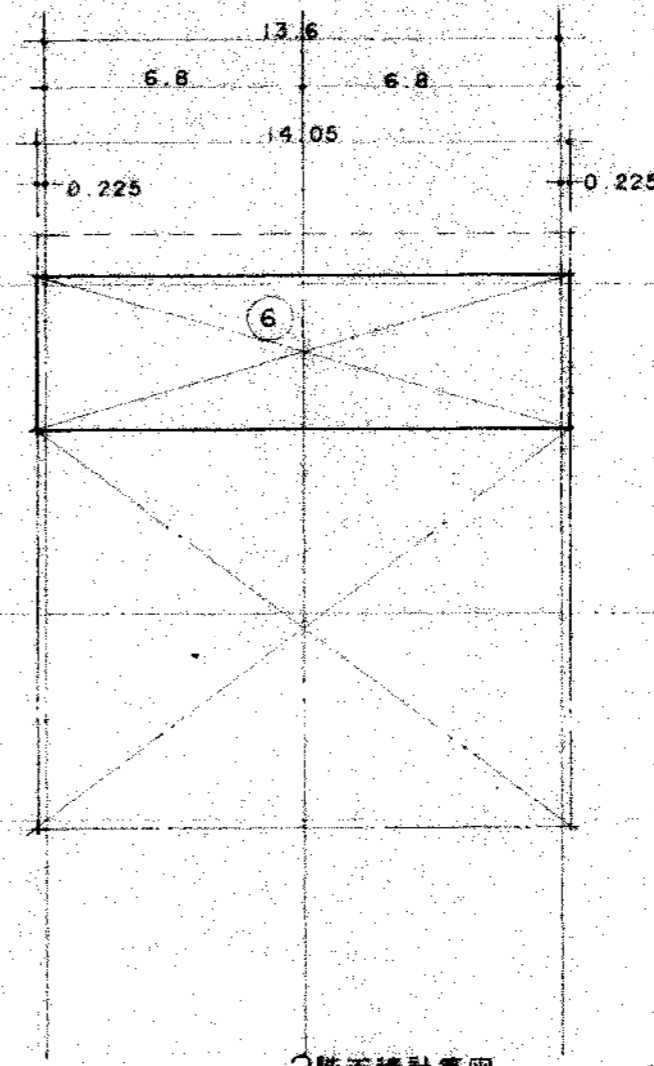
	建築面積	1階床面積	2階床面積	延床面積	凡例
申請部分	1,120.9285	947.3575	56.20	1,003.5575	
申請以外部分	332.51265	332.51265		332.51265	
合計	1,453.44115	1,279.87015	56.20	1,336.07015	

解体部分	351.4685	332.1485		332.1485	
------	----------	----------	--	----------	--

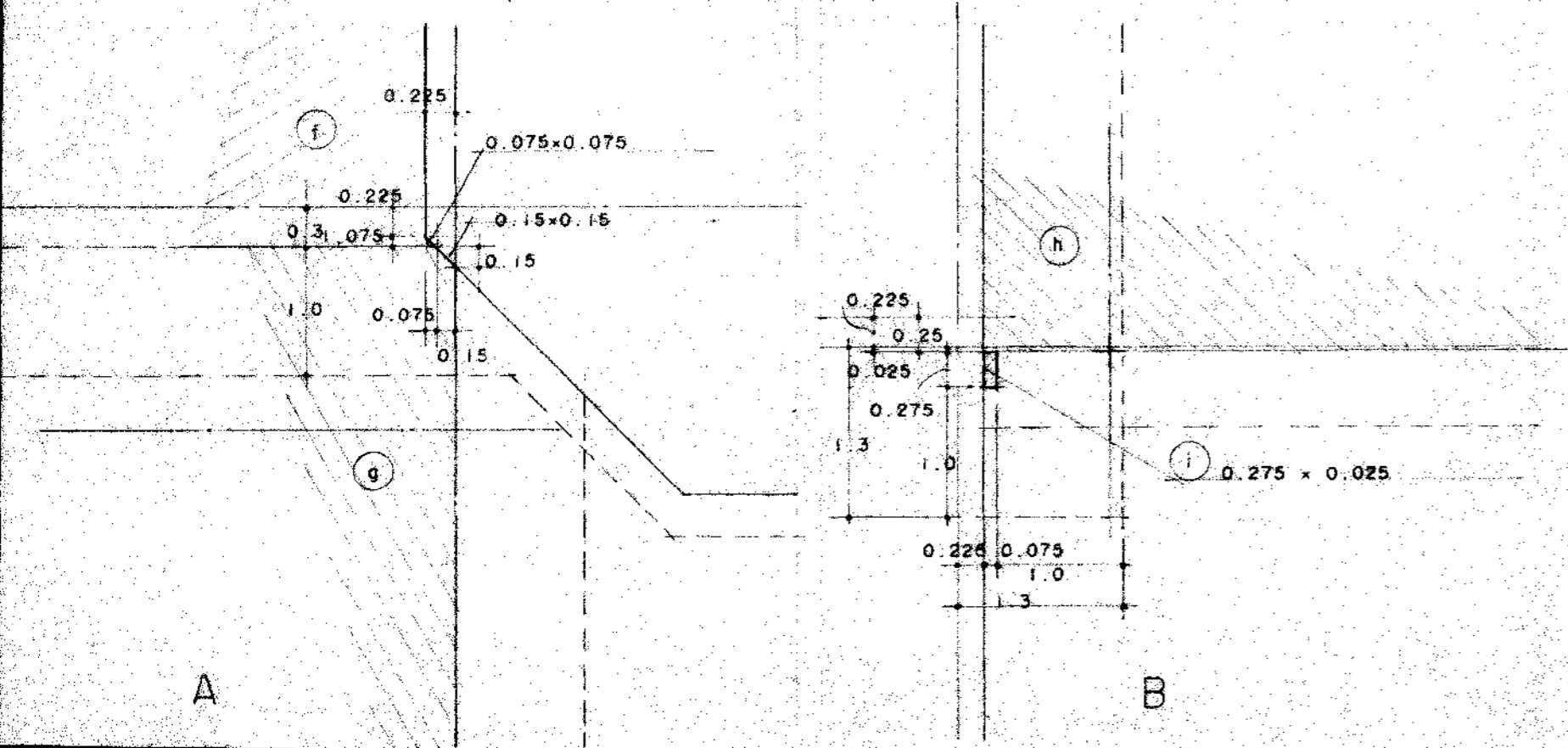
配置図 S=1/200



1階床面積計算 S=1/200



2階床面積計算 S=1/200



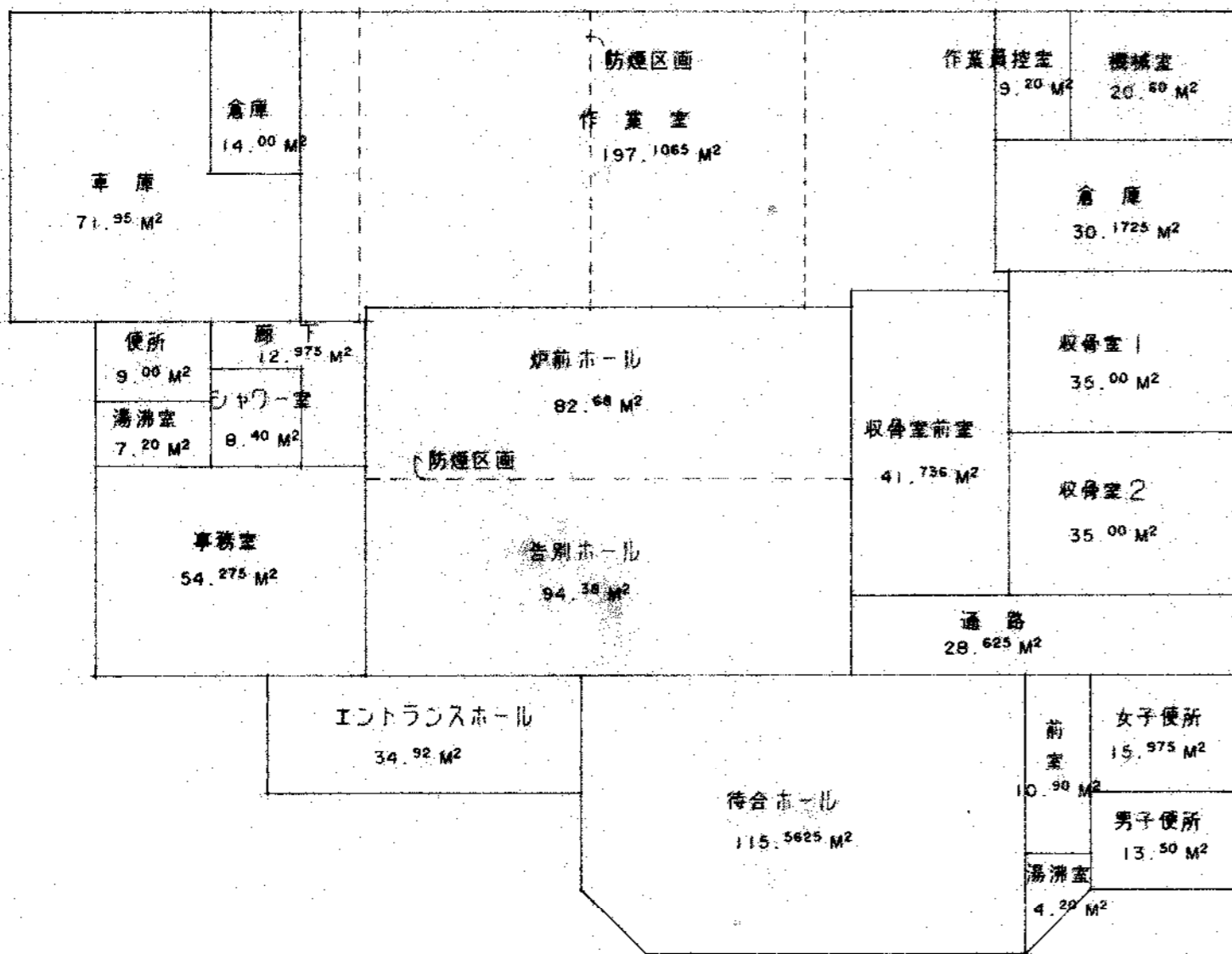
面積計算表 (M ²)		新築部分		
1階 床面積	①	2.5 × 9.55	24.83	
	②	20.55 × 36.4	727.47	
	③	9.7 × 3.6	34.92	
	④	20.25 × 6.55	132.6375	
	⑤	(11.75 + 15.75) × 2.0 / 2	27.50	947.3575
2階 床面積	⑥	14.05 × 4.0	56.20	56.20
延床面積			1,003.5575	
建築面積	ⓐ	38.6 × 0.25	9.65	
	ⓑ	9.55 × 0.525	5.01375	
	ⓒ	10.95 × 3.125	34.21875	
	ⓓ	6.2 × 0.525	3.255	
	ⓔ	2.375 × 6.625	15.734375	
	ⓕ	9.7 × 3.025 + 0.075 × 0.075	29.348125	
	ⓖ	6.8 × 9.4 - 0.15 × 0.15	63.8975	
	ⓗ	3.7 × 3.0	11.10	
	ⓓ	0.275 × 0.075	0.020625	
	ⓓ	17.785 × 0.075	1.333875	
		173.571 + 947.3575	1,120.9285	



既存建物，解体建物面積計算図 S=1/200

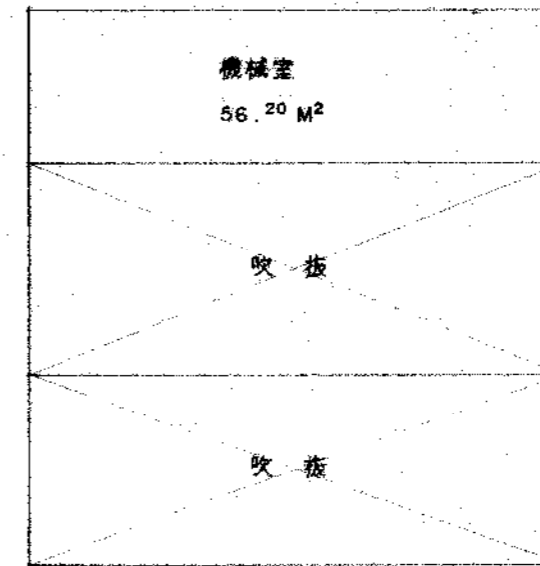
既存建物 面積					
区分	符号	用途	構造	建築面積	床面積
解体建物	①	事務所車庫	S IF W IF	167.986	167.986
	②	倉場	RC IF	175.45	164.1625
	③	ワタリ廊下	S IF	8.0325	
小計				351.4685	332.1485
既存建物	A	休憩所	W IF	116.7621	87.7786
	B	全上	W IF	140.777	104.3406
	C	便所	RC IF	29.39755	22.77275
	D	骨収納庫	RC IF	45.576	45.576
小計				332.51265	260.46795
				683.98125	592.61645

凡 例	
解体建物	床面積 建築面積
既存建物	床面積 建築面積



1階 面積計算図 S=1/200

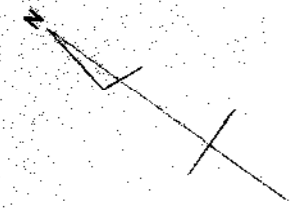
面積表	
建築面積	1,120.9285
1階床面積	947.3575
2階床面積	56.20
延床面積	1,003.5575



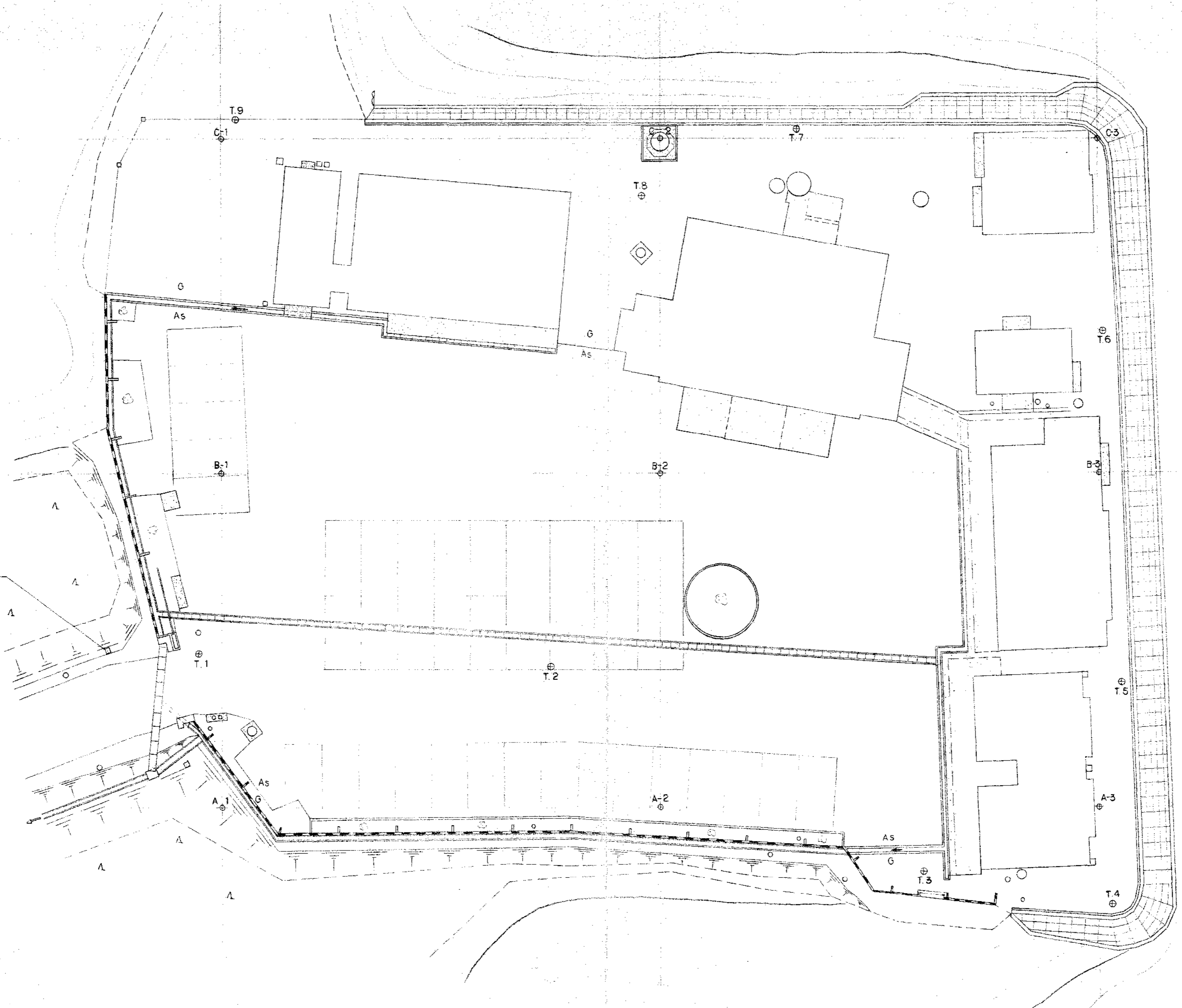
2階 面積計算図 S=1/200

排煙、換気計算表 (採光計算省略)

室名	採光計算	換気計算	
		採光計算	換気計算
事務室 A=54.275 M²	A/50 1.085	A/20=2.713	
	AW-2 1.7×10.56×0.11×2=0.561	AW-2 1.7×(0.56+1.11)×2=1.411	
	AW-4 1.7×10.56×0.11×2×2=1.122	AW-4 1.7×(0.56+1.11)×2×2=2.822	
	1.683	AW-11 1.61×0.6×2=0.483	4.716
待合ホール A=115.5625 M²	2.377	A/20=5.678	
	AW-1 1.8×0.8×2×5=3.60	AW-1 1.8×1.96×2×5=8.82	
	3.60	8.82	
作業員控室 A=9.200 M²	A/50 0.184	A/20=0.46	
	AW-7 1.6×0.76×2=0.608	AW-7 1.6×1.2×2=0.96	
	0.608	0.96	



BM = 235.00



現況 平面測量図 S=1/200

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

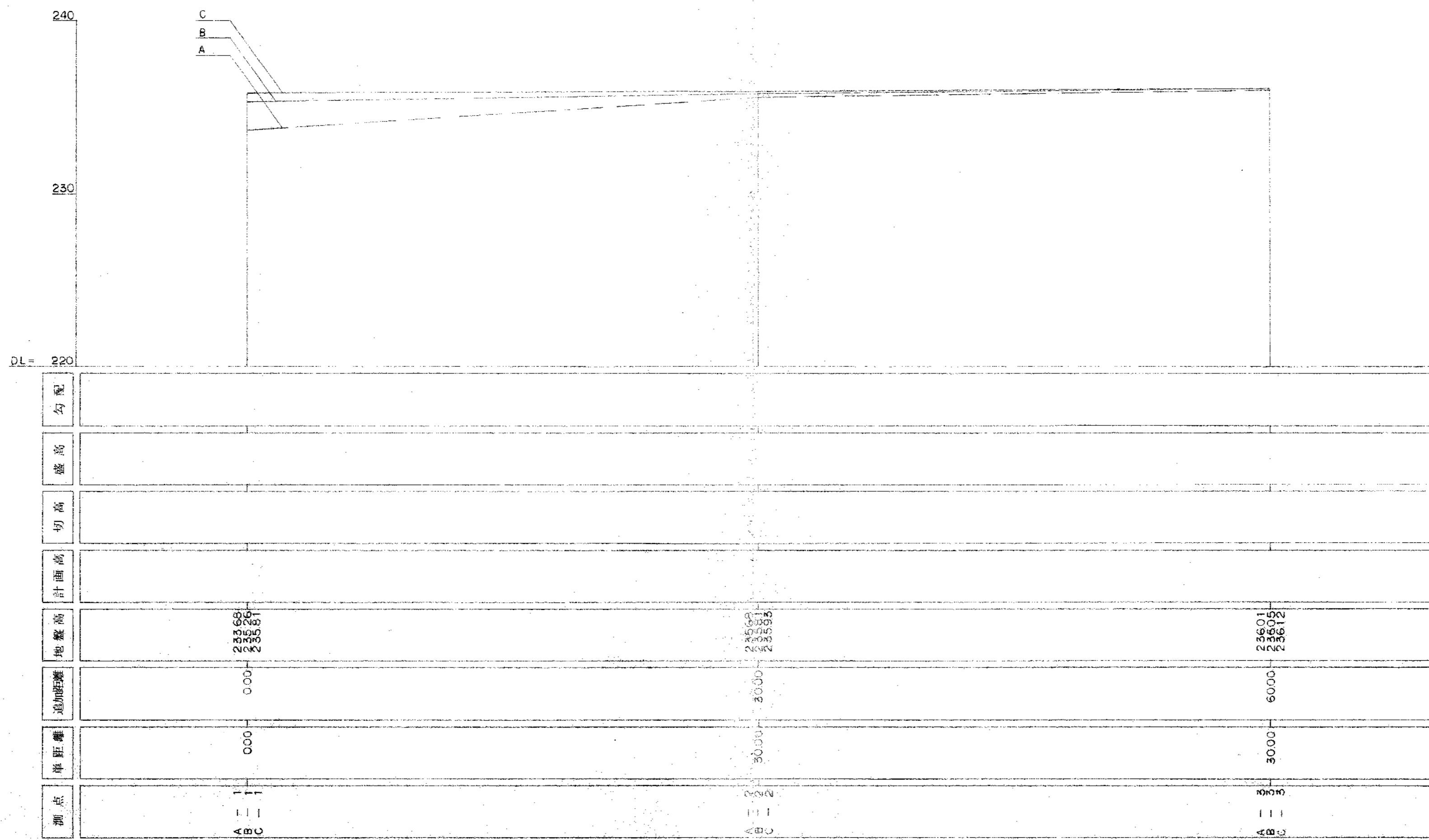
製

図

現況 平面測量図

S=1/200

A-20



BM = 235.00

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

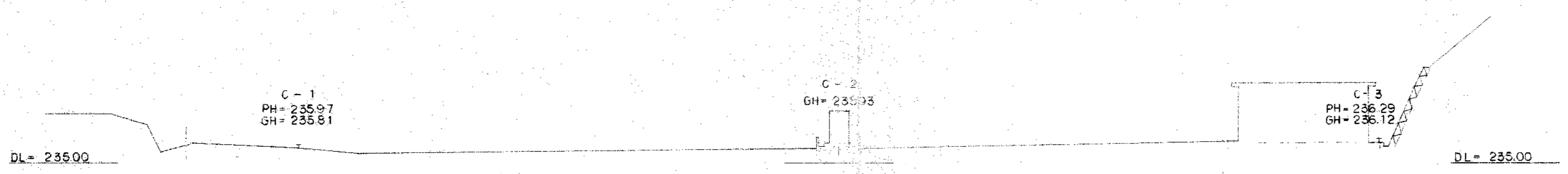
製

図

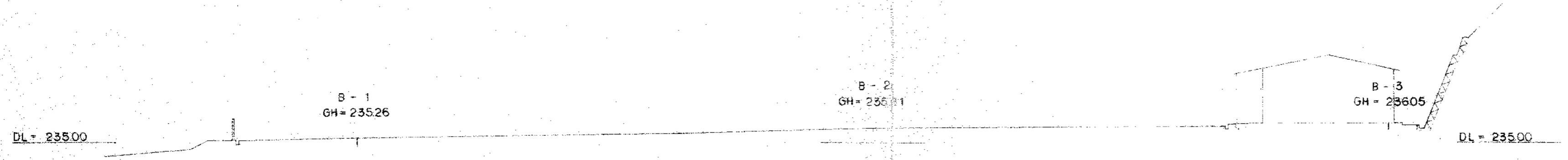
敷地 断面図

S=1/200

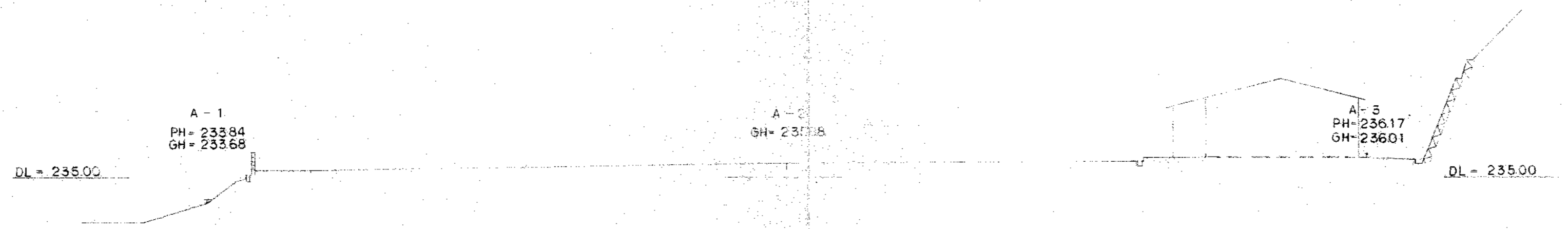
A-21



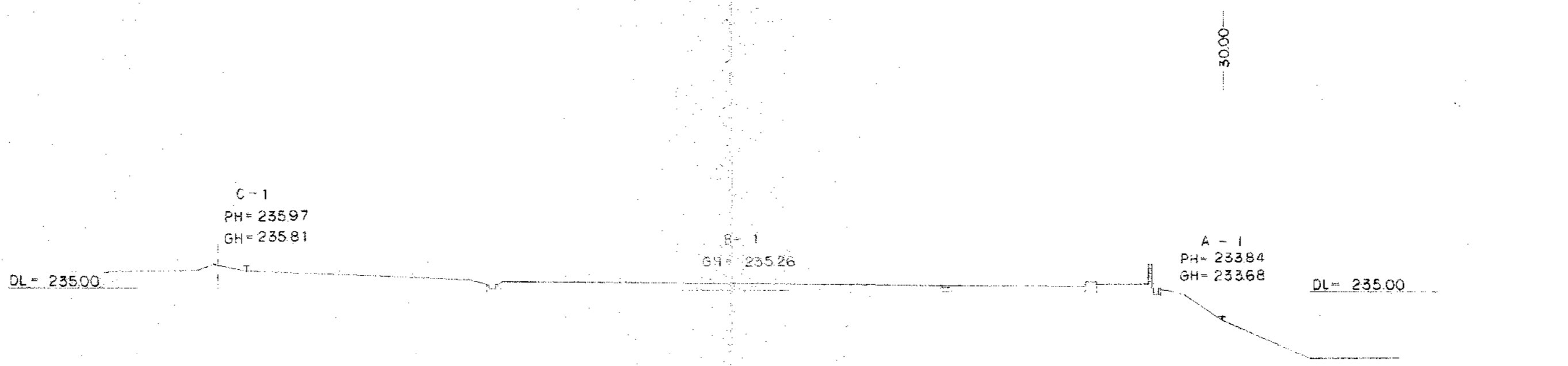
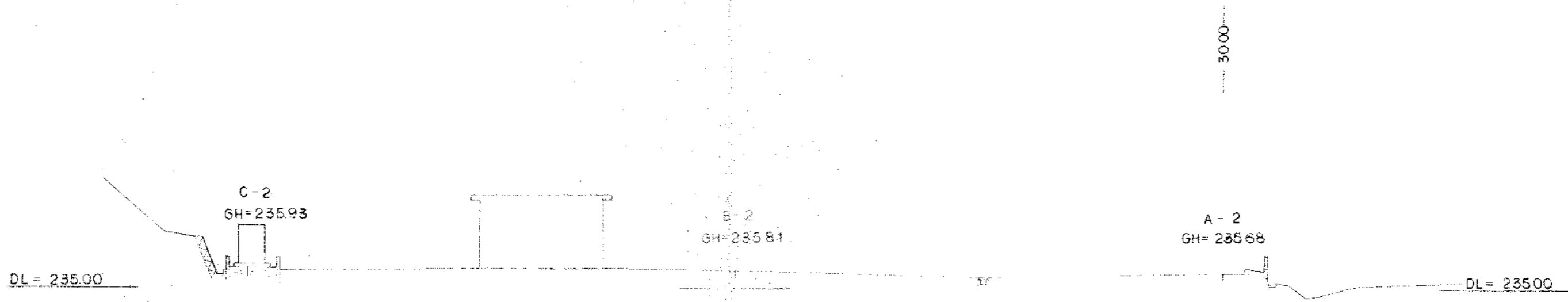
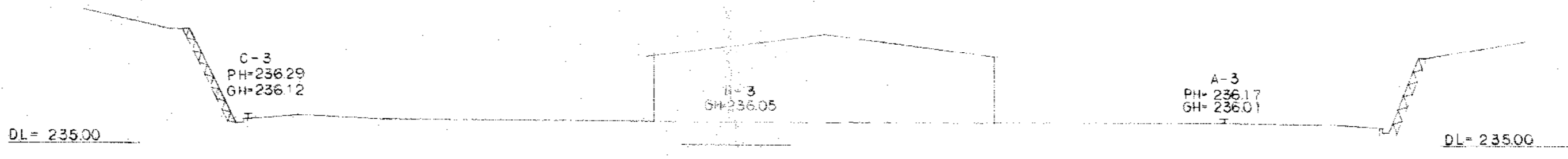
22.50

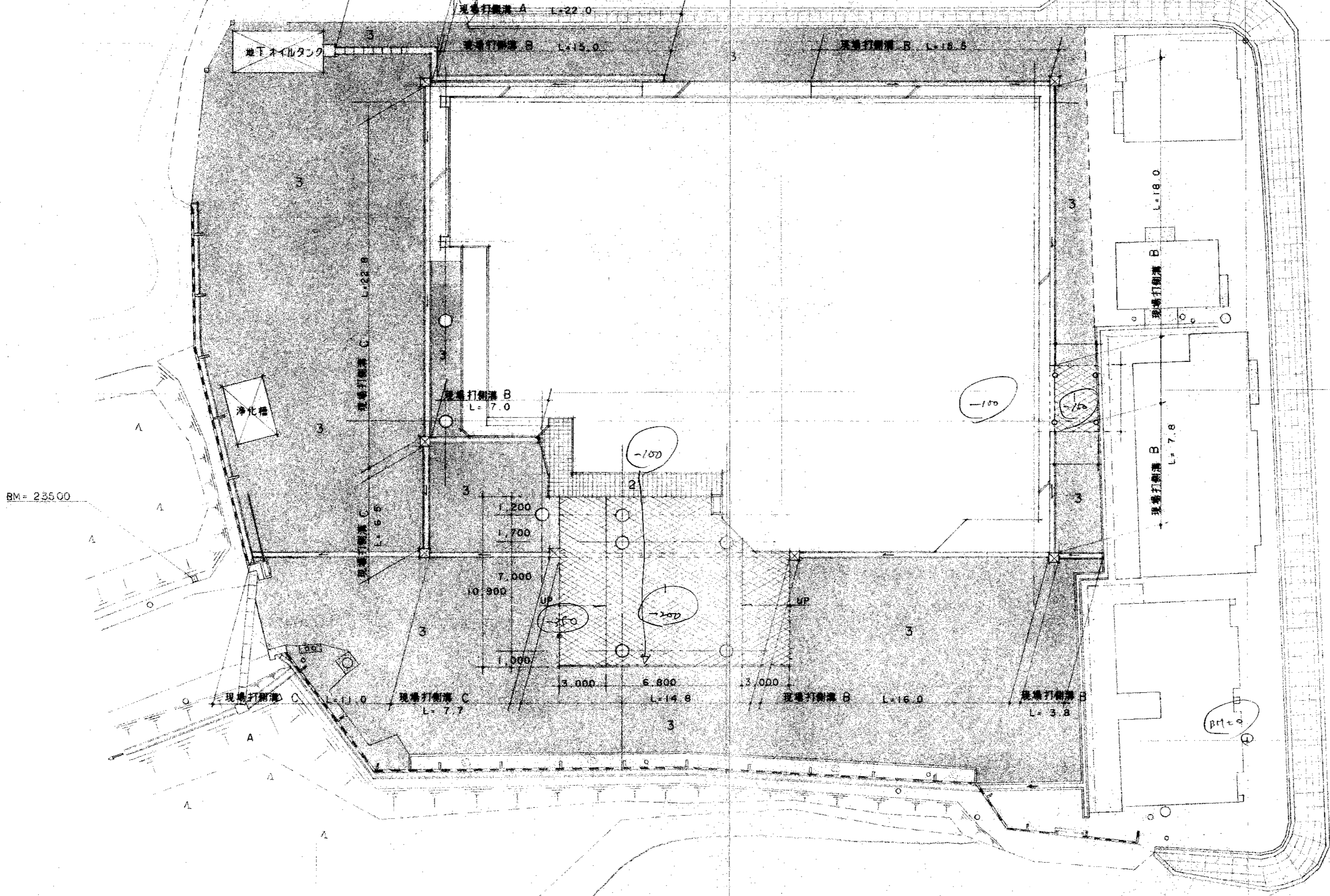
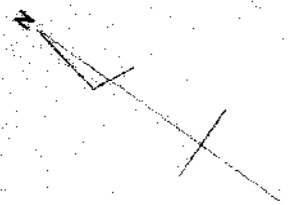


22.50



		会津若松市斎場新築		工事設計図		No. A-22	
		製図		敷地 横断面		S=1/200	



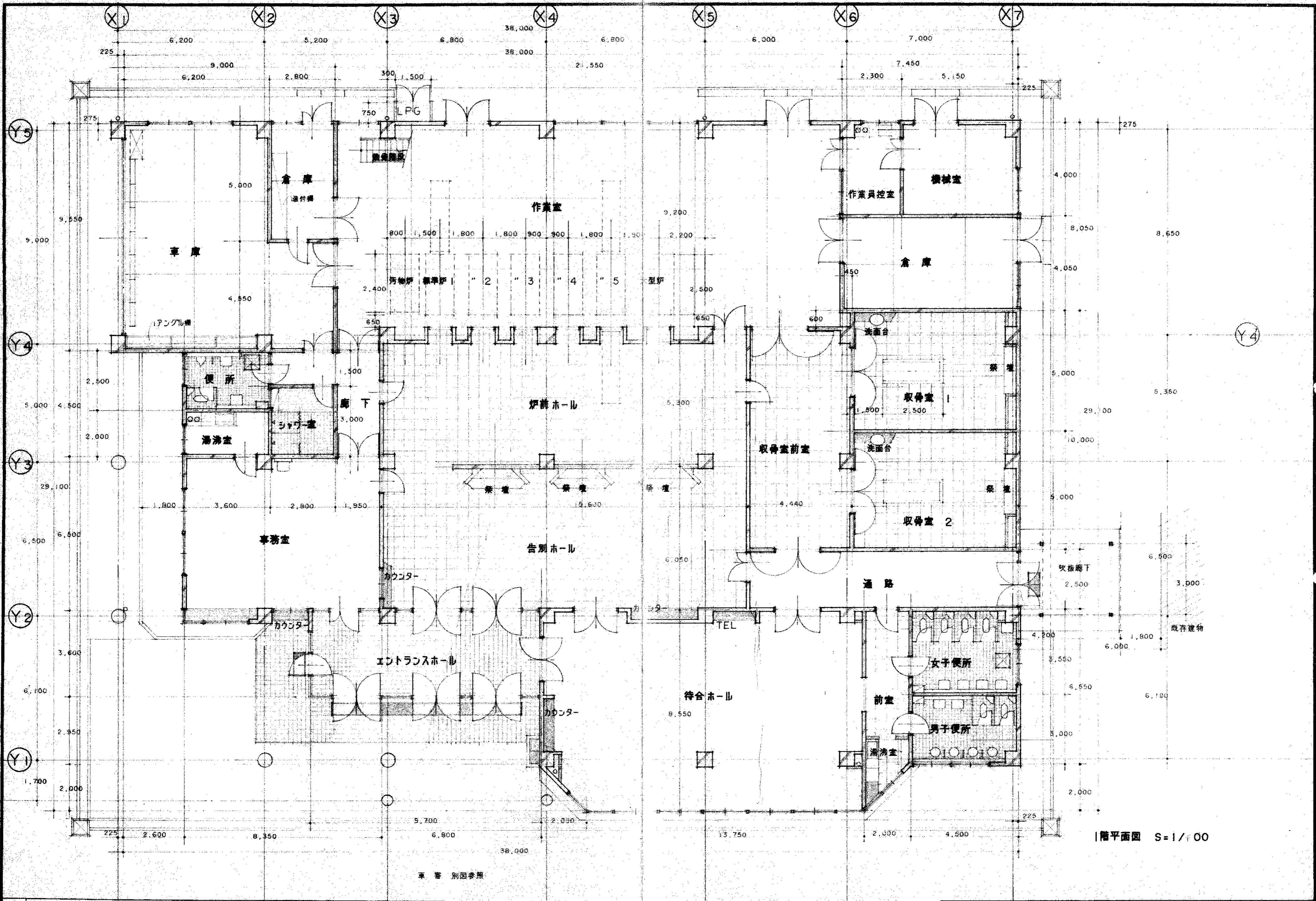


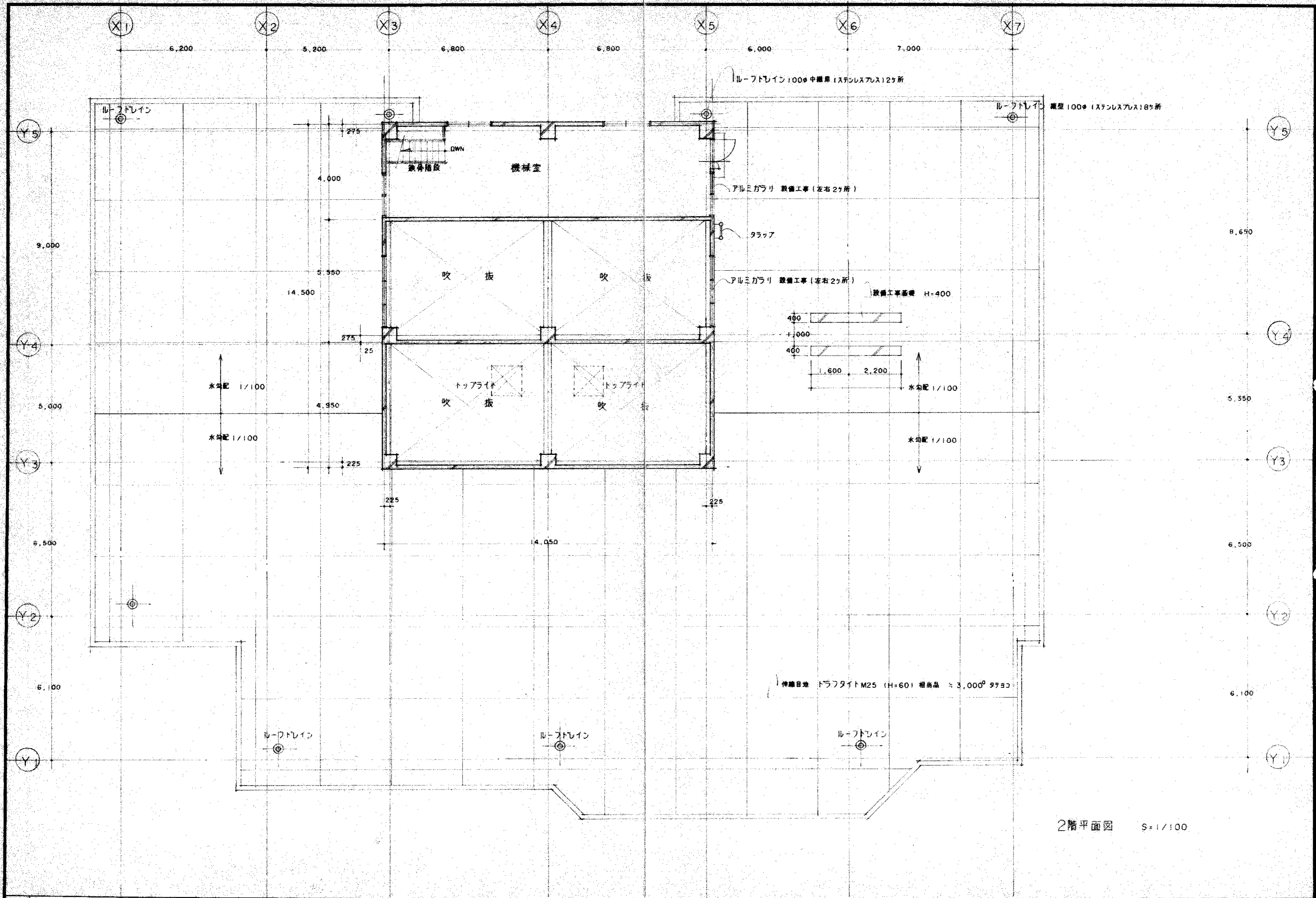
凡	例
	インターロッキングブロック
	150° ジヤタイル
	40-0 玉砂利敷 1:60
A	w=360 現場打削溝 コンクリートフタ
B	w=300 コンクリートフタ
C	w=300 クレーシングフタ

外構平面図 S=1/200

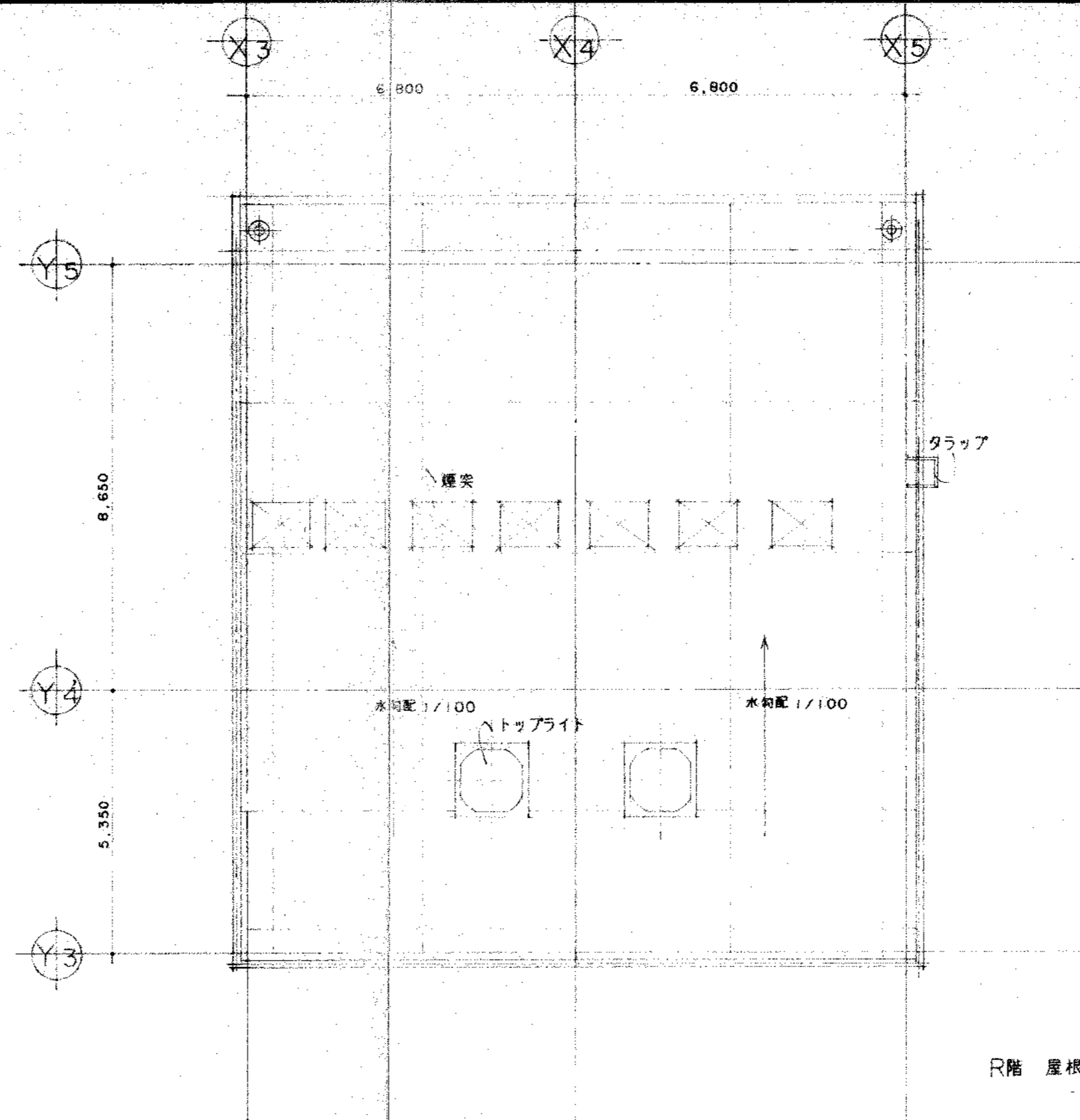
外部仕上表	屋根	コンクリート 下地 アスファルト防水 (A-2) t=0.15 ポリエチレンフィルム t=80 コンクリート コテ (B種) 伸縮目地 t=25 既製目地材 (オカベ ドラフタイト 相当品) ~3,000φ ワイヤーメッシュ 6φ t=100φ 挿入 [立上り, パラペット部分] 合板型種コンクリート打放シ (B種) 下地 アスファルト防水 (A-2) メタルラス 下地 t=30 モルタル コテ 吹付ドレン ステンレススチール 100φ 麻トイ ステンレスHL 1.14 3φ (排水路ヒーター 電気設備工事)	凡例
	軒天	LGS 下地 カラー アルミモールディング 貼り (t=1.0 W=100) [此等下地] 合板型種コンクリート打放シ (B種) 下地 ATS	M モルタル コテ C コンクリート EP 合成樹脂エマルジョン ペイント塗り 特C 特殊化装塗料
	外壁	モルタル木ゴテ下地 ニ丁掛タイル貼り [北面一部] 合板型種コンクリート打放シ 下地 ATS	VP 強化ビニル樹脂 ペイント塗り
	外部巾木 犬走り	外部巾木 外壁に準ずる 犬走り コンクリート コテ 目地切 t=25 既製目地材 ~3,000φ (ドラフタイト M25 H=60 相当品)	PB 石膏ボード RB 岩綿吸音板 ATS アクリル系 弾性タイル吹付
	車寄せ	床 t=200 砕石転圧 t=30 砂地差下地 インターロッキングブロック敷込 天井 アルミモールディング貼り 柱 幕板 カラーアルミPL 曲加工 (300φ 7字 7共) 屋根 t=1.2 デッキPL t=50 コンクリートコテ アスファルト防水 (A-2) t=0.15 ポリエチレンフィルム t=80 押へコンクリートコテ 目地切 t=25 ドラフタイト M25 相当品) ~3,000φ	GWB クラスウールボード PSB ポリスチレンフォーム板 SCB 石綿ケイカル板 VC 防炎2級以上ビニルクロス
	断熱材	入ラフT (最上層部分) 外壁内面 t=25 ポリスチレン板 打込 (作業室等 GWB仕上部分除く) 土間下 t=100 砕石転圧 t=30 砂地差 t=30 ポリスチレンフォーム板敷 t=0.15 ポリエチレンフィルム敷込	LGS 軽量鉄骨
	備考		

室名	床				巾木				壁				天井				備考
	下地	仕上	H	下地	仕上	塗装	H	下地	仕上	塗装	防火性能	下地	仕上	塗装	防火性能	廻り縁	
エントランスホール	M	150 ^φ ジキタイル	GL+200	M	ニ丁掛タイル		100	M	ニ丁掛タイル		不燃	LGS	PB(9) + RB(15)	EP/2	不燃1021	アルミ	2,975
待合ホール	↑	t=7 アクリル系 450 ^φ タイルカーペット	↑		木脚 (ダイケン レセプト 用巾木 相当品)		90	↑	VC 脚 (ダイケン レセプト 相当品)		化粧準不燃003	↑	PB(9) + RB(12)	↑	↑	サシメント 相当品	3,000
告別ホール	↑	t=30 400 ^φ テラゾータイル	↑	M	ニ丁掛タイル			↑	ニ丁掛タイル		不燃	↑	↑	↑	↑	アルミ	2,560 ~3,000
炉前ホール	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	3,060 ~5,000
取骨室 1,2	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,700
取骨室前室	↑	↑	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木 (ダイケン テラリスト 相当品)		100	↑	VC		化粧準不燃003	↑	↑	↑	↑	↑	2,390
男子, 女子便所	↑	200 ^φ ジキタイル	GL+100	↑	200 ^φ デザインタイル			↑	200 ^φ デザインタイル		不燃	↑	↑	↑	↑	↑	2,465
便所前室	M	t=30 400 ^φ テラゾータイル	GL+200	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		100	↑	VC		化粧準不燃003	↑	↑	↑	↑	↑	2,390
事務室	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	↑	↑	ソフト巾木		↑	↑	↑		↑	↑	PB(9) + RB(9)	↑	↑	↑	2,700
湯沸室 (事務室側)	↑	↑	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		↑	↑	↑		防火基材同等004	↑	SCB(6)	VP/2	不燃1061	塩ビ	2,400
便所	↑	25 ^φ 磁器モザイクタイル	GL+100	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,460
シャワー室	M	↑ (一部 t=2.5 長尺クッションフロア)	↑	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,375 ~2,475
廊下	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	GL+200	M	ソフト巾木		100	↑	C		化粧準不燃003	↑	↑	↑	↑	↑	2,400
作業室		モルタル金ゴテ 目地切	↑	↑	モルタルコテ		900	C	25 グラスウール吸音板 (断熱ビニル工法) WB(25) (96 Kg)		不燃1036	C	GWB(25)		不燃1036		
倉庫		↑	↑	↑	↑		200	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	
機械室 (1,2階)		↑	GL+200 (2F) GL+3,500	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	
作業員控室	M	t=2.5 長尺クッションフロア	GL+200	M	ソフト巾木		100	M			化粧準不燃003	LGS	SCB(6)	VP/2	不燃1061	塩ビ	2,500
汚物室																	
湯沸室 (便所前室側)	M	t=30 400 ^φ テラゾータイル	↑	M	ソフト巾木		100	M			化粧準不燃003	LGS	PB(9) + RB(9)		不燃1021	アルミ	2,390
通路	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,390
車庫		コンクリート金ゴテ 目地切	GL+100		モルタルコテ		VP/2	200									

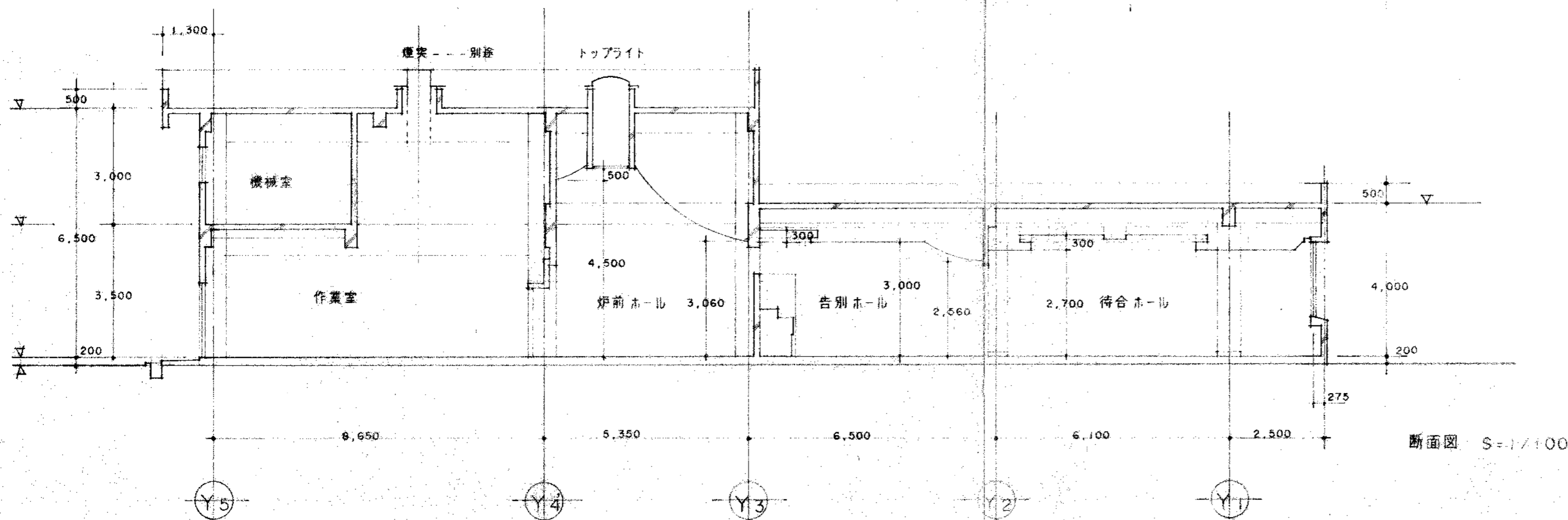




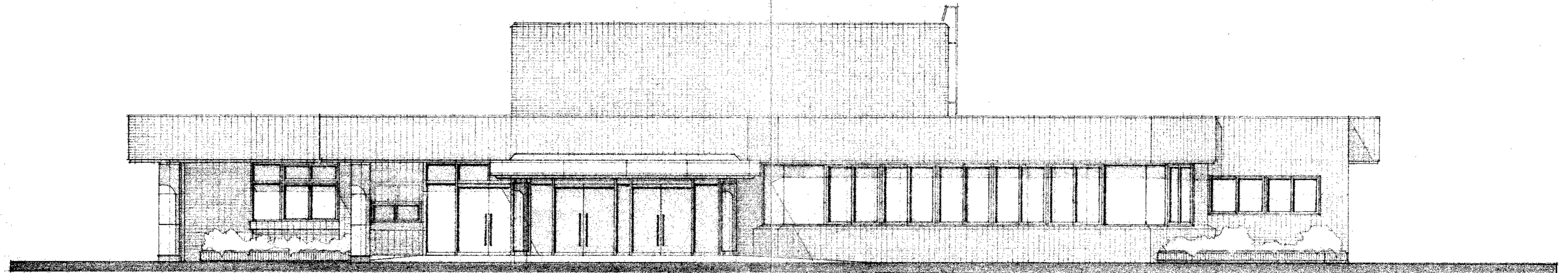
2階平面図 S=1/100



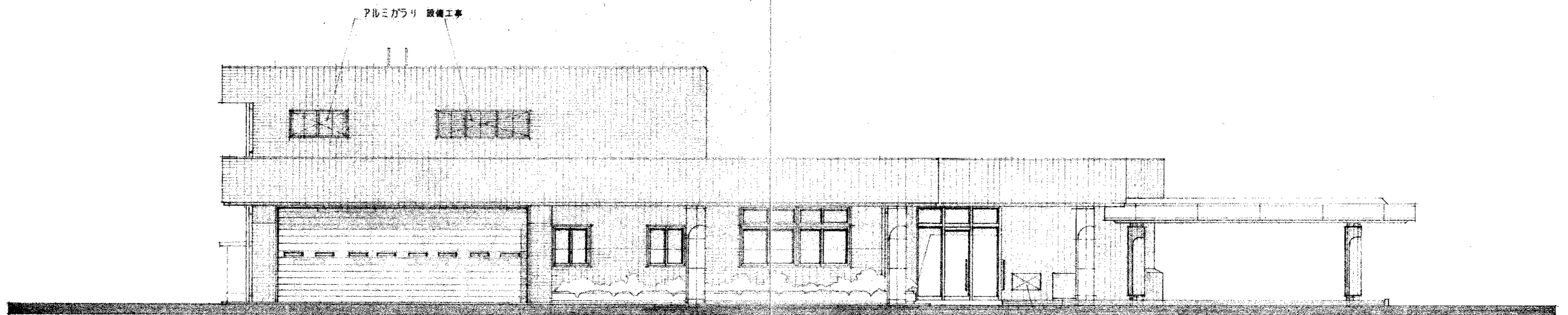
R階 屋根伏図 S=1/100



断面図 S=1/100



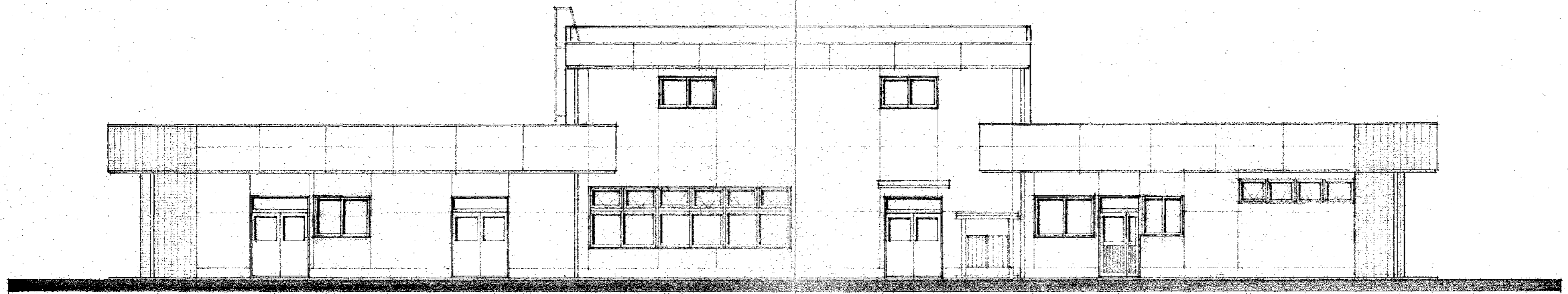
南立面図 S=1/100



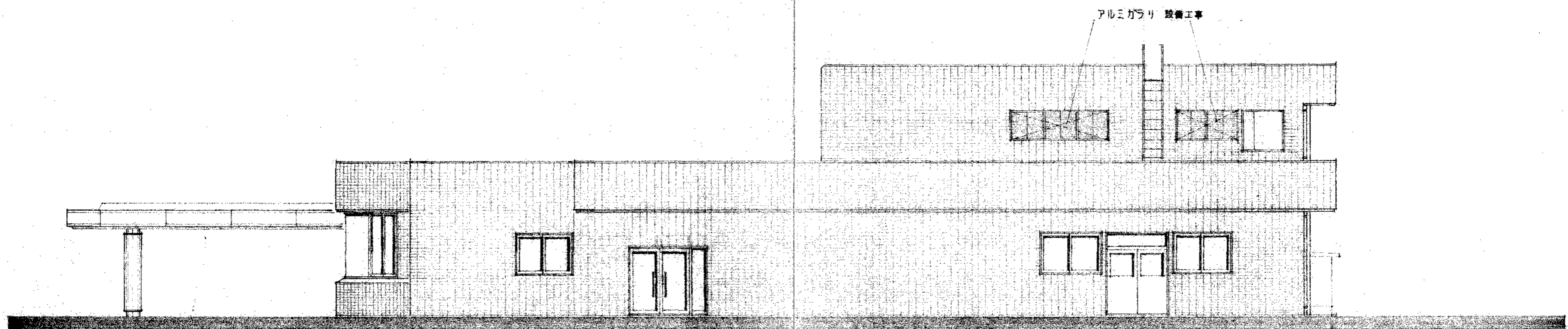
アルミガラリ 設備工事

定礎 三カゲ T-30 900×600 文字筋込共
別図詳細図参照

西立面図 S=1/100

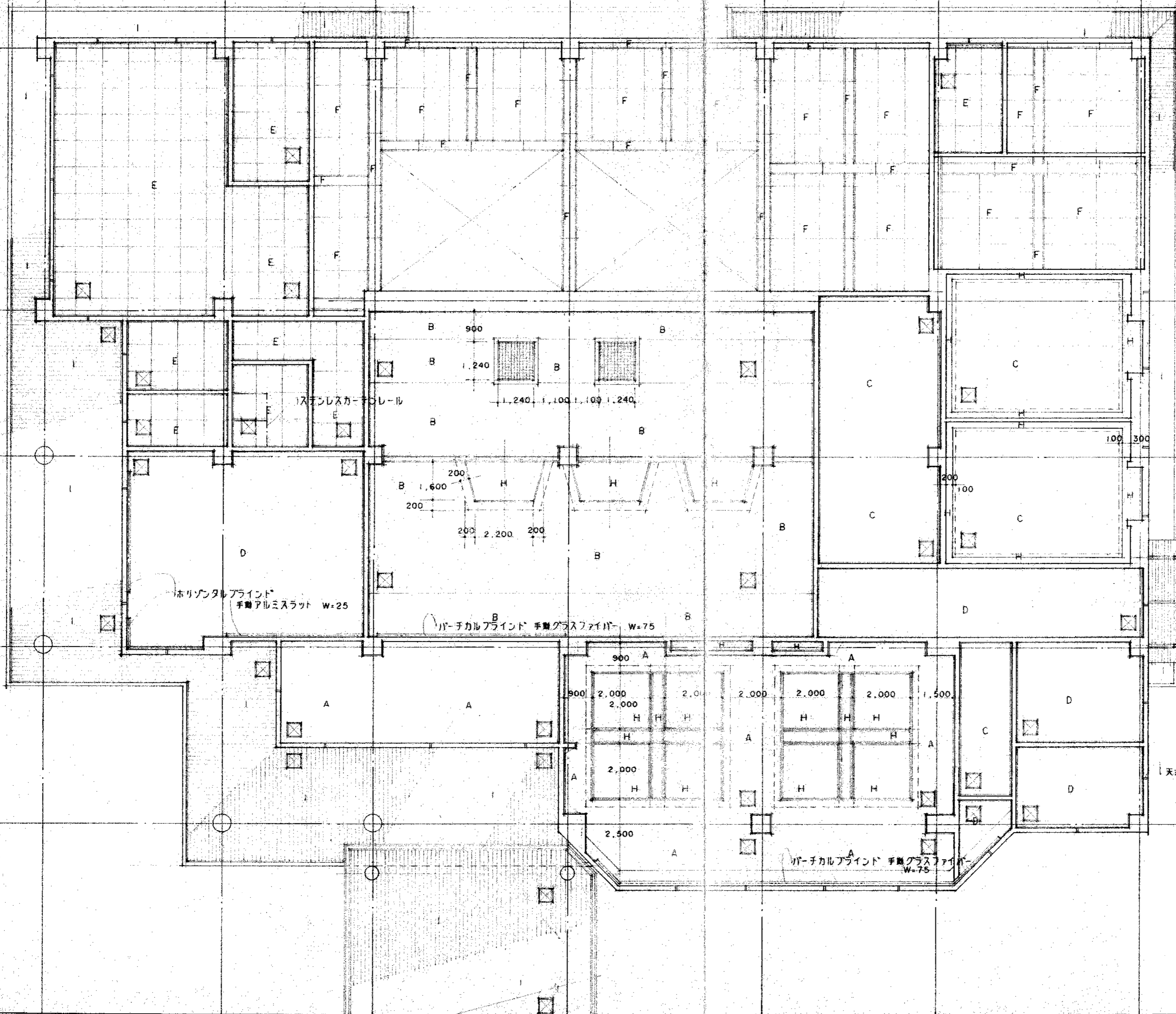


北立面図 S=1/100

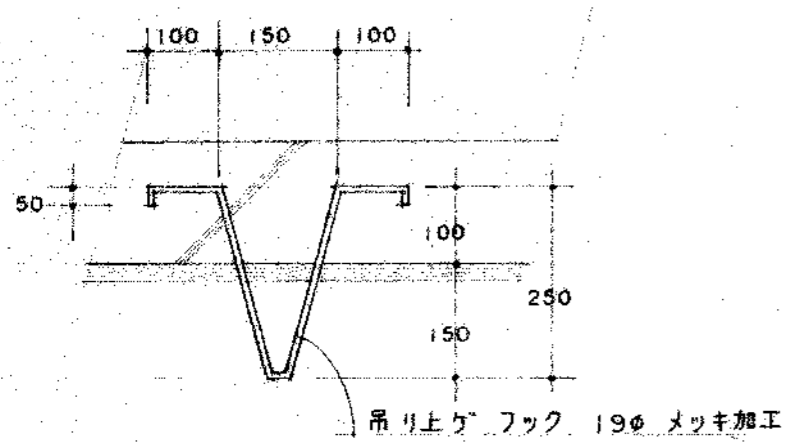


東立面図 S=1/100

A	PB191・RB1151
B	PB191・RB1121 EP/2
C	PB191・RB1121
D	PB191・RB191
E	SCB161 VP131
F	GWB1251
G	Mコブ
H	PB191・VC
I	カラーアルミモールディング
J	アルミカーテン(フラインド)ボックス フラインド、カーテン共
	アルミ天井点検口 450 ^D

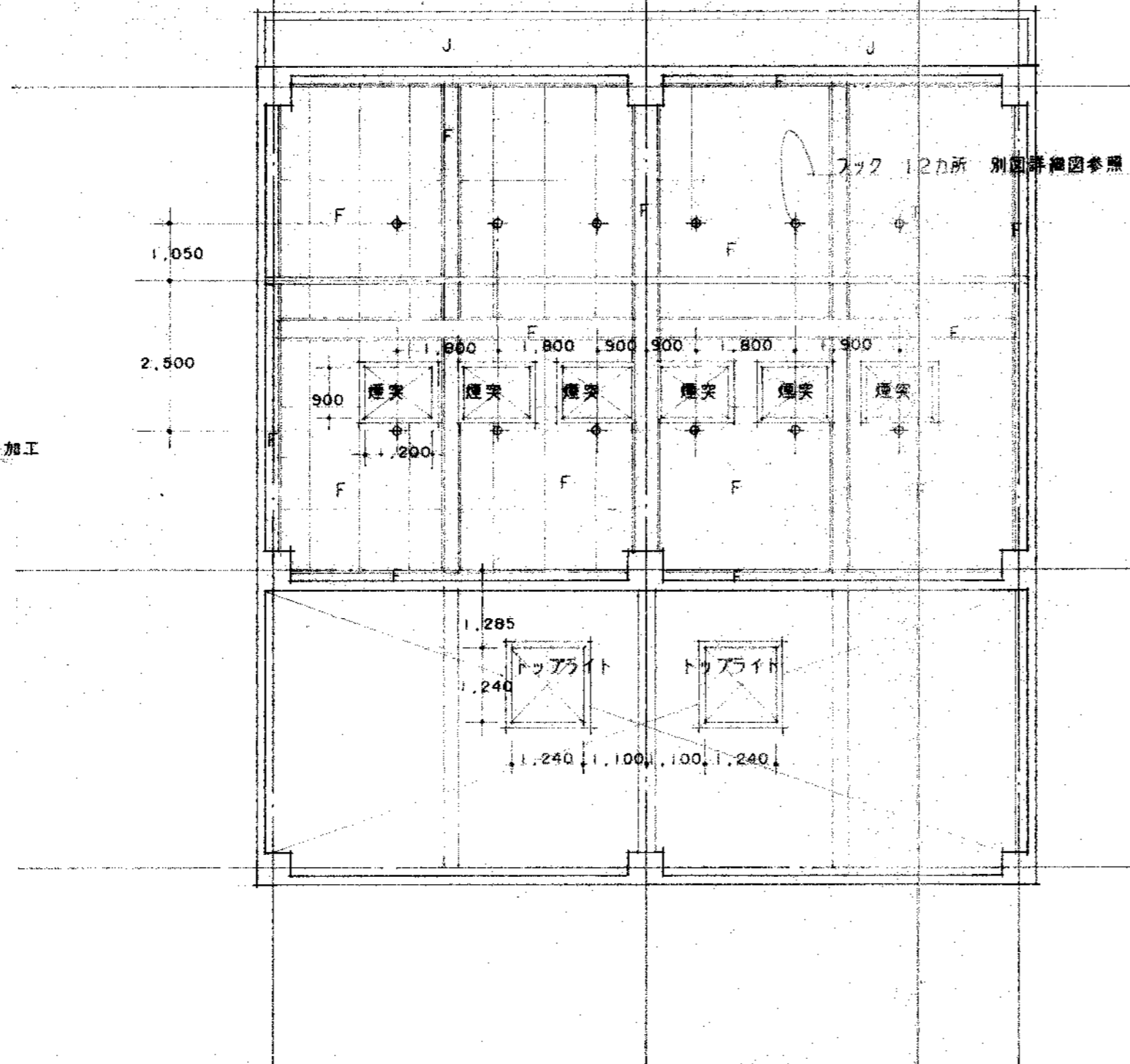


1階 天井伏図 S=1/100



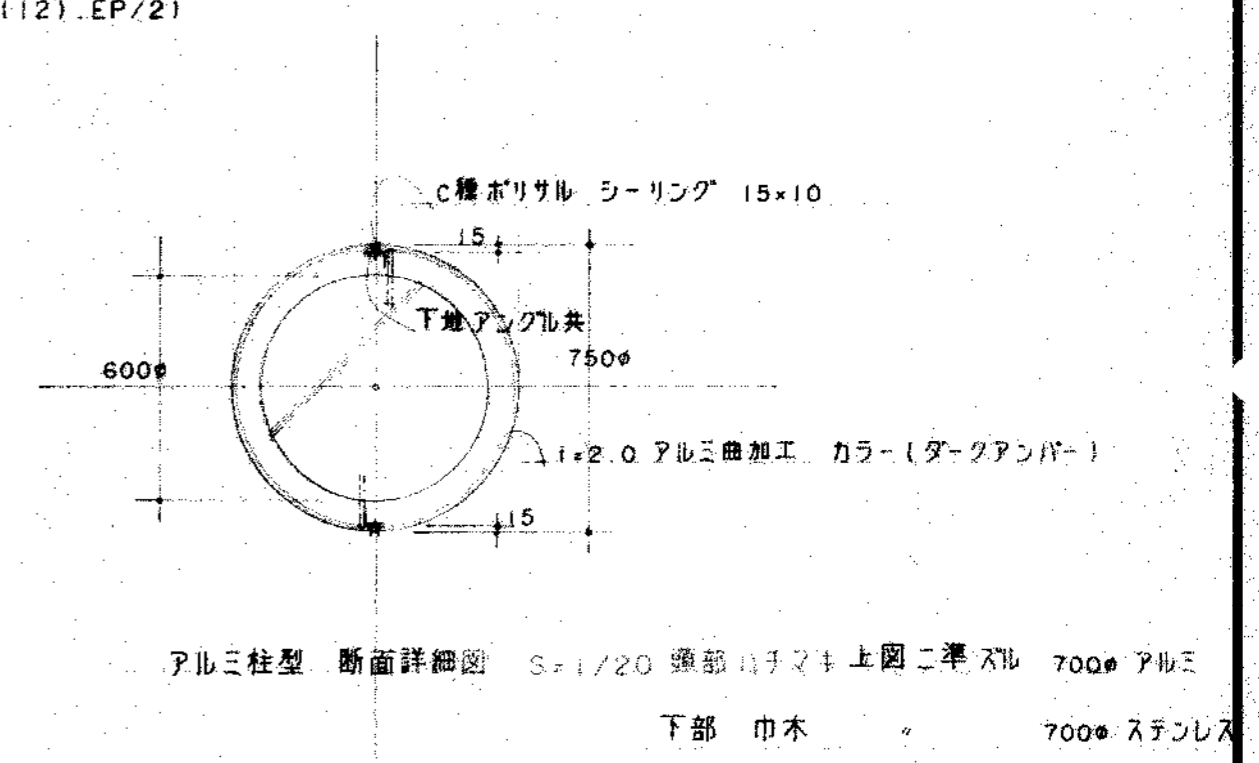
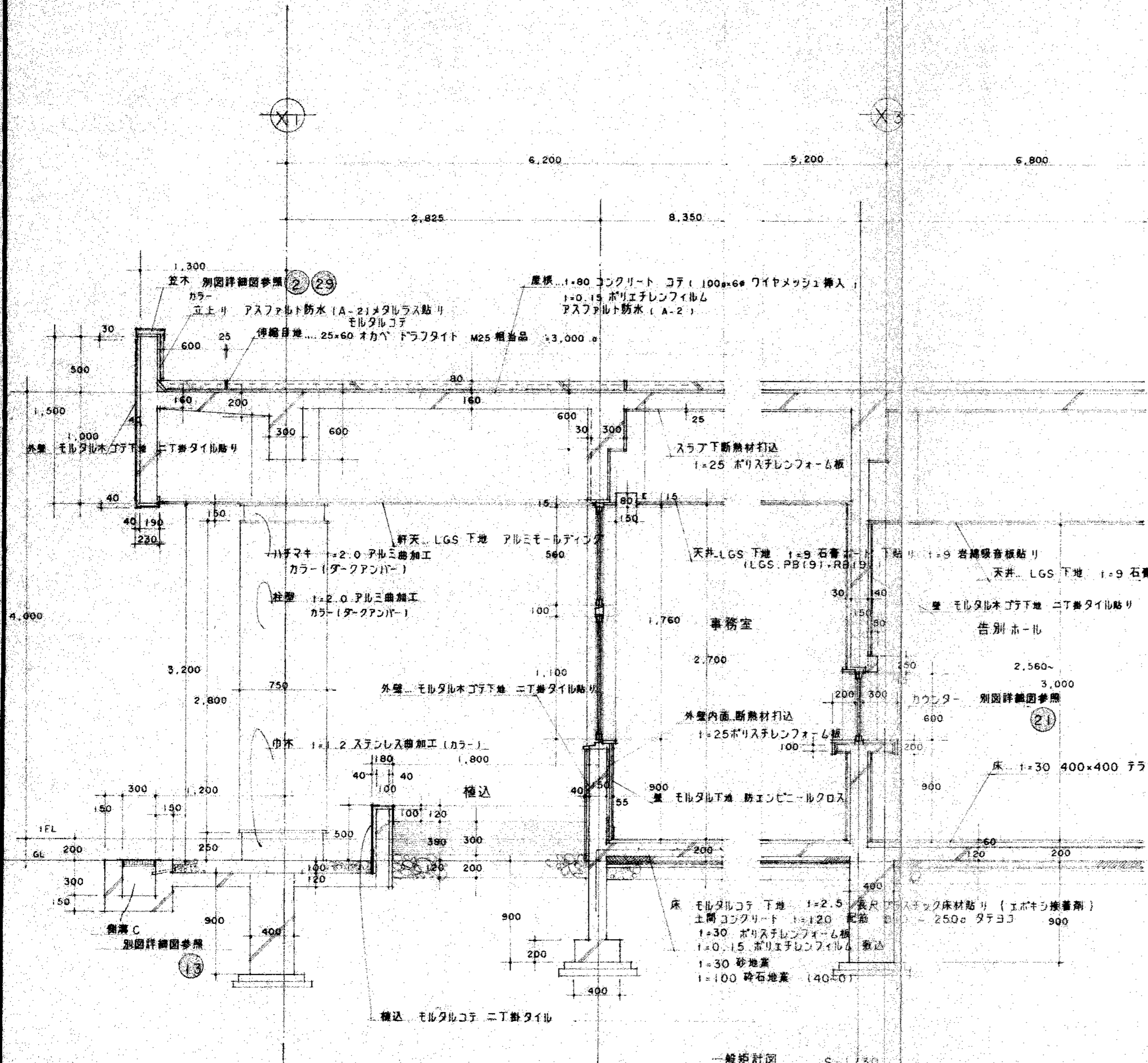
吊り上げフック 19φ メッキ加工

フック 詳細図 S=1/10

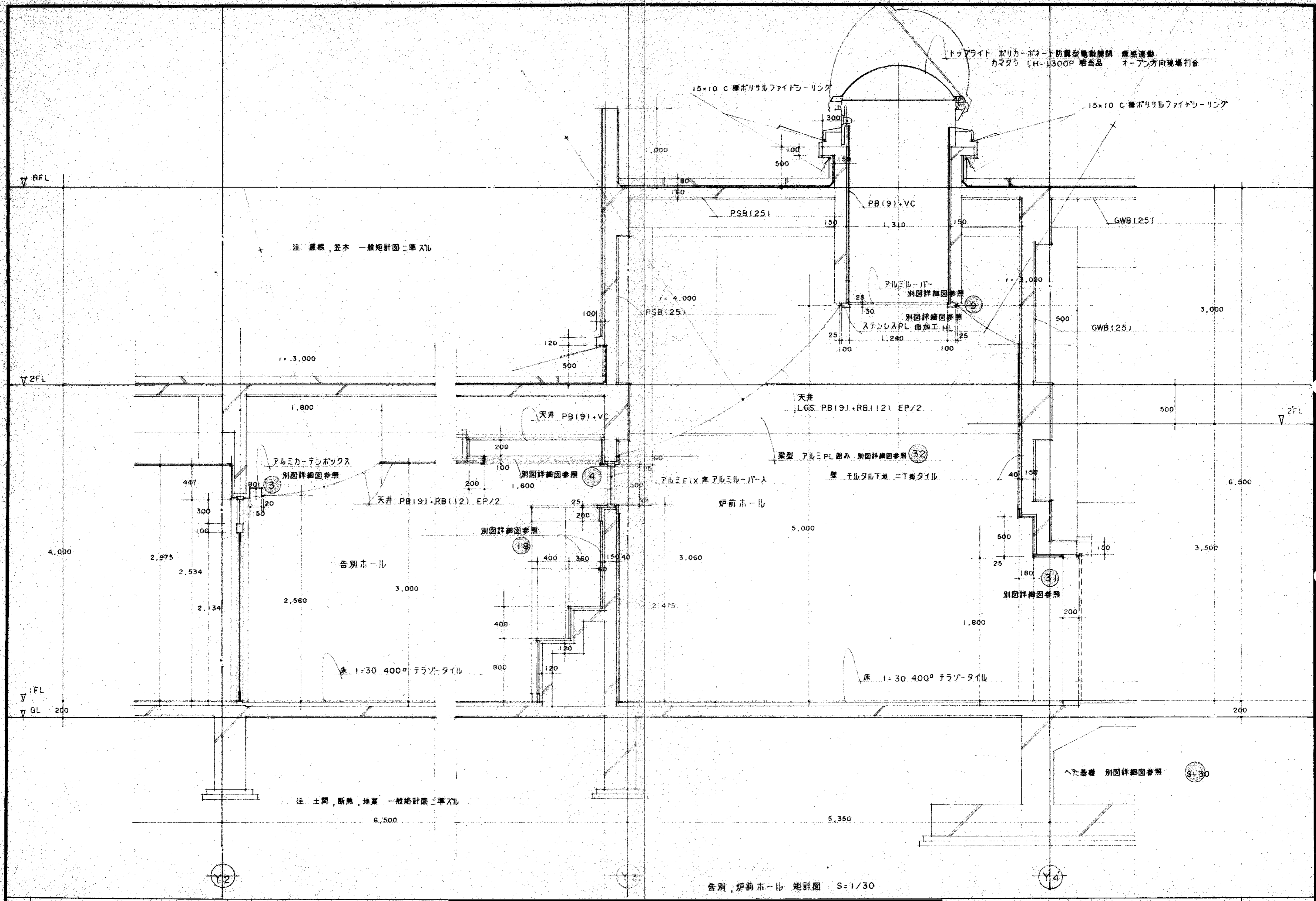


2階 天井伏図 S=1/100

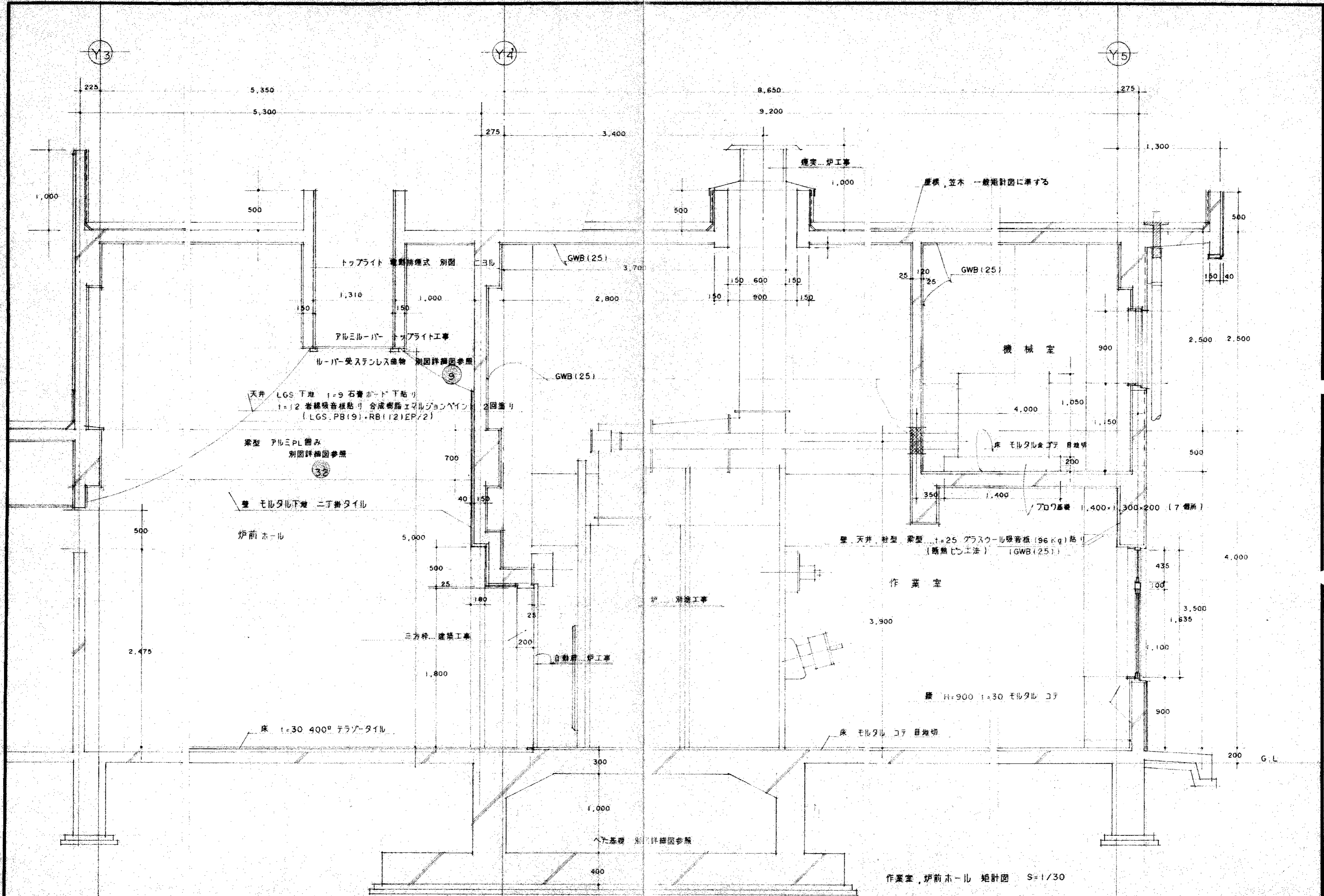
		会津若松市斎場新築		工事設計図		No. A-32	
		製図		2階 天井伏図		S=1/100	

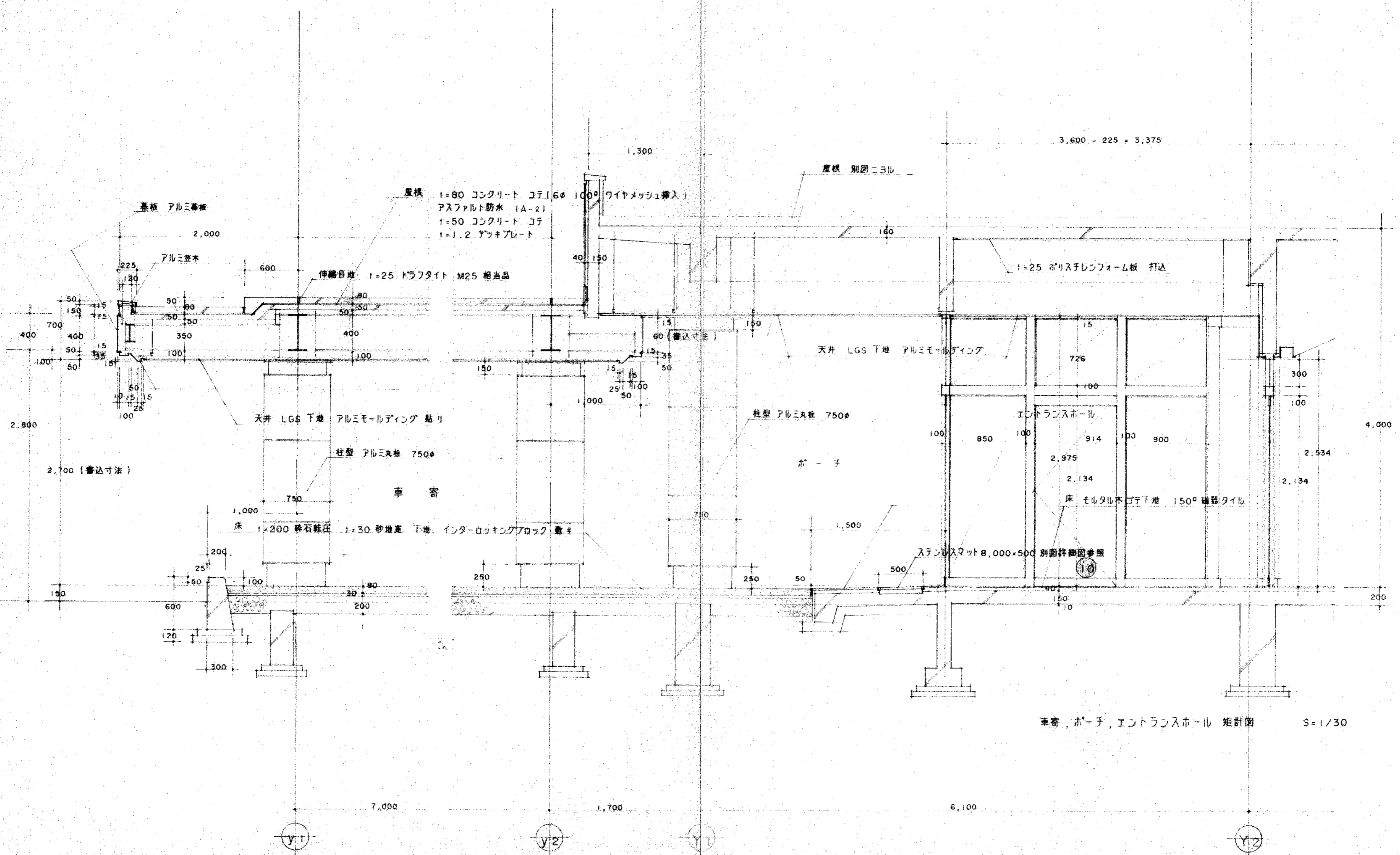


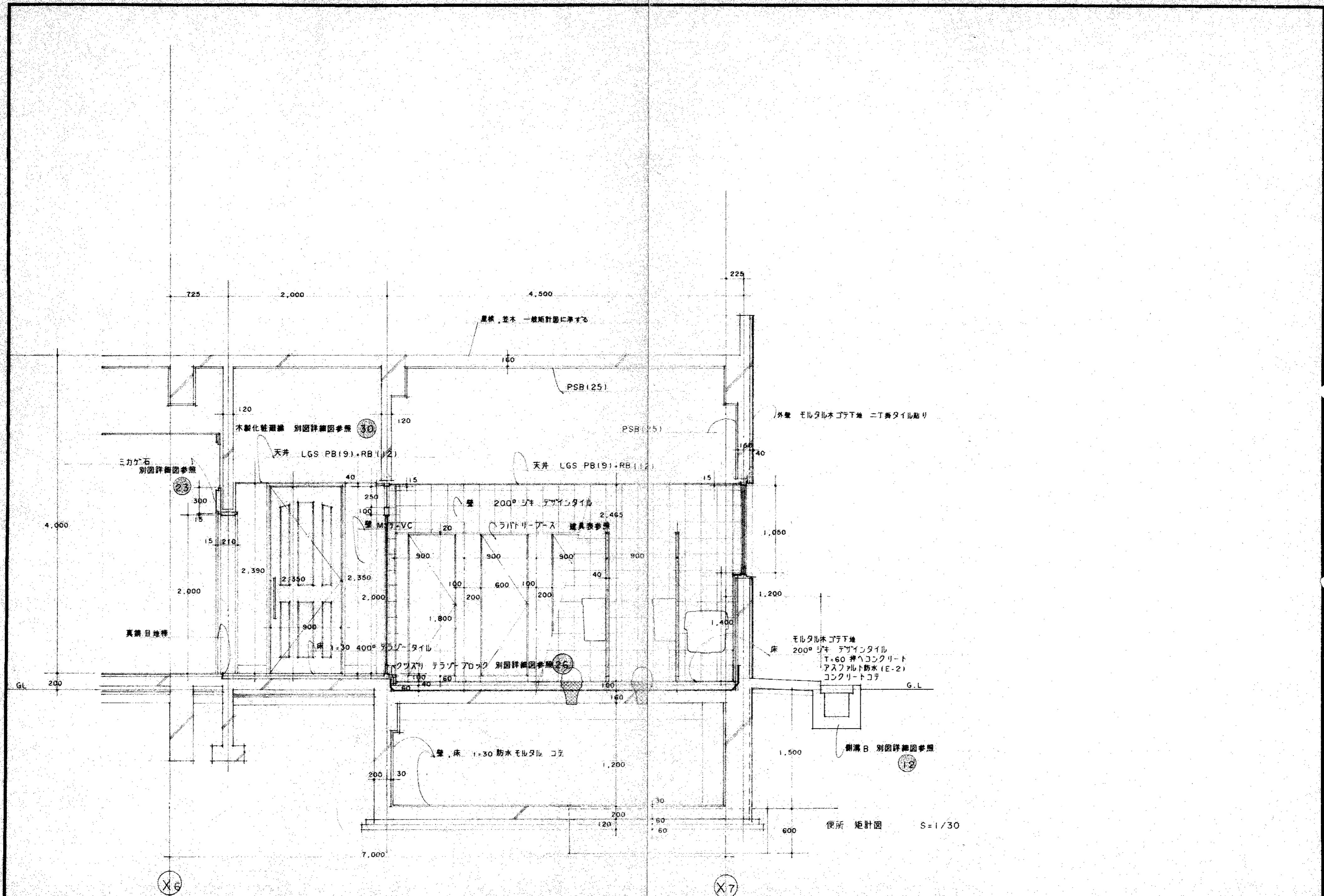
一般配図 S=1/30

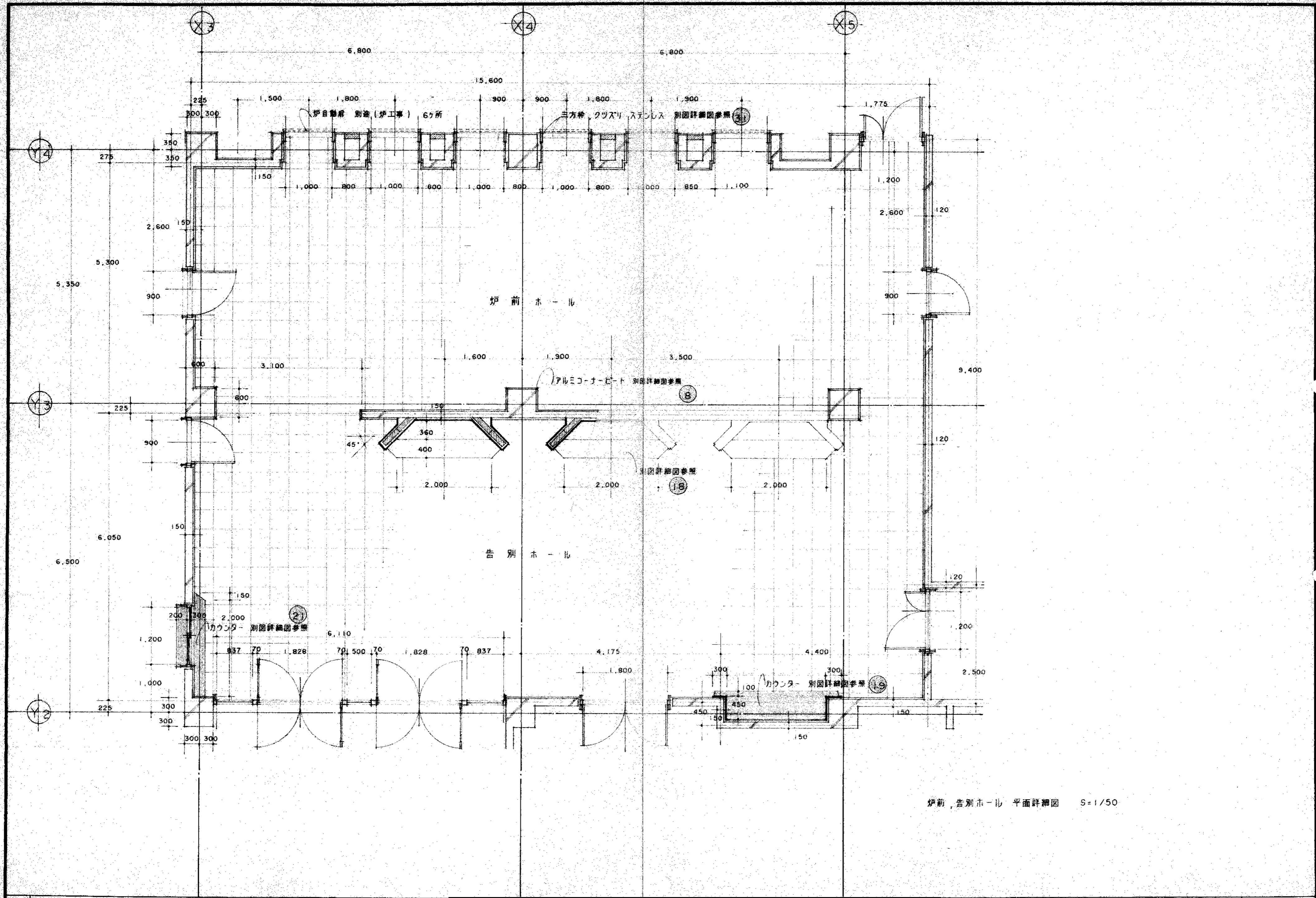


告別, 炉前ホール 矩計図 S=1/30

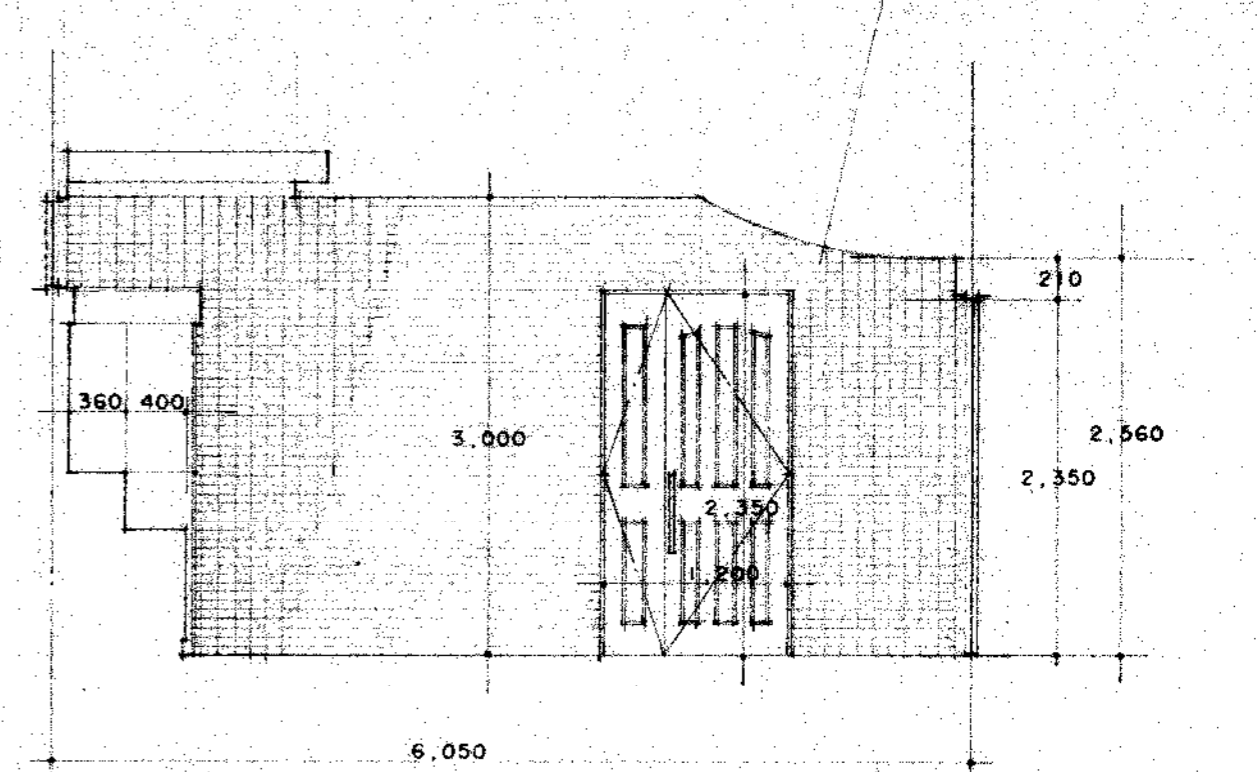
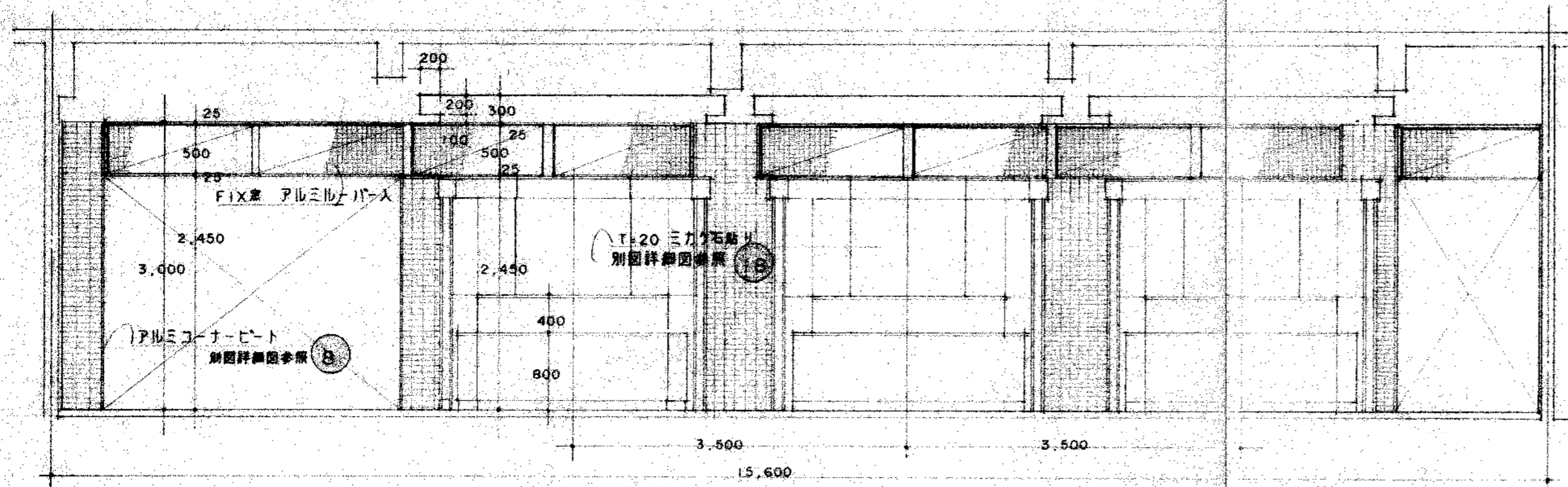




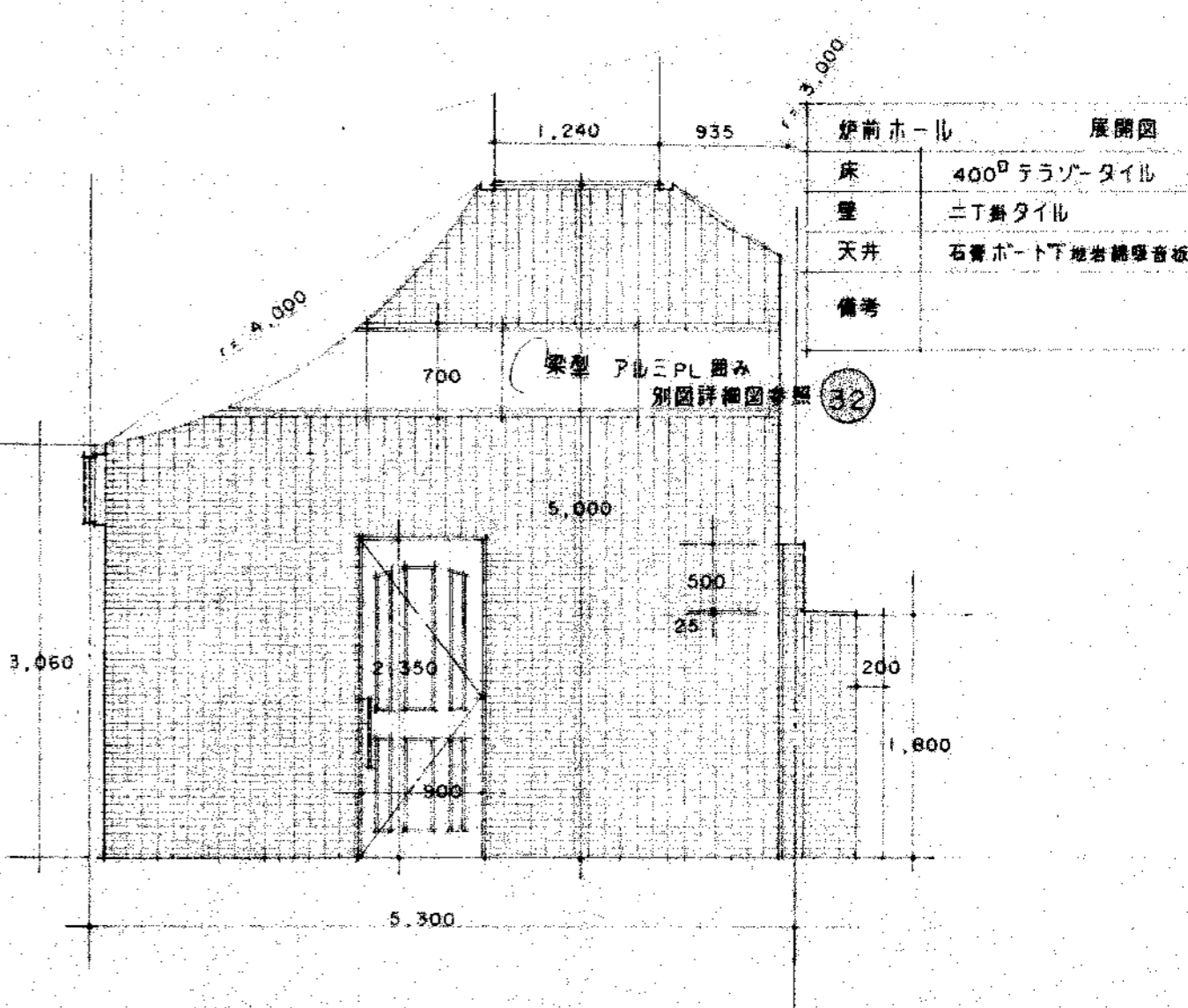
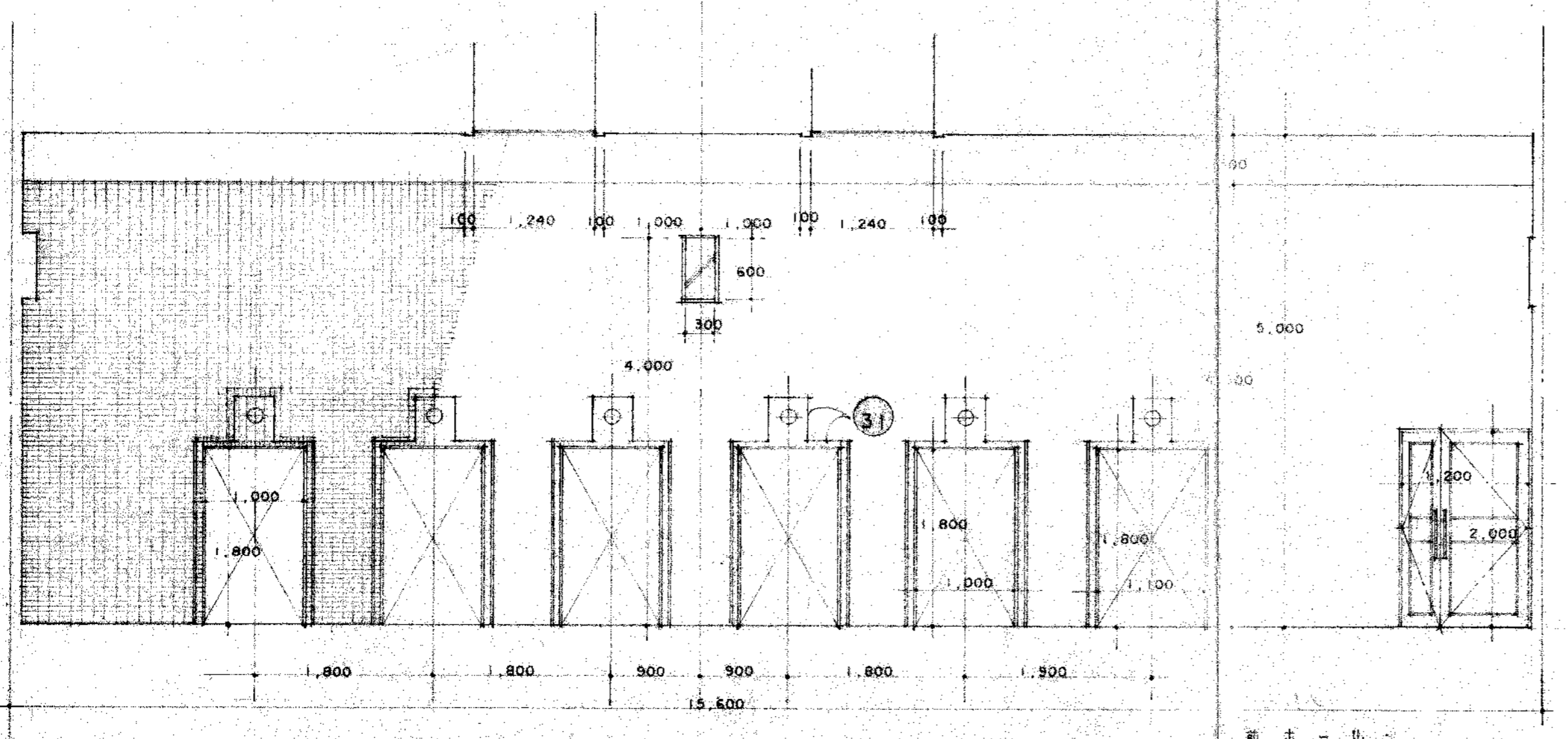
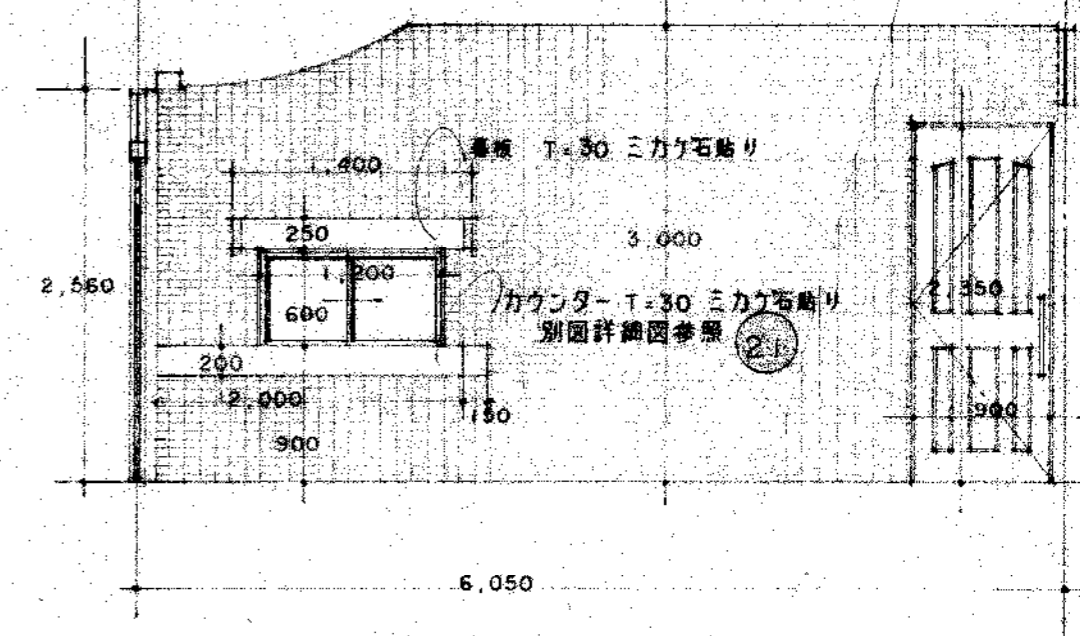
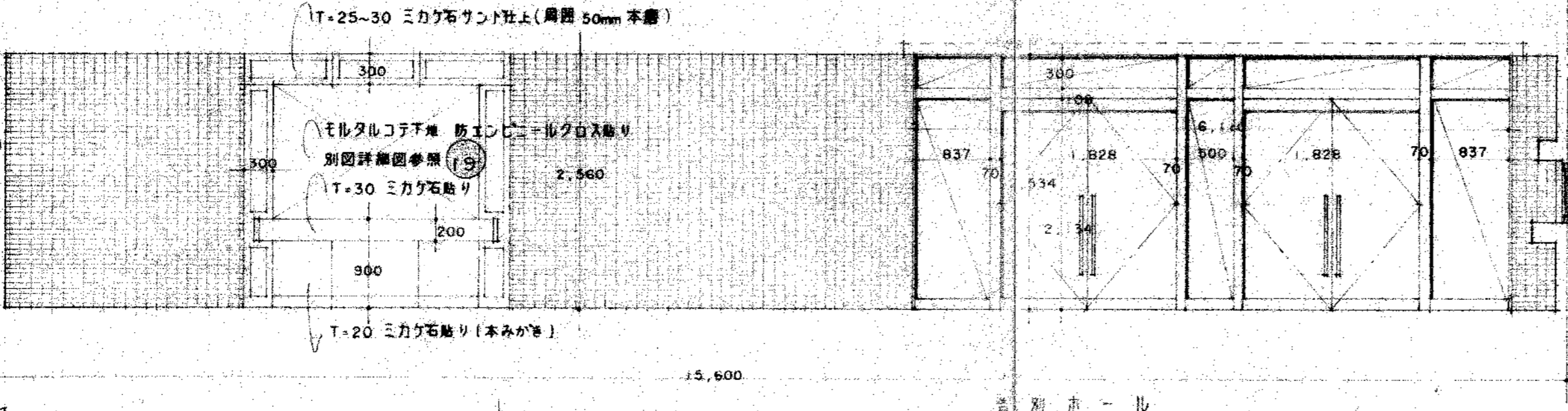




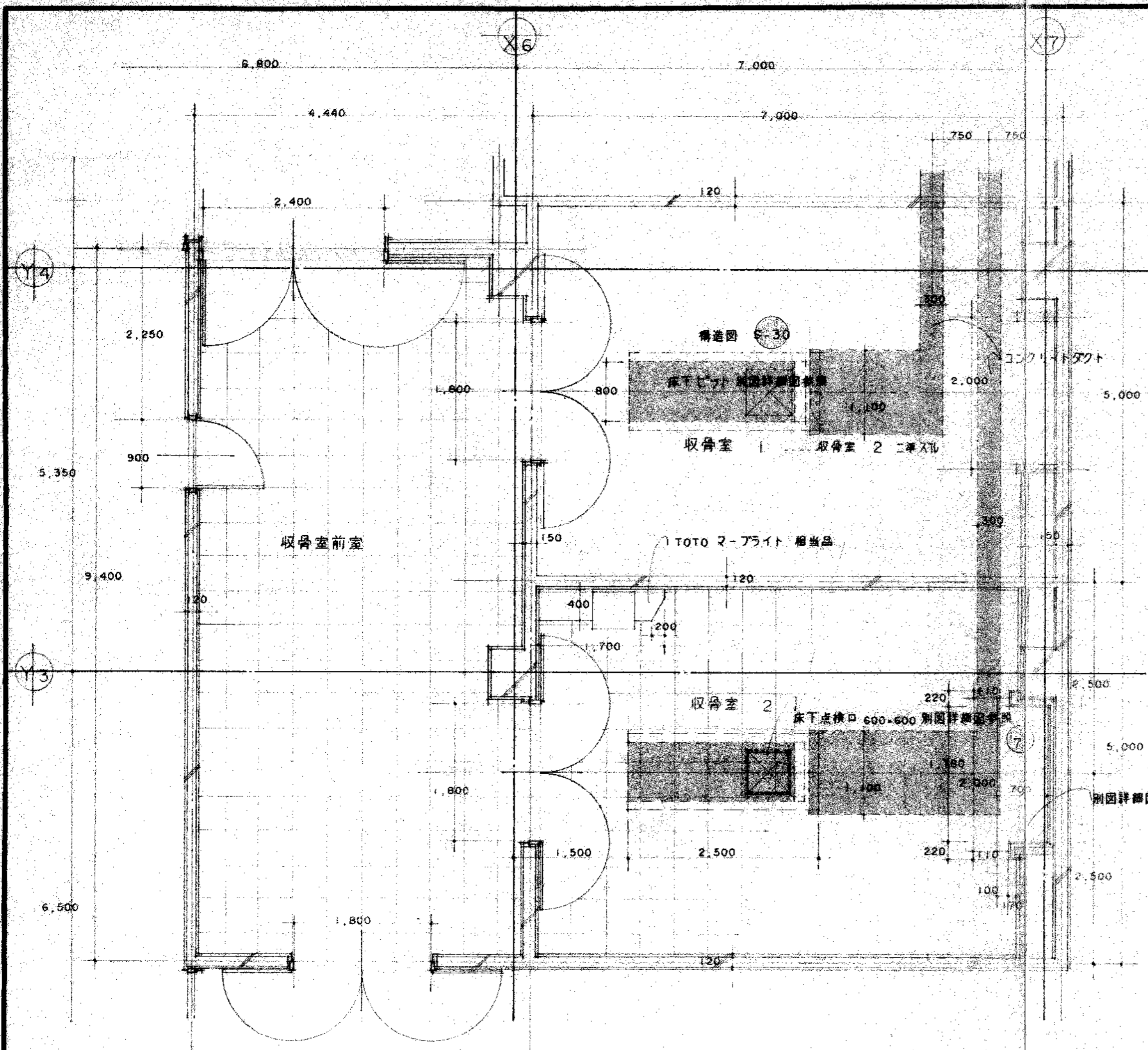
炉前、告別ホール 平面詳細図 S=1/50



告別ホール	展開図
床	400 ² テラゾー・タイル
巾木	ニ丁舞・タイル
壁	ニ丁舞・タイル
天井	石膏ボード下地 巻響音板 EP/2 (T=12)
備考	

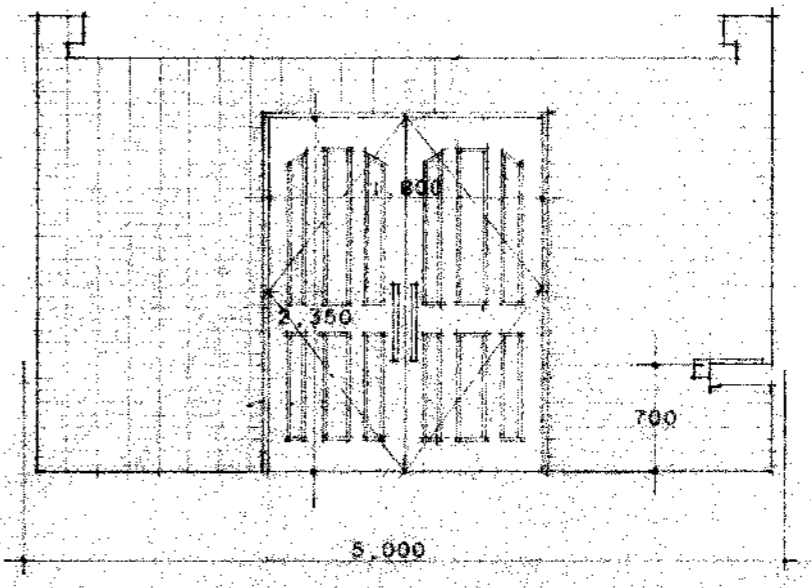
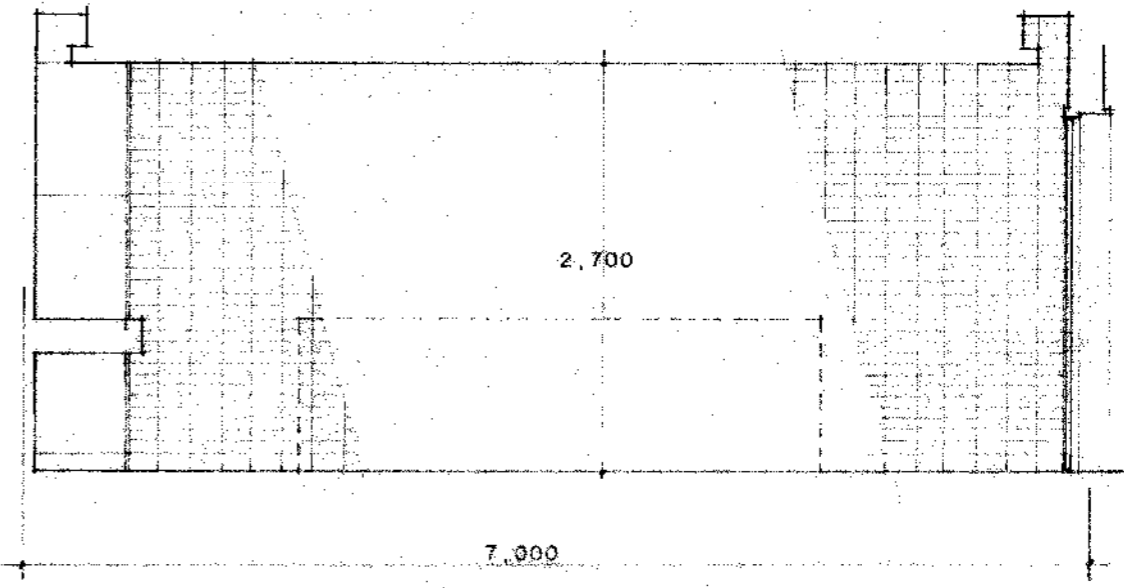
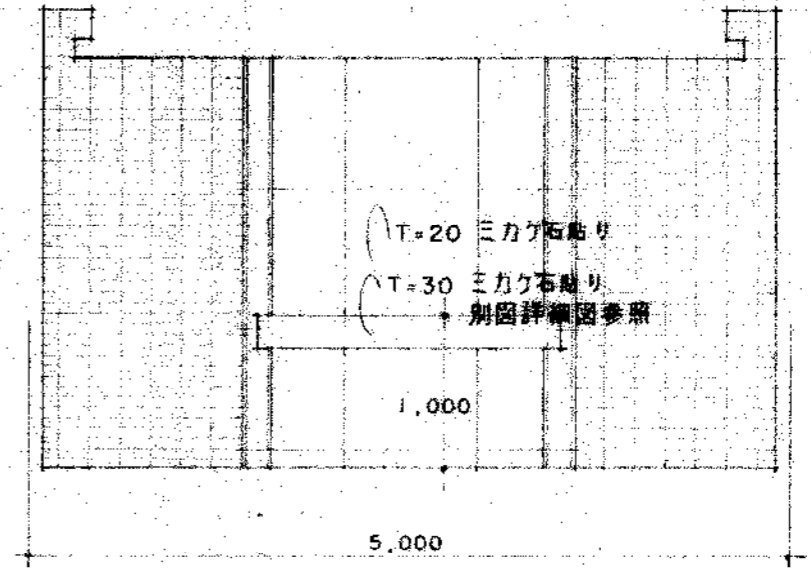
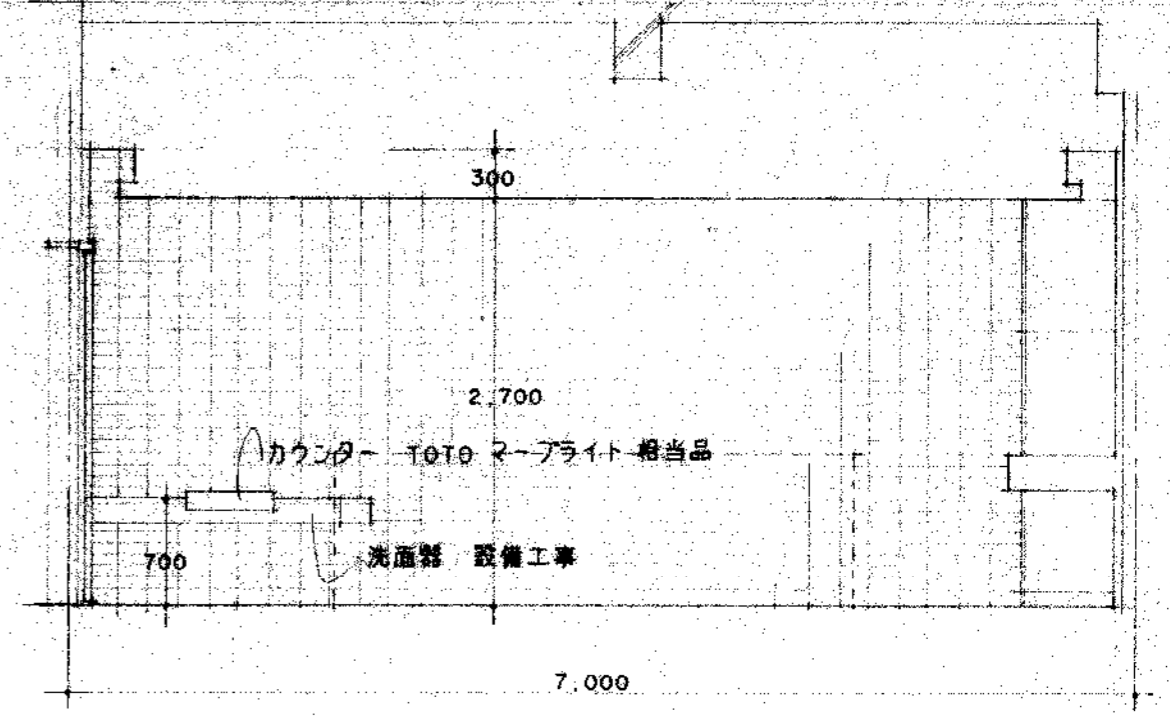


前ホール	展開図
床	400 ² テラゾー・タイル
壁	ニ丁舞・タイル
天井	石膏ボード下地 巻響音板 EP/2 (T=12)
備考	

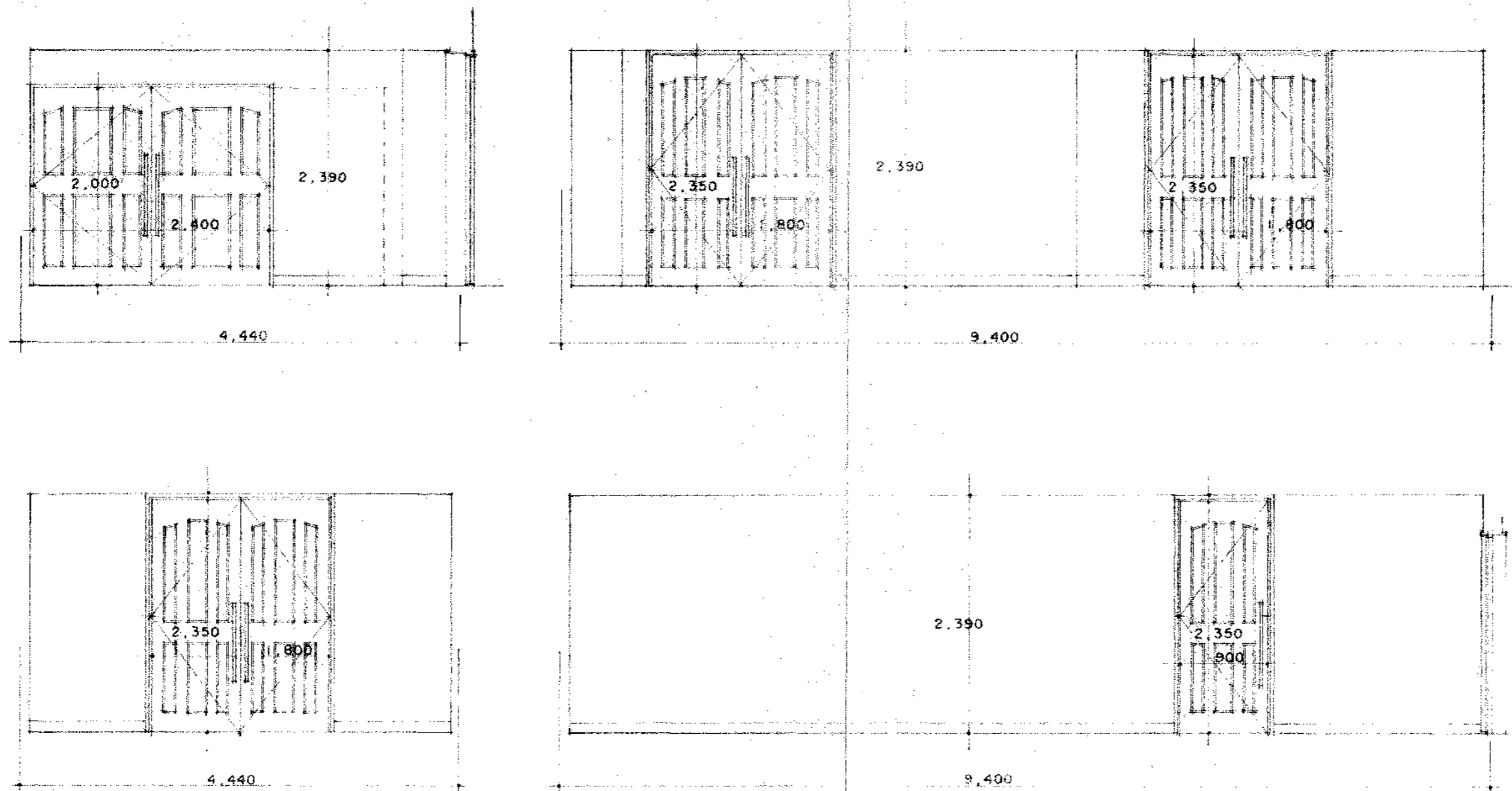


収骨室、収骨室前室 平面詳細図 S=1/50

収骨室(共通) 展開図	
床	400 [□] テラゾータイル
巾木	ニ丁掛タイル
壁	ニ丁掛タイル
天井	石膏ボードT造 岩綿吸音板 (T=12)
備考	



収容室前室 展開図	
床	400 ^φ テラゾータイル
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	防エン2級以上 ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板
備考	



会津若松市新築

工事設計図

No.

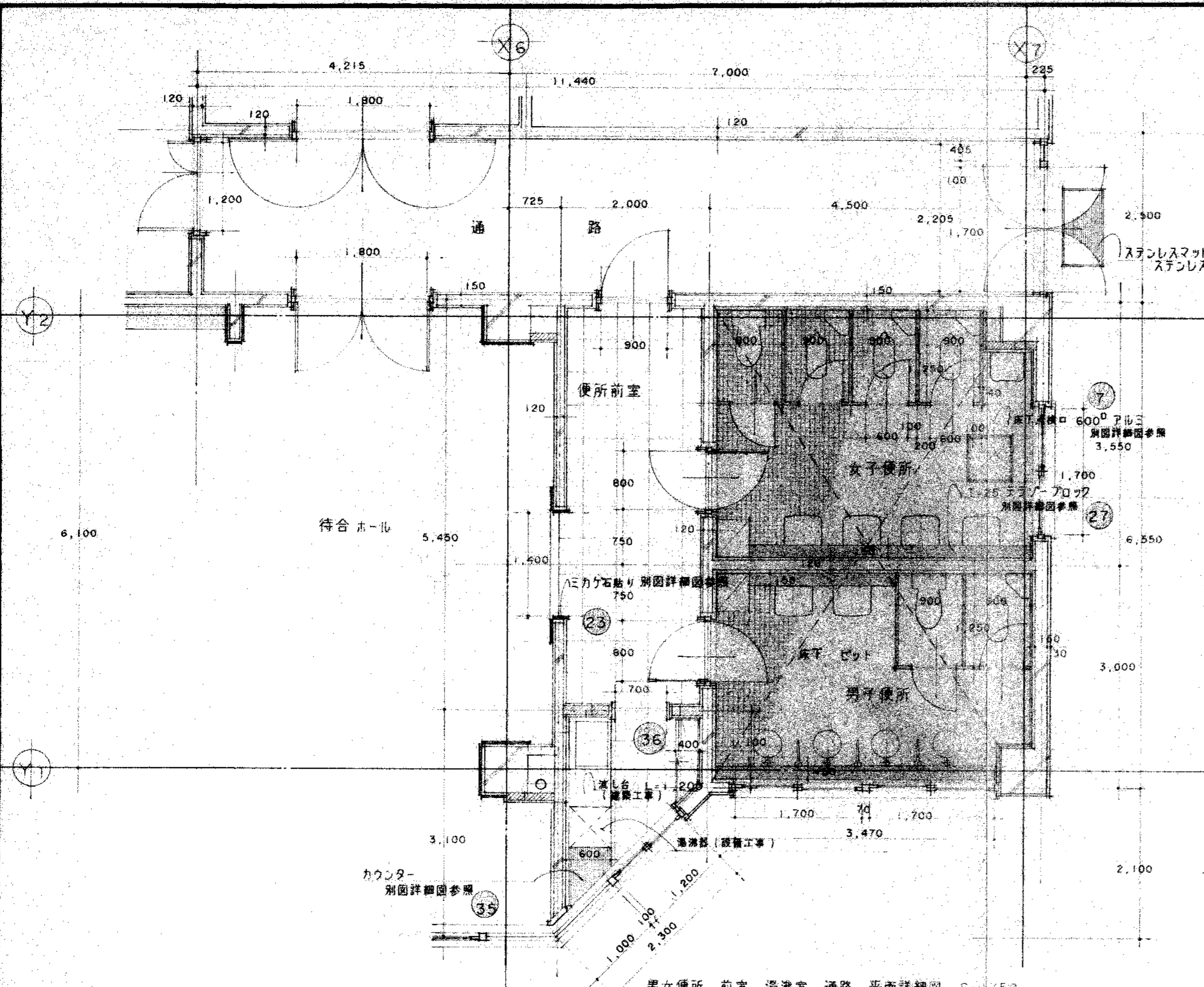
A-41

製
図

製
図
者

展
開
図

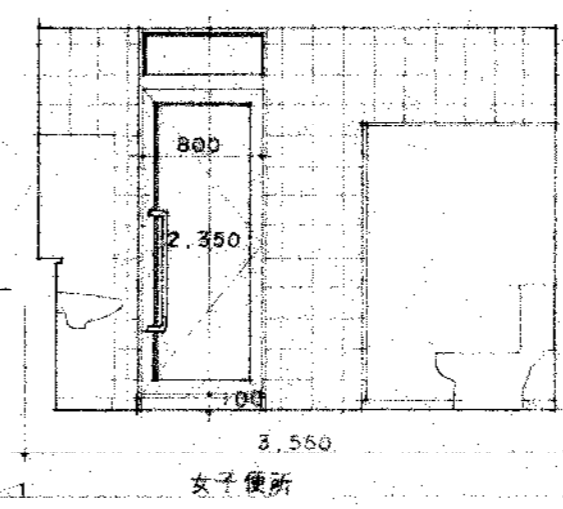
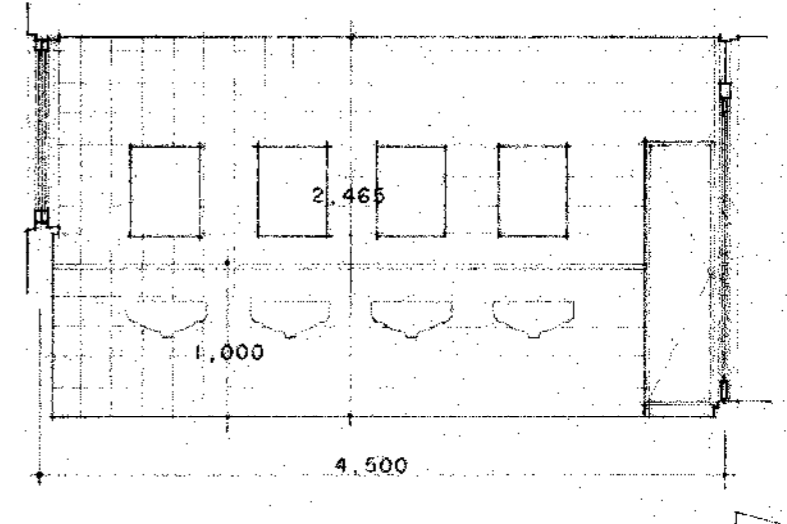
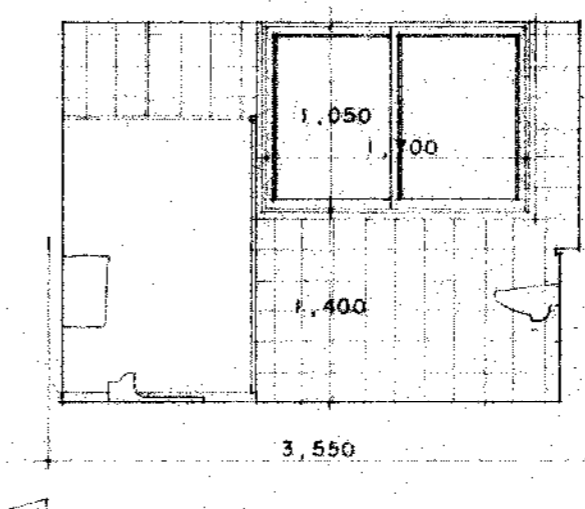
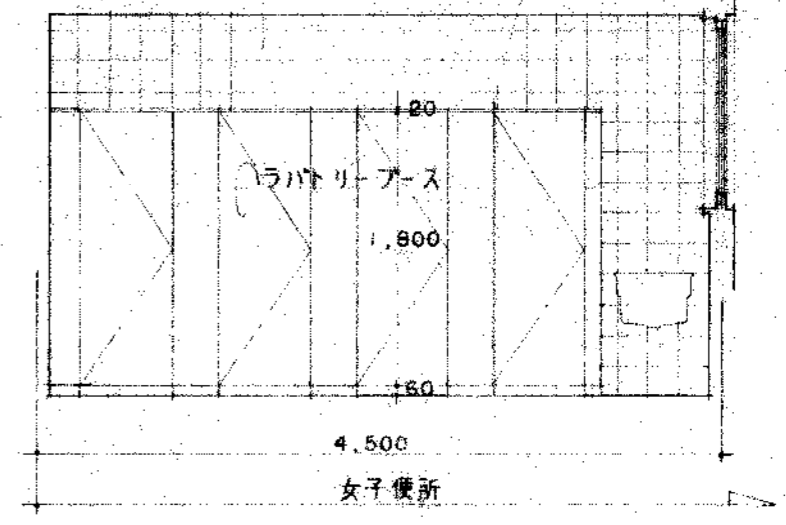
S=1/50



男女便所、前室、湯沸室、通路 平面詳細図 S-1/50

女子便所 展開図

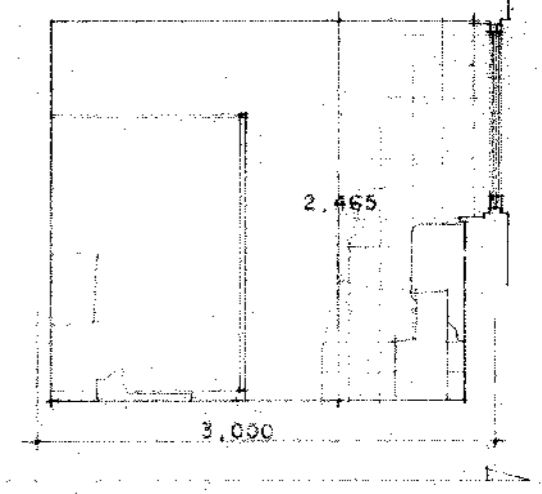
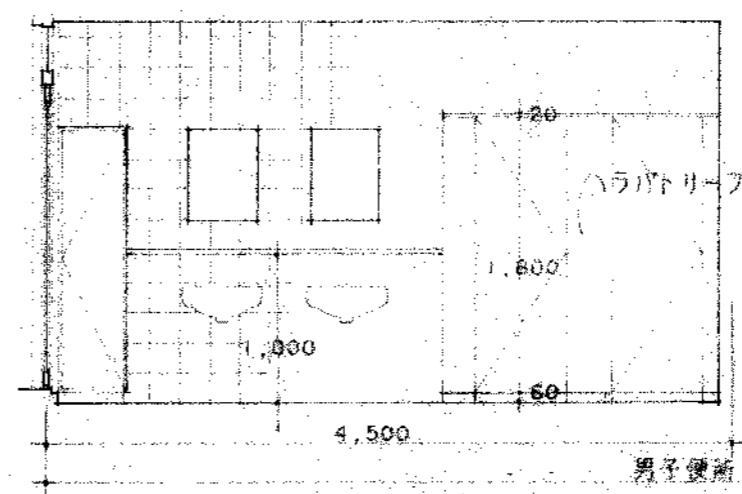
床	200 [□] シキタイル
巾木	---
壁	200 [□] デザインタイル
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=12)
備考	



男子便所 展開図

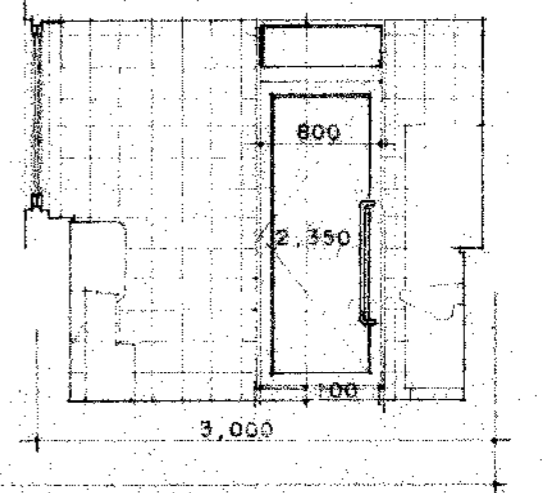
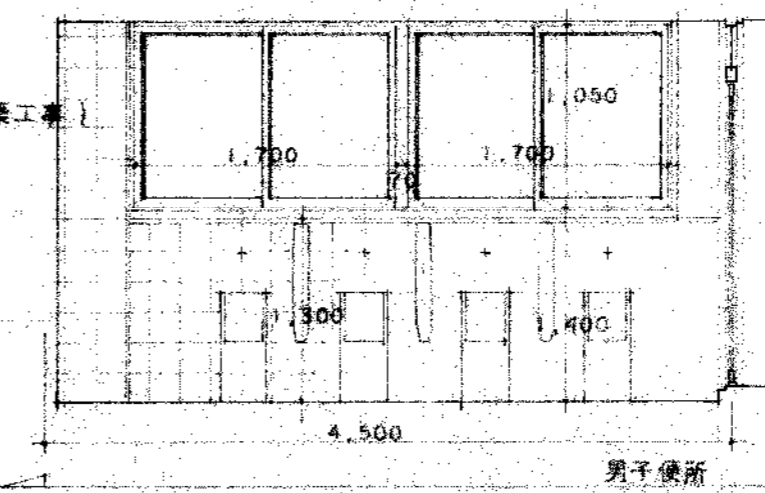
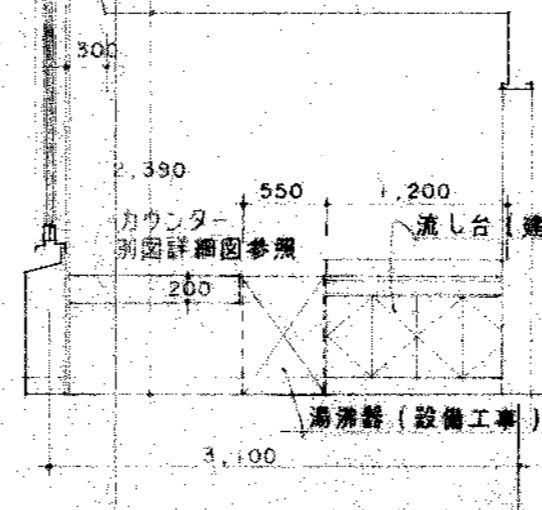
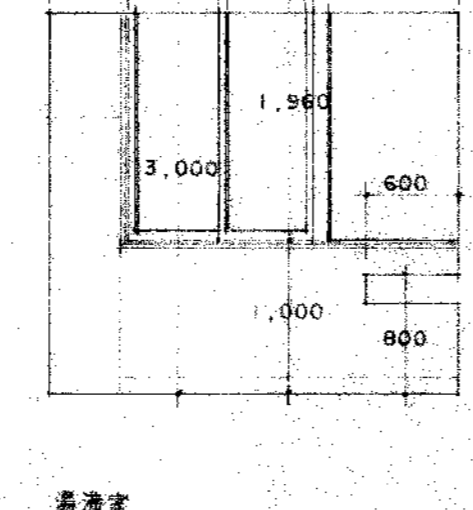
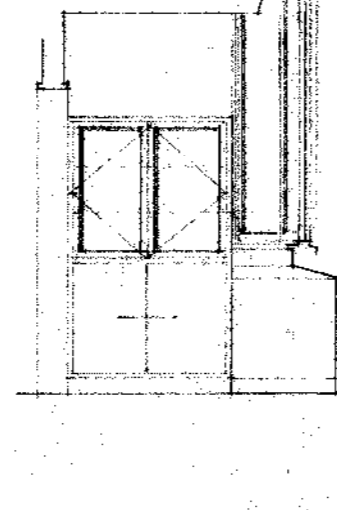
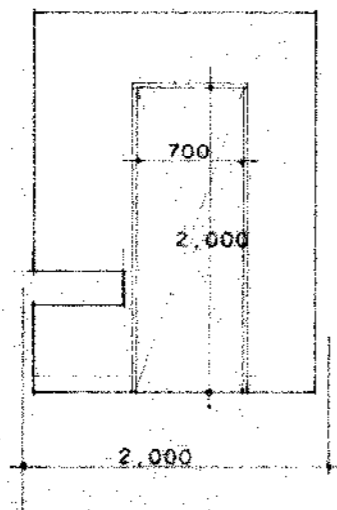
床	200 [□] シキタイル
巾木	---
壁	200 [□] デザインタイル
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=12)
備考	

注 便所床 アスファルト防水 (E-2)、コンクリート押入1.60 下地

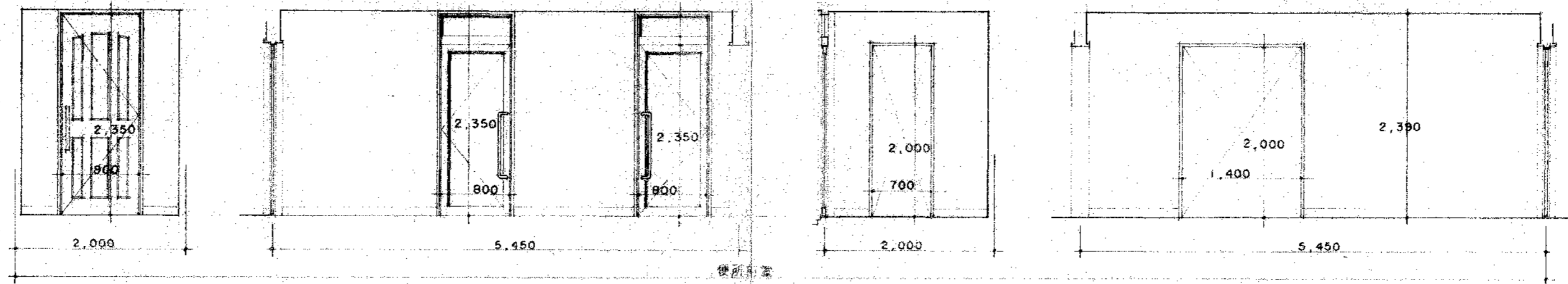


湯沸室 展開図

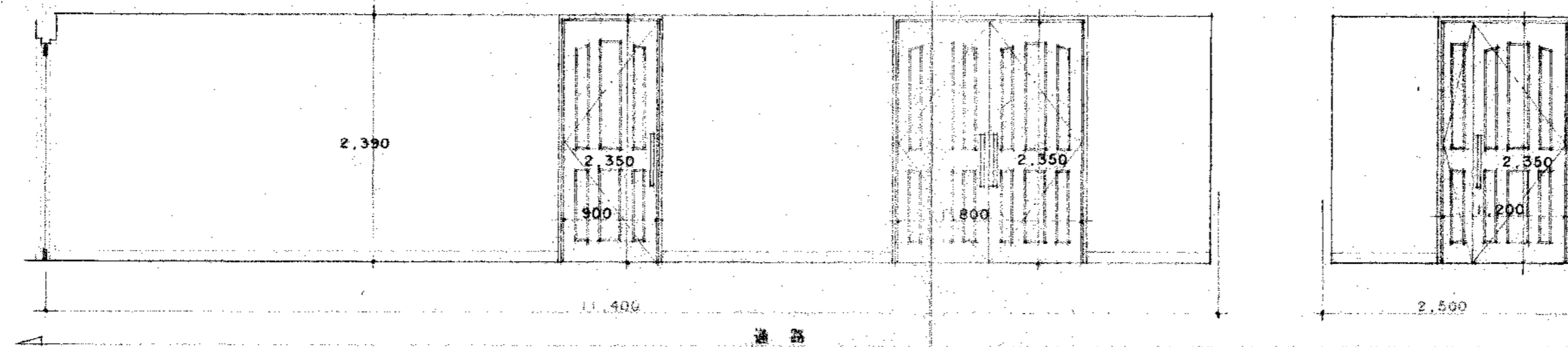
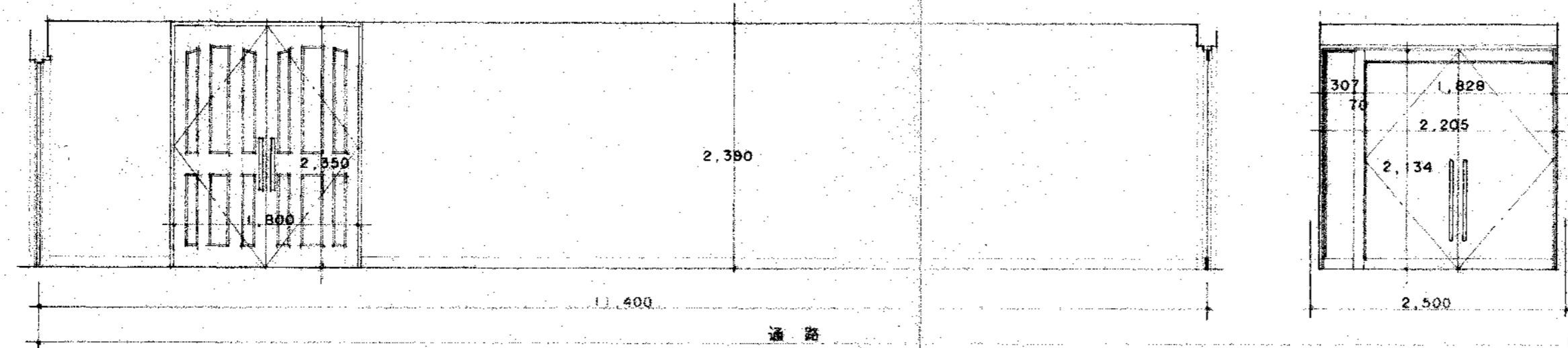
床	400 [□] テラゾータイル
巾木	ソフト巾木 (H=100)
壁	防エニ2級以上ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=9)
備考	

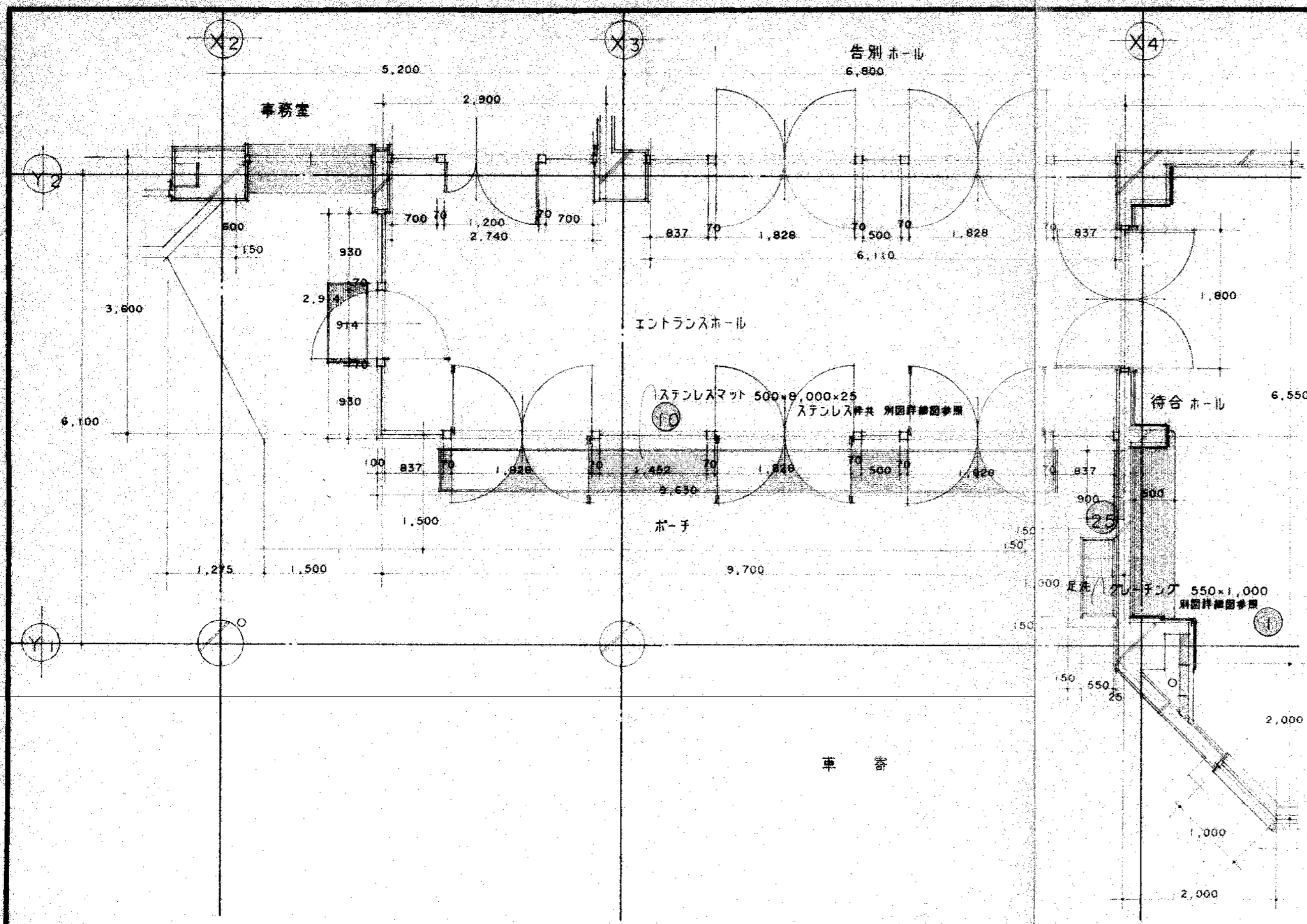


便所前室 展開図	
床	400 ^B セラゾータイル
巾木	レジテラゾー巾木 (H=100)
壁	防エロ ² 級以上 ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T-12)
備考	



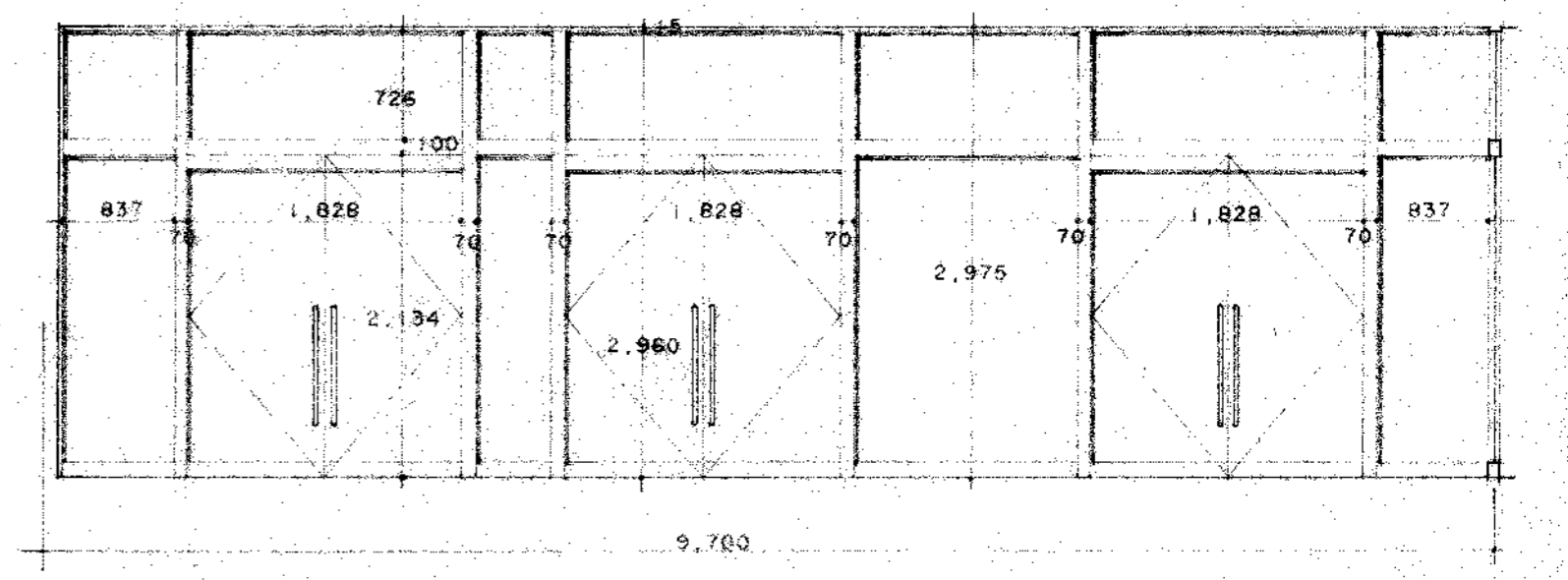
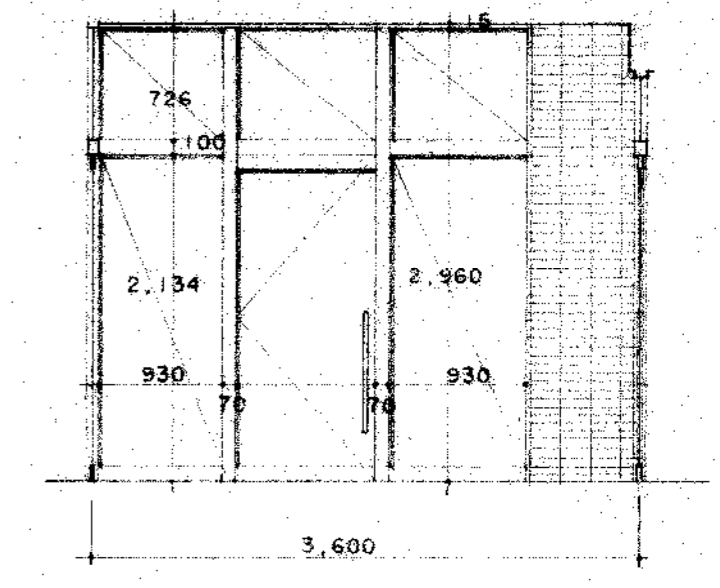
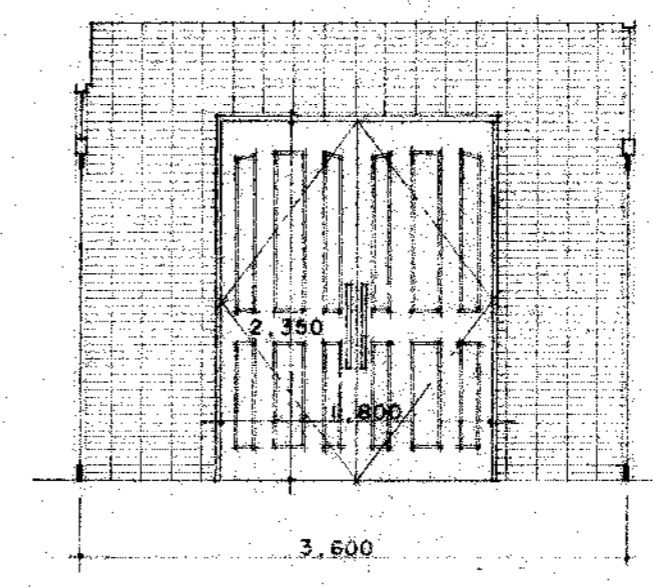
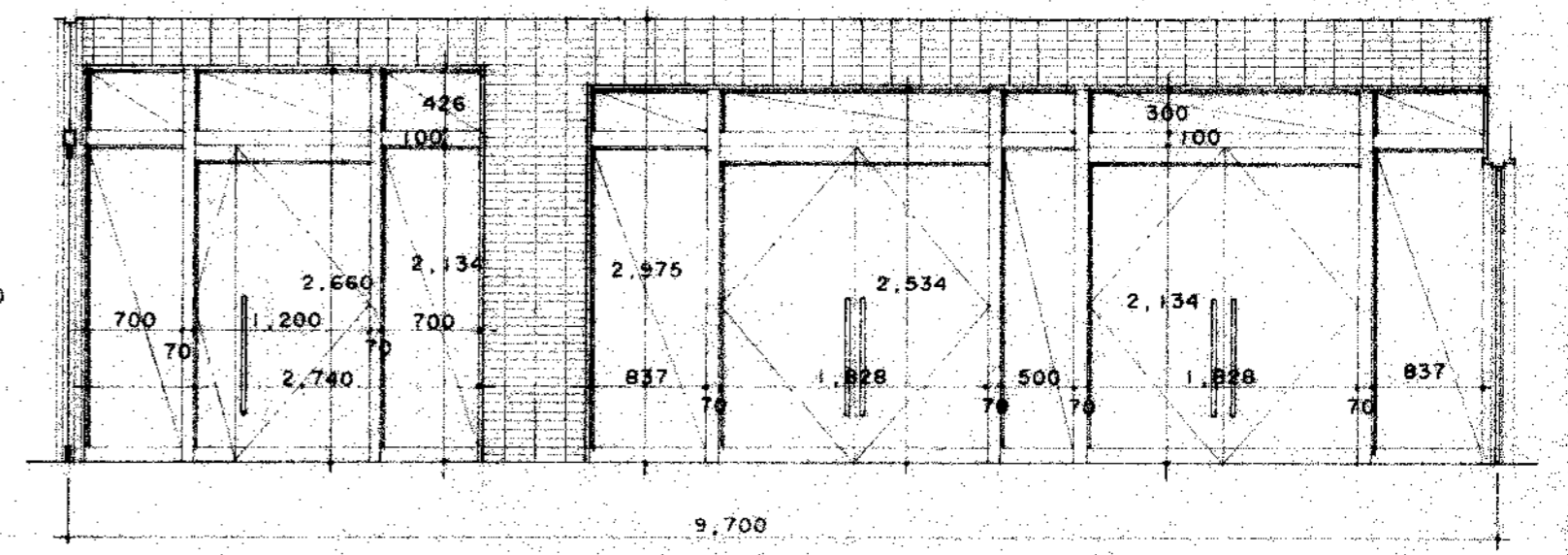
通路 展開図	
床	長尺クッションフロア
巾木	レジテラゾー巾木 (H=100)
壁	防エロ ² 級以上 ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T-9)
備考	

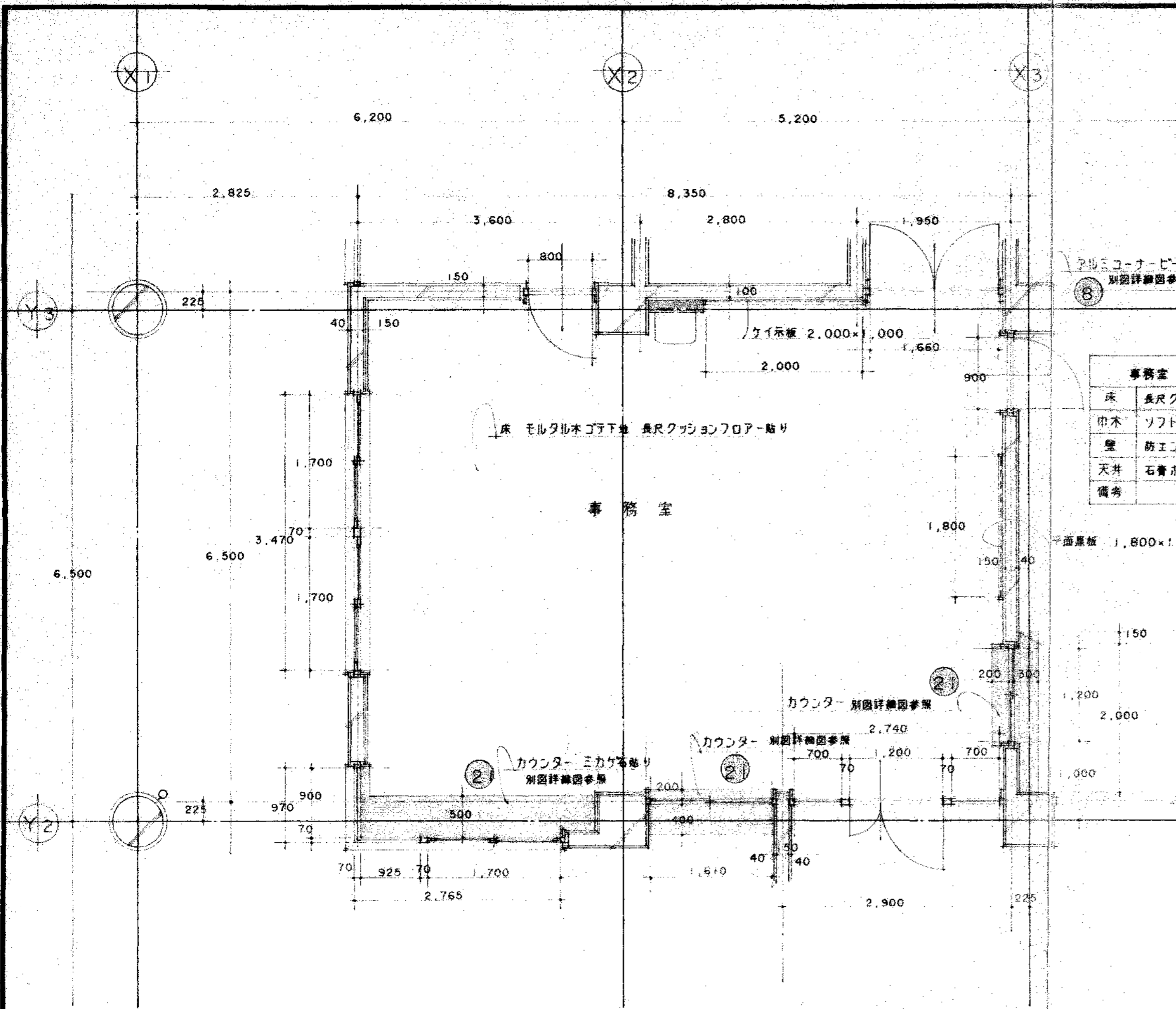




エントランスホール 平面詳細図 S=1/50

床	150 ^B 磁器質タイル
巾木	ニ丁掛タイル
壁	ニ丁掛タイル
天井	石膏ボード下地岩綿吸音板 EP/2(T=15)
備考	



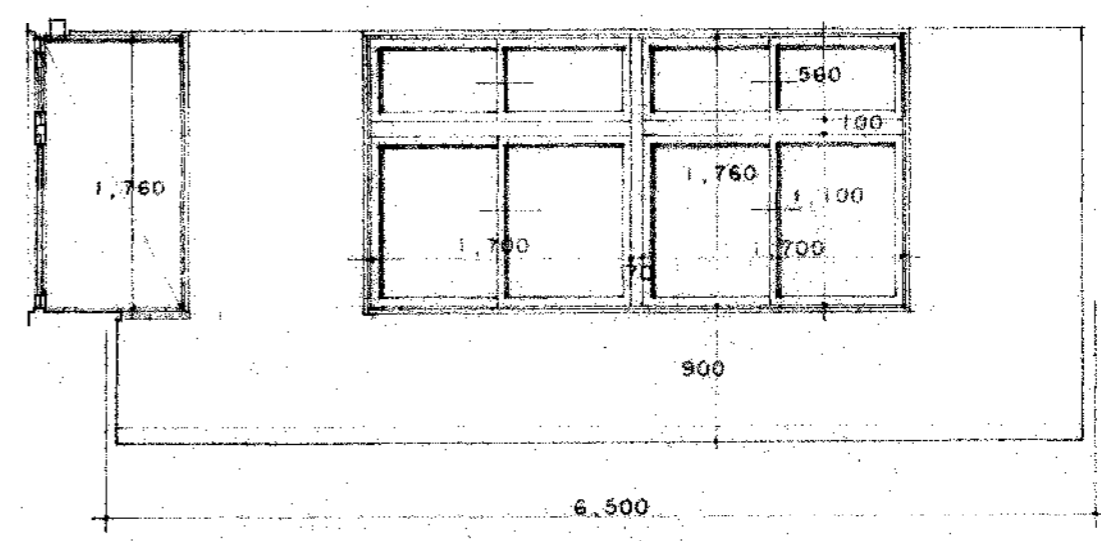
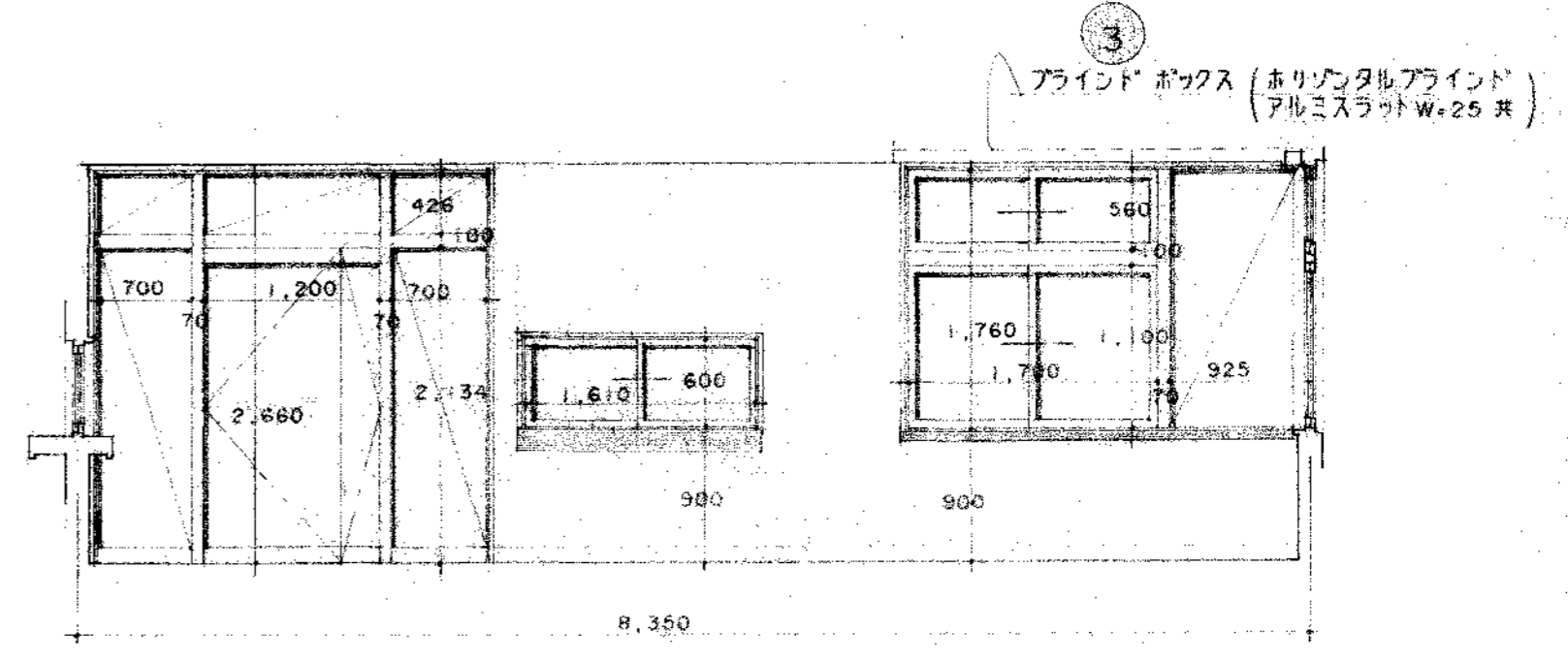
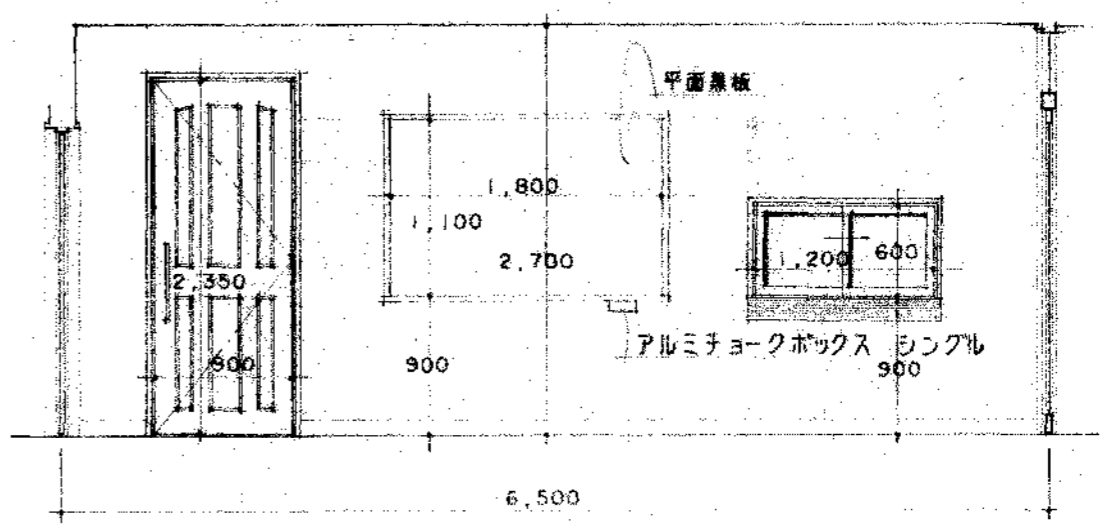
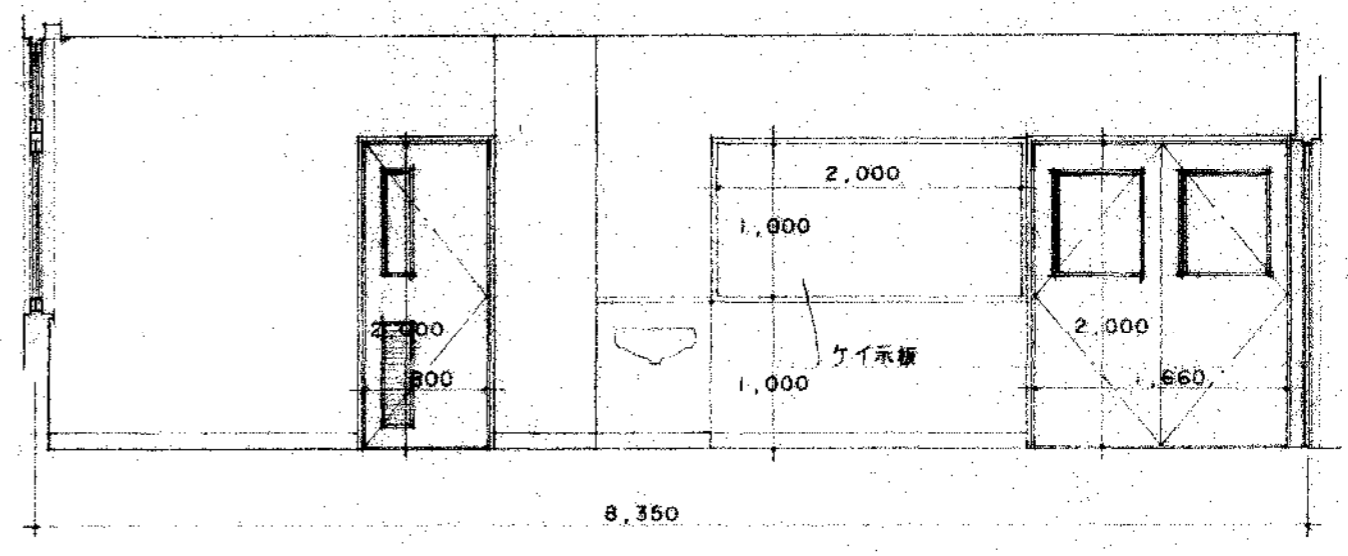


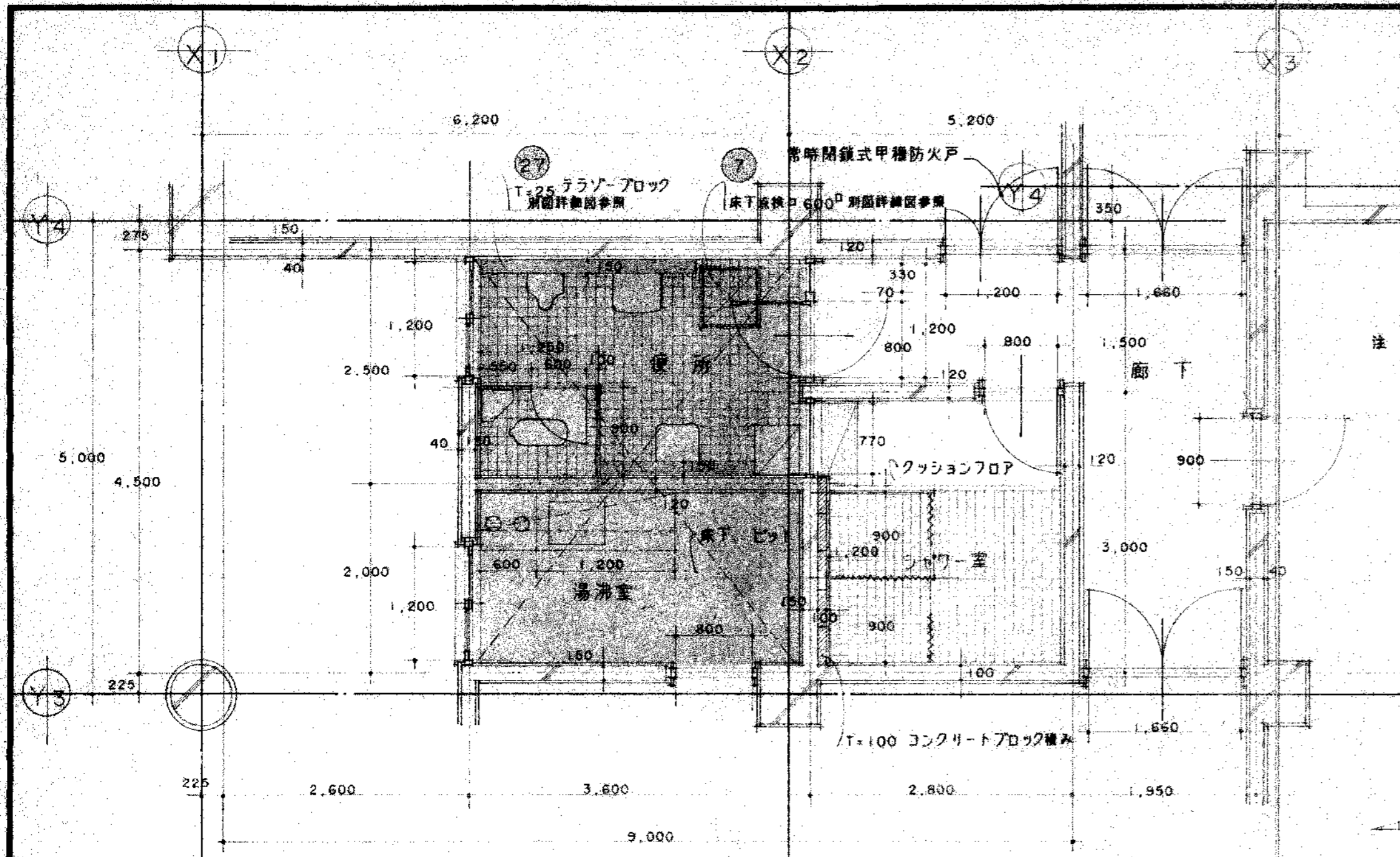
事務室 平面詳細図 S=1/50

アルミコーナービート
別図詳細図参照

事務室 展開図	
床	長尺クッションフロア
巾木	ソフト巾木 (H=100)
壁	防エン2種以上ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=9)
備考	

平面黒板 1,800×1,100

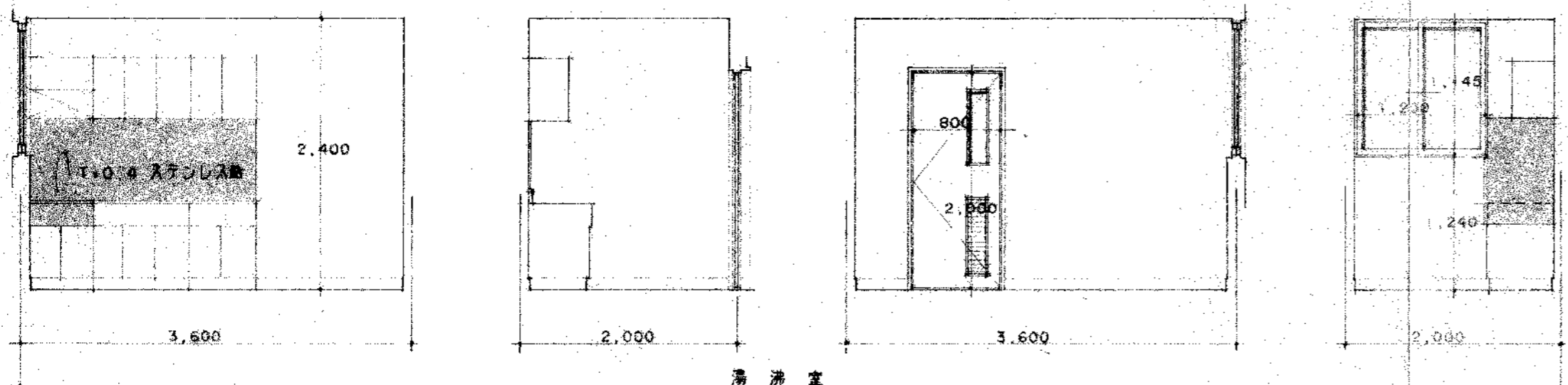
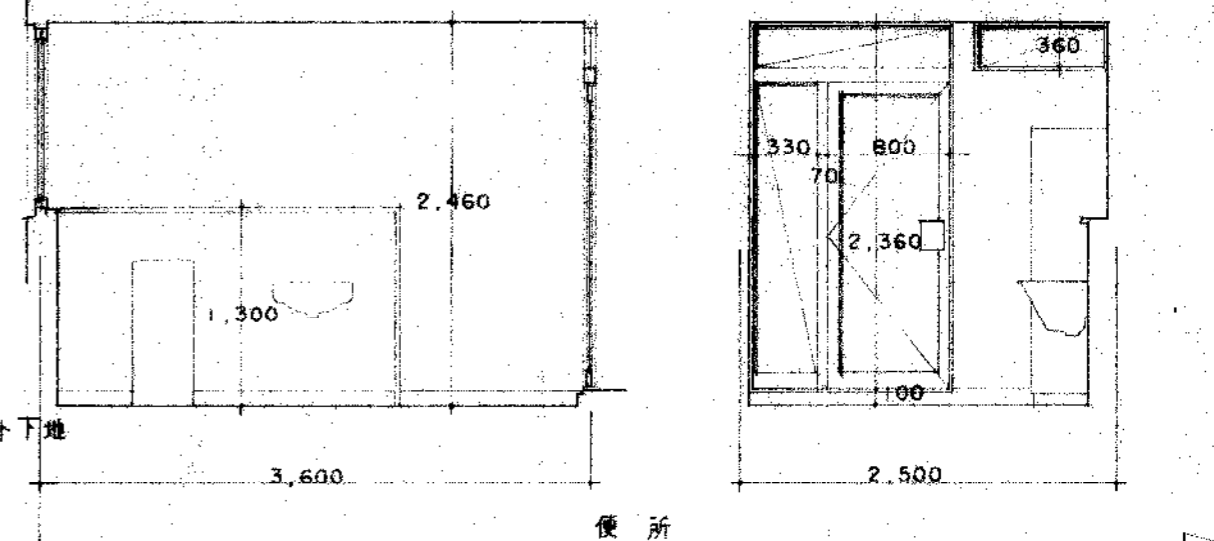




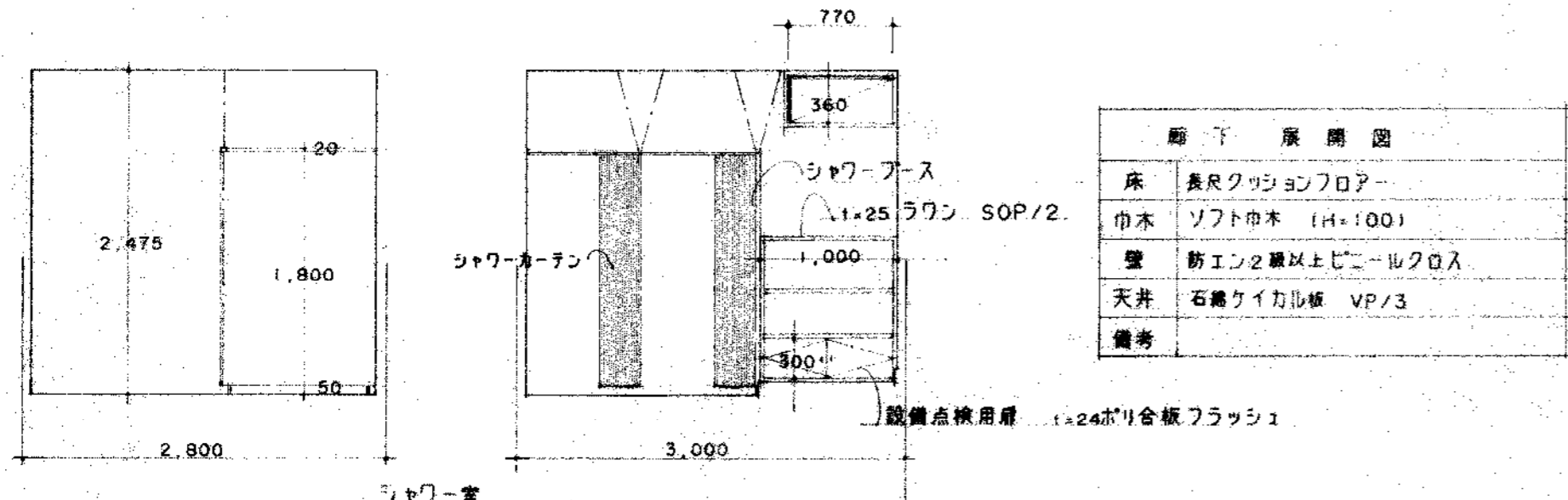
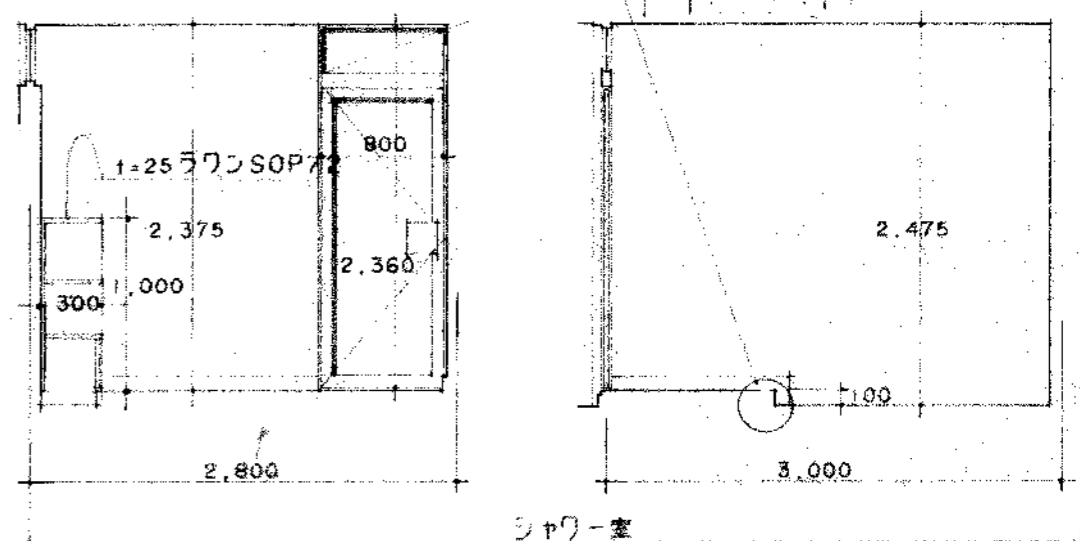
便所、湯沸室、シャワー室、廊下 平面詳細図 S=1/50

床	25 ^φ 磁器モザイクタイル
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	アクリル系弾性タイル敷付
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	

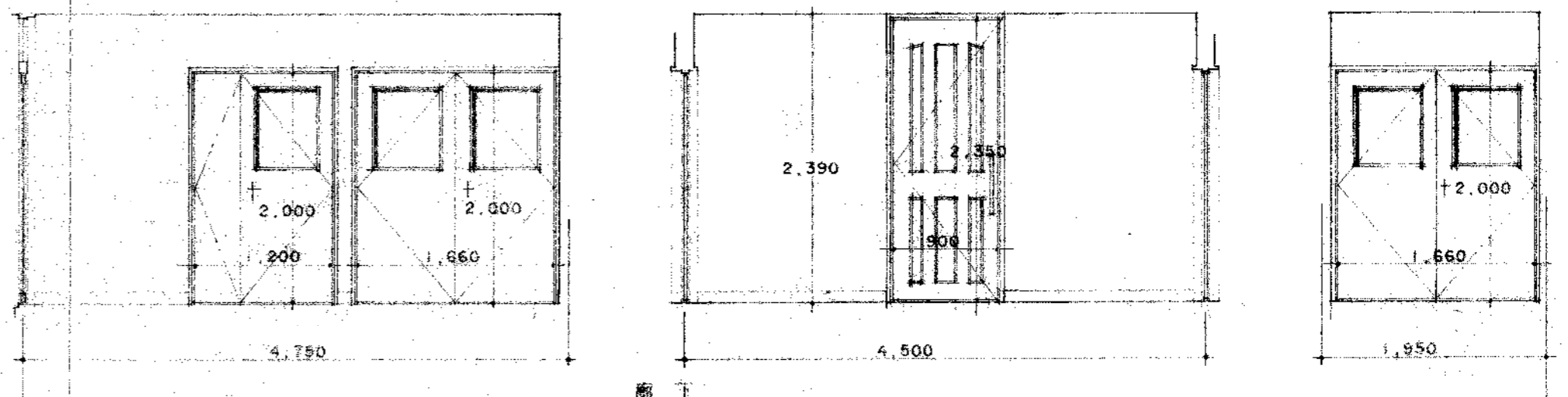
注 便所床 アスファルト防水 (E-2) 1.60押へコンクリート下地

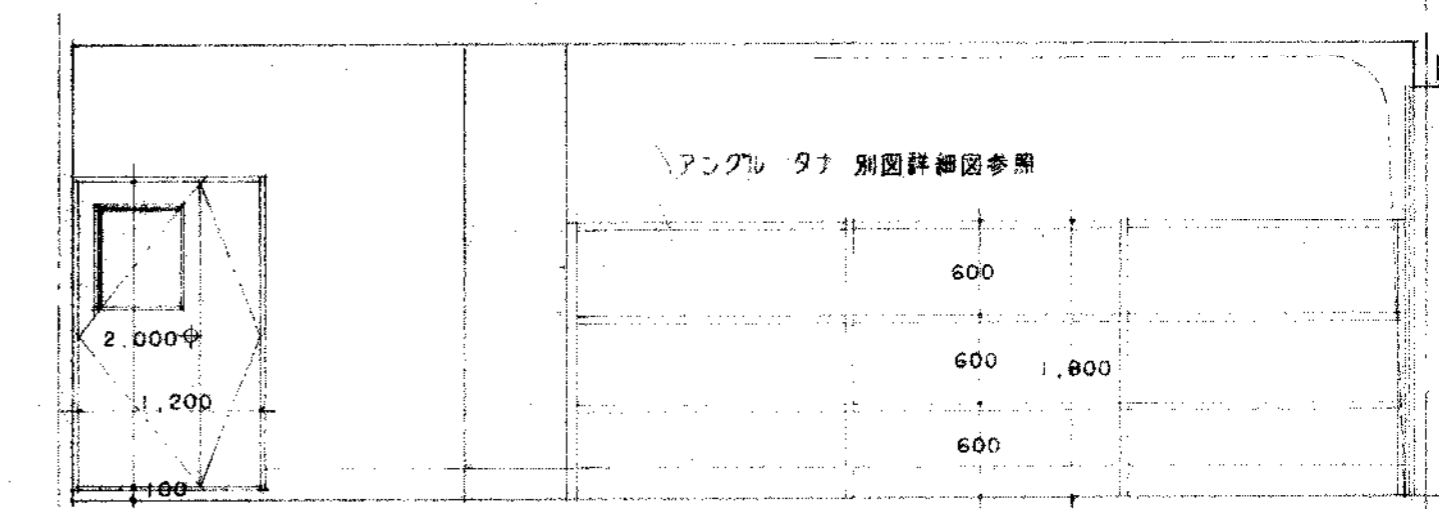
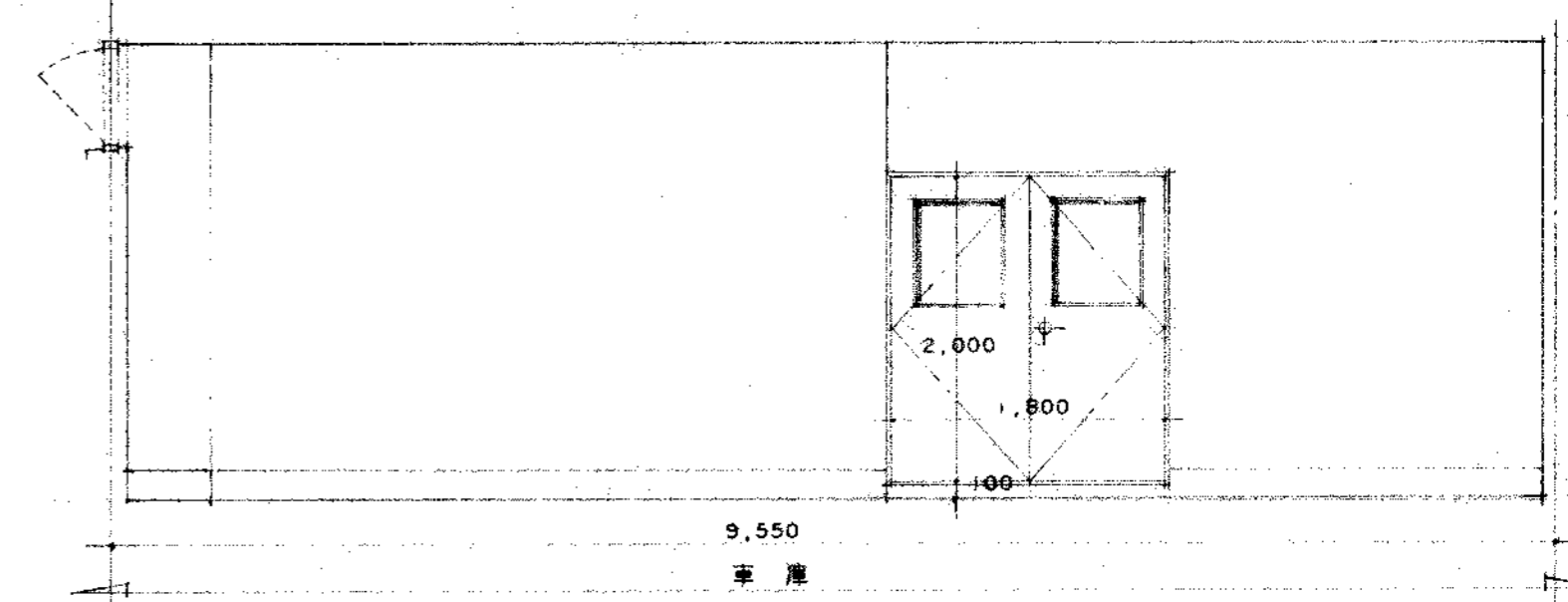
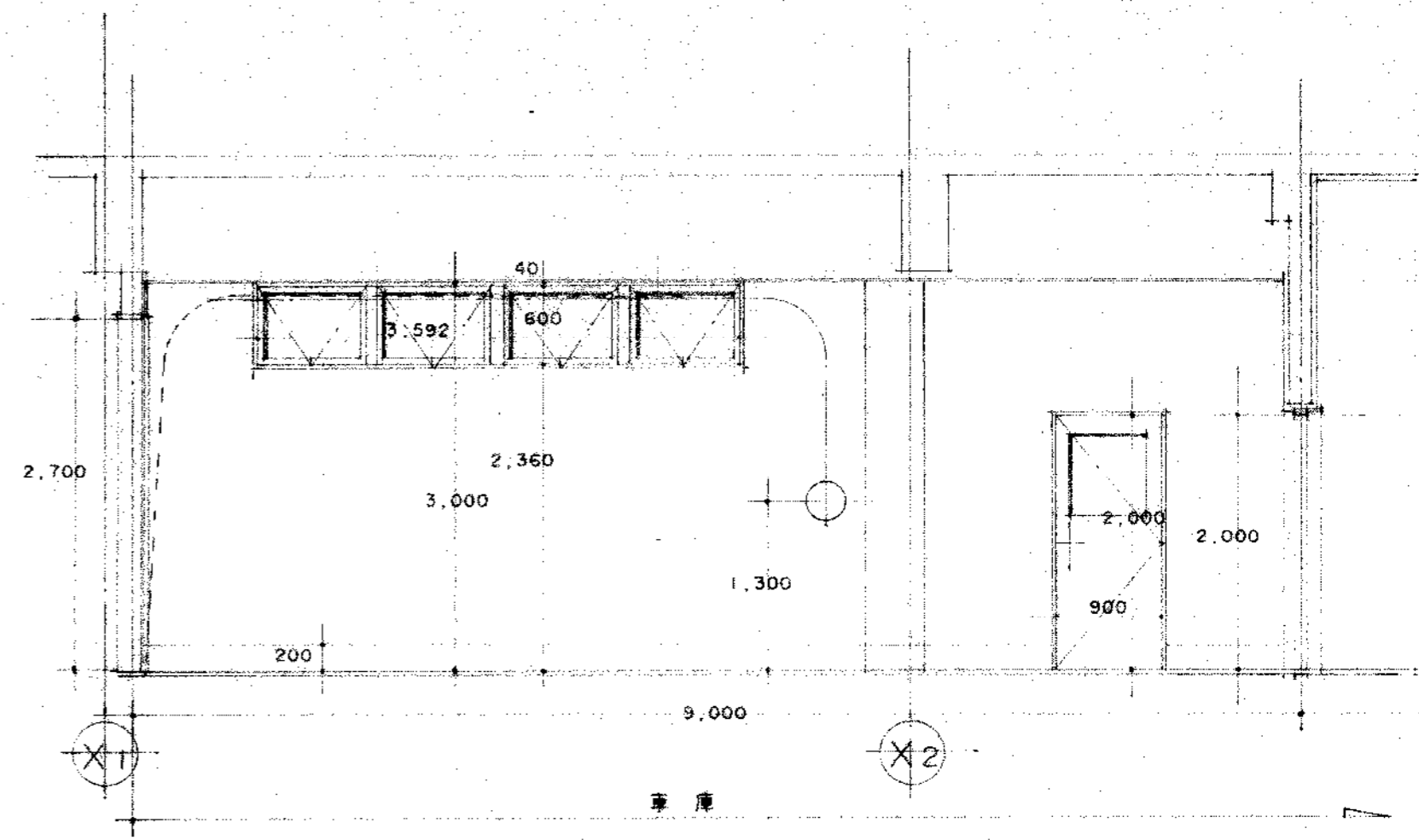
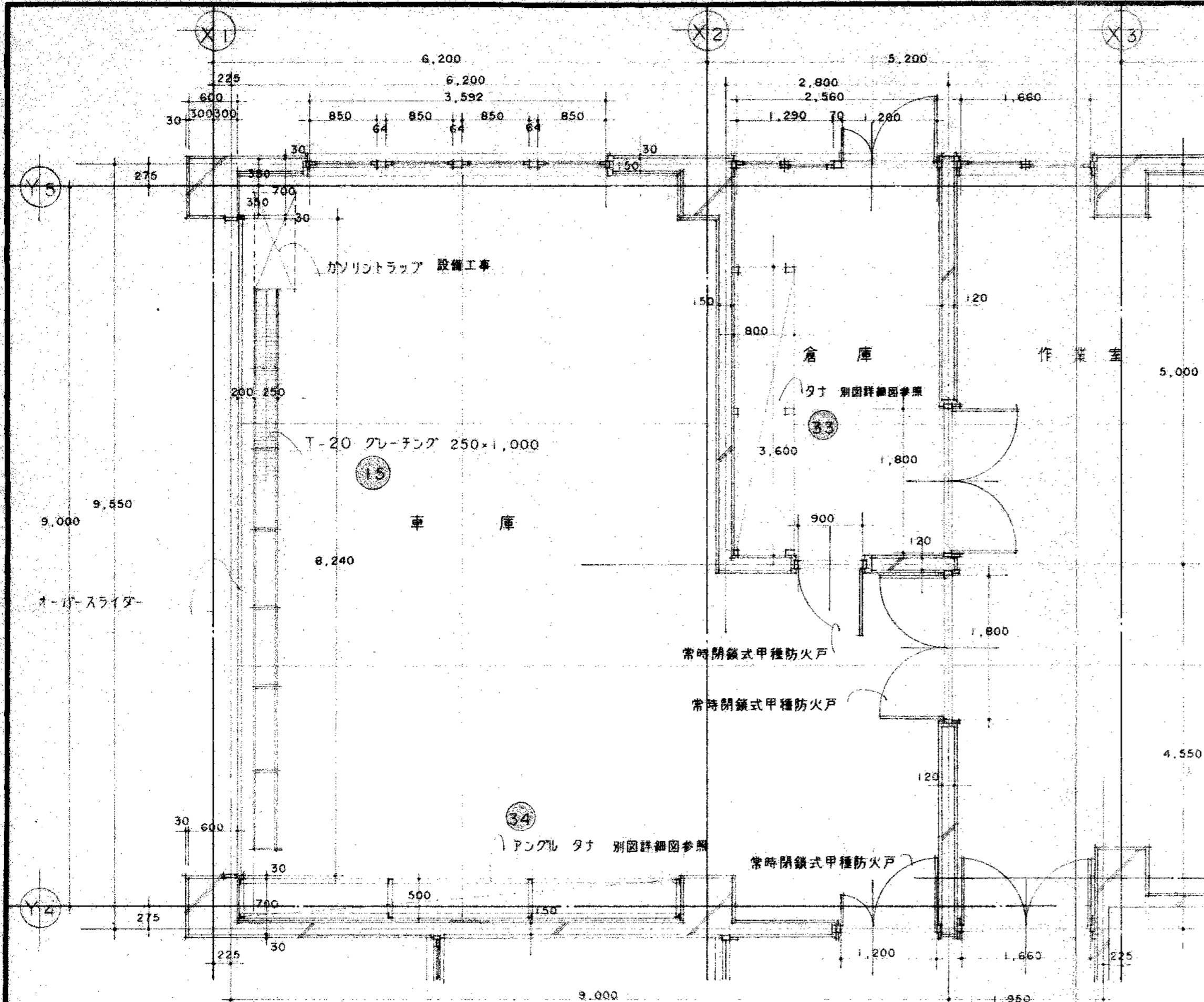


床	25 ^φ 磁器モザイクタイル (一部 CF)
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	アクリル系弾性タイル敷付
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	



床	長尺クッションフロア
巾木	ソフト巾木 (H=100)
壁	防インシメントビニールクロス
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	





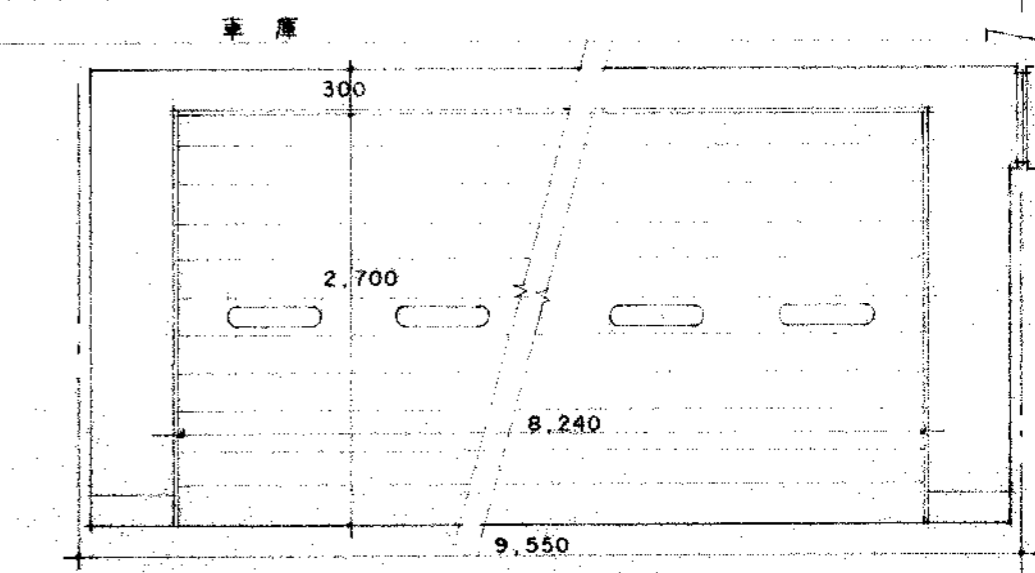
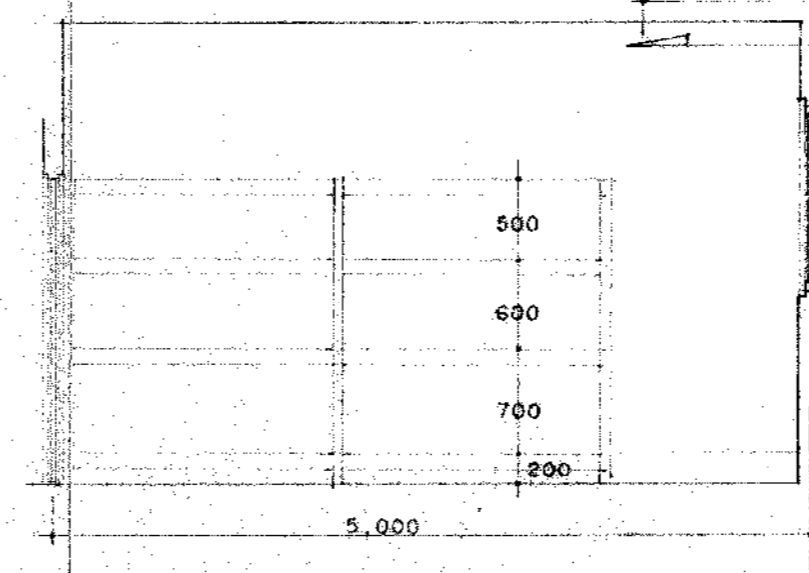
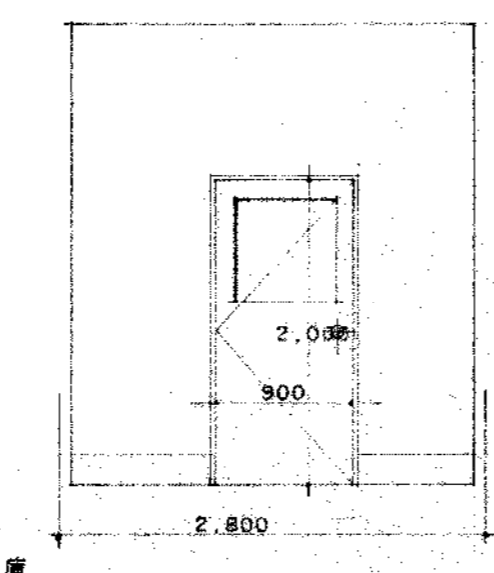
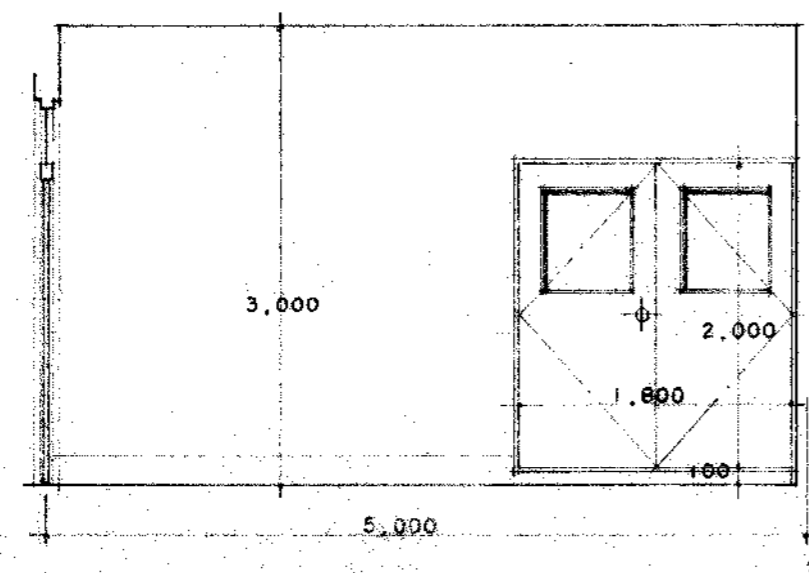
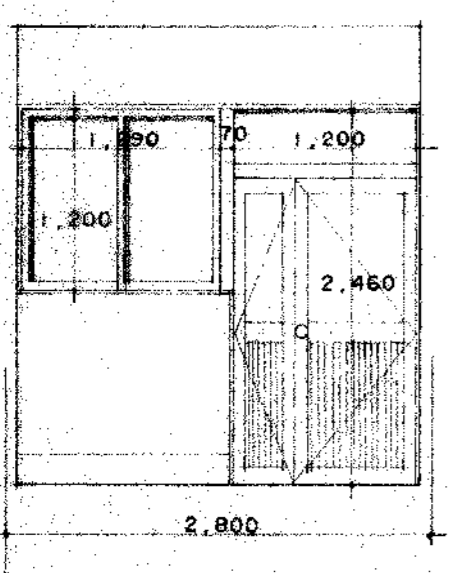
倉庫 展開図

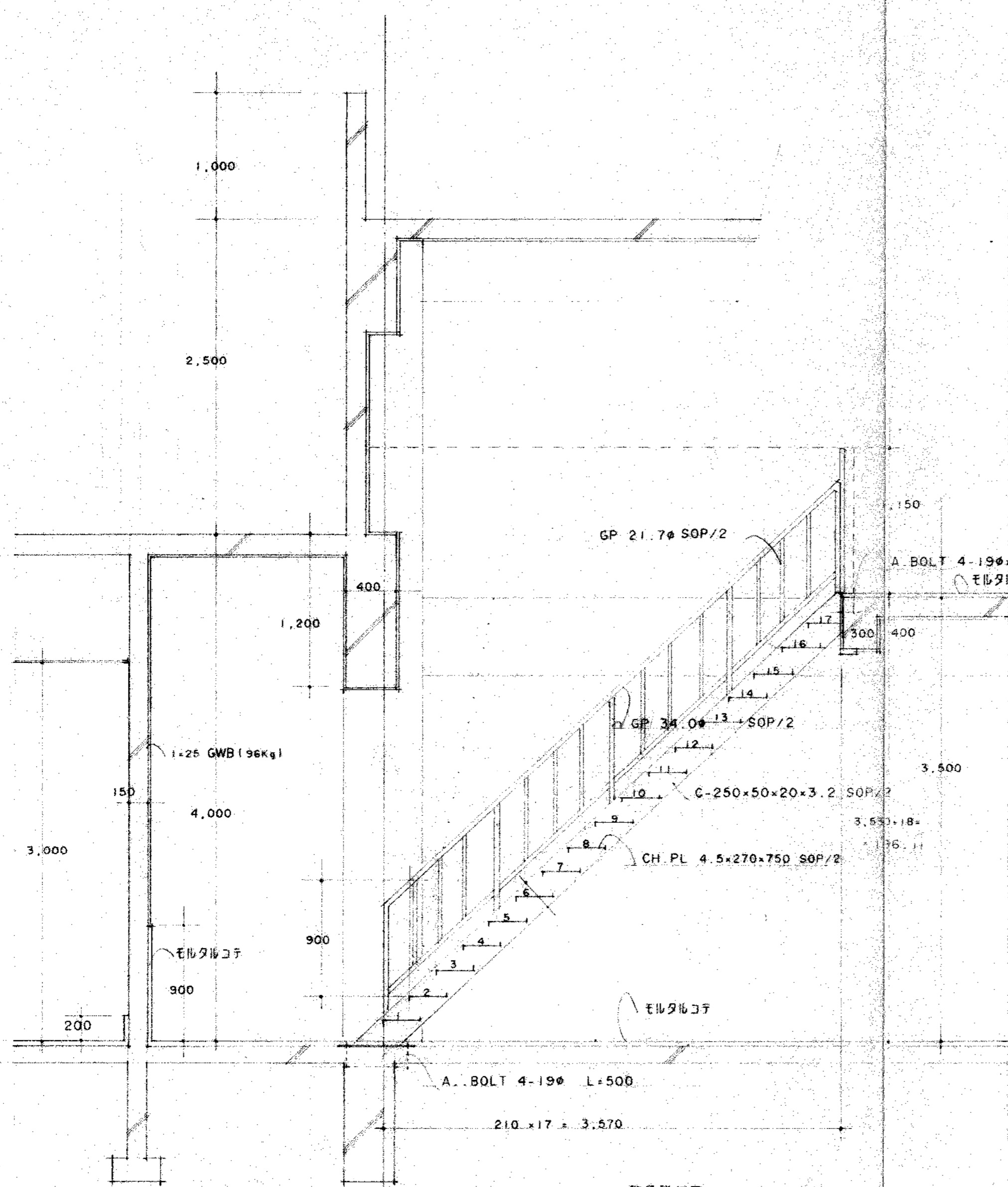
床	モルタル金ゴテ 目地切
巾木	モルタルゴテ (H=200)
壁	コンクリート打放し VP/3
天井	石膏ケイカル板 VP/3
備考	

車庫、倉庫 平面詳細図 S=1/50

作業室 展開図

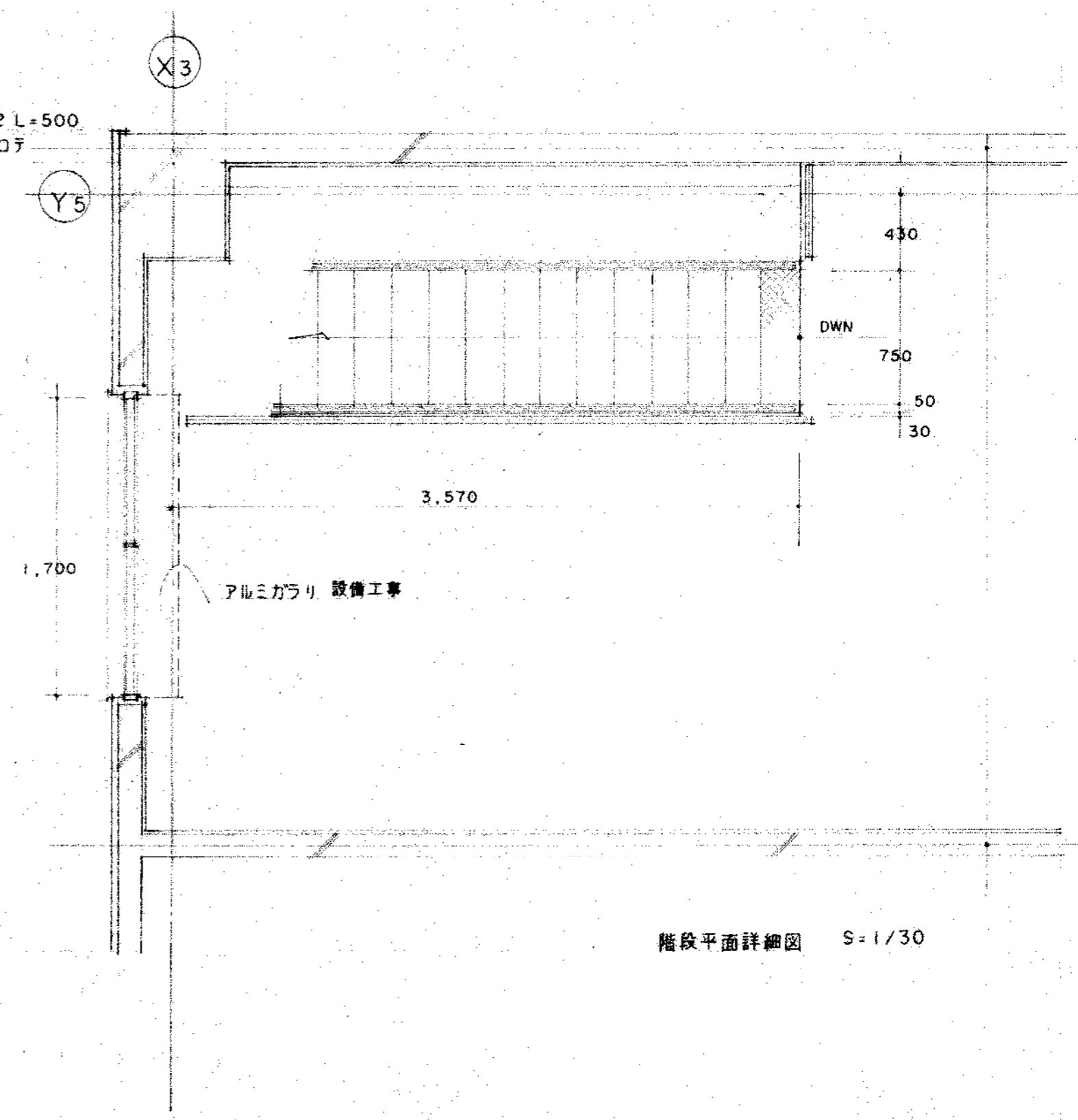
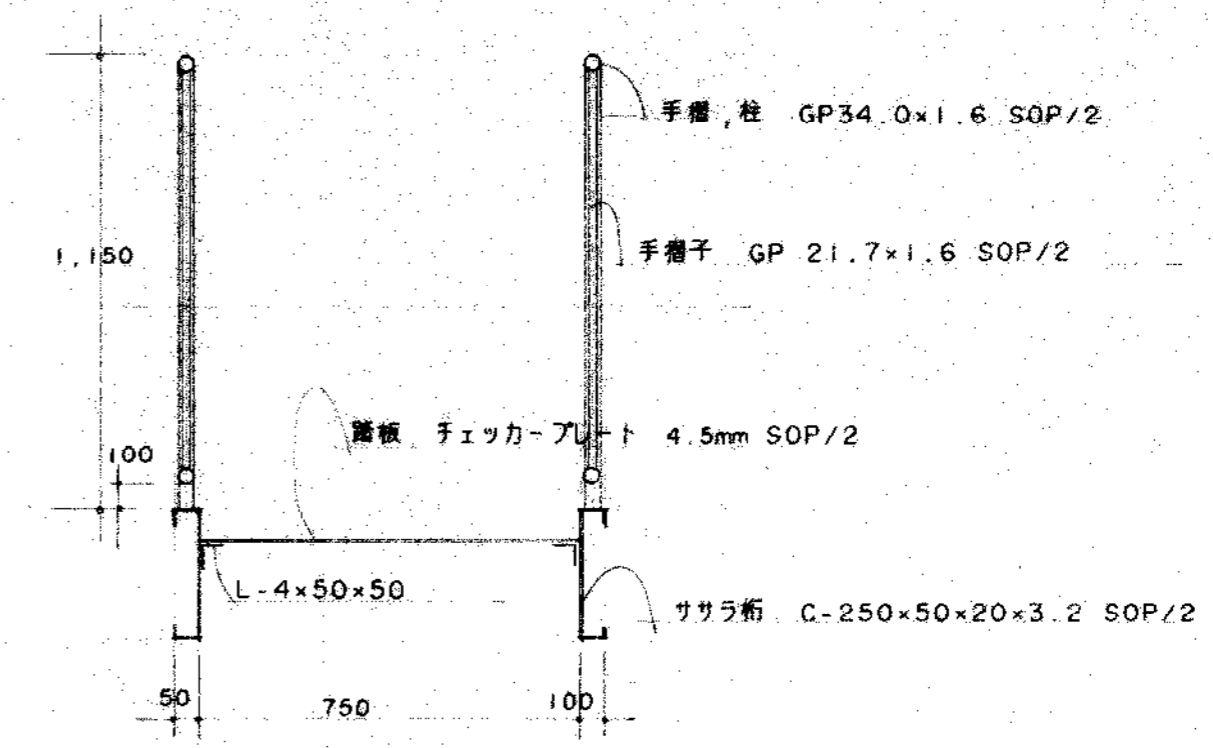
床	コンクリート金ゴテ 目地切
巾木	モルタルゴテ (H=200)
壁	コンクリート打放し VP/3
天井	石膏ケイカル板 VP/3
備考	





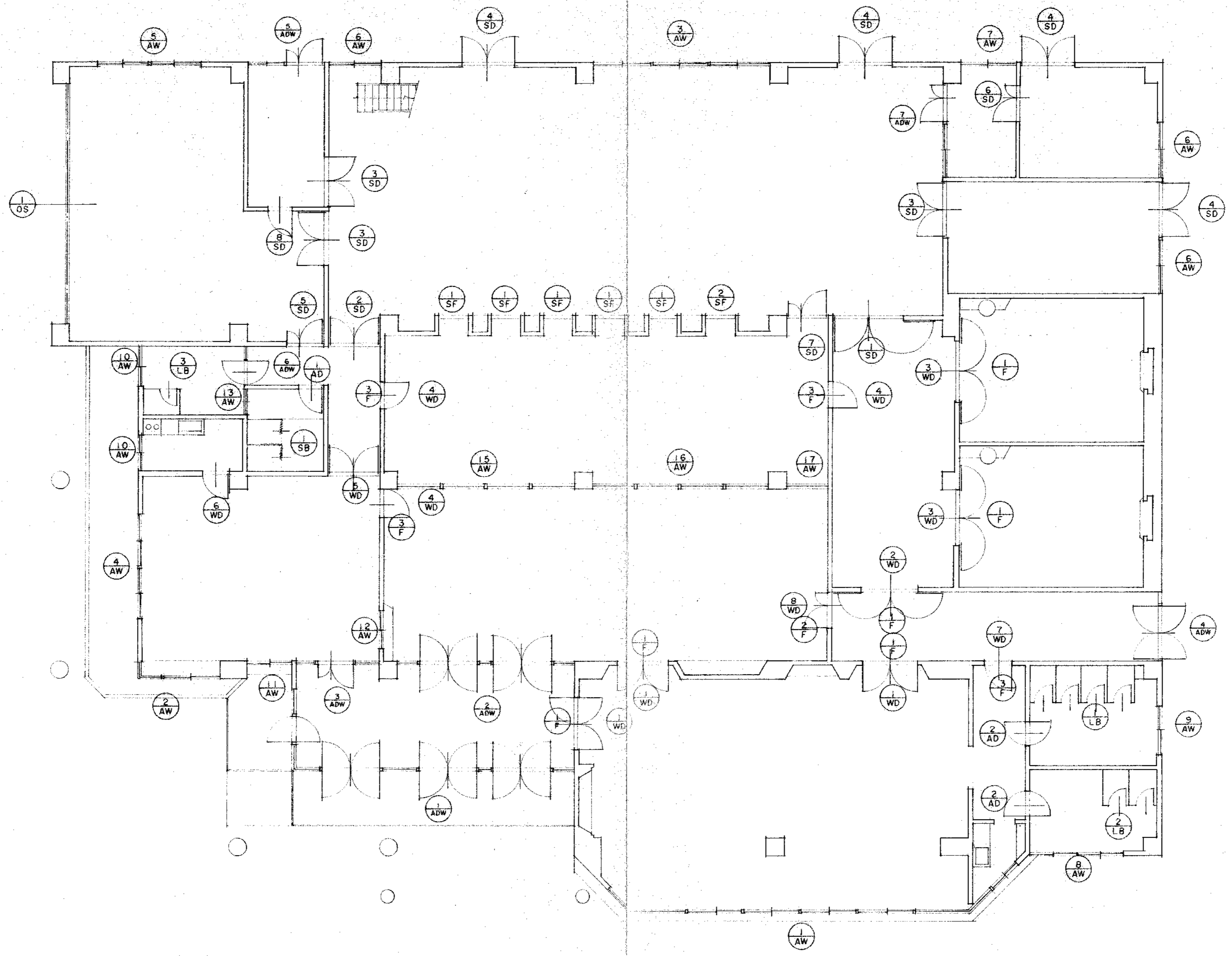
階段詳細図 S=1/30

(X3)

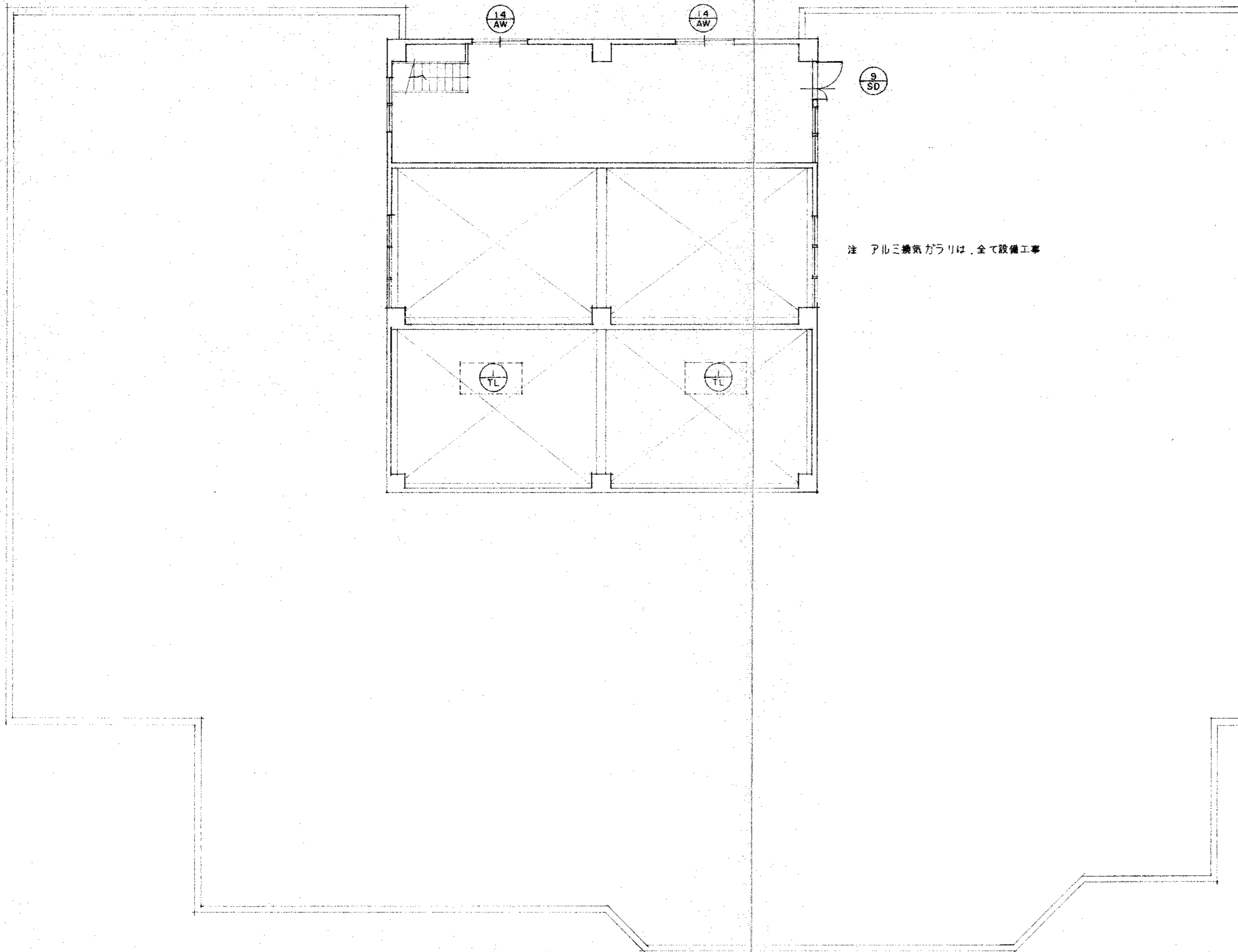


階段平面詳細図 S=1/30

会津若松市斎場新築 工事設計図		No
製図	階段詳細図	S=1/30
製図	階段平面詳細図	S=1/30
		A-49



1階 KEY PLAN S=1/100



2階 KEY PLAN S=1/100

会津若松市斎場新築 工事設計図

製図

図番

2階 KEY PLAN

S=1/100

No

A-51

記号	① ADW			② ADW		
姿図						
名称	9連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア (コーナー (備所))			5連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア		
仕上	アルミ カラー (カラー タークアンバー) --- 共通			アルミ カラー		
見込	100			100		
数量	1			1		
ガラス	T=12 強化ガラス, T=5 フロート			T=12 強化ガラス, T=5 フロート		
金物	フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指			フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指		
室名	エントランスホール			エントランスホール ~ 告別ホール		
備考						
記号	③ ADW	④ ADW	⑤ ADW	⑥ ADW	⑦ ADW	
姿図						
名称	3連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア	2連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア	2連 ランマ付両開きドア 引違い窓	袖, ランマ付片開きドア	2連 ランマ付両開きドア 引違い窓	
仕上	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	
見込	100	100	100	100	100	
数量	1	1	1	1	1	
ガラス	T=5 フロート, T=12 強化ガラス	T=12 強化ガラス, T=5 フロート	T=4 型, T=3 フロート	T=6 型, T=3 フロート	T=3 フロート	
金物	フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指	フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番指, 引手, クレセント, 水切, アルミパネル	ドアチェック, ステンレス番指, シリンダー錠, 押棒	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番指, 引手, クレセント, アルミパネル	
室名	エントランスホール ~ 事務室	通路 ~ わたり廊下	倉庫	便所 ~ 廊下	作業員控室 ~ 作業室	
備考			可動網戸			
				会津若松市斎場新築 工事設計図 No. A-52 製図 建具表 (1) S-1/50		

記号	① AD	② AD	
姿図			
名称	ランマ付 片開きドア	ランマ付 片開きドア	
仕上	アルミ カラー	アルミ カラー	
見込	70	70	
数量	1	2	
ガラス	T=6 型ガラス, T=3 フロート	T=6 型ガラス, T=3 フロート	
金物	ドアチェック, 押板, ステンレス首摺	フロアヒンジ, 押板, ステンレス首摺	
室名	シャワー室 ~ 廊下	男女便所 ~ 前室	
備考			

記号	① AW	② AW	③ AW
姿図			
名称		7連 引違い窓 FIX窓 (コーナー 2箇所)	2連 2段引違い窓 FIX窓 (コーナー 1箇所)
仕上		アルミ カラー	アルミ カラー
見込		70	70
数量		1	1
ガラス		T=5 フロート	T=5 フロート
金物		引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, 水切
室名		待合ホール	事務室
備考		可動網戸	可動網戸

記号	3 AW		4 AW		5 AW		6 AW			
名称	3連 排煙窓付 引違い窓		2連 2段引違い窓		4連 排煙窓		引違い窓			
仕上	アルミ カラー		アルミ カラー		アルミ カラー		アルミ カラー			
見込	70		70		70		70			
数量	1		1		1		3			
ガラス	T=6.8 網入型		T=3 フロート		T=3 フロート		T=4 型 (作業室 T=6.8網入型)			
金物	手動オペレーター, 引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, 水切		手動オペレーター, 水切		引手, クレセント, 水切			
室名	作業室		事務室		車庫		作業室, 倉庫, 機械室			
備考	可動網戸		可動網戸				可動網戸			
記号	7 AW		8 AW		9 AW		10 AW		11 AW	
名称	引違い窓		2連 引違い窓		引違い窓		引違い窓		引違い窓	
仕上	アルミ カラー		アルミ カラー		アルミ カラー		アルミ カラー		アルミ カラー	
見込	70		70		70		70		70	
数量	1		1		1		2		1	
ガラス	T=4 型		T=4 型		T=4 型		T=4 型		T=3 フロート	
金物	引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, ステンレスレール	
室名	作業員控室		男子便所		女子便所		湯洗室, 便所		事務室 (外カウンター)	
備考	可動網戸		可動網戸		可動網戸		可動網戸		可動網戸	
会津若松市倉場新築 工事設計図 No. A-54 製図 器具表 (3) S-1/50										

記号	12 AW	13 AW	14 AW	15 AW 16 AW	17 AW	
	名称	引違い窓	FIX窓	引違い窓	4連FIX窓	FIX窓
	仕上	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー
	見込	70	70	70	70	70
	数量	1	1	4	AW-15...1, AW-16...1	1
ガラス	T=3 フロート	T=3 フロート	T=4 型	T=6.8 網入透明	T=6.8 網入透明	
金物	引手, クレセント, ステンレスレール		引手, クレセント, 水栓	アルミルーバー	アルミルーバー	
室名	事務室 ~ 告別ホール(カウンター)	シャワー室 ~ 便所	2階機械室	炉前ホール ~ 告別ホール	炉前ホール ~ 告別ホール	
備考			可動網戸			

記号	9 SD	1 SD	2 SD	3 SD	4 SD	
	名称	両開きスチールドア	両開きスチールドア	両開きスチールドア	両開きスチールドア	ランマ付 両開きスチールドア
	仕上	フタル酸塗装	焼付塗装	フタル酸塗装	フタル酸塗装	フタル酸塗装
	見込	40 (枠100)	40 (枠100)	40 (枠100)	40 (枠100)	40 (枠100)
	数量	1	1	3	4	4
ガラス			T=6.8 網入型	T=4 型 (作業室 T=6.8 網入型)	T=4 型 (作業室 T=6.8 網入型)	
金物	ドアチェック, フランス落し, シリンダー錠	フロアホンジ, フランス落し, ステンレス番錠, 押棒, シリンダー錠	ドアチェック, フランス落し, シリンダー錠, ステンレス番錠	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番錠, フランス落し	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番錠, フランス落し	
室名	機械室	取巻室前室 ~ 作業室	廊下 ~ 作業室	作業室 ~ 車庫, 倉庫	作業室, 機械室, 倉庫	
備考				常時開閉式甲種防火戸 1		

記号	5 SD	6 SD	7 SD	8 SD	1 SF	2 SF	1 TL
姿 図							
名 称	両開き入チールドア	両開き入チールドア	両開き入チールドア	片開き入チールドア	ステンレス開口枠	ステンレス開口枠	トッライト(煙感知器連動型)
仕 上	フタル酸塗装	フタル酸塗装		フタル酸塗装			
見 込	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	200	200	
数 量	1	1	1	1	5	1	2
ガ ラ ス	T=4 型	T=4 型		T=4 型			ポリカーボネート複層ドーム
金 物	フラス落し, ドアチェック, シリンダー錠	フラス落し, ドアチェック, シリンダー錠	フロアヒンジ, シリンダー錠, ステンレス番種	ドアチェック, シリンダー錠			電動開閉装置, アルミルーバー, その他
室 名	車庫 ~ 廊下	作業員控室 ~ 機械室	炉前ホール ~ 作業室	車庫 ~ 倉庫	作業室(炉) ~ 炉前ホール	作業室(炉) ~ 炉前ホール	炉前ホール(吹抜)
備 考	常時閉鎖式甲種防火戸			常時閉鎖式甲種防火戸			

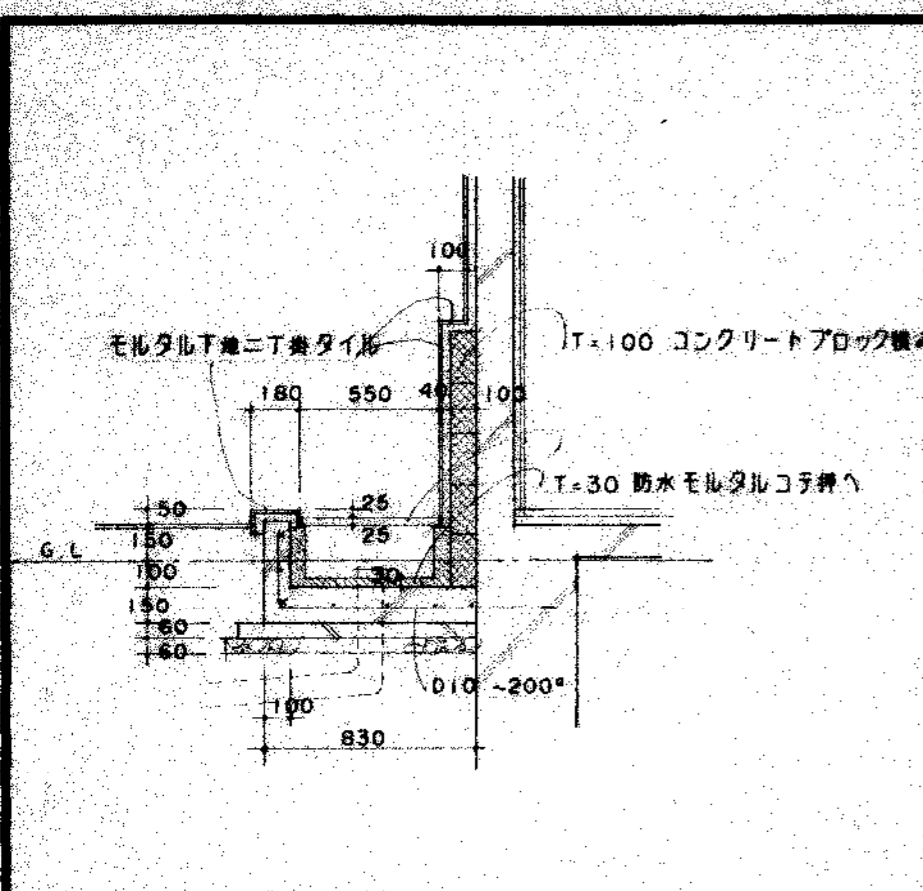
記号	1 OS	1 LB	2 LB
姿 図			
名 称	オーバーライダー	ラボトリーベース	ラボトリーベース
仕 上		ポリエステル化粧合板フラッシュ	ポリエステル化粧合板フラッシュ
見 込		40	40
数 量	1	1	1
ガ ラ ス	T=3 アクリル明窓		
金 物	メーカー標準金物一式	ラボトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木	ラボトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木
室 名	車庫	女子便所	男子便所
備 考			

記号	③ LB	① SB	
姿図			
名称	ラバトリーブース	シャワーブース	
仕上	ポリエステル化粧合板フラッシュ	ポリエステル化粧合板フラッシュ	
見込	40	40	
数量	1	1	
ガラス			
金物	ラバトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木	足金具, 笠木, カーテンレール, 吊り金具	
室名	便所	シャワー室	
備考		ビニールカーテン	

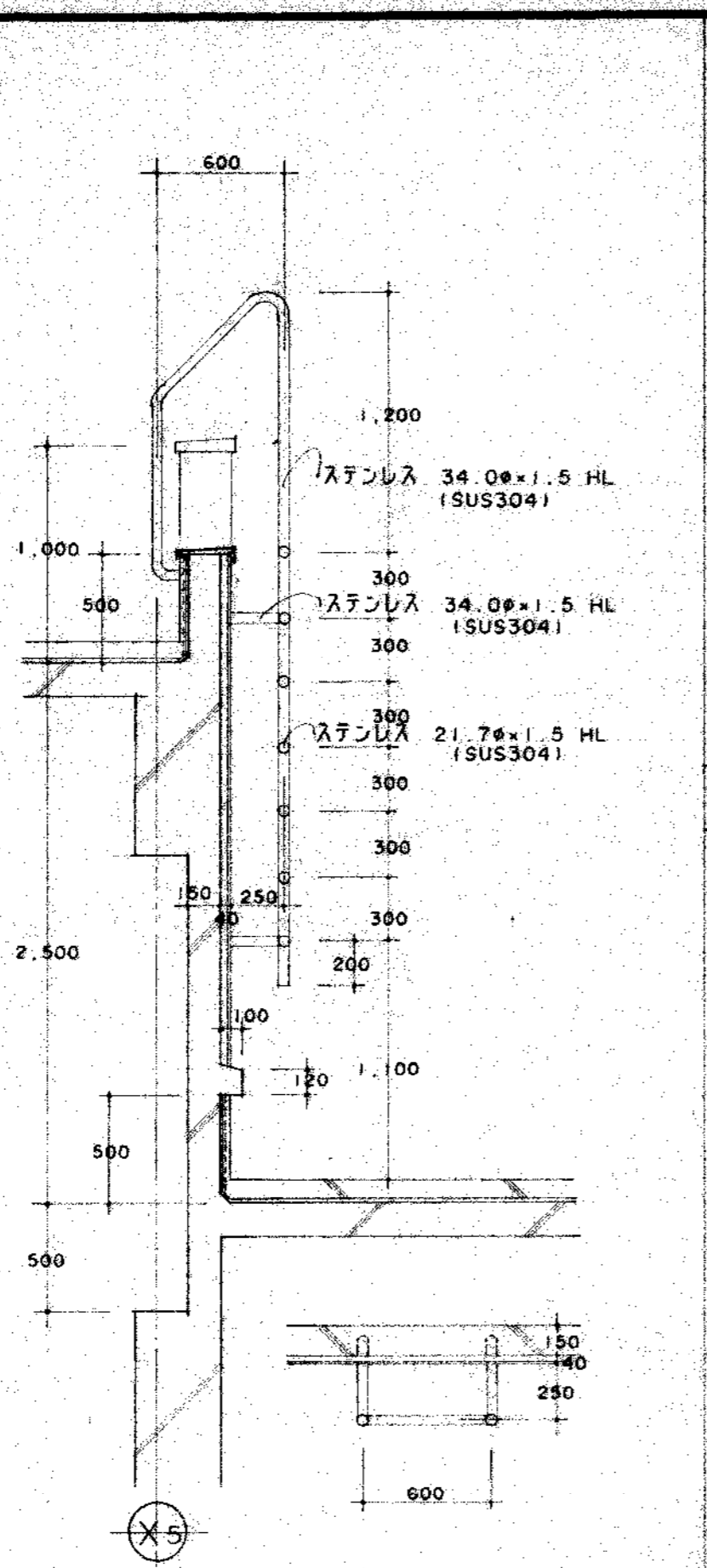
記号	① WD	② WD	③ WD	④ WD	⑤ WD	⑥ WD
姿図						
名称	両開き彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	片開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア
仕上					両面 ポリエステル化粧合板	両面 ポリエステル化粧合板
見込	50	50	50	50	40	40
数量	3	1	2	3	1	1
ガラス					T=4 型	T=4 型
金物	押棒	押棒	押棒	押棒	丁番, フラコ入差し, 鍵玉	丁番, 鍵玉
室名	待合ホール ~ エントランスホール, 告別ホール, 通路	通路 ~ 収骨室前室	収骨室 ~ 収骨室前室	告別ホール, 収骨ホール	収骨室 ~ 廊下	事務室 ~ 湯浴室
備考						

記号	⑦ WD	⑧ WD	① F	② F	③ F
姿図					
名称	片開き彫刻ドア（入子一仕枠 別途）	両開き彫刻ドア（入子一仕枠 別途）	入子一仕開口枠（彫刻ドア用）	入子一仕開口枠（彫刻ドア用）	入子一仕開口枠（彫刻ドア用）
仕上			SOP/2	SOP/2	SOP/2
見込	50	50	100	100	100
数量	1	1	6	1	4
ガラス					
金物	押棒	押棒	フロアヒンジ, ステンレス番錠	フロアヒンジ, ステンレス番錠	フロアヒンジ, ステンレス番錠
室名	便所前室 ~ 通路	告別ホール ~ 通路	待合ホール, 告別ホール, 収骨室, 前室	告別ホール ~ 通路	通路, 炉前ホール, 告別ホール
備考					

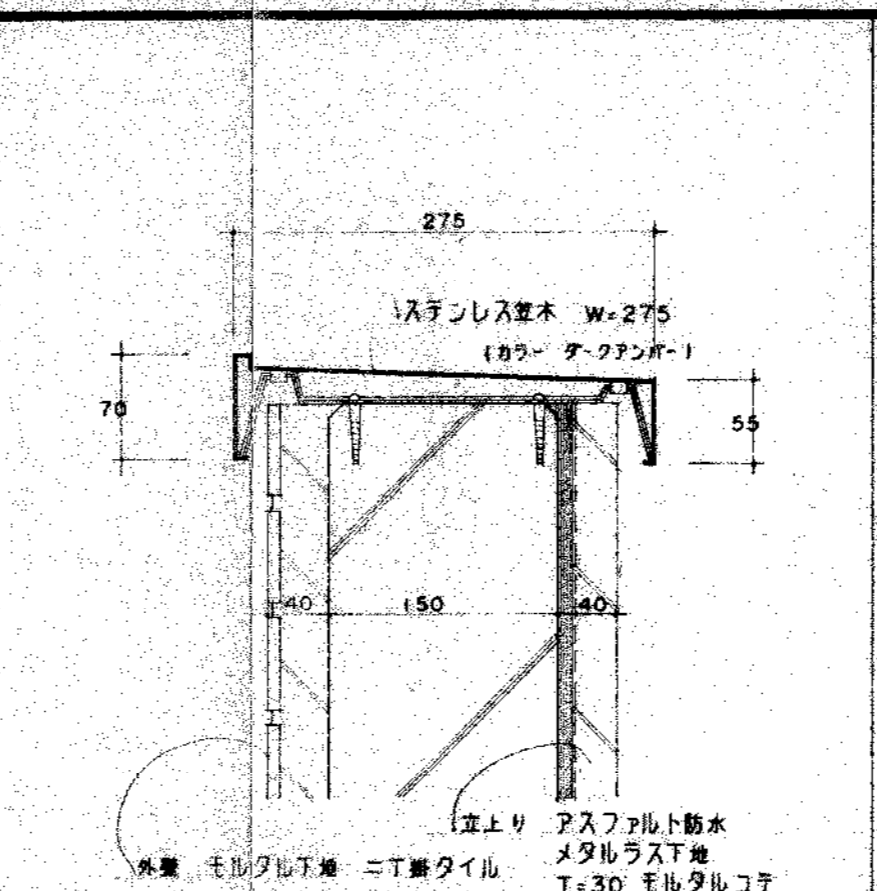
記号					
姿図					
名称					
仕上					
見込					
数量					
ガラス					
金物					
室名					
備考					



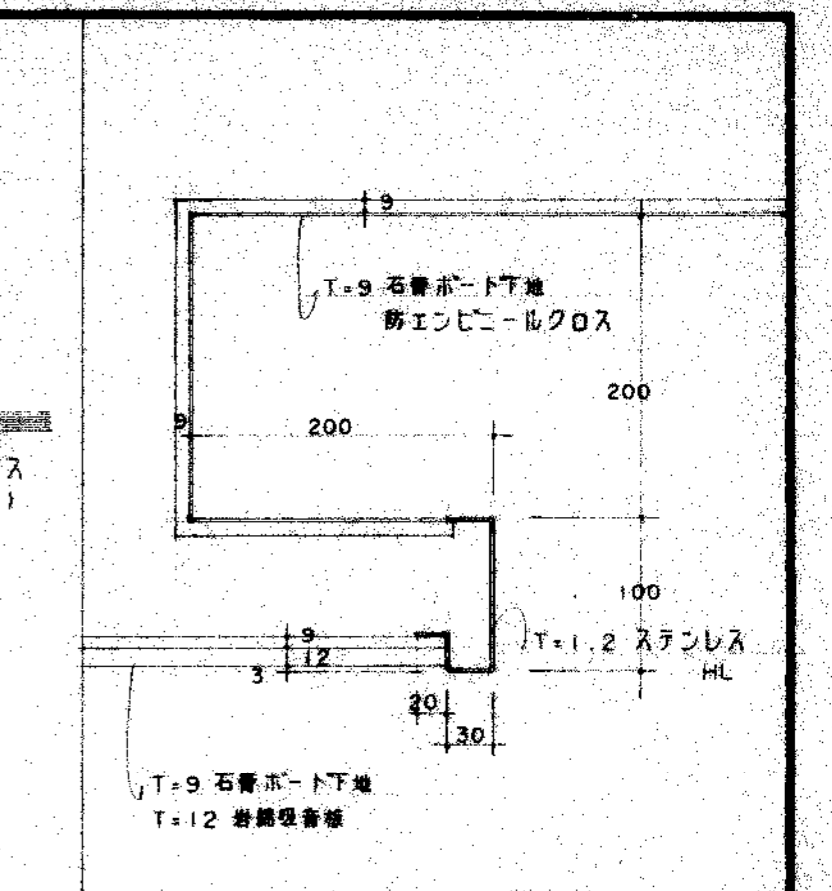
① クツ洗い 詳細図 S=1/30



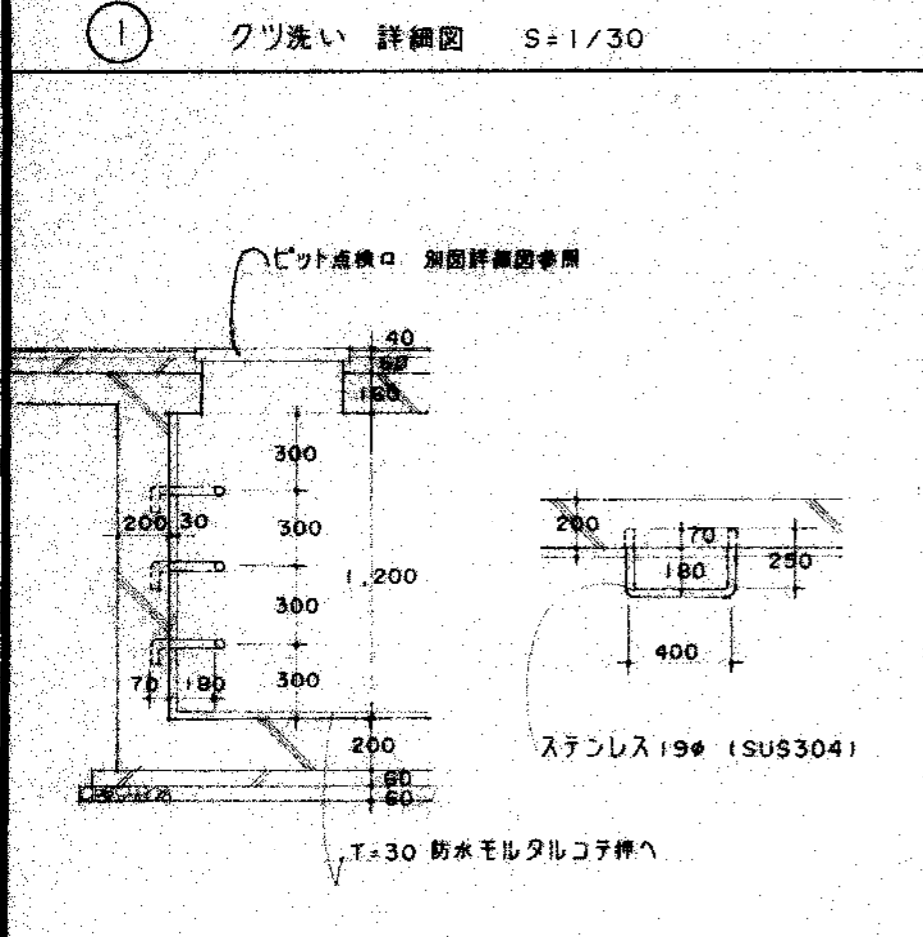
② 笠木 詳細図 S=1/5



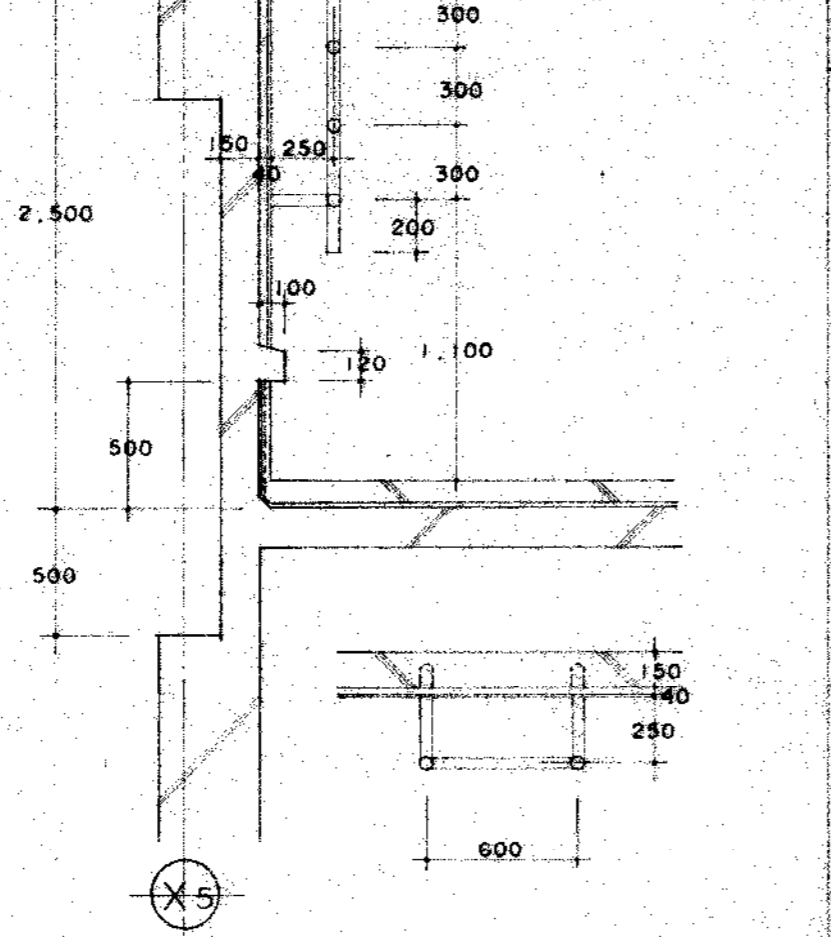
③ カーテンボックス 詳細図 S=1/5



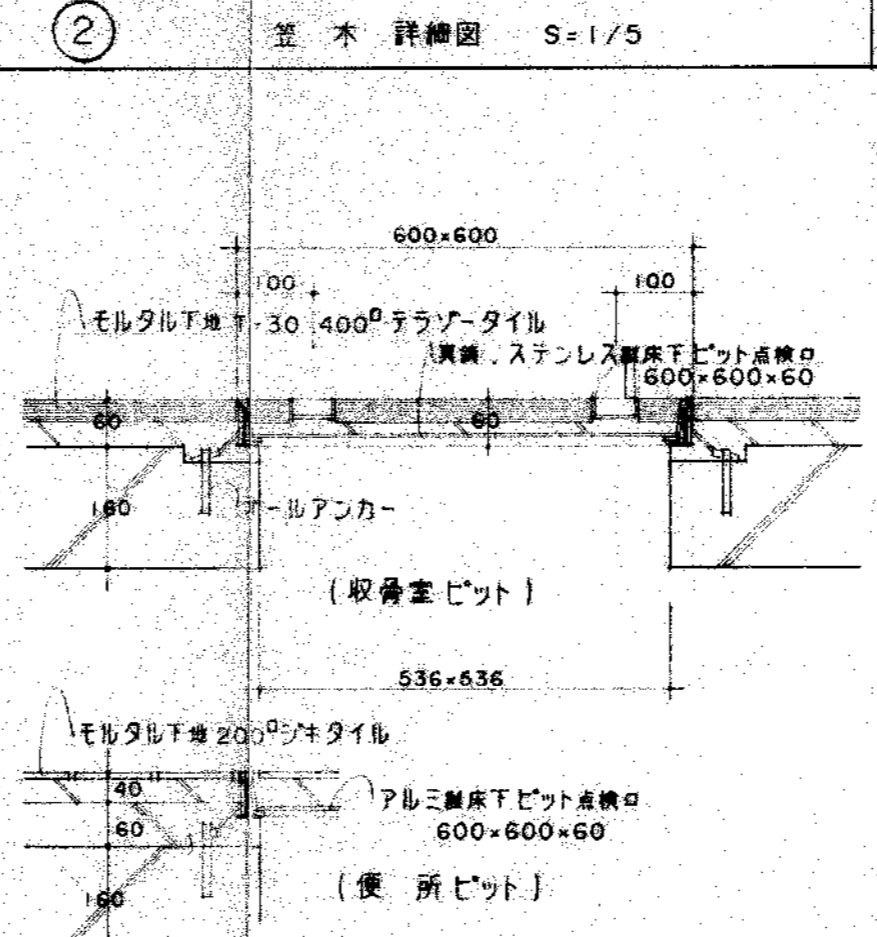
④ 天井ステンレス金物 詳細図 S=1/5



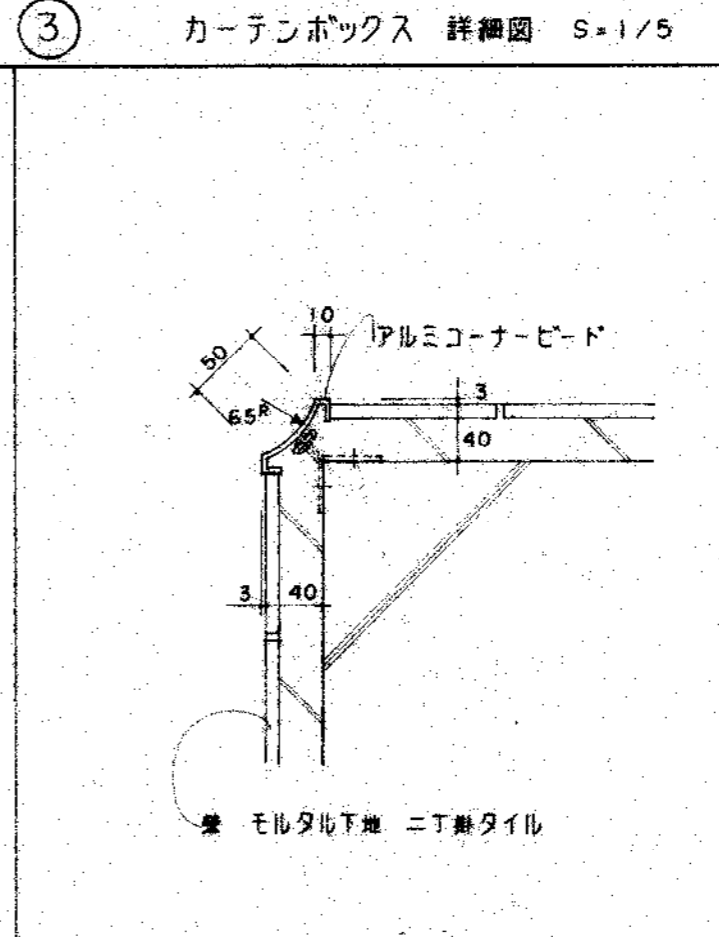
⑤ 床下ビット タラップ 詳細図 S=1/30



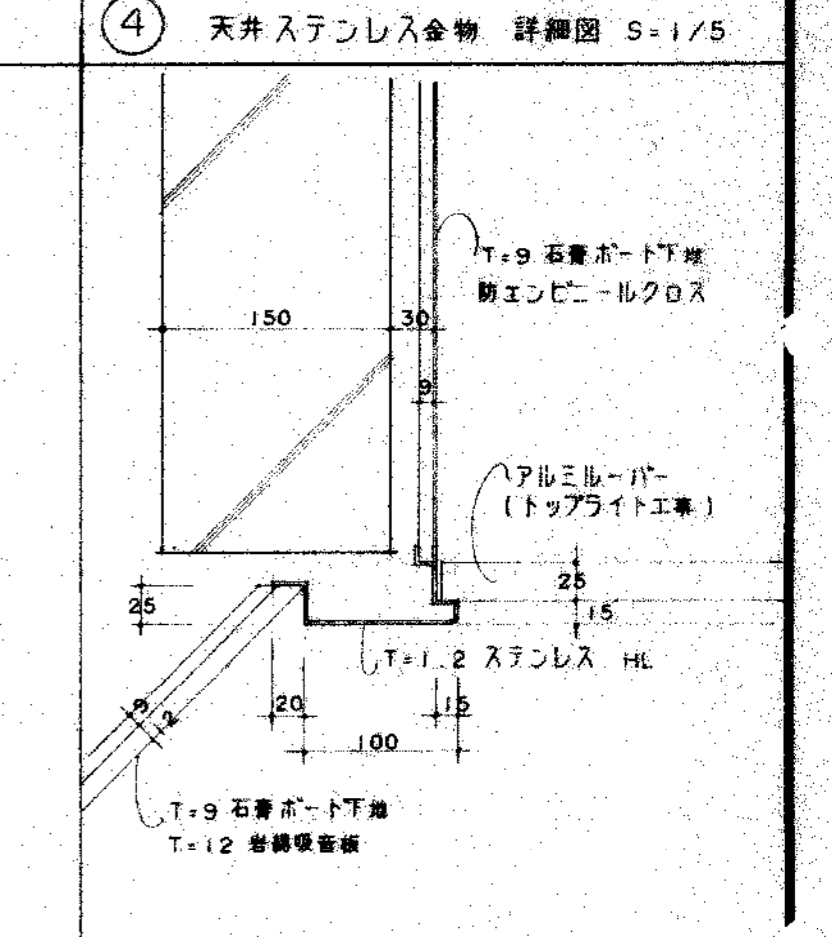
⑥ 屋上タラップ 詳細図 S=1/30



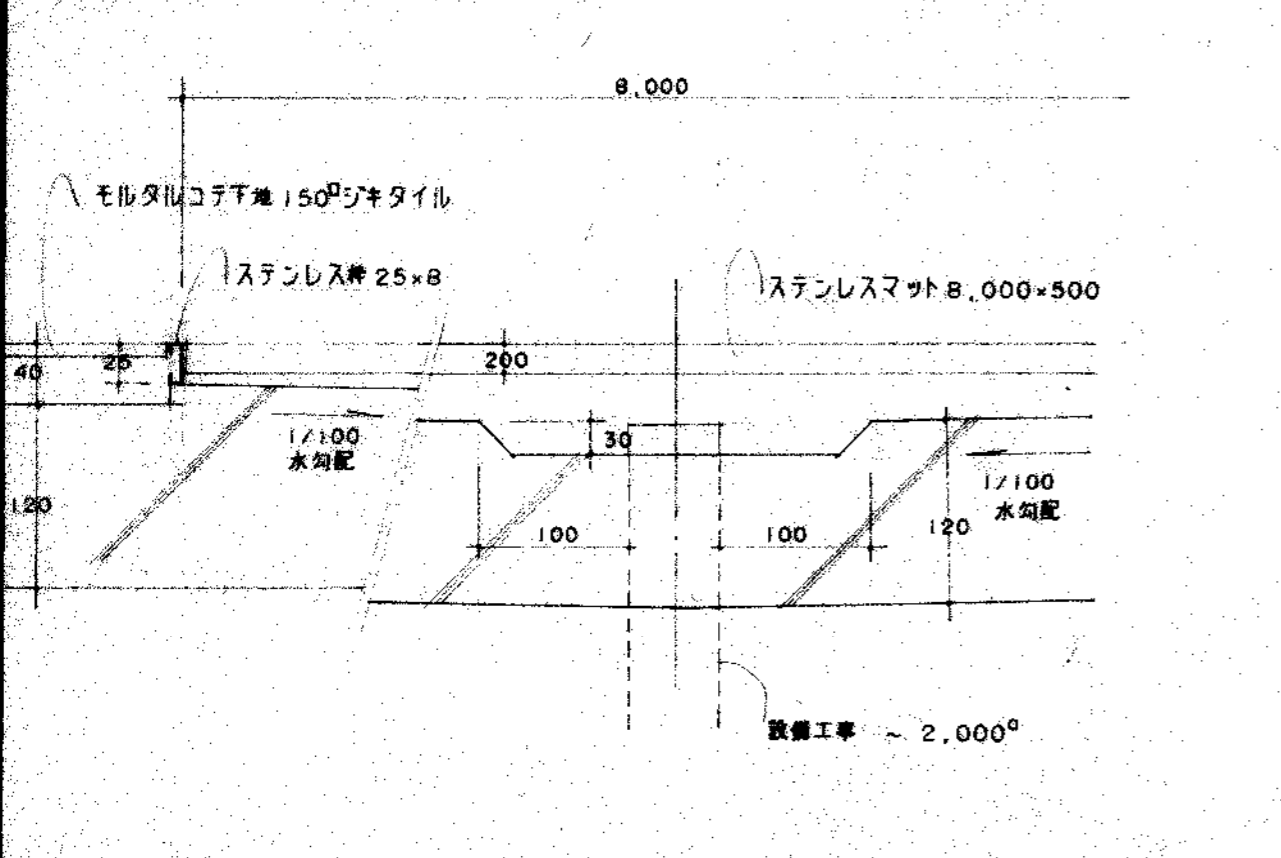
⑦ 取骨室、便所 ビット点検口 詳細図 S=1/10



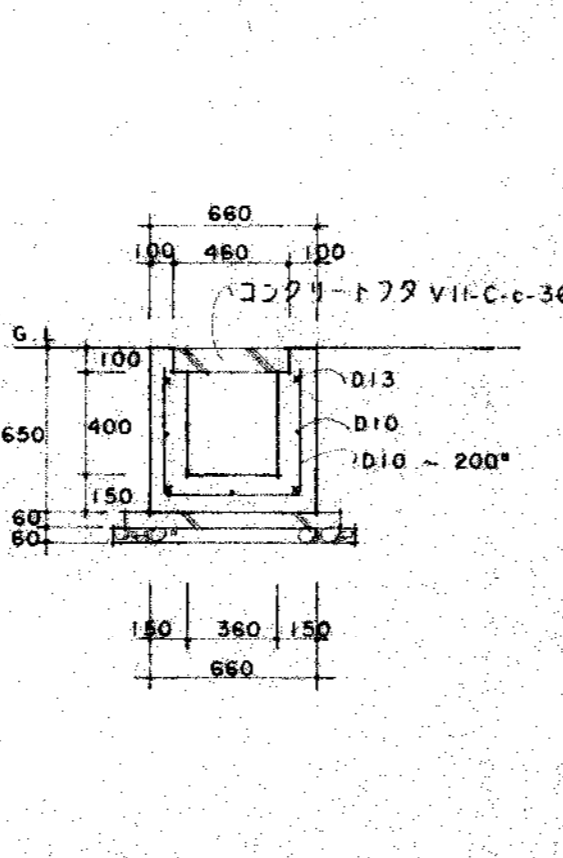
⑧ コーナービード 詳細図 S=1/5



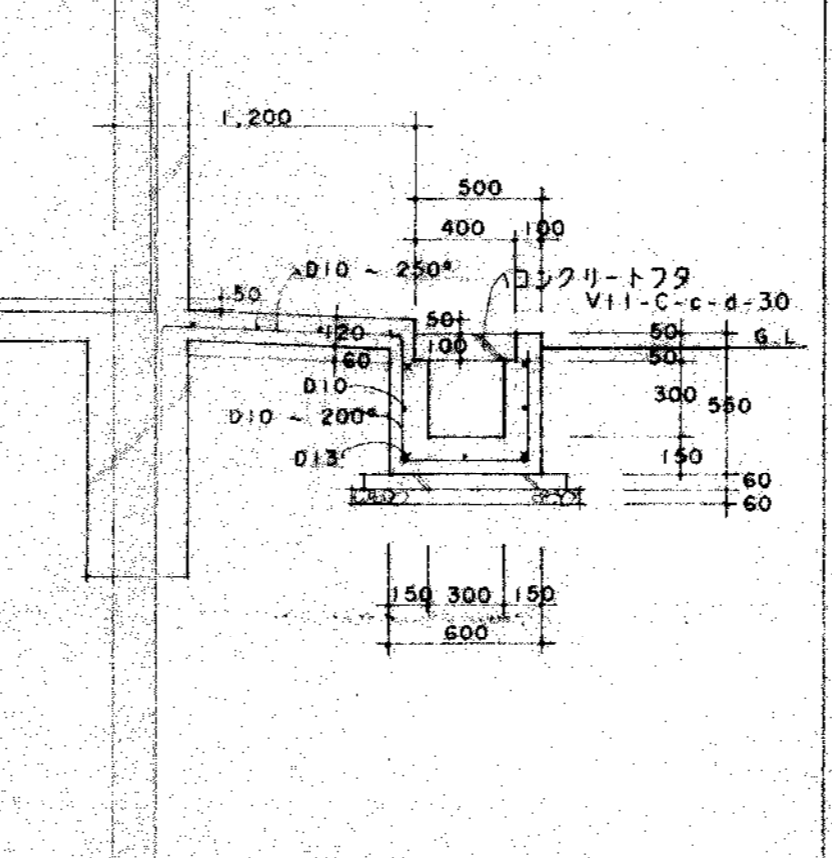
⑨ ルバー受金物 詳細図 S=1/5



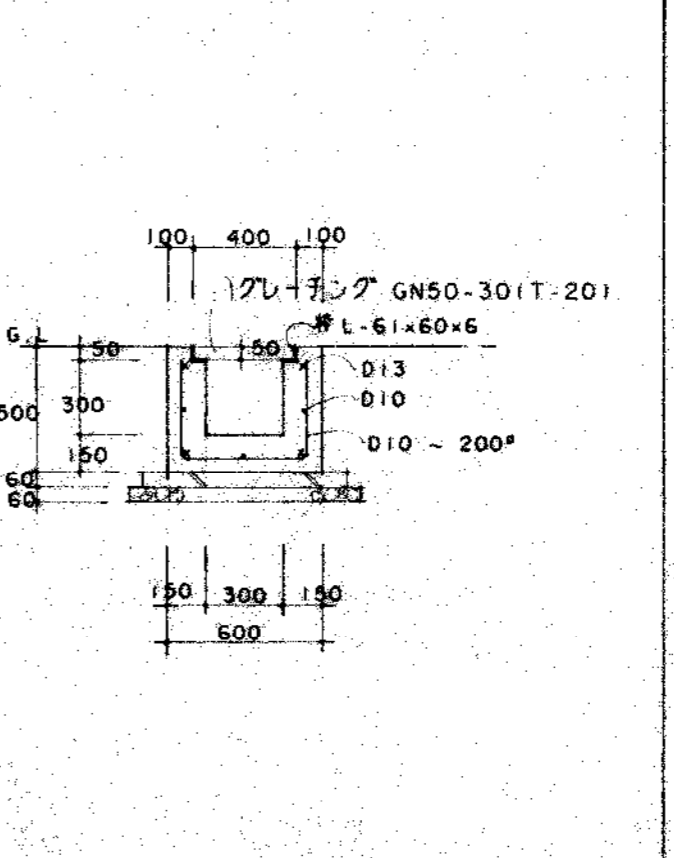
⑩ ステンレスマット 詳細図 S=1/5



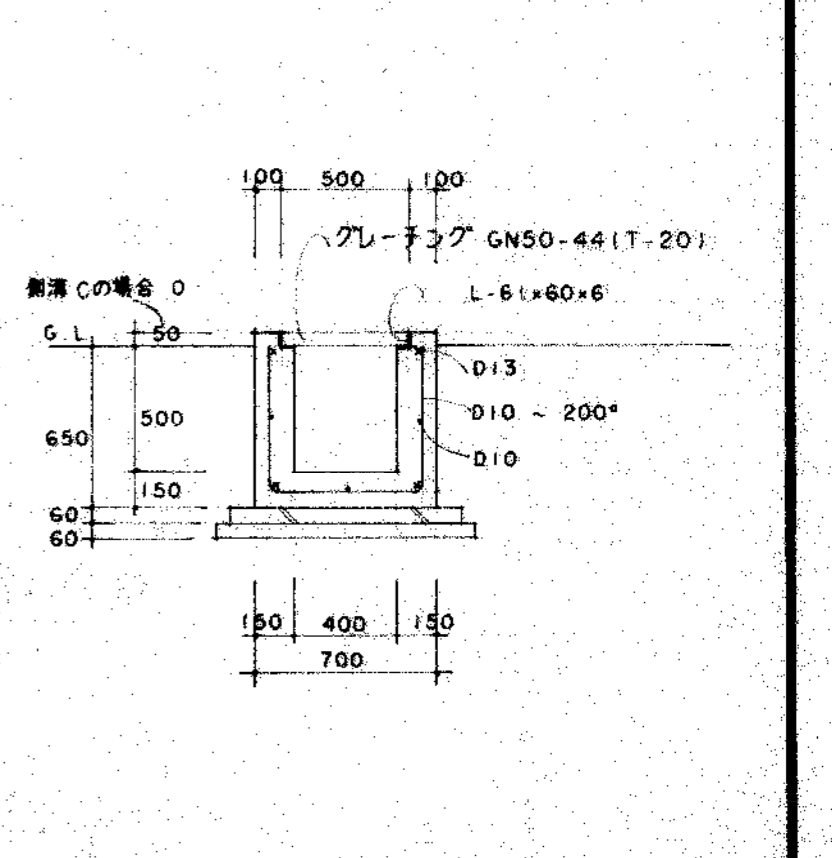
⑪ 側溝 A 詳細図 S=1/30



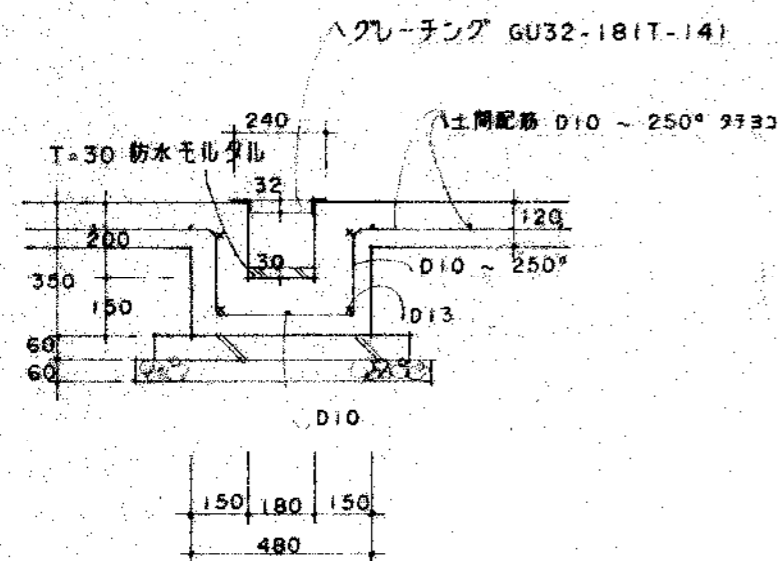
⑫ 側溝 B 詳細図 S=1/30



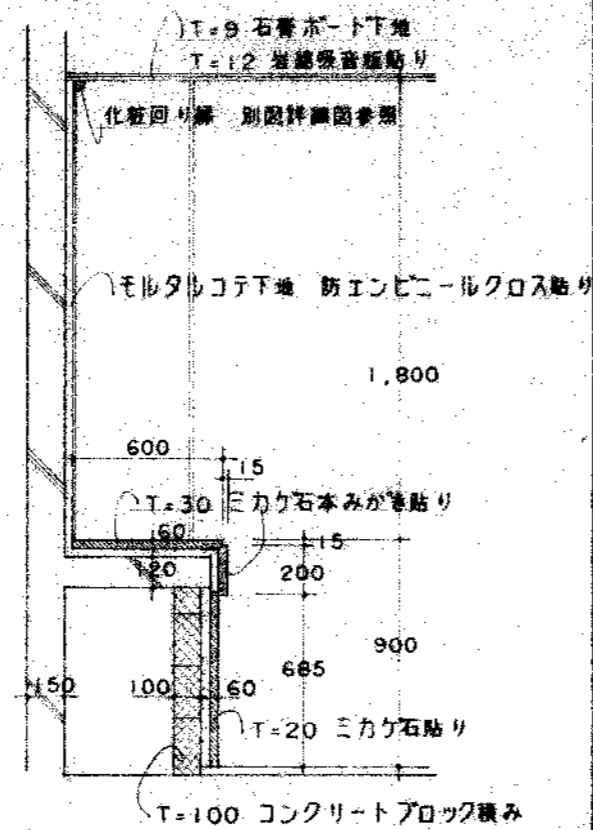
⑬ 側溝 C 詳細図 S=1/30



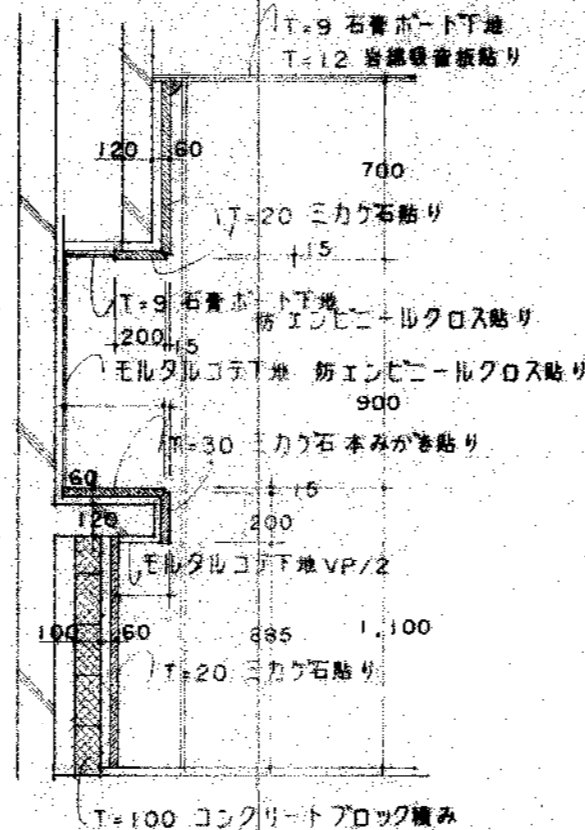
⑭ 集水マス 詳細図 S=1/30



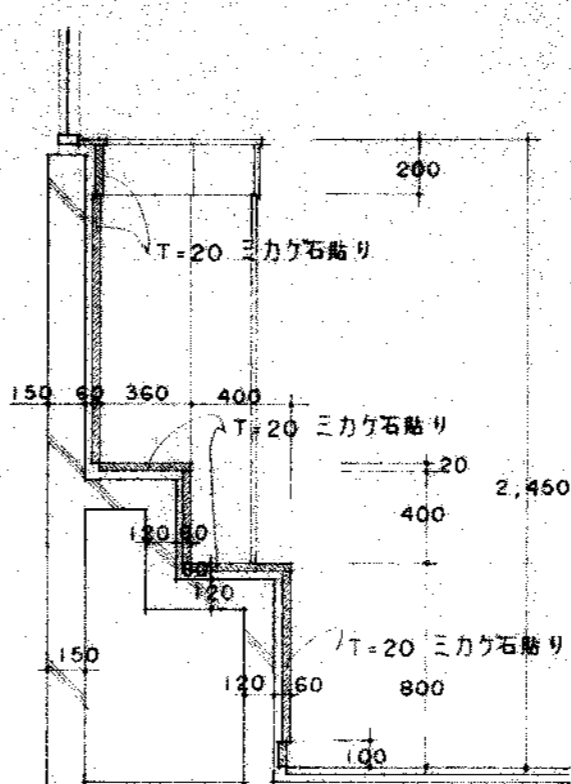
15 垂直ガソリントラップ割溝 詳細図 S=1/20



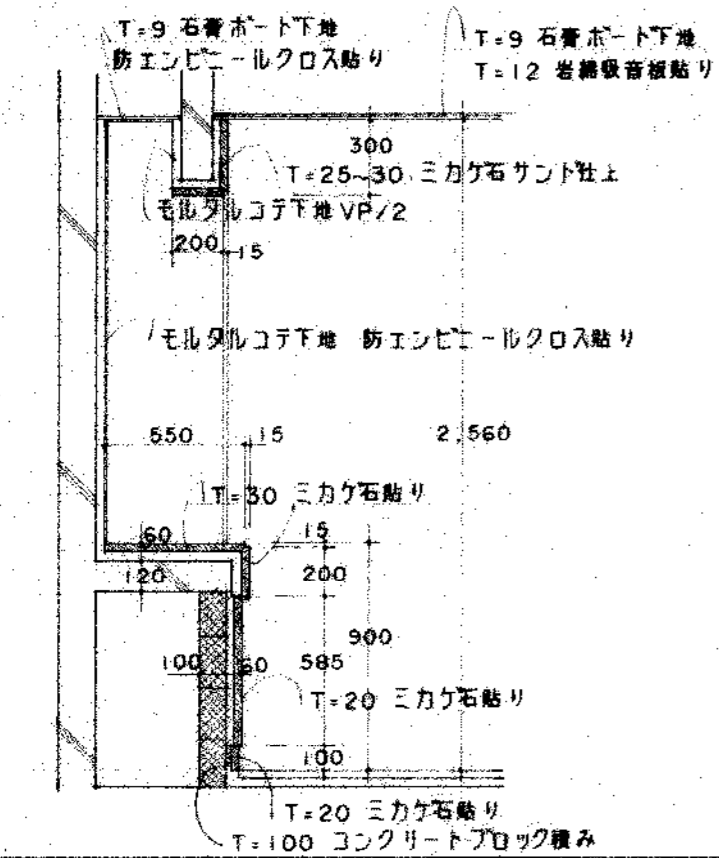
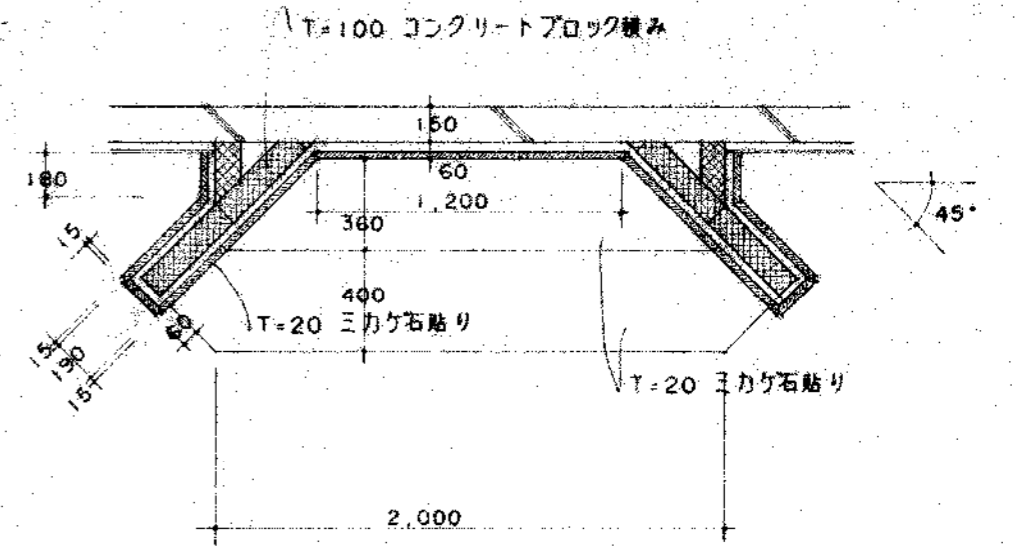
16 待合ホールカウンター 詳細図 S=1/30



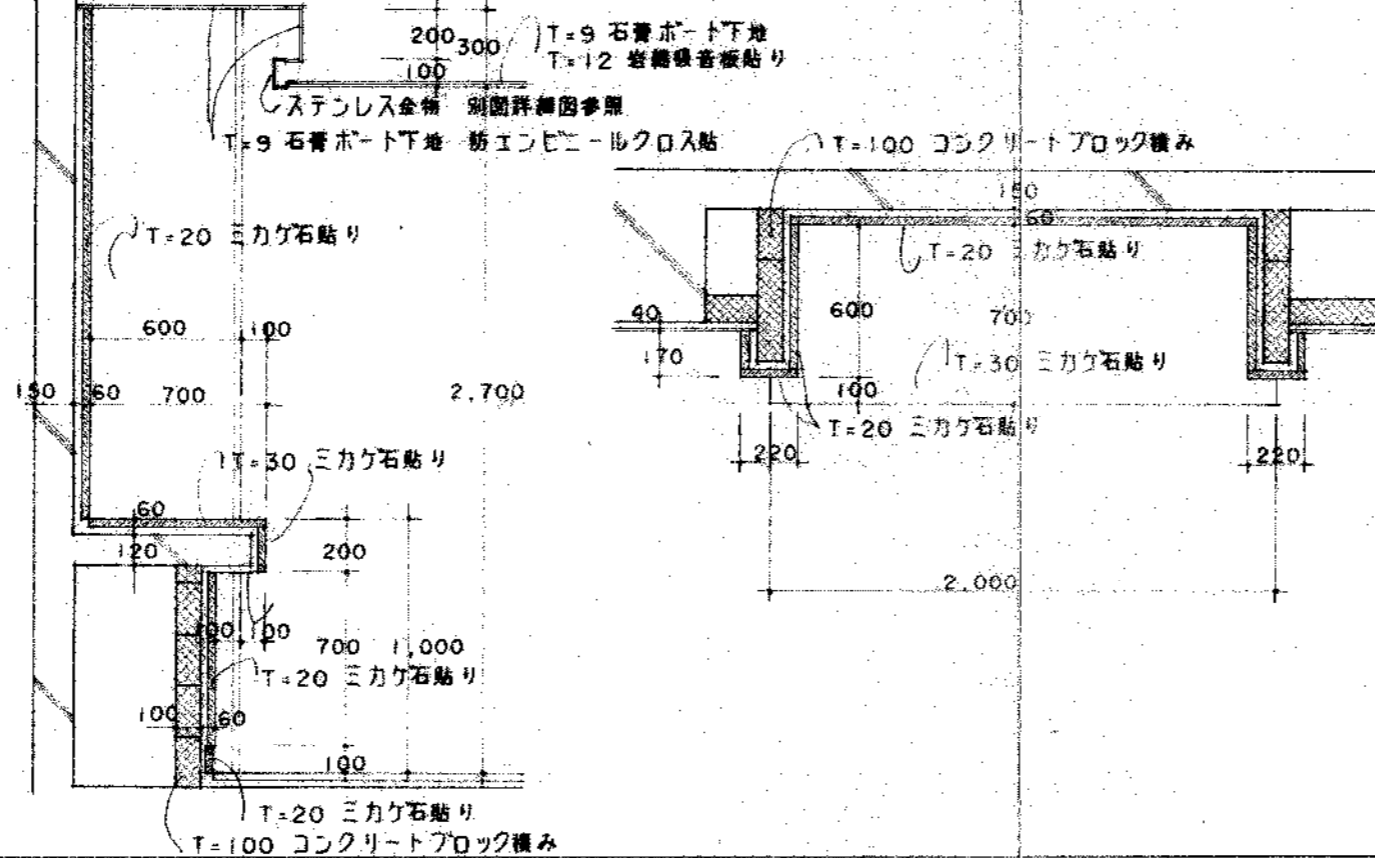
17 待合ホールTELカウンター詳細図 S=1/30



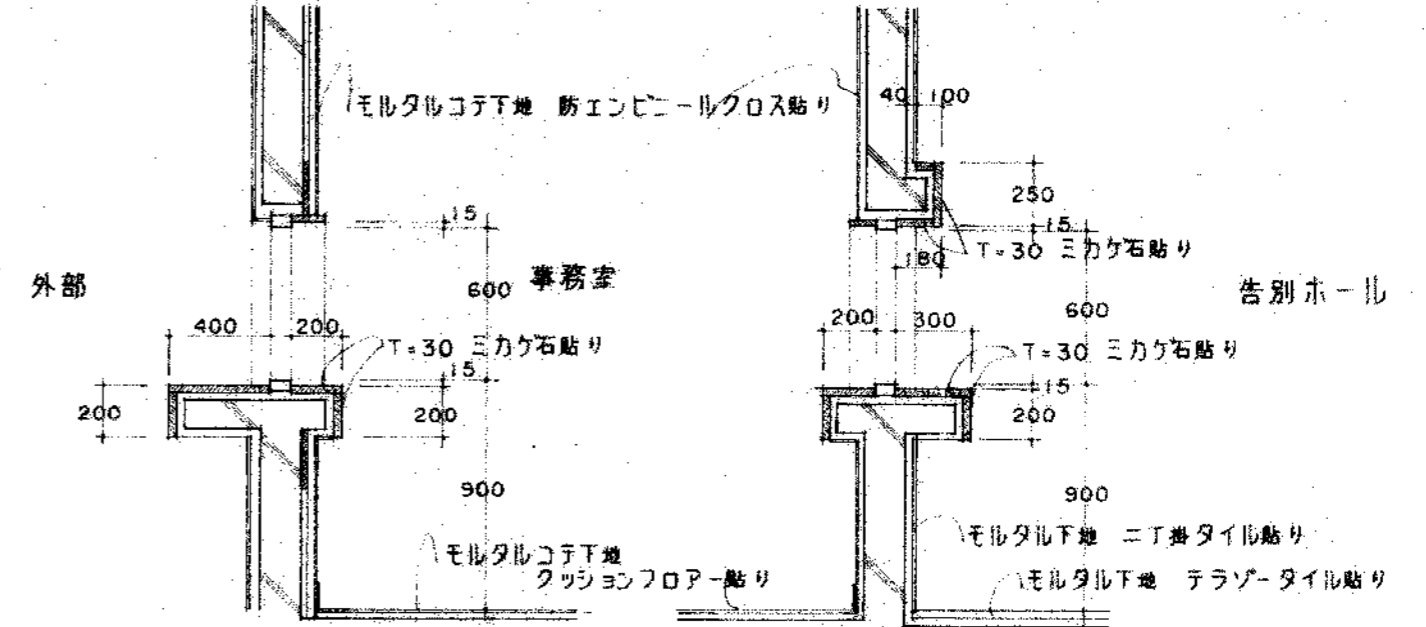
18 告別ホール祭壇 詳細図 S=1/30



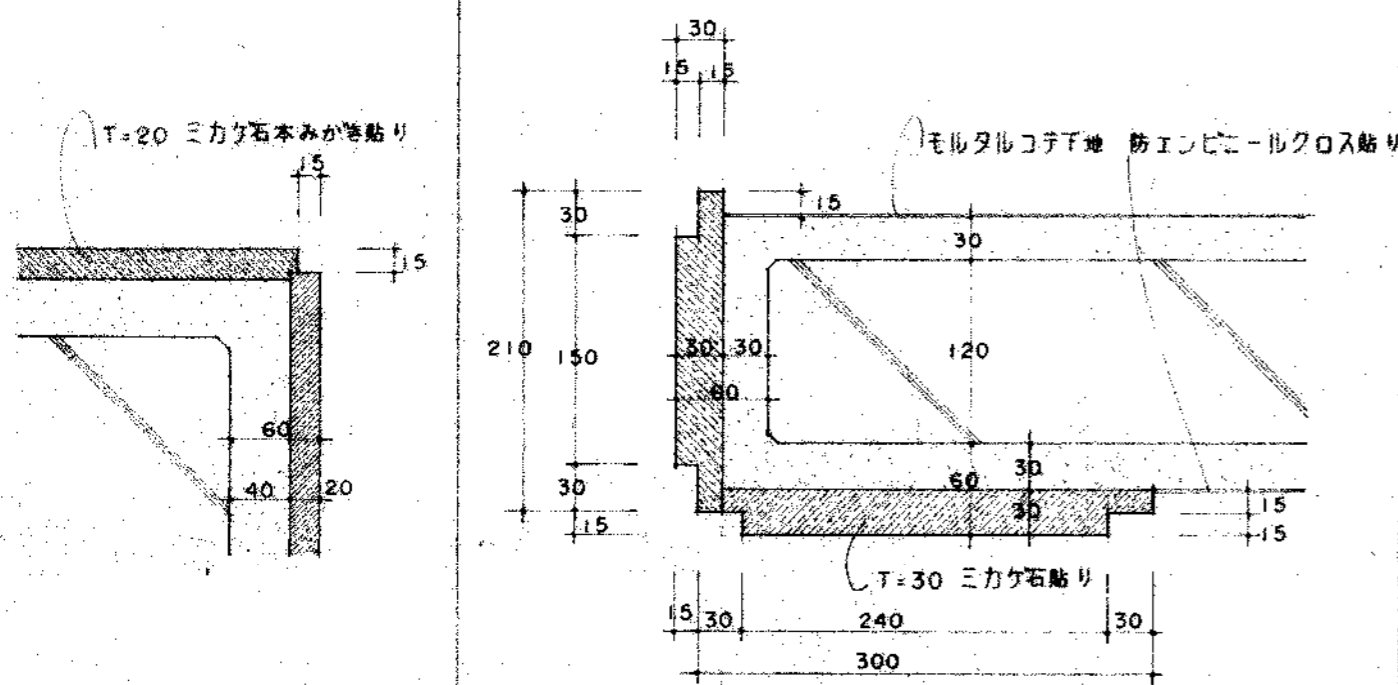
19 告別ホールカウンター 詳細図 S=1/30



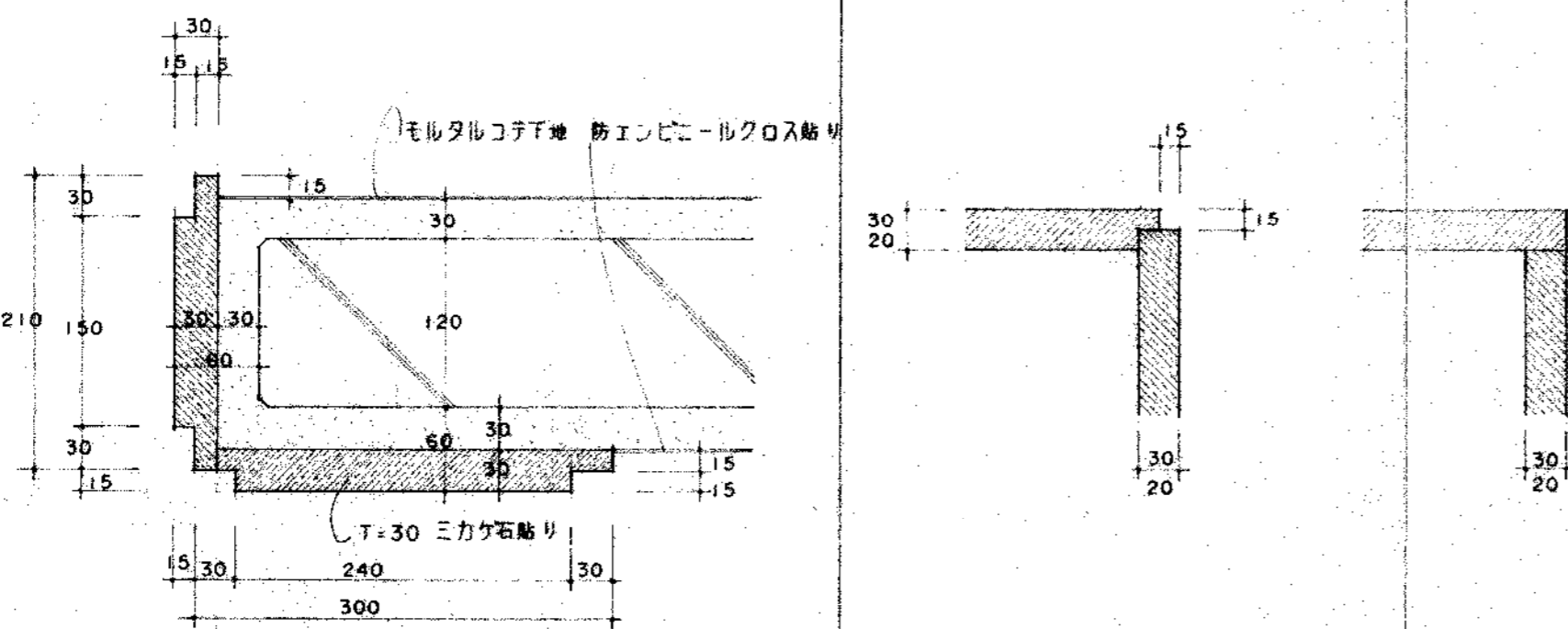
20 収骨室祭壇 詳細図 S=1/30



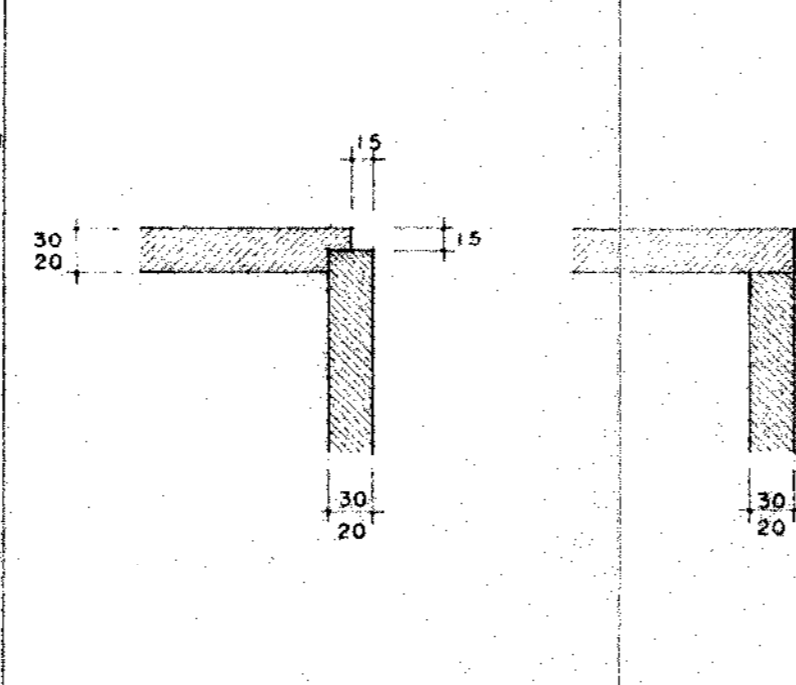
21 事務室カウンター 詳細図 S=1/30



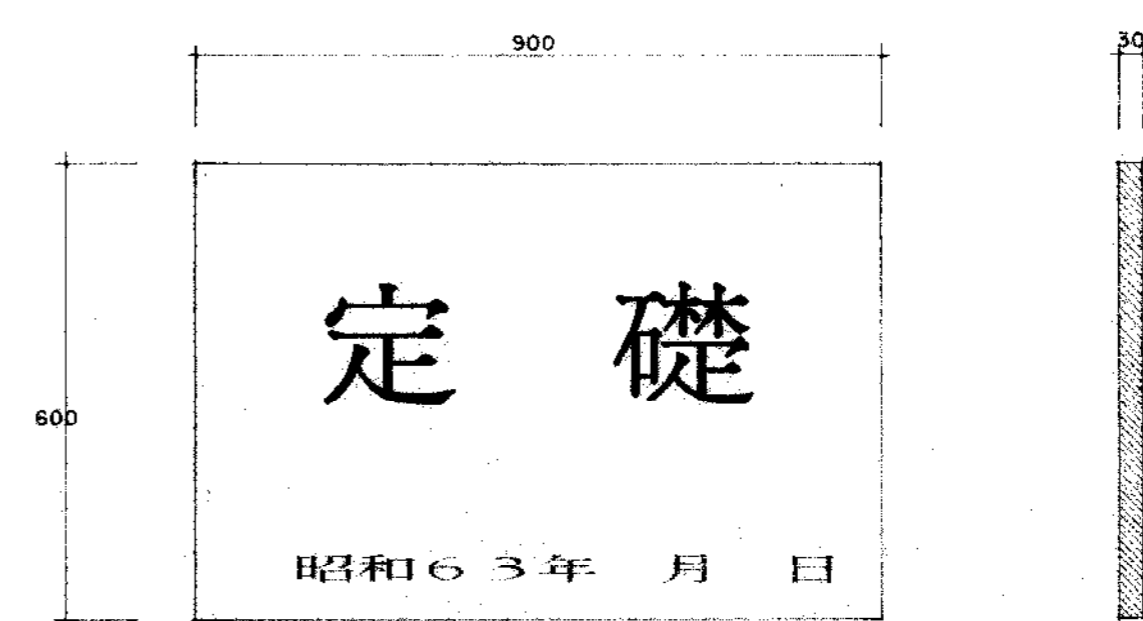
22 待合ホール壁面柱型ミカゲ石貼 詳細図 S=1/5



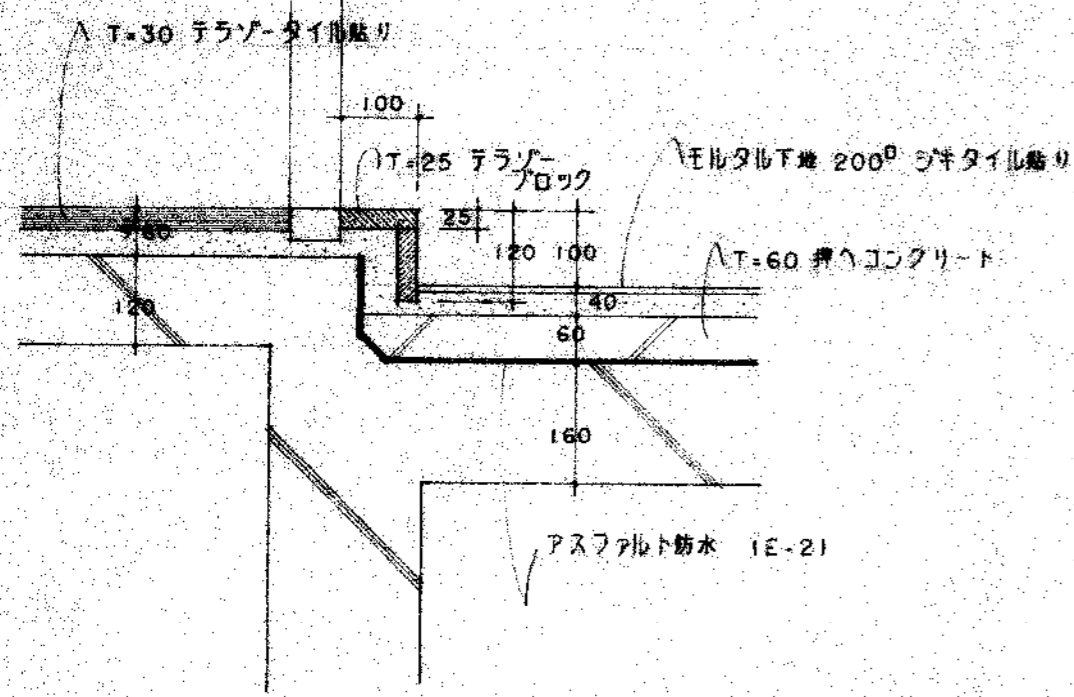
23 便所前室三方枠 詳細図 S=1/5



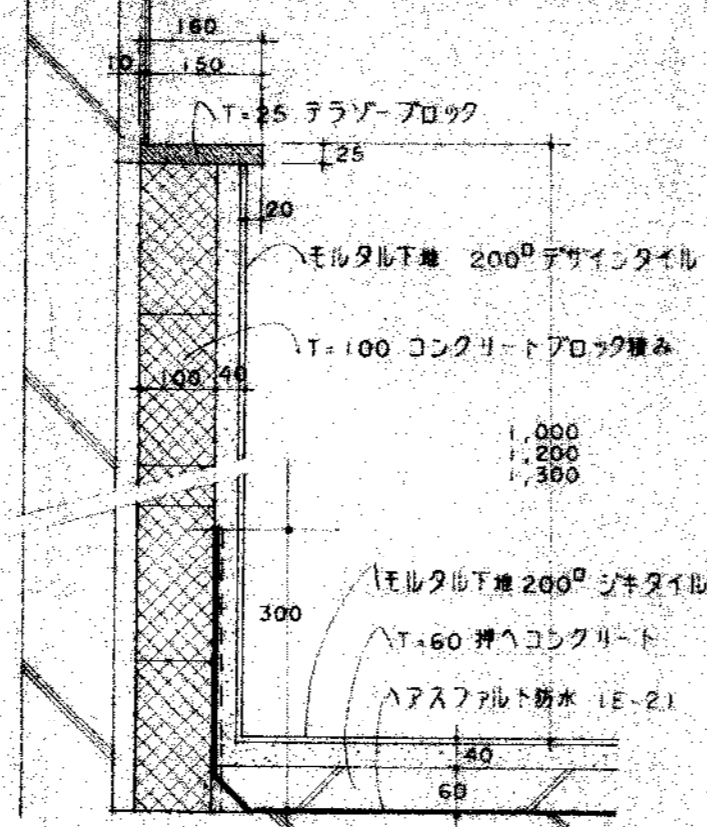
24 ミカゲ石貼 コーナー部 詳細図 S=1/5



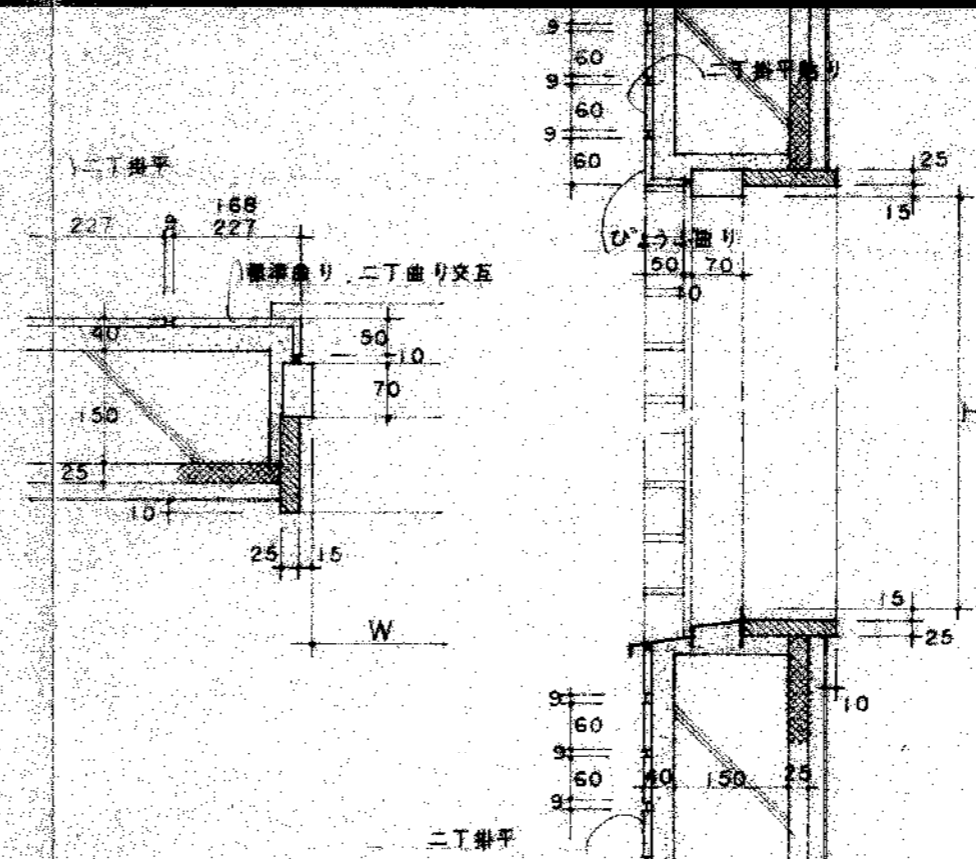
25 定礎 ミカゲ石 詳細図 S=1/10



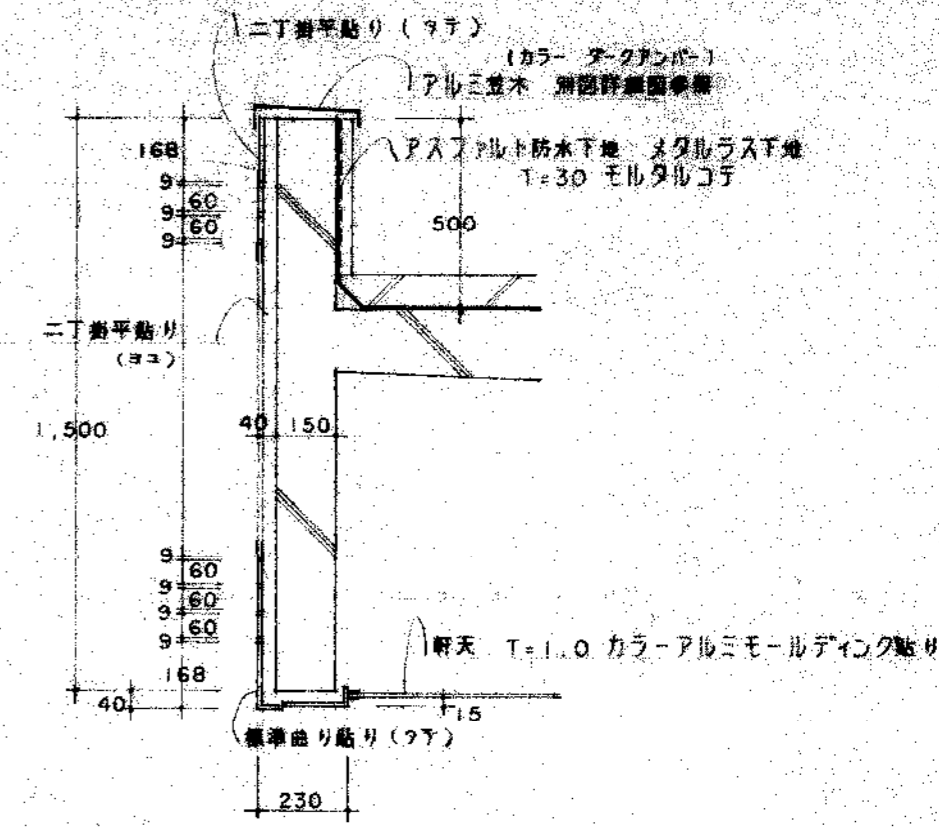
26 便所クツスリ 詳細図 S=1/10



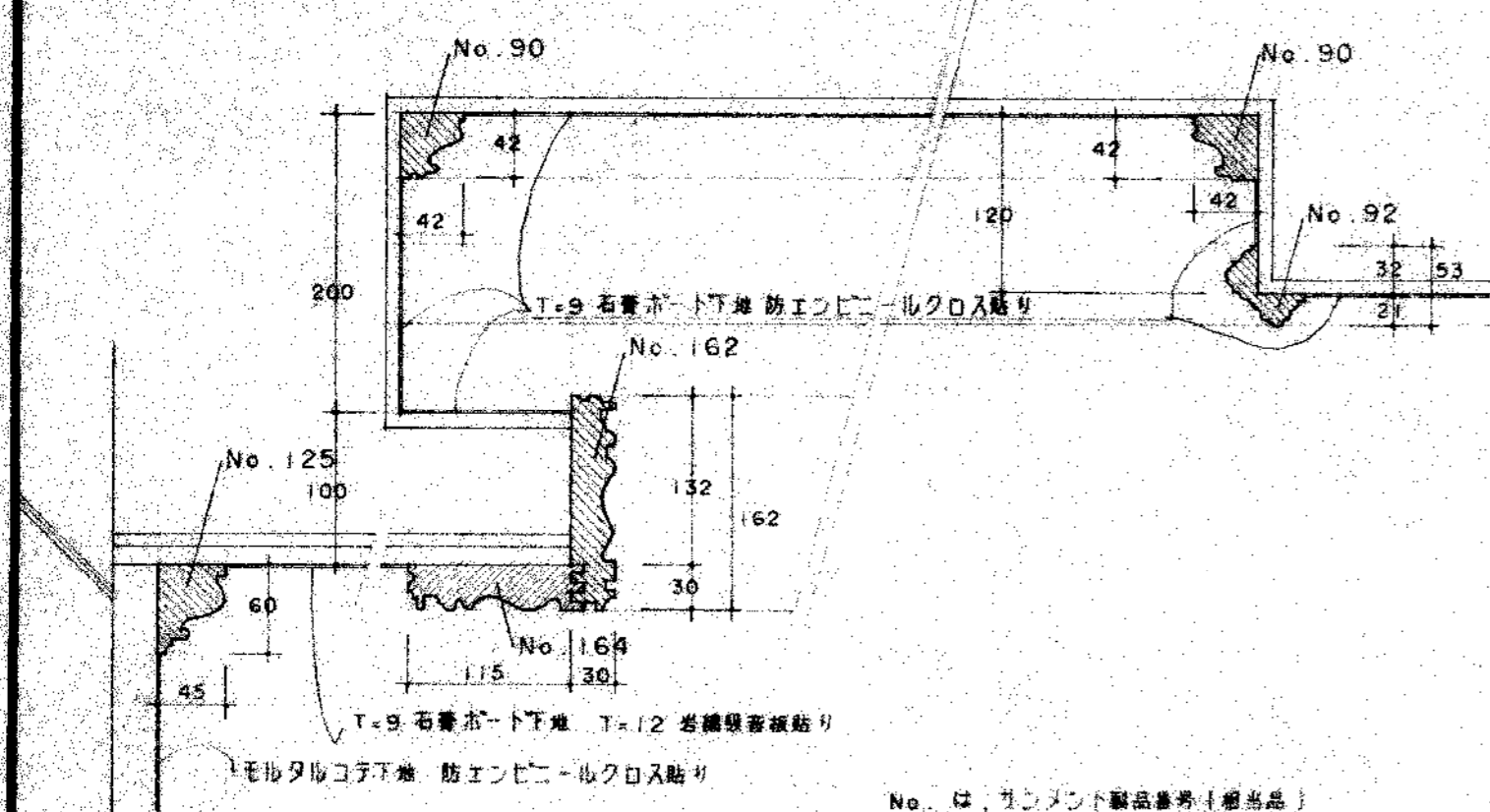
27 便所タナ板 詳細図 S=1/10



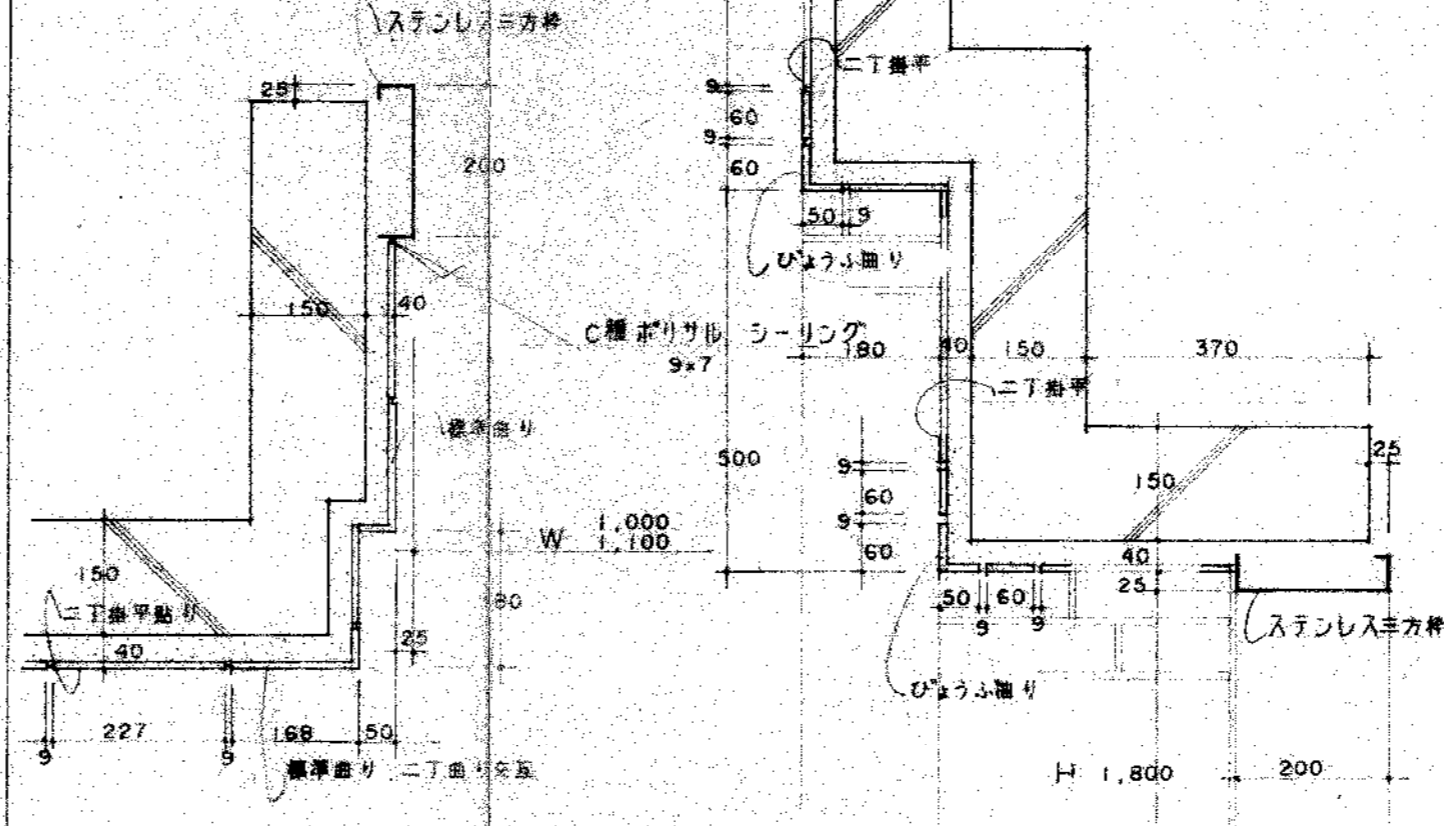
28 窓廻り 詳細図 S=1/10



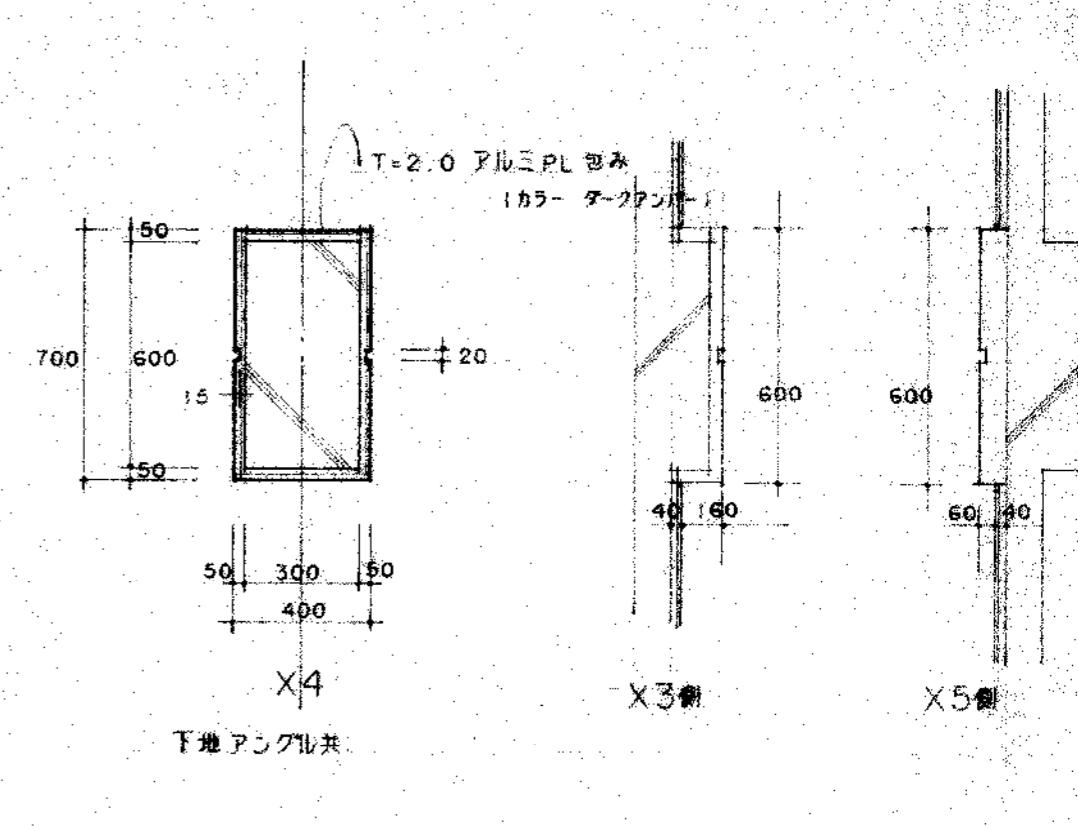
29 バラベット 詳細図 S=1/20



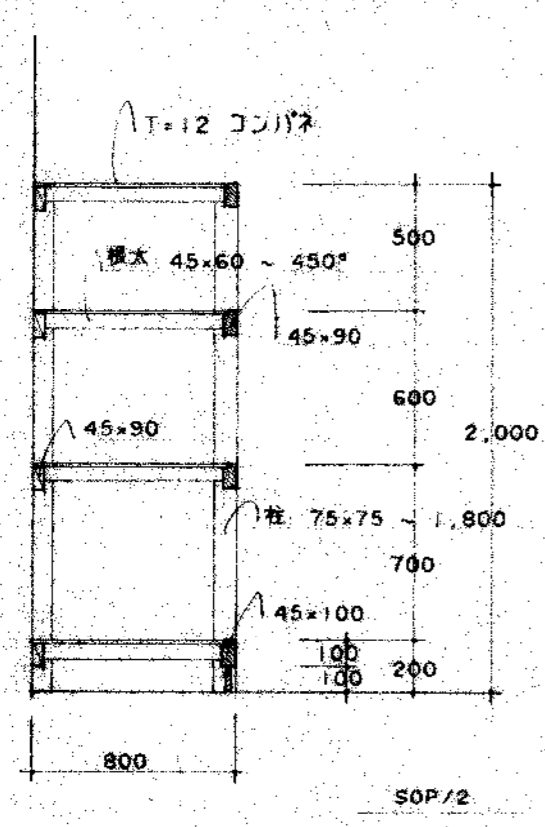
30 待合ホール天井化粧回り縁 詳細図 S=1/5



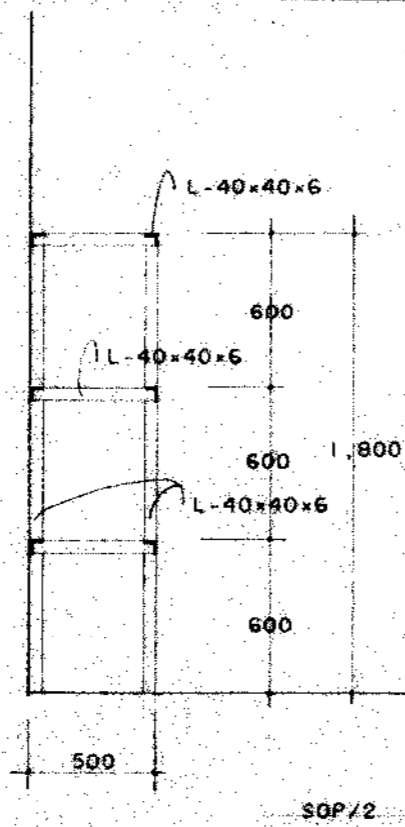
31 戸開口部 詳細図 S=1/10



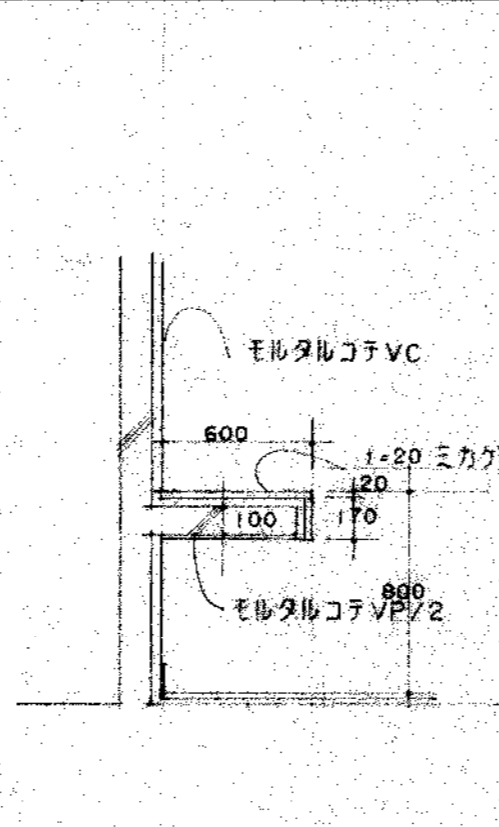
32 梁包み 詳細図 S=1/20



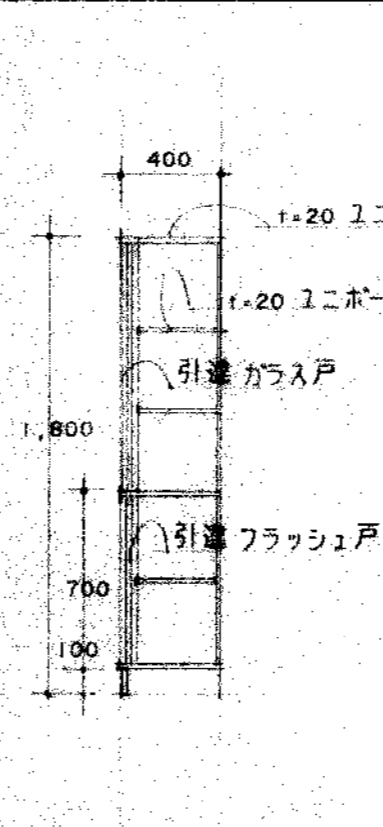
33 倉庫タナ 詳細図 S=1/30



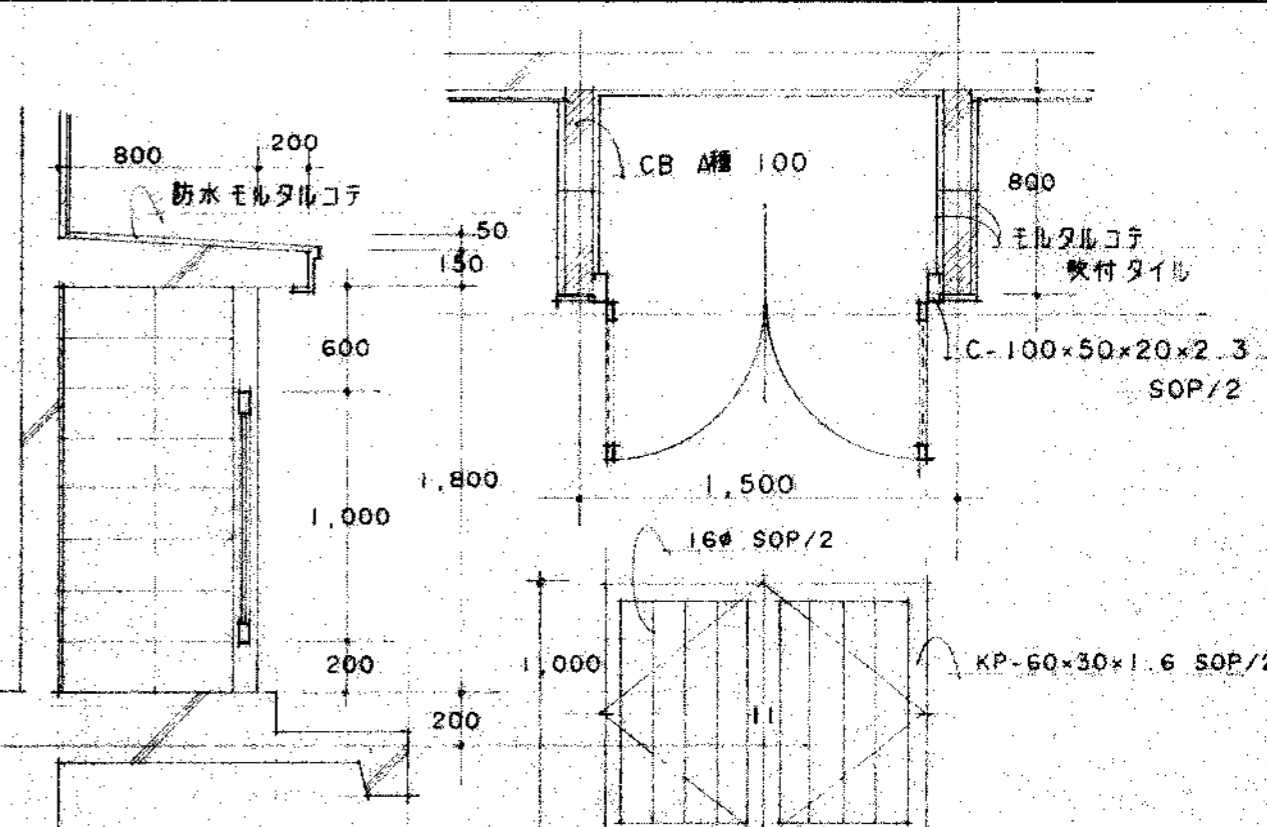
34 車庫タナ 詳細図 S=1/30



35 湯沸室 カウンター 詳細図 S=1/30

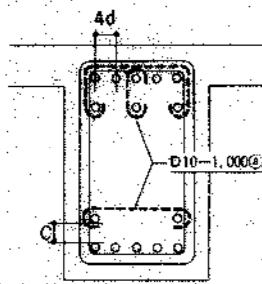


36 湯沸室 戸構 詳細図 S=1/30



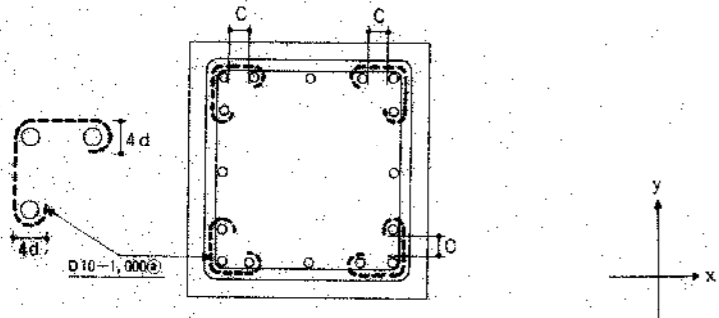
37 戸口窓 詳細図 S=1/30

(b) はりの2段配筋の間隔は4.2.1図による。



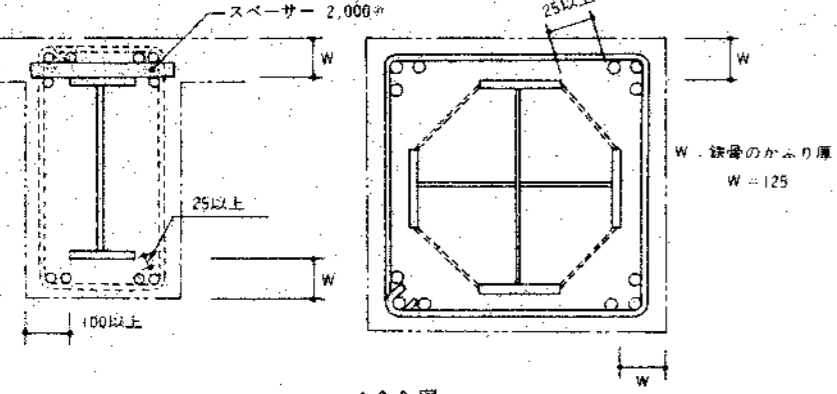
(注) 1. 鉄筋相互のあき(C)は4.2.2表による。
4.2.1図

(c) 柱の配筋において、x・y両方向に作用する主筋を用いる場合の間隔は4.2.2図により補強筋によって鉄筋の位置を確保する。



(注) 1. 鉄筋相互のあき(C)は4.2.2表による。
4.2.2図

(d) 主筋と軸方向鉄骨との間隔及び鉄骨のかぶり厚さは4.2.3図による。



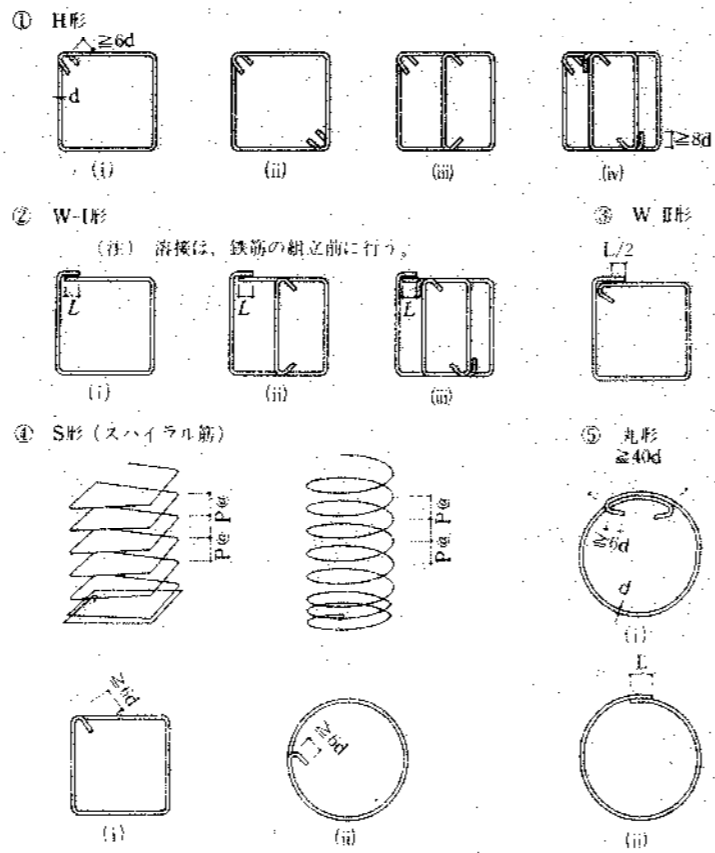
4.2.3図

2. 帯筋

(a) 帯筋の1組の数、径、間隔(P@)及び組立ての形は図示による。ただし、径及び間隔は、下記を標準とする。
柱の最大径>600 D13-100 @
≤600 D10-100 @

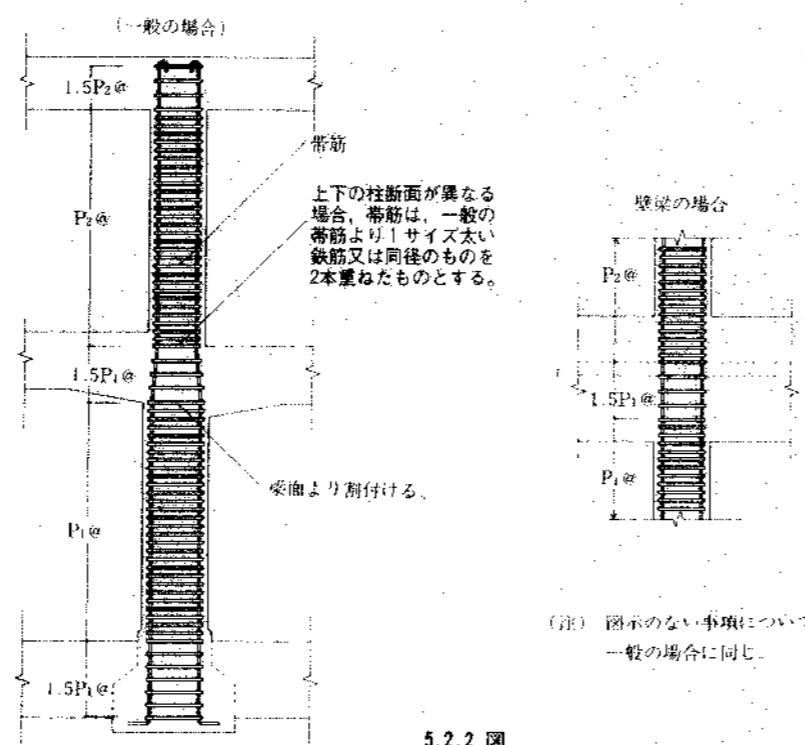
(b) 帯筋組立ての形は、5.2.1図とし、種別は図示による。ただし、図示がなければ、下記による。

- (1) H形とする。
- (2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (3) 更に、W-I形が困難な場合は、監督員の承諾を受けて、W-II形とすることができる。
- (4) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- (5) フック及び継手の位置は、交互とする。



5.2.1図 帯筋の形

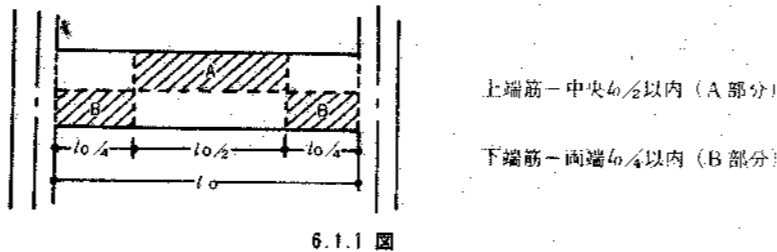
(c) 帯筋の割付け



5.2.2図

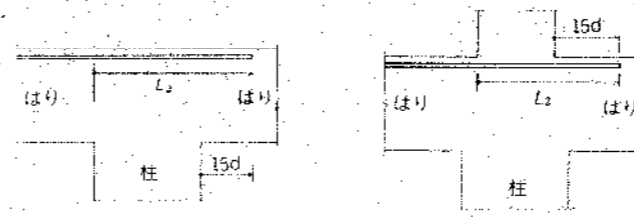
1. 大ばり筋の継手及び定着

(a) 一般事項
(1) 継手及び圧接中心位置の範囲は6.1.1図による。



6.1.1図

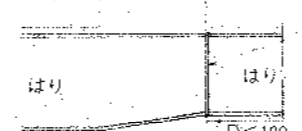
(2) 継手長さはLとし、定着長さ及び余長は、下記(b)及び(c)による。
(3) はり筋で、柱をまたいで引通すことのできない場合は、柱内に定着する。なお、はり内に定着する場合は6.1.2図による。



6.1.2図

(4) はり筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を超えてから縦に降ろす。
(5) はりにハンチをつける場合、その傾斜は図示による。ただし、図示がなければ1:4とする。

- ① D≤100の場合は、6.1.3図による。
- ② D>100の場合は鉄筋を柱内に定着する。



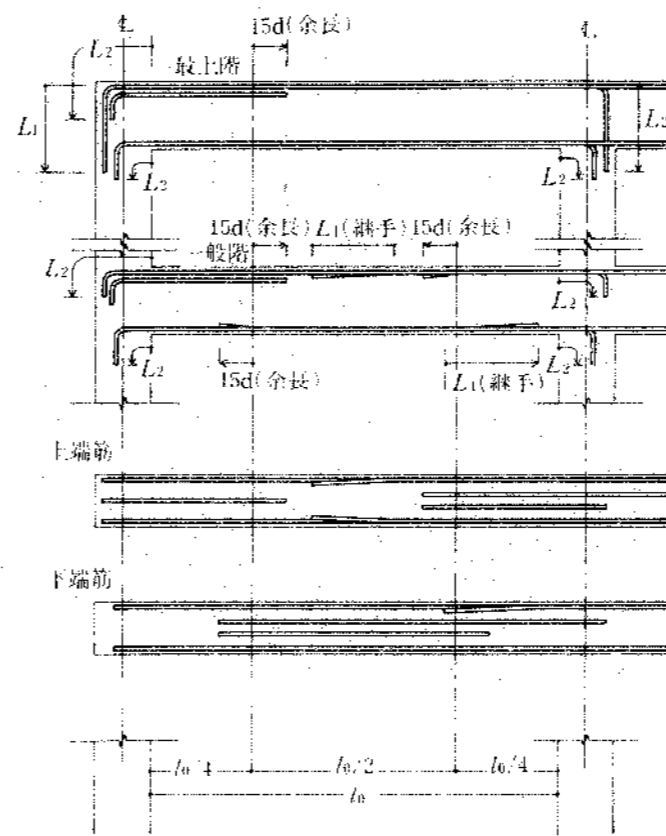
6.1.3図

(7) はり筋の柱内定着部分の選択方法は、6.1.4図を標準とする。



6.1.4図

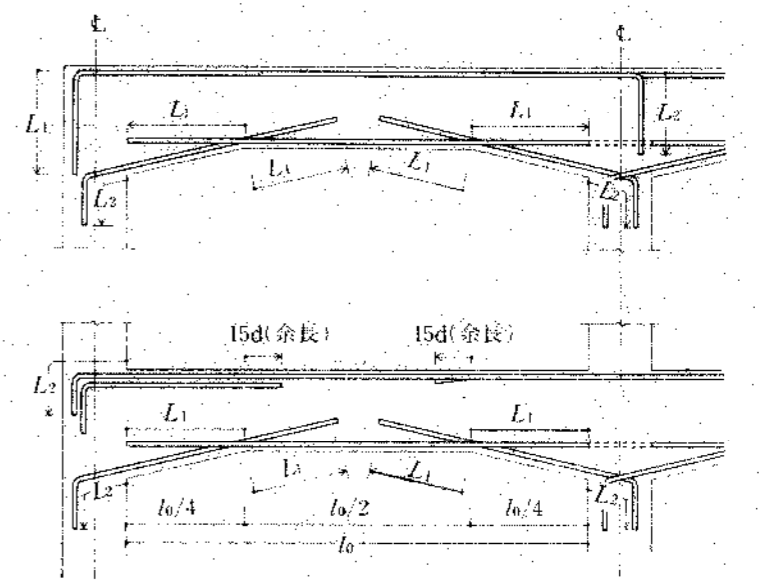
(b) 異形鉄筋でハンチのない場合



(注) 1. 2.1で定めた鉄筋には、フックをつける。
2. 印は継手、及び余長を示す。

6.1.5図

(c) 異形鉄筋でハンチのある場合



(注) 1. ハンチのない端部下筋は、原則として引通し、残りの鉄筋は柱内に定着する。
2. はり内定着の端部下筋が接近するときは、*****のように引通すことができる。
3. 2.1で定めた鉄筋には、フックをつける。

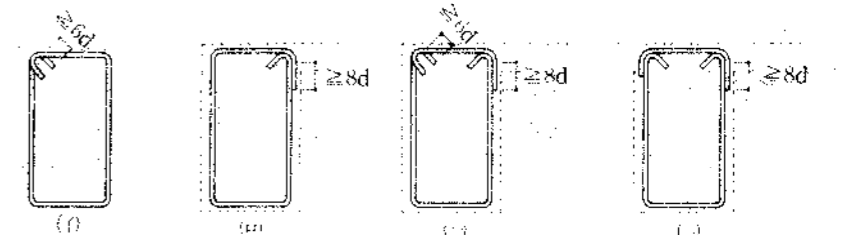
6.1.6図

2. あばら筋、腹筋及び幅止め筋

(a) あばら筋の径及び間隔は図示による。ただし、径及び間隔は下記を標準とする。
はり幅≤350 D10-200 @ (あばら筋比0.2%以上)
350<はり幅≤450 D10-150 @ (あばら筋比0.2%以上)
壁はり D10-160 @ (あばら筋比0.2%以上)

(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置

(1) 形は、6.2.1図(イ)とする。ただし、L形ばりの場合は(ロ)又は(ハ)、T形ばりの場合は(イ)から(ロ)とすることができる。

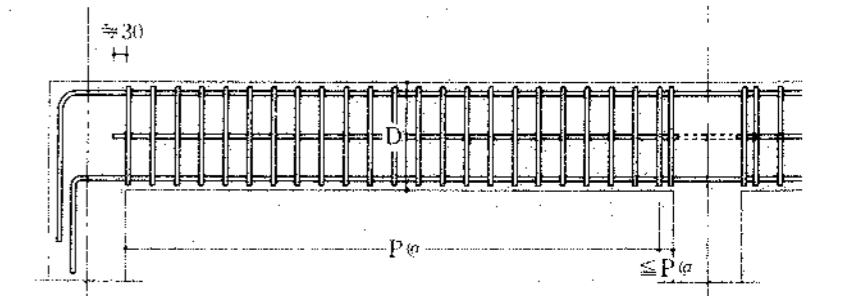


6.2.1図

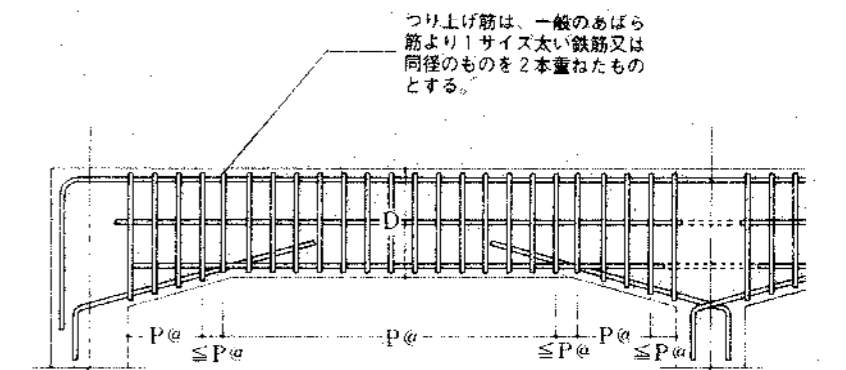
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形では床版のつく側、T形では交互とする。

(c) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



(2) 間隔が一樣でハンチのある場合



つり上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

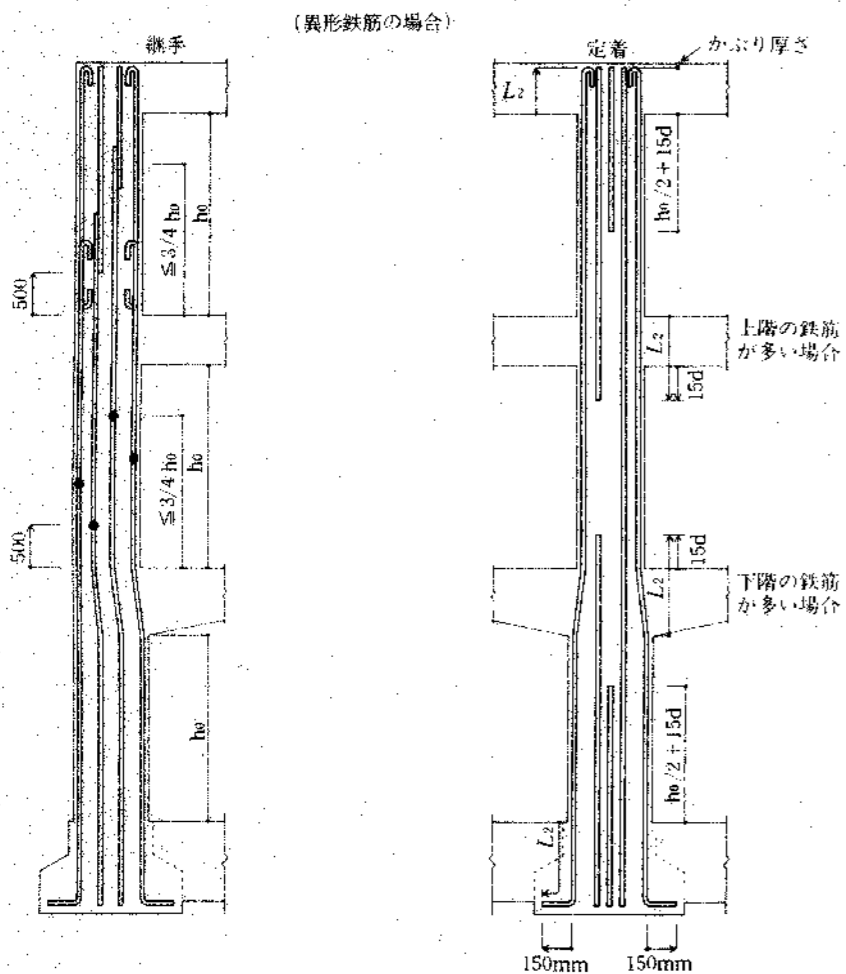
5 柱

1. 柱筋の継手及び定着

(a) 一般事項
(1) 継手及び圧接中心位置は、はり上端から500以上かつ3/4ho(hoは柱の内のり高さ)以下とする。

(2) 継手長さはLとし、定着長さ及び余長は、下記(b)による。

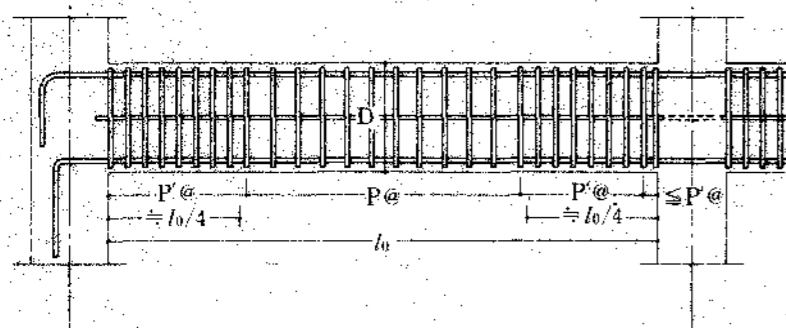
(b) 異形鉄筋の場合



(注) 1. 両合う継手の位置は、3.3.1表による。
2. 2.1で定めた鉄筋には、フックをつける。

5.1.1図

(3) はりの端部で間隔の異なる場合

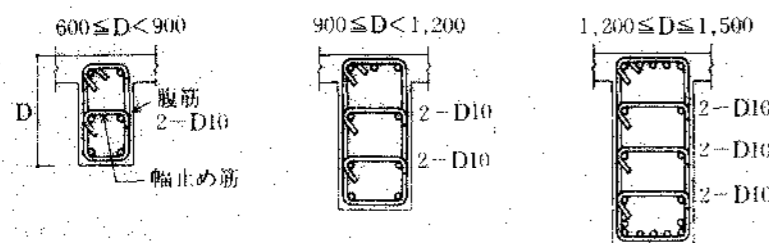


(注) あばら筋は、柱面位置から測付ける。

6.2.2 図

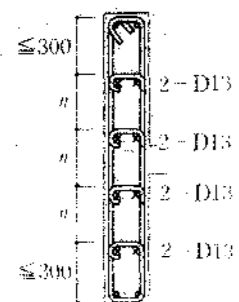
(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般のはり



6.2.3 図

(2) 壁はり

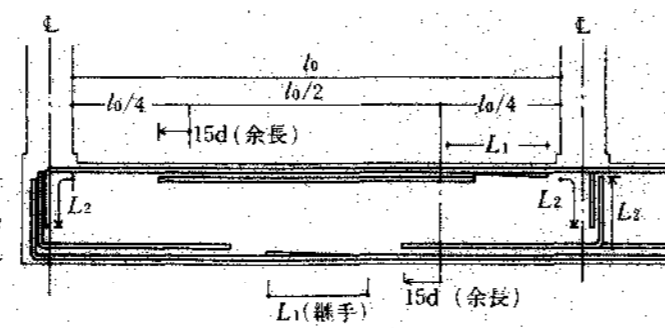


(注) 壁はりの場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは図示による。ただし、定着長さ及び継手長さは L_2 を標準とする。

6.2.4 図

(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、(D10又は9φ) - 1000@程度とする。

(c) 異形鉄筋で連続基礎及びべた基礎の場合

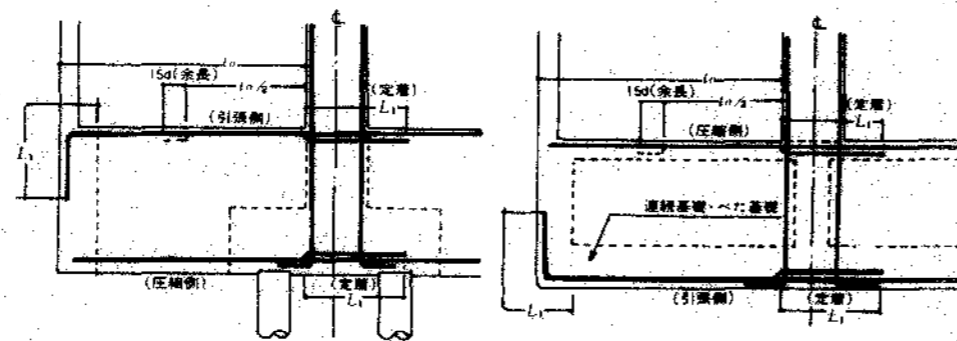


(注) 1. 図示のない事項は、6章による。
2. 印は継手、及び余長位置を示す。

7.1.3 図

(d) 異形鉄筋で片持ちり基礎の場合

(1) 地反力を受けない場合(独立基礎) (2) 地反力を受ける場合(連続基礎、べた基礎)



(注) 1. 図示のない事項は、6による。
2. 印は、継手位置を示す。
3. 印は、余長を示す

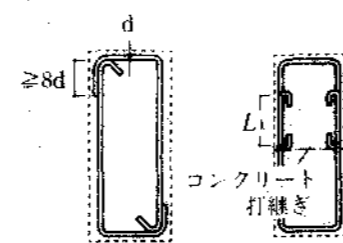
7.1.4 図

(e) 丸鋼の場合も上記に準じ、全ての末端部にフックを付ける。

2. あばら筋

あばら筋

(1) あばら筋の径及び間隔は特記による。
(2) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、大ばりのあばら筋の項による。但し、はりせいが1.5m以上の場合は7.2.1図によることができる。

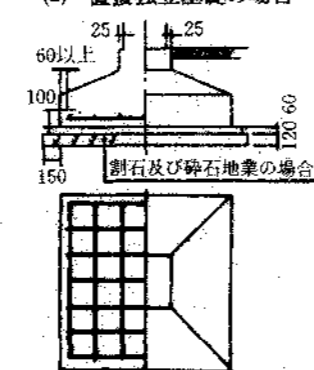


7.2.1 図

8 基礎

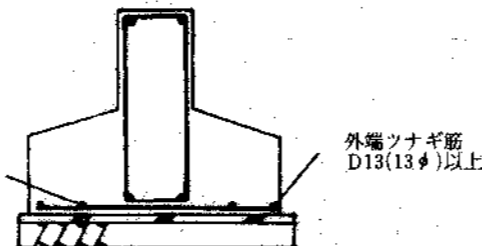
1. 基礎の配筋と捨コンクリート

(a) 直接独立基礎の場合



(b) 連続基礎の場合

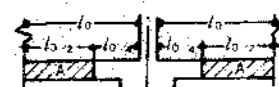
(1) 基本型



1. 基礎ばり筋の継手及び定着

(a) 一般事項

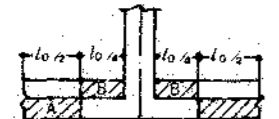
(1) 独立基礎で基礎ばりに床版がつく場合は、6による。
(2) 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きすることができる。
(3) 基礎ばり下端の地盤の種別及び厚さは図示による。ただし、捨コンクリートの厚さ及び砂利地盤の厚さは原則として60mmとする。
(4) 継手及び圧接中心位置の範囲は7.1.1図による。



独立基礎

上端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)

下端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)



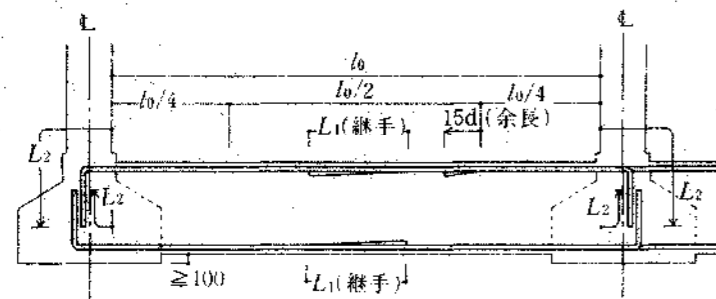
連続基礎及びべた基礎

上端筋-両端 $l_0/4$ 以内 (B部分)

下端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)

7.1.1 図

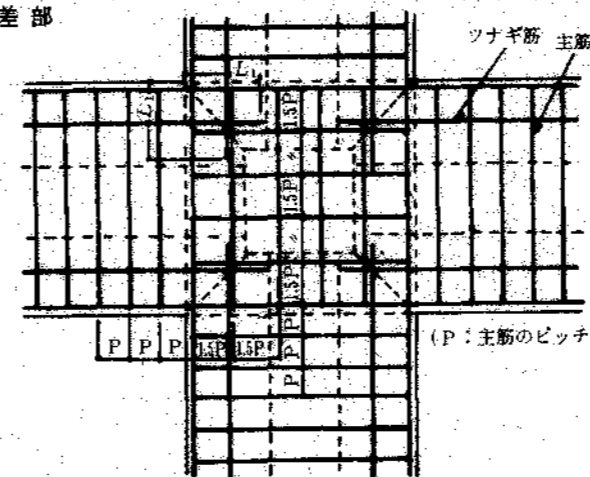
(b) 異形鉄筋で独立基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、6章による。
2. 印は、継手位置を示す。

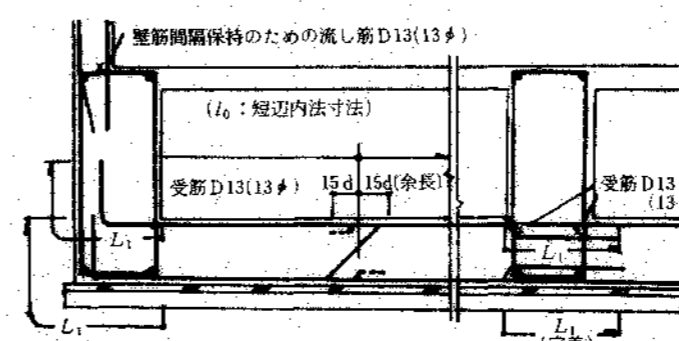
7.1.2 図

(2) 交差部

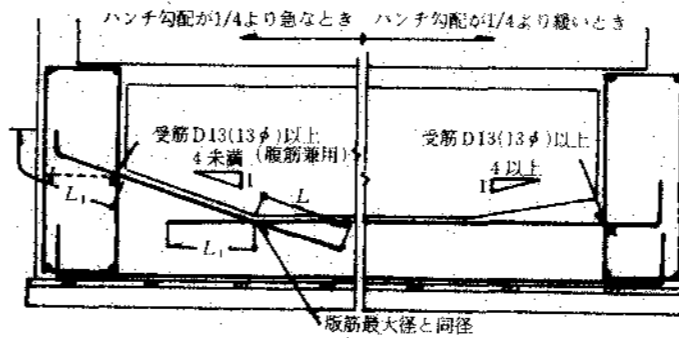


(d) べた基礎の場合

(1) ハンチのない場合



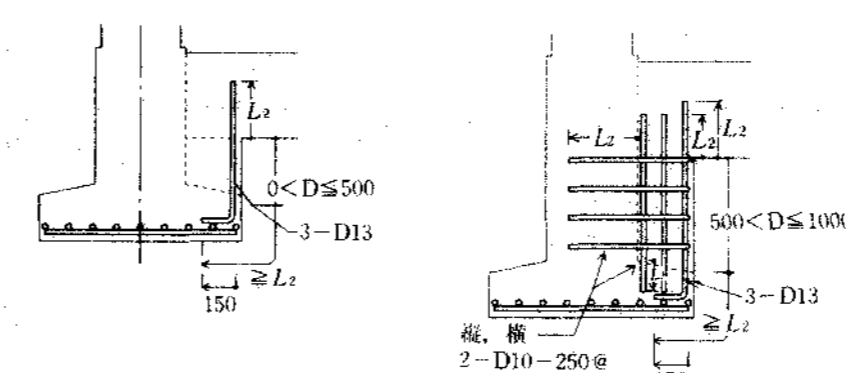
(2) ハンチのある場合



(注) 1. 捨コンクリートの厚さは60mmとし、フーチング外面より100mmとする。
2. 地盤の種別及び厚さは特記による。ただし、砂利地盤の場合は砂利地盤厚さ60mmとする。
3. 土に接する部分の柱のかぶり厚さは25mmふかしとする。
4. 図示のない事項は、6章による。
5. 印は、継手位置を示す。
6. 印は、余長を示す。

8.1.1 図

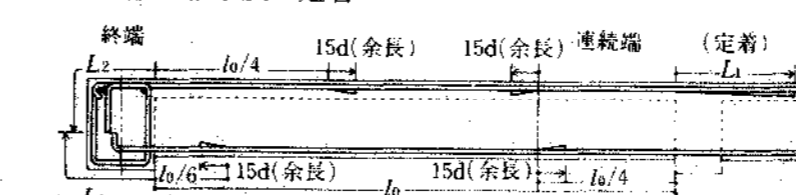
2. 基礎接合部の補強



8.3.1 図

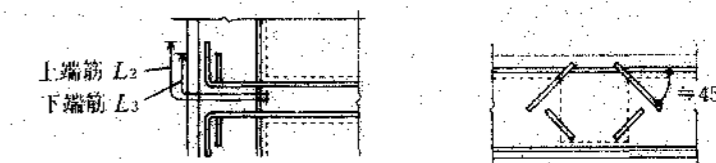
(注) D > 1000の場合には図面特記による。

1. 小ばり筋の継手及び定着



9 小ばり及び

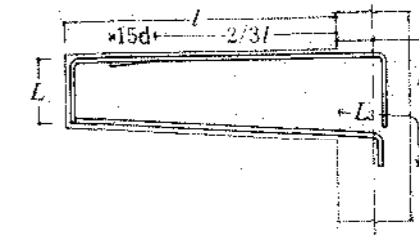
片持ちり



(注) 1. 図示のない事項は、6章による。
2. 終端になる場合の四すみの鉄筋は、大ばり内に斜めに定着する。
3. 印は、継手位置を示す。

2. 片持ちり筋の定着

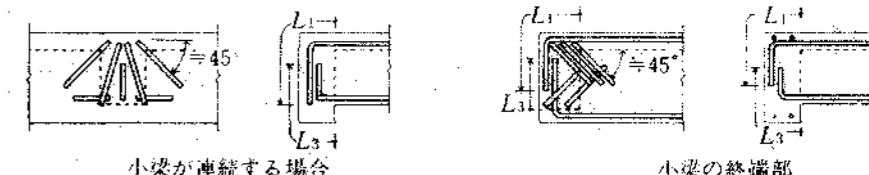
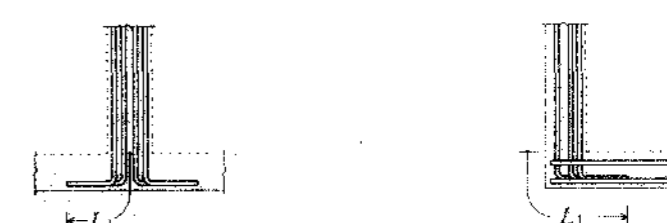
(a) 先端に小ばりのない場合



9.2.1 図

(注) 1. 図示のない事項は、6章による。
2. 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さ L_1 は、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
4. はり筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

(b) 先端に小ばりがある場合



小梁が連続する場合 小梁の終端部

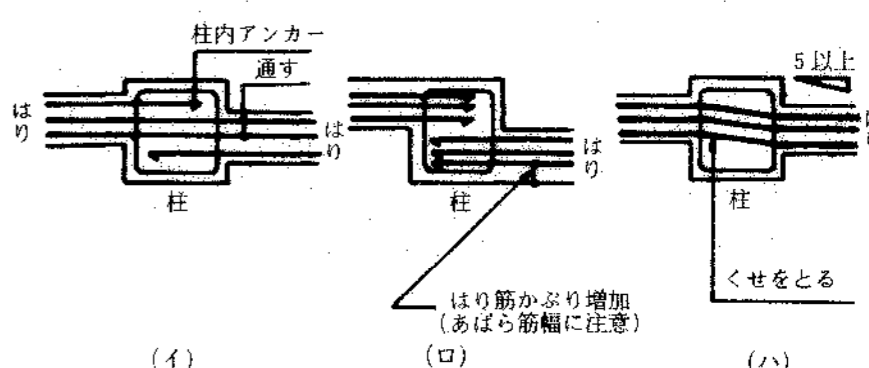
(注) 1. 図示のない事項は、上記(a)による。
2. 上端筋は、小ばり内に斜めに定着する。

9.2.2 図

10 はり主筋のおさまり

1. 平面上ではり心がずれる場合

(a) はり心が左右でずれる場合のおさまりは10.1.1図による。



(イ) (ロ) (ハ)

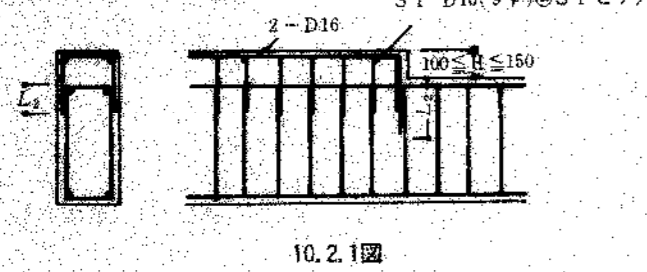
10.1.1 図

(b) はり天端に段違いがあり、かつ平面上のはり心が、ずれる場合には、左右のはり主筋は柱へ定着する。

2. 側面上で段違い部分がある場合

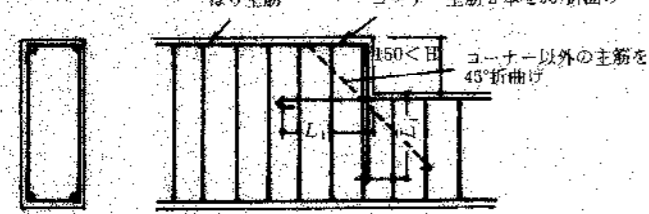
(a) 上端段違い部分

(1) $100 \leq H \leq 150$ の場合



10.2.1図

(2) $150 < H$ の場合

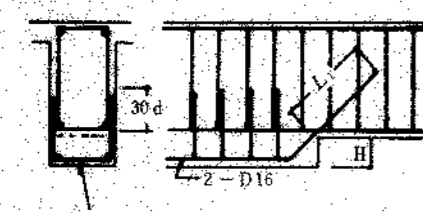


10.2.2図

(3) $H < 100$ の場合は緩やかに曲げ、連続配筋とすることができる。

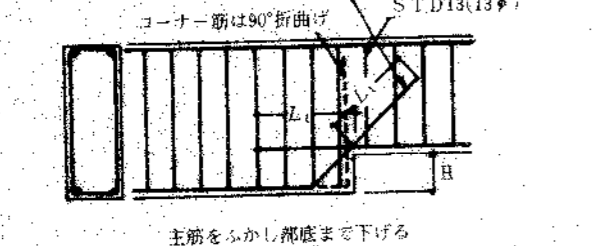
(b) 下端段違い部分

(1) $100 \leq H \leq 150$ の場合



STPD10U@STPピッチ 10.2.3図

(2) $H > 150$ の場合



10.2.4図

(3) $H < 100$ の場合は緩やかに曲げ、連続配筋とすることができる。

3. 片持ち床版形階段を受ける壁の基準配筋は、11.3.1表により、種別は図示による。

11.3.1表

種別	断面図	縦筋及び横筋	配筋種別 (11.3.1表)
KW ₁		縦筋	D13-200@ダブル
		横筋	D10-200@ダブル
KW ₂		縦筋	D13-150@ダブル
		横筋	D10-200@ダブル

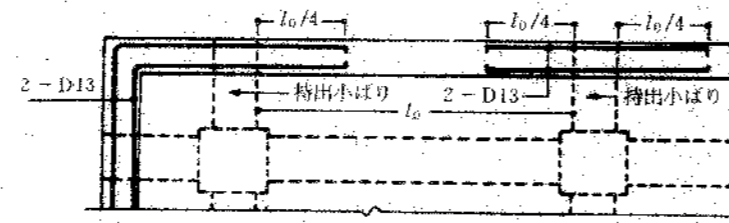
(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

4. パラベット及び外部に面する腰壁、垂れ壁の配筋

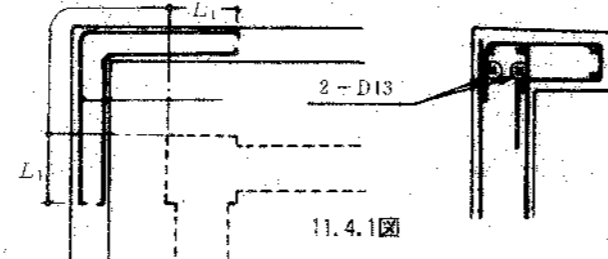
11.4.1表

施工箇所	コンクリート厚さ (mm)	方向	配筋	先端補強筋
パラベット	特記による	縦	D10-150@ダブル	
		横	D10-200@ダブル チドリ	
外部に面する腰壁及び垂れ壁	120	縦	D10-200@シングル	
		横	D10-100@シングル	
	150	縦	D10-150@シングル	
		横	D10-100@シングル	

(注) 1. パラベットの出隅部及び持出し小ばり部の補強は11.4.1図による。
2. 補強筋にはフックをつける。
(イ) 持出し小ばりのある場合



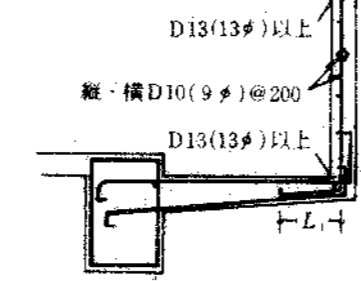
(ロ) 片持スラブの場合
はりの外面で囲まれる範囲



11.4.1図

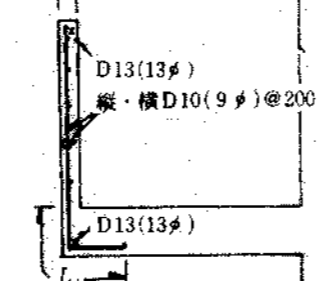
5. 手摺壁の配筋

(a) バルコニー等の手摺壁



11.5.1図

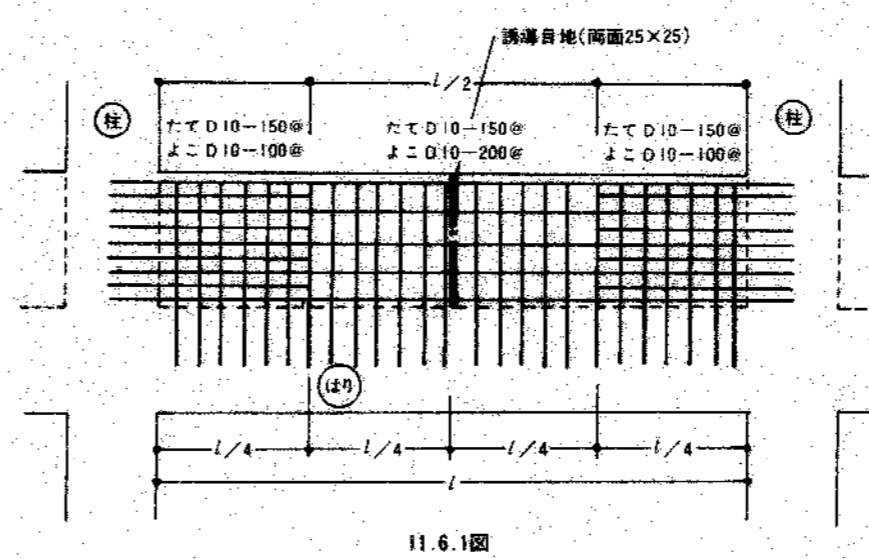
(b) 階段手摺壁



11.5.1図

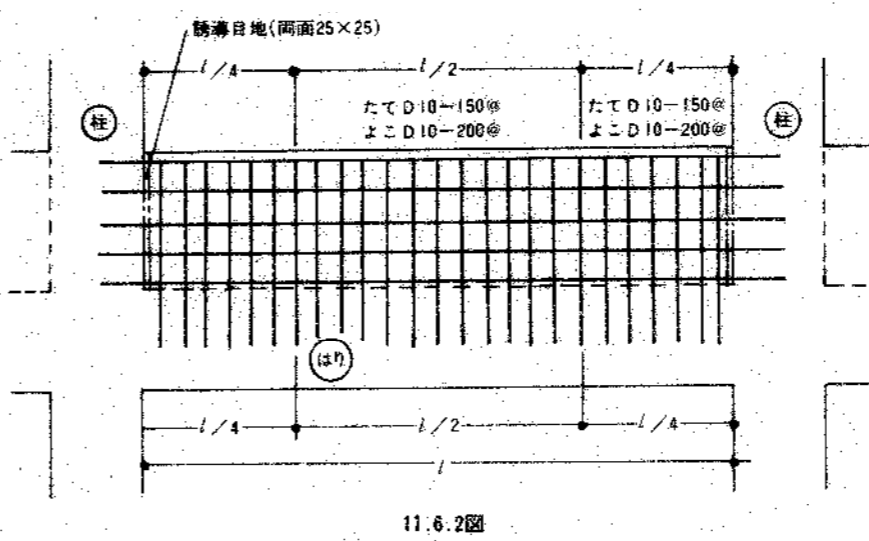
6. 腰壁にクラック誘導目地を設ける場合の配筋

(a) 中央に設ける場合



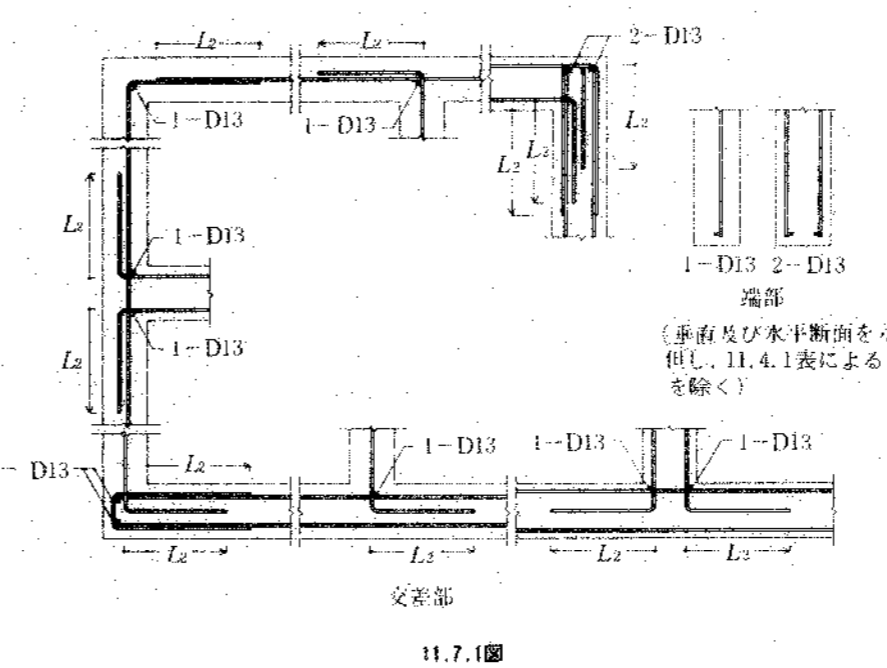
11.6.1図

(b) 両端に設ける場合



11.6.2図

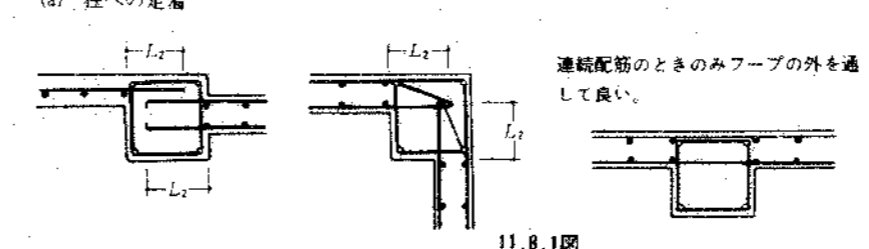
7. 交差部及び端部の配筋



11.7.1図

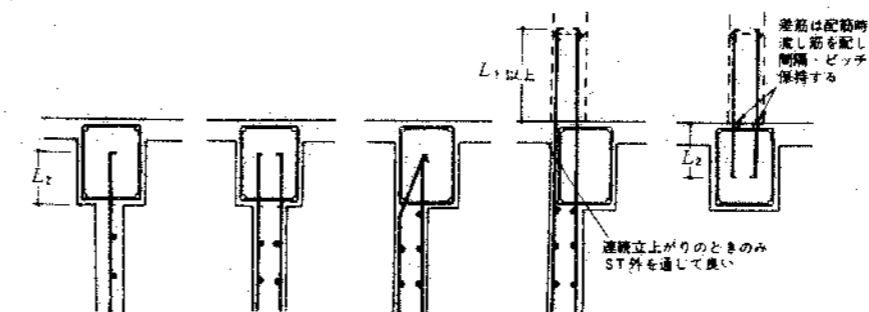
8. 定着

(a) 柱への定着



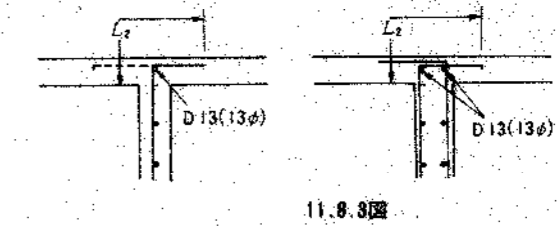
11.8.1図

(b) はりへの定着



11.8.2図

(C) スラブへの定着



11.8.3図

9. 壁開口部の補強

(a) 壁開口部の補強は、11.9.1表のA形及び11.9.2表のB形とし、図示がなければA形とする。ただし、耐震壁は除く。

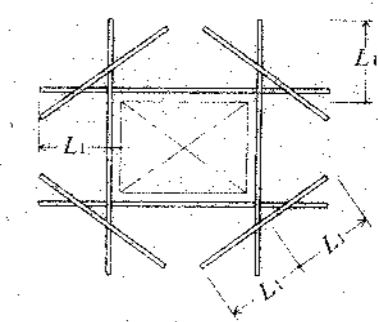
11.9.1表 A形

壁の種別	補強筋	
	縦・横	斜め
W ₁₂ , W ₁₅	1-D13	1-D13
W ₁₈ , W ₂₀	2-D13	2-D13

11.9.2表 B形

壁の種別	補強筋	
	縦・横	斜め
W ₁₂ , W ₁₅	2-D13	1-D13
W ₁₈ , W ₂₀	4-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強の定着長さ



11.9.1図

(c) 開口部が柱、はりに接する部分及び最大径が300mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることににより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

11 壁

1. 一般事項

- (a) 壁配筋の継手及び定着の長さは、 L_2 とする。
- (b) 土圧などを受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、継手長さを L_1 、定着長さを L_2 とする。
- (c) 継手及び定着のとれない場合は、監督員の承諾を受けて、添溶接 (両面5d以上又は片面10d以上) とすることができる。
- (d) 筋止め筋は、縦、横共 (9φ又はD10) -1,000@程度とする。

2. 壁の基準配筋は、11.2.1表により、種別は図示による。

なお、外部に面する腰壁及び垂れ壁の配筋は、11.4.1表による。

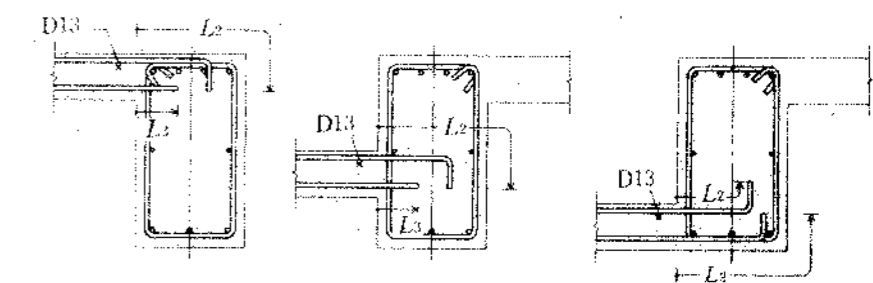
11.2.1表

種別	断面図	縦筋及び横筋
W ₁₀		D10-250@シングル
W ₁₂		D10-240@シングル
W ₁₅	A	D10-150@シングル
	B	D10-100@シングル
W ₁₈	A	D10-200@ダブル
	B	D10-150@ダブル
W ₂₀	A	D10-200@ダブル
	B	D10-150@ダブル

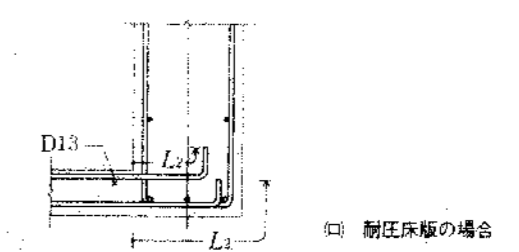
12 床版

1. 床版筋の継手及び定着

- (a) 継手長さは、 L_1 とする。
- (b) 定着長さ及び受け筋は、12.1.1図による。ただし、E形及びD形の場合は、12.3.1図及び12.3.2図による。
- (c) 継手長さのとれない場合は、配筋などを検討して添溶接とすることができる。ただし、片面溶接の場合は10d、両面では5dを標準とする。なお、dは鉄筋の公称直径を示す。
- (1) 一般の定着

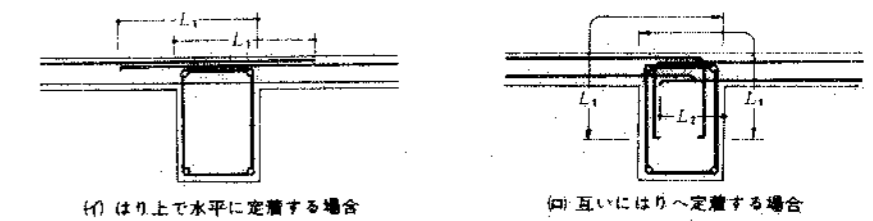


(イ) 一般床版の場合



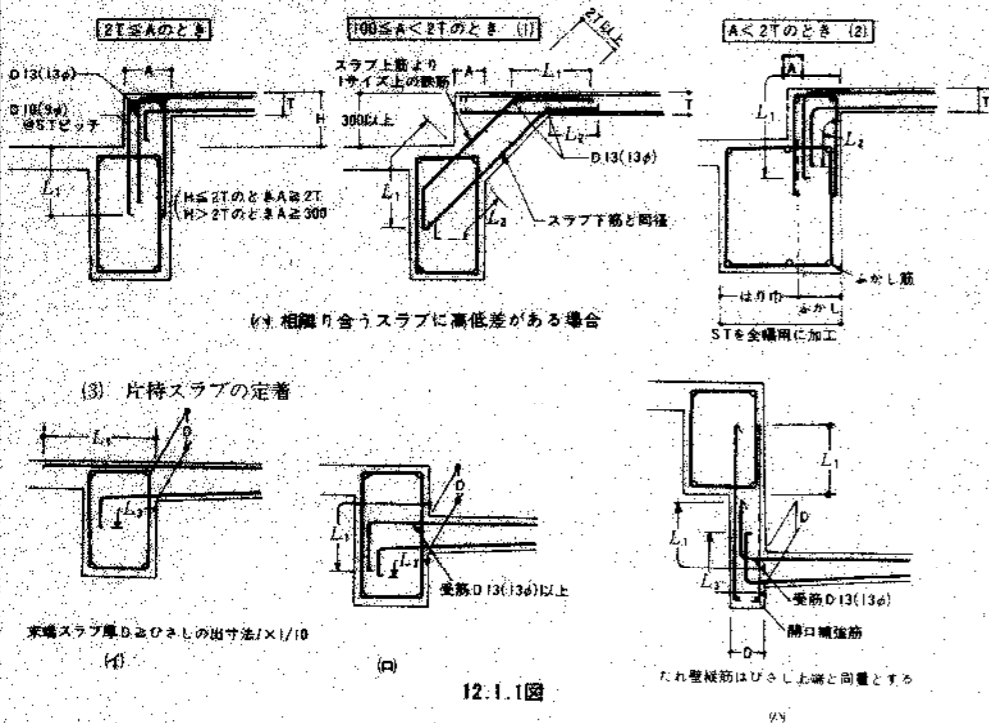
(ロ) 配筋床版の場合

(2) 相隣り合うスラブの定着



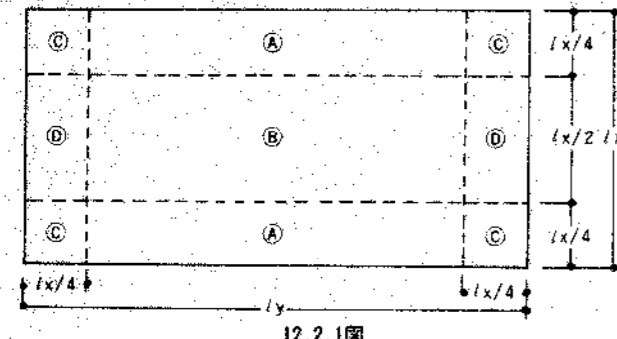
(ハ) はり上で水平に定着する場合

(ニ) 互いにはりへ定着する場合



2. 一般床版の基準配筋

- (a) 一般事項
- 床版の配筋及び厚さは図面による。
 - 鉄筋の折曲げ位置は周辺よりほぼ $lx/4$ の位置 (12.2.1図の点線位置) とし、その位置に 1-D13を配筋する。

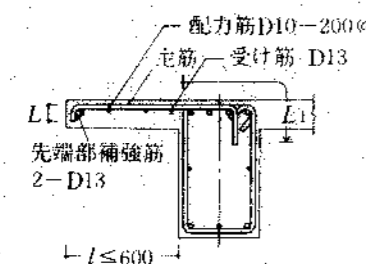


- (3) 鉄筋の継手中心位置および継手長さは12.2.1表による。

		継手位置	継手長さ
上端筋	短辺方向	⑤ ①	L_1
	長辺方向	① ⑤	L_1
下端筋		両方向共	L_1

3. 片持スラブ

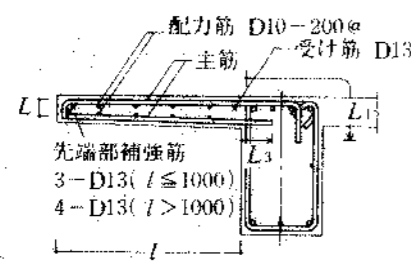
- (a) 床版の配筋及び厚さは図面による。
- (b) 一般部
- (1) E型



(注) 先端の折曲げ長さ L は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

12.3.1図

(2) F型

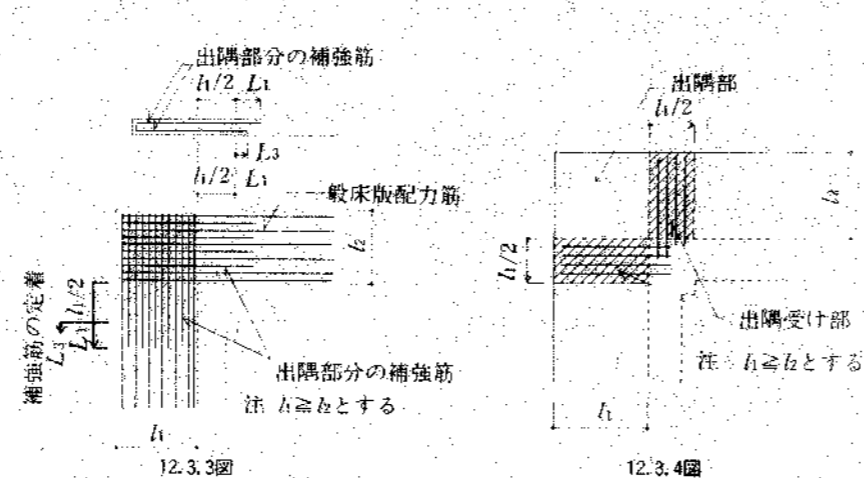


(注) 先端の折曲げ長さ L は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

12.3.2図

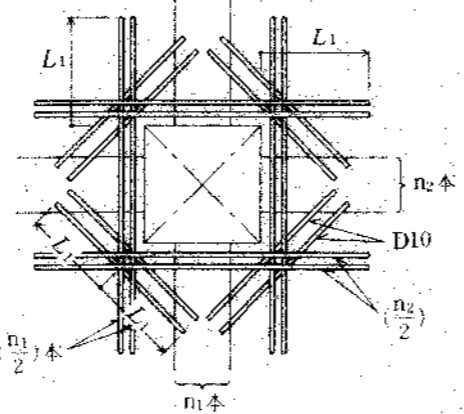
(c) 出隅部

- 補強の配筋は特記による。特記のない場合はD10-100@ダブルとする。配筋方法は、12.3.3図による。
- 出隅受け部 (12.3.4図のハッチ部分) の配筋は特記による。

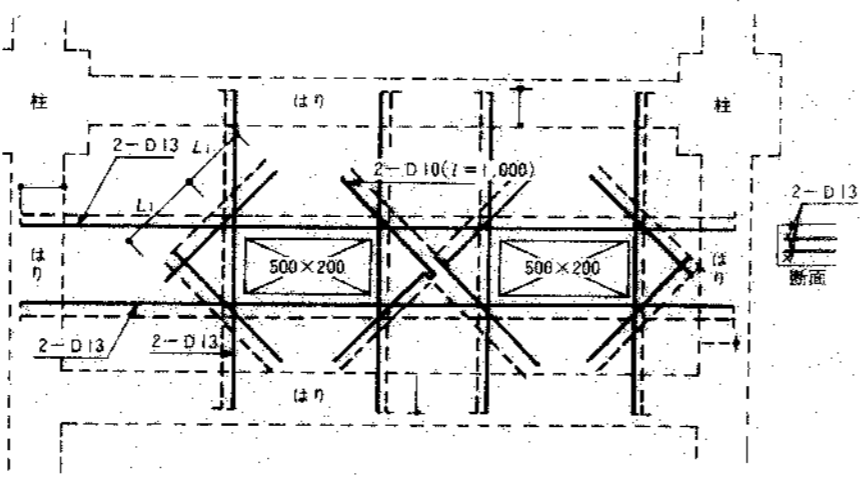


4. 床版開口部の補強

- (a) 床版開口の最大径が600mm以下の場合、12.4.1図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、くう角部は斜め方向に2-D10 ($l=2L_1$) を、上下筋の内側に配筋する。



- (b) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (c) 大便器などの連続開口部の補強

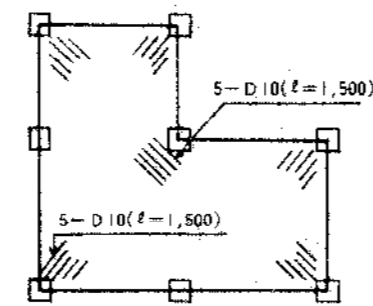


- (注) 1. 縦、横補強筋は全てはり内に定着 L_1 とする。
2. 補強筋は上、下筋の内側に配筋する。

5. その他の補強

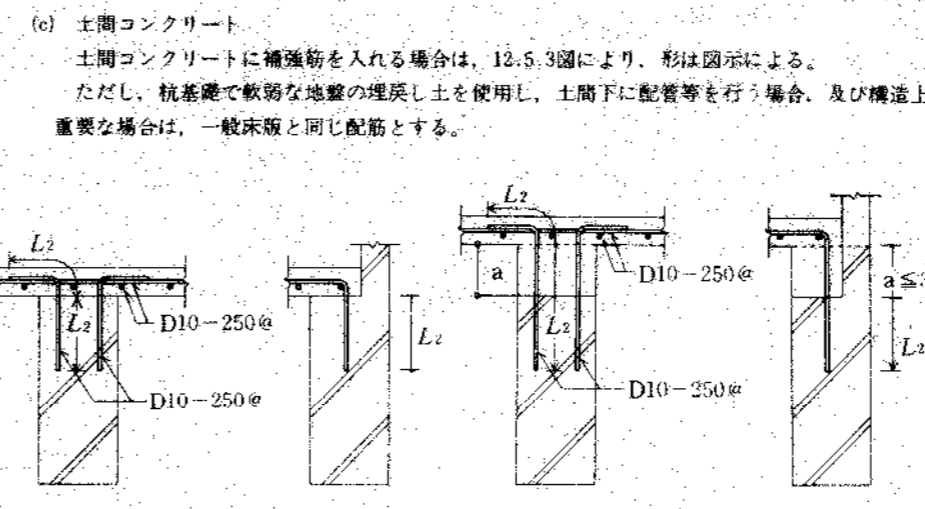
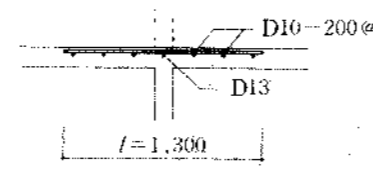
(a) 屋根床版

屋根床版の出すみ及び入すみ部分には、12.5.1図により、補強筋を上端筋の下側に配筋する。ただし、出すみ部分は、12.3.(c)の補強筋と兼って引通すことができる。



(b) 壁つき床版

床版に上端筋がなく、壁がついている場合には、12.5.2図の補強筋を入れる。



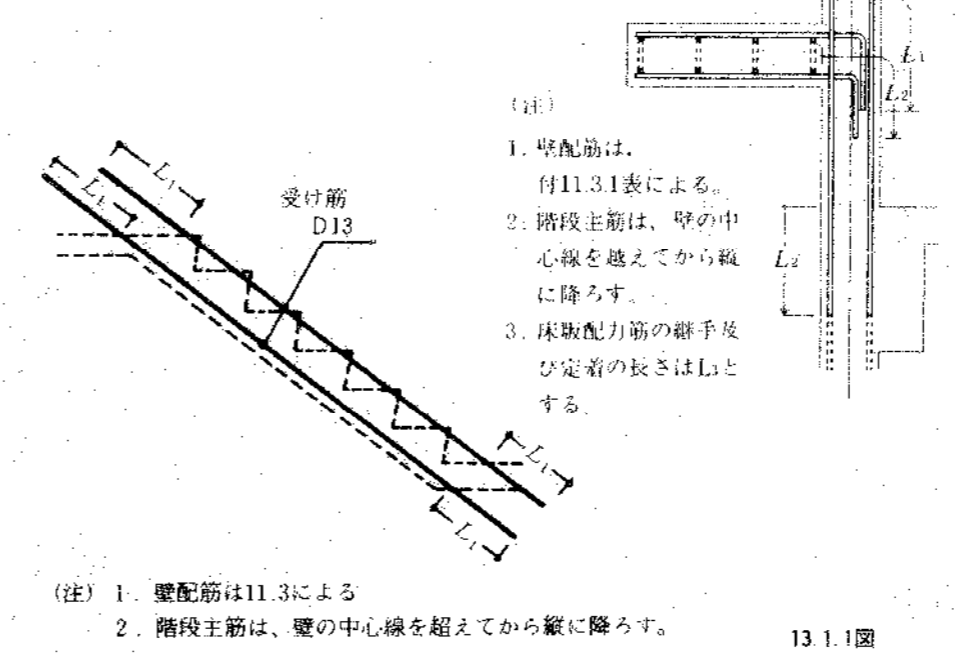
13 階段

1. 片持ち床版形

A形、A'形基準配筋

13.1.1表

配筋種別	A 1	A 2
配筋図		
配筋種別	A 1	A 2
配筋図		

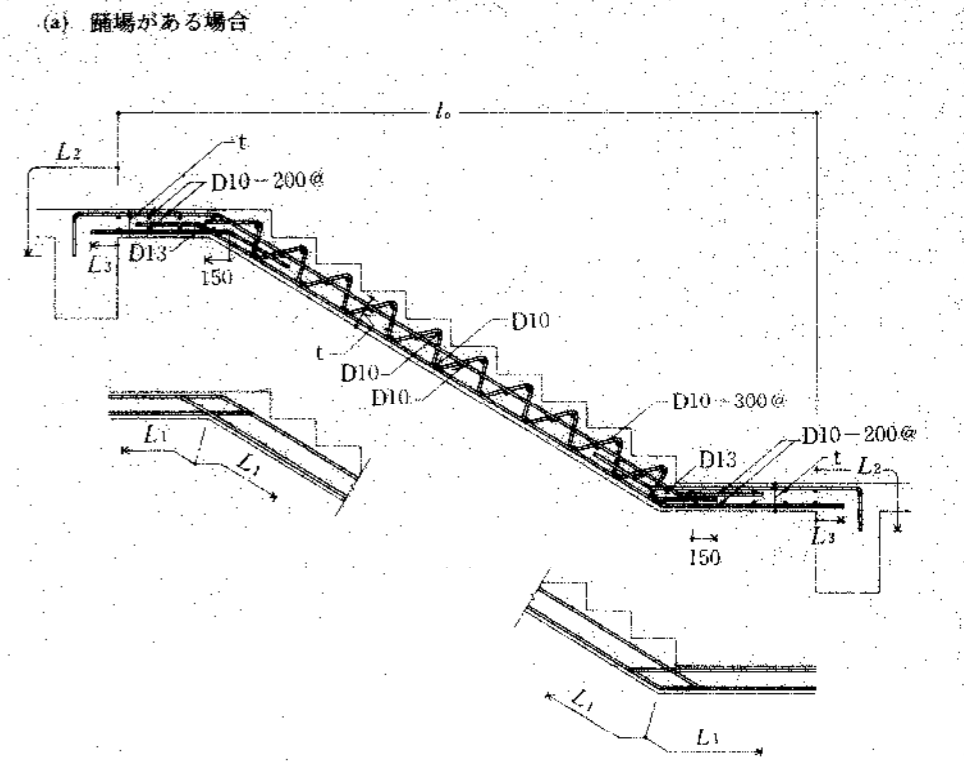


- (注) 1. 壁配筋は11.3による
2. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから縦に降ろす。

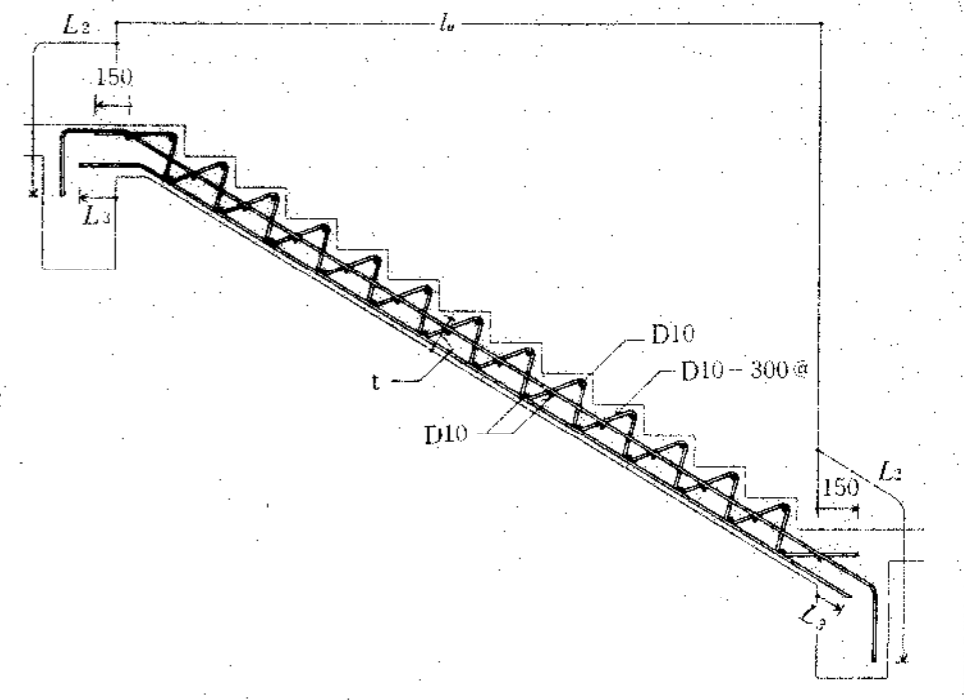
2. 二辺固定床版型

B形基準配筋

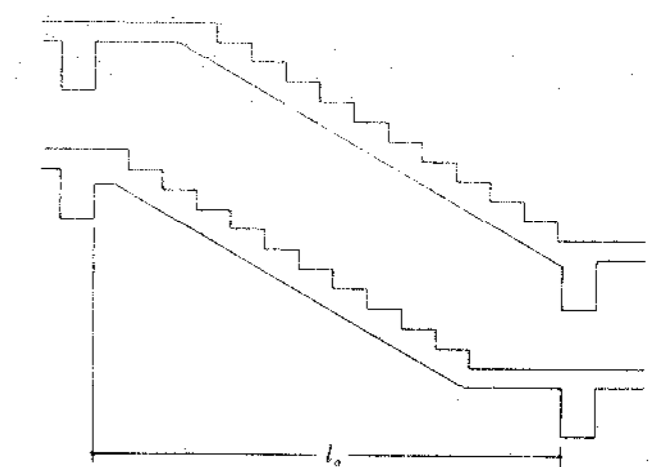
配筋種別	床版厚さ t (mm)	全 域	
		1 端 筋	筋 筋
B 1	150	D13-200φ	
B 2	150	D13-150φ	
B 3	150	D13-100φ	
B 4	180	D13, D16-150φ	
B 5	180	D16-150φ	
B 6	180	D16-125φ	
B 7	200	D16-100φ	



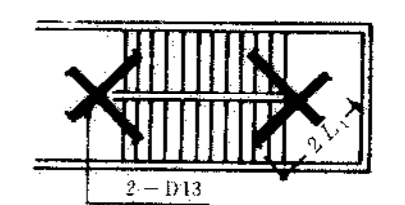
(b) 踏場がない場合



(注) 下図の場合にもB形基準を準用する。



3. 階段踏場補強筋



(注) 補強筋は上端筋の下側に配筋する。

1. 一般事項

- (a) 鉄筋は、構造体に定着する。定着の長さが得られない場合は、その他の方法により構造体に緊結する。
- (b) 主筋に継手を設けてはならない。ただし、溶接長さ $5d$ (d は鉄筋の径)以上の両面アーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
- (c) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは14.1.1表による。

14.1.1表

適用箇所	重ね継手の長さ	定着の長さ
一般部分の配筋	$25d$	$25d$
開口部周囲の配筋 隅部 耐力壁の配筋	$40d$	$40d$
ブロック壁	$40d$	$40d$

- (d) 横に鉄筋をそ入する部分には横筋用ブロックを使用し、横の鉄筋は縦の鉄筋に鉄線で緊結する。
- (e) 鉄筋に対するコンクリート又はモルタルのかぶり厚さは、20mm以上とする。
- (f) 間仕切壁のコンクリートブロック積み高さは、厚100の場合12段、厚150においては18段を最大とする。その上又は下に同じ厚さの鉄筋コンクリート壁を設け、壁の配筋は、縦横共 $D10-200@$ とする。

2. 各部の配筋

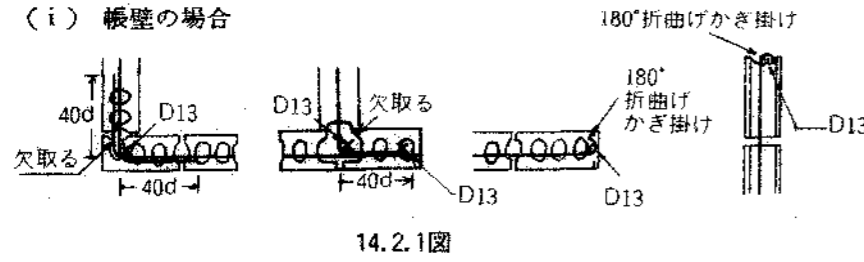
- (a) 壁の配筋は、図示による。ただし、図示がなければ14.2.1表による。

14.2.1表

用途	主筋	配力筋
内 壁	$D10-400@$	$D10-400@$
外 壁	$D13-400@$	$D10-400@$

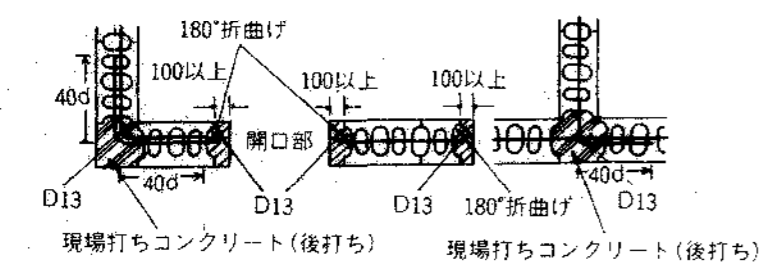
- (b) 交差部、端部（開口部）の配筋は、帳壁の場合は14.2.1図、耐力壁の場合は14.2.2図による。

(i) 帳壁の場合



14.2.1図

(ii) 耐力壁の場合

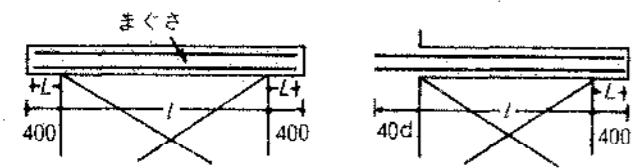


14.2.2図

- (c) まぐさは、鉄筋コンクリート造とし、配筋は特記による。特記がなければ14.2.3図及び14.2.4図による。

(i) 一般の場合

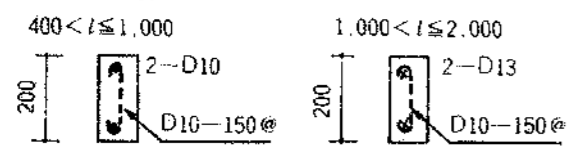
(ii) 開口部が、鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



(注) L_1 は、かぶり厚さを除いた長さ

14.2.3図

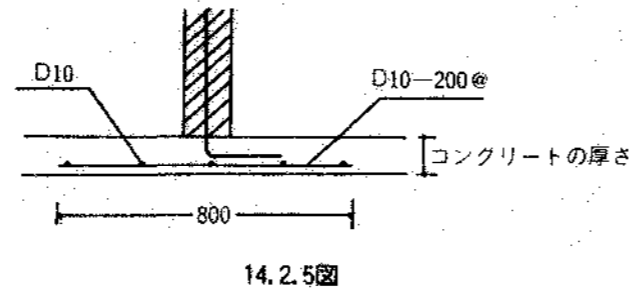
(iii) まぐさの配筋



(注) まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

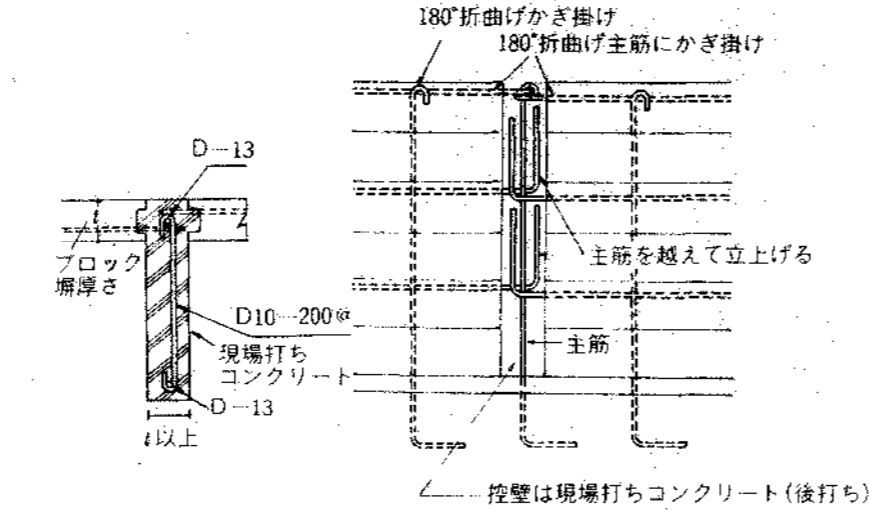
14.2.4図

- (d) 無筋の土間コンクリートに乗る場合の補強は、14.2.5図による。



14.2.5図

- (e) ブロック壁の控壁は、鉄筋コンクリート造とし、取合い及び配筋方法は、14.2.6図による。

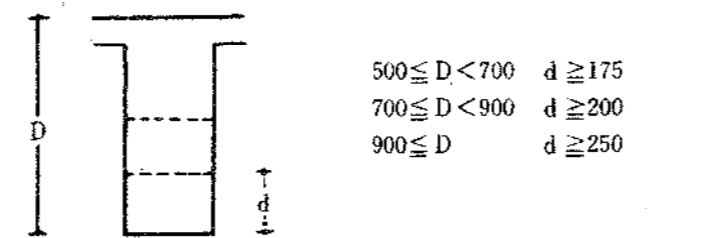


14.2.6図

15 はりの貫通孔の補強

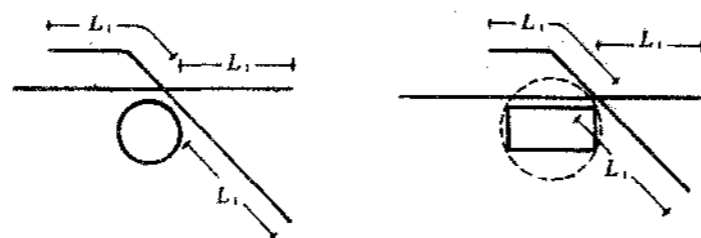
1. はり貫通孔の中心位置

- (a) 位置は下記によるほか、図示による。
- (1) 孔が円形でない場合は、外接円孔におきかえて適用する。
- (2) 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近として下記による。



15.1.1図

- (3) 孔の中心位置は柱及び直交するはり（小ばり）の面から1.2D以上はなすことを原則とする。
- (4) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (5) 補強筋は原則として主筋の内側とする。
- (6) 鉄筋の定着長さ



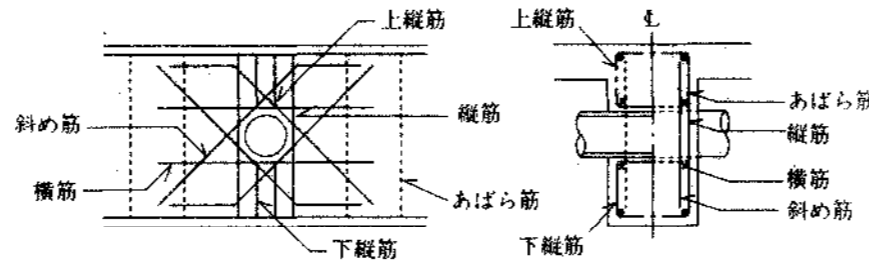
15.1.2図

- (7) たて筋はあばら筋とみなす。
- (8) 孔の径は、はりせいの $1/3$ 以下とする。

2. はり貫通孔補強筋

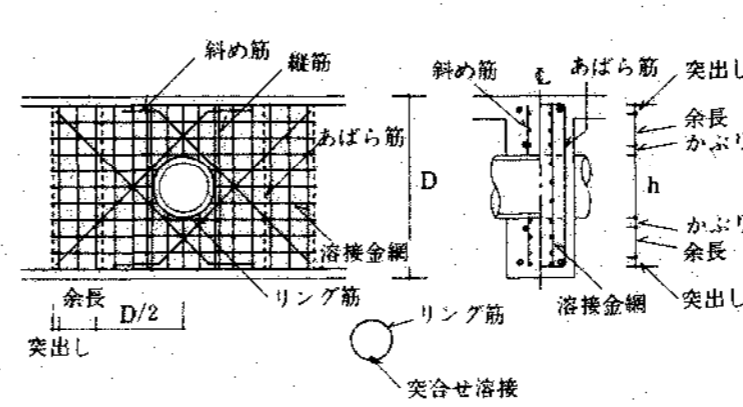
- (a) 補強筋の配筋種別は図示による。

(i) H形



15.2.1図

(2) MH,M形



15.2.2図

- (注) 1. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 2. 補強筋は主筋の内側とする。やむをえない場合は監督員の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは図による。
- 3. 孔の径がはりせいの $1/10$ 以下且つ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
- 4. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 5. 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 6. 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

16 鉄筋の保護

1. 鉄筋の保護用足場等

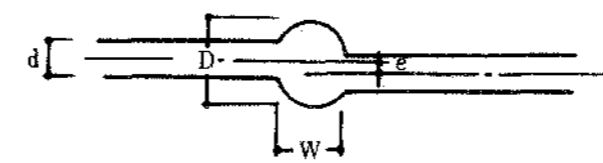
- (a) 鉄筋の組立て後、直接鉄筋の上を歩かないように、床版、はりなどに、脚付の歩み板を置きたす。
- (b) コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚及び間隔の保持に努める。

18.1.1図

17 ガス圧接

1. 圧接部の状態

- (a) 圧接部は下記によるほか、有害な欠陥のないものとする。
- (1) 規格又は形状の著しく異なる場合及び径の差が5mmを超える場合は、圧接してはならない。
- (2) 圧接面は、圧接作業前にグラインダーなどで平らに仕上げるとともに、さび、油、塗料、セメントペーストその他の有害な付着物を完全に除去する。
- (3) 突合わせた圧接面は、なるべく平面とし、周辺のすき間は3mm以下とする。
- (4) 圧接部の径は、最小部分で母材鉄筋径の1.4倍以上とする。
- (5) 軸心のくい違いは、鉄筋径の $1/5$ 以下とする。
- (6) 圧接部には、突合わせた圧接面の条こうが残ってはならない。



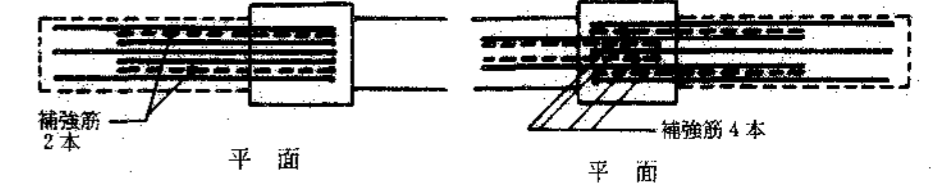
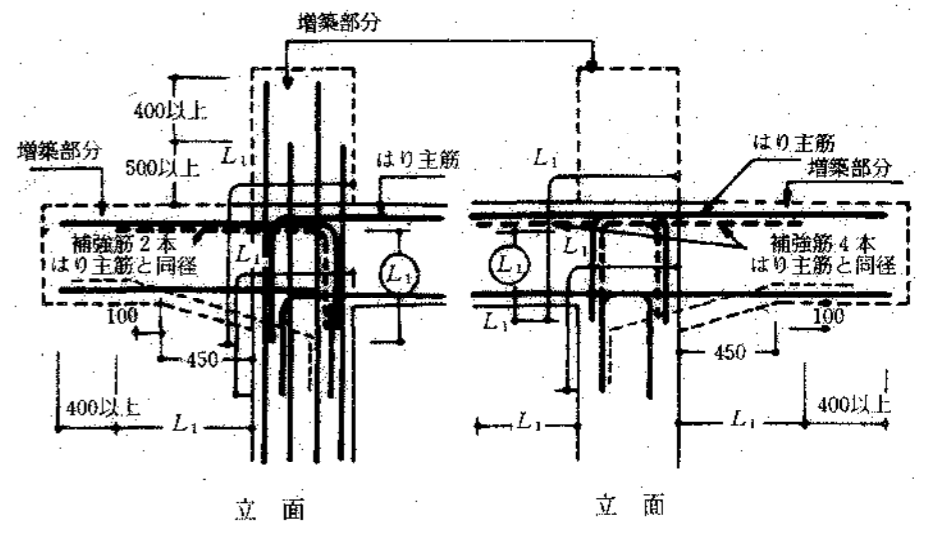
- (注) 1. e = 偏心距離
- 2. $e \leq 1/5d$, $D \geq 1.4d$, $W \geq 1.3d \sim 1.5d$ とする。

17.1.1図

18 増築部分の配筋

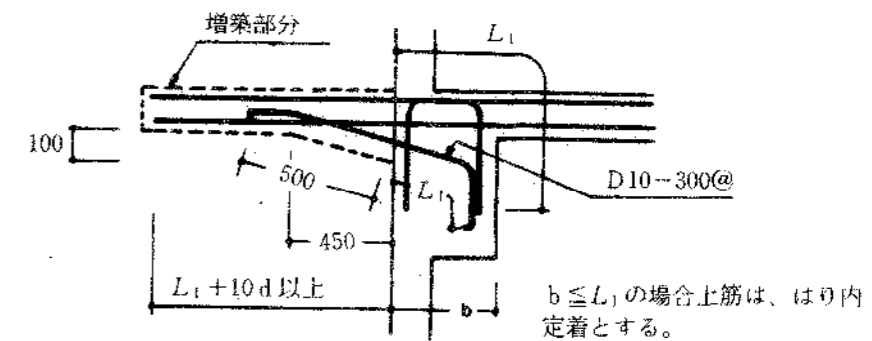
1. 柱およびはり（小ばりも含む）

- (a) はり筋が全数定着とれる場合
- (b) はり筋が半数定着とれる場合



- (注) 1. L_1 は上部に増築予定がある場合のはりの定着長さ。
- 2. 次期工事での継手は全てガス圧接とする。
- 3. 原則として柱内に定着をとる。定着がとれない場合ははり主筋の半数を、引き通すことができる。
- 4. はり主筋と同径の鉄筋を（上図の点線）補強する。
- 5. 増築はりには上図に示すハンチ補強する。（ただしハンチを設けることが出来る場合に限る）

2. 床板



- (注) 1. 次期工事での継手長さは $L_1 + 10d$ 以上とする。
- 2. 増築床版には、上図のように、ハンチ補強する。

18.2.1図

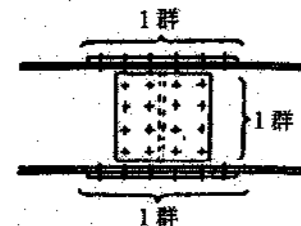
④ 高力ボルト接合

⑥ 締付け及び検査用機器

- (a) 締付け及び、検査用機器は、ボルトに適したものとし、常によく点検整備されていなければならない。
- (b) トルクコントロール式インパクトレンチなどのトルクの変動しやすい機器は、午前と午後それぞれの作業開始前に締付け力の調整を行う。
調整は、トルクの誤差が所要トルクの±7%程度になるまで行い、調整の記録を監督員に提出して承諾を受ける。

⑨ 締付け

- (a) 本接合に先立ち、仮ボルト締めを行い、板の密着を図る。
特に特殊高力ボルトの場合は、入念に行わなければならない。なお、仮ボルトの数は、一群のボルト数の1/3かつ、2本以上とする。



4・9・1図 1群のボルト

- (b) 締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼びなどが施工箇所に適したものであることを確認する。
- (c) 一群のボルトの締付けは、群の中央部より周辺部に向かう順序で行う。
- (d) ボルトを取付け、予備締め及び本締めを行う。
- (e) 予備締めは、4・9・1表によるトルク値でナットを回転させて行う。但し、ボルト長さが呼び径の5倍を超える場合及び鋼板の厚い場合の締付け方法については監督員の承諾を受ける。

4・9・1表 予備締めトルク値(kg・cm)

ボルトの呼び径	予備締めトルク値
M16	1,000程度
M20, M22	1,500程度
M24	2,000程度

- (f) 予備締めの終わったボルトには、ボルト、ナット、座金及び母材にかけて印を付ける。
- (g) 本締めは、標準ボルト張力が得られるように締付ける。

10. 締付け検査

- (a) JISの高力ボルトの締付け検査
 - (1) 本締め終了後、検査を行う。
 - (2) 予備締めの際につけた印のずれにより全数本締めの完了したこと及びとも回りのなかったことを確認する。
 - (3) 締付け検査は、トルクレンチを用いてナットを締め、ナットが回転を始めたときのトルクを測定する方法による。
 - (4) 検査数は、各ボルト群ごとにボルト数の10%以上かつ1個以上とする。検査の結果が、良好ならば、監督員の承諾を受けて以後の検査数を減らすことができる。
 - (5) トルクは、検査時の個が下記を満足する場合に合格とする。
 $0.9T_0 \leq T \leq 1.1T_0$
 $T_0 = \frac{K \times d_s \times N_s}{1,000}$
 T : 検査時のトルク (kg・m)
 T₀ : 標準トルク (kg・m)
 K : トルク係数
 d_s : ボルトのねじの外径の標準寸法 (mm)
 N_s : 4・3・1表の標準ボルト張力 (kg)
 - (6) トルクが不合格のボルトがある場合は、群を単位として締直す。過度に締付けたボルトは、取替える。
 - (7) とも回りを起こしたボルトは、取替える。
- (b) 特殊高力ボルトの締付け検査
 - (1) 締付け完了後、検査を行う。
 - (2) 予備締めの際につけた印のずれ、ボルトの部分的破断などにより、全数本締めの完了したことを確認する。
 - (3) 本締め完了後のボルトの形状及び寸法が適切であることを確認する。なお、グリップ系の場合は測定ゲージを用いる。

⑤ 溶接接合

- (c) 検査の記録を監督員に提出して、締付け検査を受ける。

① 適用範囲

この章は、アーク手溶接(以下「手溶接」という)、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接(以下「半自動溶接」という)、サブマージアーク自動溶接(以下「自動溶接」という)並びにスクッド溶接に適用する。

② 溶接管理及び設備

溶接を行う場合は、溶接施工の実績、溶接の作業管理組織、機械設備、施工及び検査の社内規程などを記載した文書を監督員に提出して、製作場の施工能力及び管理能力について承諾を受ける。

③ 溶接施工管理技術者

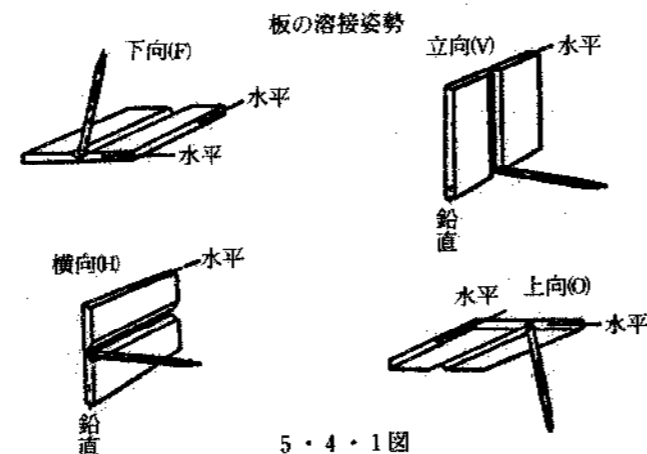
- (a) 溶接作業には作業指導を行う溶接施工管理技術者をおかななければならない。但し、軽易な工事については、監督員の承諾を受けて、省略することができる。
- (b) 溶接施工管理技術者は、工事に相応した日本溶接協会により認定された5・3・1表の資格を有し、資格証明書及び工事経歴書を監督員に提出して、承諾を受けた者とする。

5・3・1表 溶接技術者の資格等級

等級	資格	技術
1級	溶接一般の施工計画と技術管理施工基準の決定など	溶接技術に関する十分な基礎知識と、施工及び管理に関する必要な経験
2級	溶接及び関連作業の監督指導、現場管理、施工記録書の作成等	溶接施工に関する十分な経験と溶接技術に関する必要な一般的知識

④ 溶接工

- (a) 溶接工は、工事に相応した下記による技量を有する者で、技量証明書その他の必要な資料を監督員に提出して、承諾を受けた者とする。
 - (1) 手溶接の場合は、JIS Z 3801(溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
 - (2) 半自動溶接の場合は、JIS Z 3841(半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
 - (3) 自動溶接の場合は、上記(1)の基本級及び技量を証明する主な工事経歴
 - (4) 仮付け溶接の場合は、上記(1)の基本級



5・4・1図

⑤ 材料準備(開先形状等は、写真撮影の上報告する。)

- (a) 開先の形状は、5・7・5表によるが、製作場の試験により監督員の承諾を受けて、多少変更することができる。
- (b) 開先の加工は、自動ガス切断又は機械加工とする。精度の不良なもの及び著しい凹凸のあるものは修正する。
- (c) 溶接材料は、丁寧に取扱ひ、被覆剤のはく脱、汚損、変質、吸湿、著しいさびのあるものなどを使用してはならない。特に溶接棒の吸湿には注意し、吸湿の疑いがあるものを使用してはならない。

6. 材片の集結

- (a) 材片の集結は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。
- (b) 集結順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取入れる。
- (c) 高力ボルト接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先に行う。
- (d) 仮付け溶接は、下記による。
 - (1) 仮付け溶接の位置は、継手の端部、ぐう角部、本溶接の始点及び終点などの強度上及び工作上支障のある箇所を避ける。
 - (2) 仮付け溶接で本溶接の一部となるものは、最小限とし、欠陥を生じたものは、すべて取除く。
 - (3) 仮付け溶接は、ショートビードを避け、その長さは5・6・1表による。

- (4) 開先内に仮付け溶接を行ってはならない。

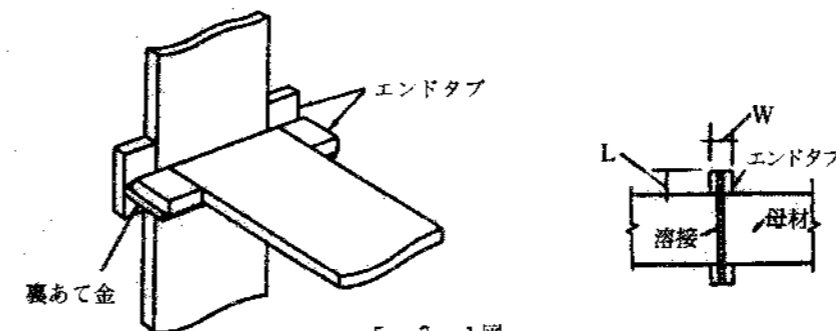
5・6・1表 仮付け溶接長さの最小限度(mm)

板厚	溶接の最小長さ	
	手溶接, 半自動溶接	自動溶接
3.2以下	30程度	40程度
3.2を超え25未満	40程度	50程度
25以上	50程度	70程度

- (5) 高張力鋼及び厚さ25mm以上の鋼材の仮付け溶接には低水素系の溶接棒を使用しなければならない。

⑦ 溶接施工

- (a) 共通事項
 - (1) 溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
 - (2) 溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
 - (3) 溶接の有効長さは、中断していない溶接の始点及びクレークを除いた部分の長さとする。
 - (4) 溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
 - (5) 溶接姿勢は、部材の位置を調整して、できるだけ下向きとする。
 - (6) 材質、材厚、気温などを考慮のうえ、必要に応じて、予熱を行う。
 - (7) 作業場所の温度が0℃から-15℃の場合は、溶接部から100mm以内の部分に、36℃以上に予熱する。
 - (8) エンドタブの取扱い
 - (i) 突合わせ、部分溶込み及び隅肉溶接の場合は、溶接部の端部に十分な長さをもったエンドタブを用いる。但し、強度上軽易な取扱いができる場合で、回し溶接などにより欠陥を防止できる場合は、監督員の承諾を受けて、エンドタブを省略することができる。
 - (ii) 見え隠れとなるエンドタブは、5~10mmを残して切除する。
 - (iii) 見え掛りとなるエンドタブは、除去のうえ、部材断面を欠損しないように切断面を仕上げる。
 - (iv) エンドタブは、原則として母材と同厚のものを用い、長さは5・7・1表による。

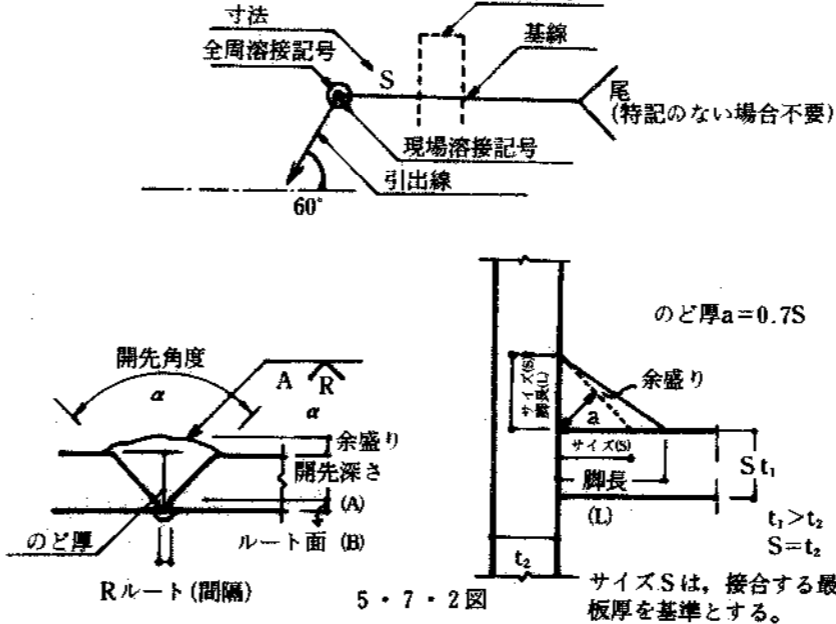


5・7・1図

5・7・1表

溶接工法	L×W(mm)
手溶接	35×35以上
半自動溶接	40×40以上
自動溶接	70×70以上

- (9) スラッグの除去は、各パス及び溶接完了後、入念に行う。
- (10) 著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは除去する。
- (11) 溶接記号
 - 寸法
 - 全周溶接記号
 - 現場溶接記号
 - 引出線
 - 溶接記号
 - 基準
 - 尾
 - 60°
 - のど厚 a=0.7S
 - 開先角度
 - 余盛り
 - 開先深さ
 - ルート面(B)
 - 脚長
 - サイズSは、接合する最薄板厚を基準とする。
 - t₁ > t₂
 - S=t₁

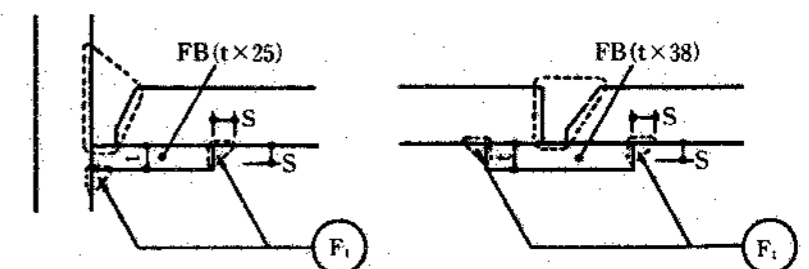


5・7・2図

- (b) 突合わせ溶接

- (1) 裏あて金のない場合は表面より溶接を行った後、裏はつりを行う。裏はつりは、健全な溶着部分があるまではつり取った後、裏溶接を行う。
- (2) 裏あて金のある場合は、5・7・3図を標準とし、初層の溶接による母材の溶け込みが十分得られるよう行う。

⑤: すみ肉断続溶接



5・7・3図

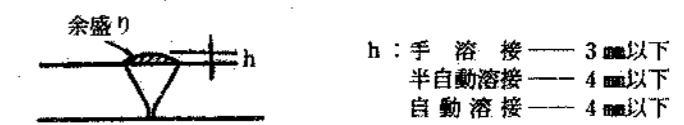
5・7・2表 裏あて金の寸法(mm)

溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

5・7・3表 溶接のサイズ(mm)

裏あて金の寸法		S
t ≤ 9	5	
t > 9	9	

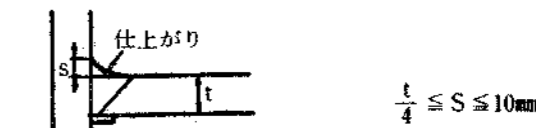
- (3) 溶接部には最小の余盛りを行う。その高さは5・7・4図により緩やかに盛り上げる。



h : 手溶接 — 3mm以下
半自動溶接 — 4mm以下
自動溶接 — 4mm以下

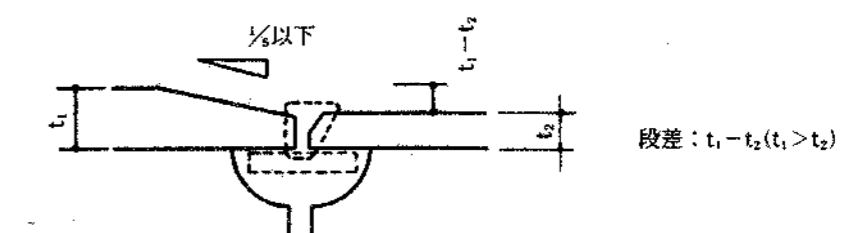
5・7・4図

- (4) T型継手及び角継手の場合は、5・7・5図により突き合わせる方の板厚の1/4以上のサイズのすみ肉を付加する。ただし、そのサイズが10mmを超える場合は10mmとする。



5・7・5図

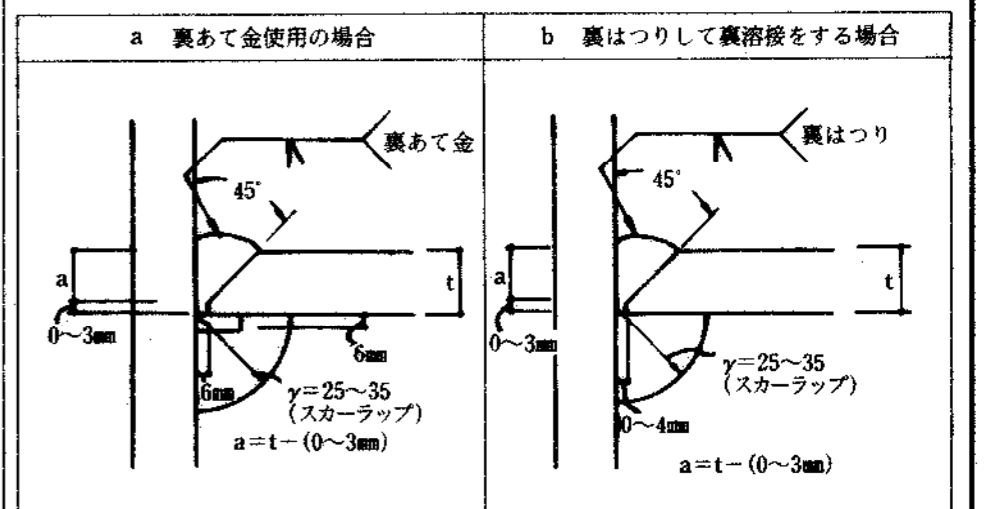
- (5) 突合わせ部の表面に、板厚又は板幅の差により、わずかな段違いのある場合は、5・7・6図により表面の形が緩やかに移行するように余盛りをする。段違いが、手溶接及び半自動溶接で4mmを超え、自動溶接で3mmを超える場合は、高い方を1/4以下の緩いこう配に削り、突合わせ部の表面をそろえる。ただし、半自動溶接でI形開先の場合は、3mmを限度とする。



5・7・6図

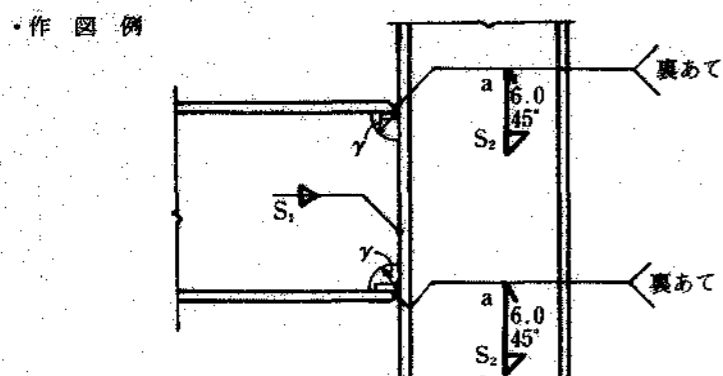
- (6) 突合わせ溶接要領

5・7・4表



- ① 裏はつりは、健全な溶着部分があるまではつる。
- ② 裏あて金は母材と密着させる。

5 溶接接合



5・7・7図

$a=t-(0\sim3)$ mm	開先深さ	のど厚(t)	余盛
$S_1=5.5$ mm	ウェブすみ肉溶接脚長	$t \leq 4$	1mm
$S_2=$ mm	突き合せ溶接補強盛	$4 < t \leq 2$	2
$\gamma=25\sim35$ mm	スカーラップ寸法	$12 < t \leq 20$	3
		$t > 20$	4

(7) 突き合せ溶接開先標準図 (アーク手溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接)

開先形状の選定にあたっては、溶接方法をきめた後、つぎの要領を標準として諸寸法をきめる。

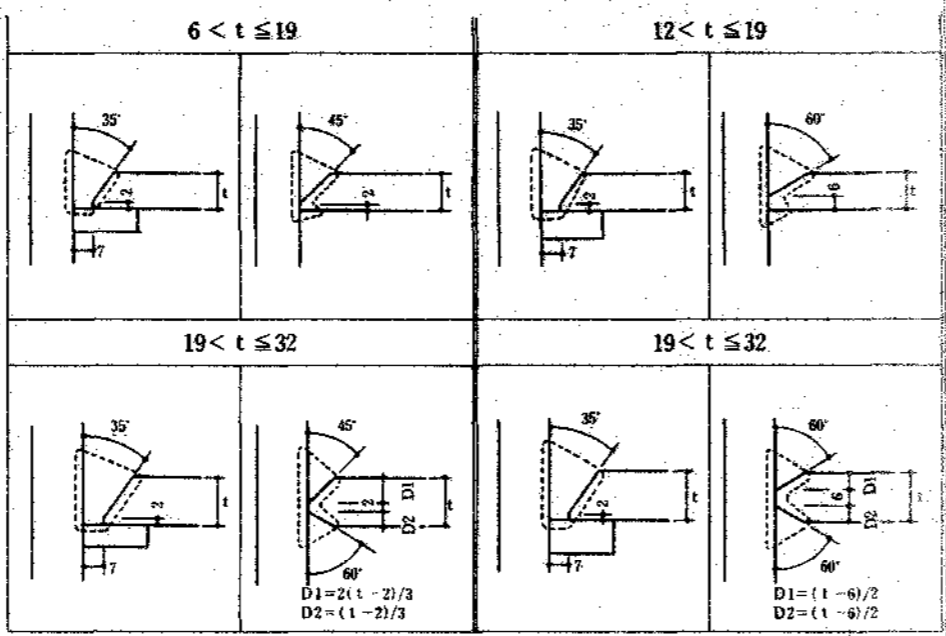
- 継手形式 突き合せ継手・T継手・角継手の別からきまる。
- 母材の板厚
- 溶接姿勢 溶接工作上予想される姿勢を考慮する。
- 片面溶接か両面溶接か接合部材の組立順序によって溶接作業が片面に限定される場合があるので注意を要する。

5・7・5表 突き合せ継手(H)

H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 32$		$22 < t \leq 32$	

T形継手(T)

H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	



かど継手(L)

(単位:mm)

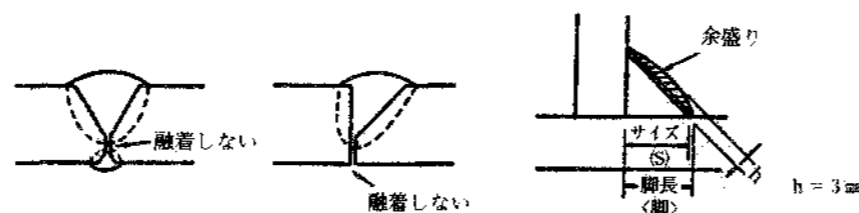
H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 32$		$19 < t \leq 32$	

(c) 部分溶込み溶接

- 溶接部には、最小の余盛を行う。その高さは、上記(b)・(3)による。
- 溶接は、所定の溶込みが得られるように、初層の溶接を確実に進行。

(d) すみ肉溶接

- 溶接には、最小の余盛りを行う。その高さは、なるべく低く3mm以下とする。

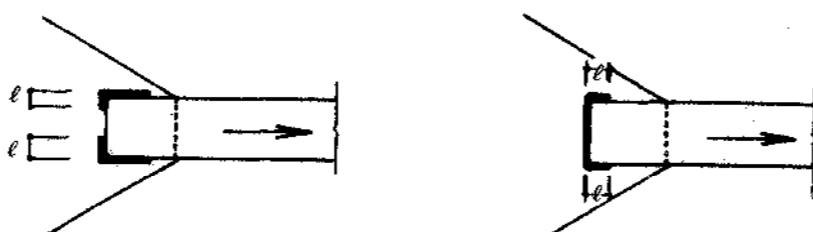


部分溶込み溶接 5・7・8図

余盛りの限度 5・7・9図

(2) すみ肉溶接のまわし溶接

- かど部で終わる場合にまわし溶接をする。



側面すみ肉溶接の場合

前面すみ肉溶接の場合

5・7・10図

(3) すみ肉溶接要領

(工作基準)

5・7・6表 すみ肉溶接(F)

(単位:mm)

t (片面溶接)	
$t \leq 16$	
t	6 9 12 16
s	5 7 9 12
2 (両面溶接)	
$t \leq 16$	
t	6 9 12 16
s	5 7 9 12
$16 < t \leq 32$	
t	19 22 25 28 32
s	6 7 8 9 10

(注) すみ肉溶接の長さ
設計図書に表す溶接長さの寸法は、有効長さとし、すみ肉のサイズの10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点及びクレータを除いた部分の長さとする。

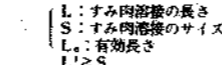


図2-7 すみ肉溶接の長さ

部分溶込み溶接(P)

(単位:mm)

t (片面溶接)		2 (両面溶接)	
$12 \leq t \leq 32$		$16 \leq t \leq 32$	
t	12 16 19 22 25 28 32	$D1=(t-2)/2$ $D2=(t-2)/2$	
D	10 11 12 13 14 15		

- 溶接工法 原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接とする。
- 片面溶接 原則として、開先をとらない側にも補強すみ肉溶接を行う。(Sは補強すみ肉溶接のサイズ)

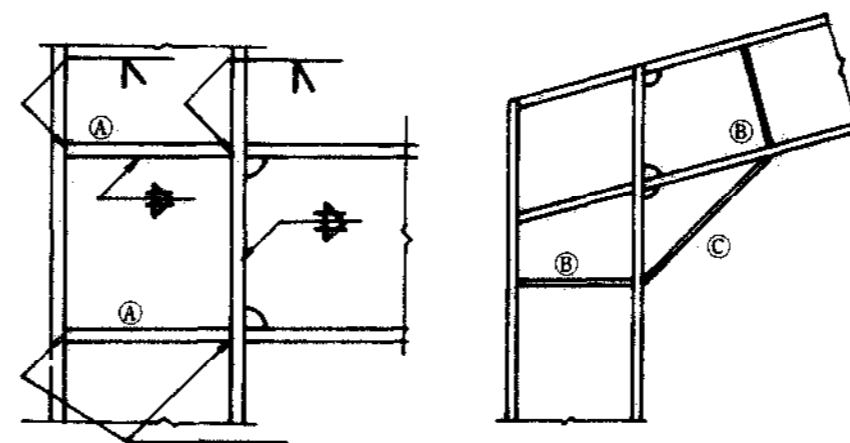
フレア溶接(F.L)

1 (片面溶接)		2 (両面溶接)	

(注) 溶接工法 原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接とする。

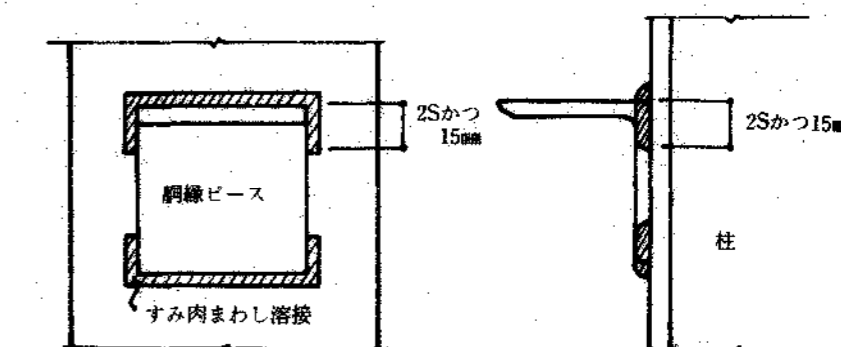
(e) ラーメン構造の溶接と補強スチフナー (柱と梁)

- Ⓐの補強スチフナーは梁のフランジ厚さとする。 Ⓑの補強スチフナーはⒸの厚さとする。



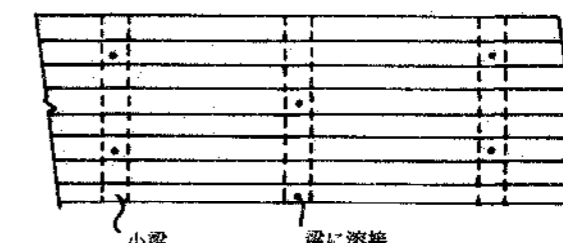
5・7・12図

(f) 胴縁受け溶接 (母屋受け含む)



5・7・13図

(g) デッキプレート (キーストンプレート) の溶接



5・7・14図

(6) 筋違の取付け

- 19φ以上の丸鋼筋違は使用しない。

5・7・9表

丸鋼筋違取付部	アングル, H鋼筋違のG, P取付部
閉きボルト	ガウジング

5・7・10表

丸鋼 (S S 41)	断面積 a cm ²	最大引張力 (短) T ton	短ザク F_B 50×6	ボルト		溶接	
				高力ボルト (F 10 T)	中ボルト	胸長 S mm	溶接長 L mm
13φ	1.33	2.00	6	2-M16	2-M16	6	45
16φ	2.01	3.02	6	2-M16	2-M20	6	55

(i) スタッド溶接

- スタッド溶接はアークスタッド溶接の直接溶接とし、原則として下向きとする。
- スタッド溶接用電源は原則として、専用電源とする。但し、必要な容量を十分確保できる場合は他の電源と併用することができる。
- 施工に先立ち溶接条件を適切に設定する。溶接条件の設定は、午前と午後それぞれ作業開始前2本以上の試験スタッド溶接を行い定める。
- スタッド溶接後の長さは、指定寸法±2mmとする。

(8) 溶接完了後の検査

- 溶接完了後、下記により検査を行い、検査成績書を監督員に提出して、承諾を受ける。
 - ビード表面の整否、ピット、オーバラップ、アングラット及びクレータの状態を確認して記録する。
 - 溶着金属の寸法、スタッド溶接後の長さなどを測定し、要所について記録する。
 - 割れの疑いのある場合には、JIS Z 2343 (浸透探傷試験方法及び欠陥指示模様の等級分類) 又は JIS G 0565 (鉄鋼材料の磁粉探傷試験方法及び欠陥磁粉模様の等級分類) による試験を行う。
- 上記(a)の検査終了後、監督員の検査を受ける。

(9) 試験の種類

- 超音波探傷試験 ・ 浸透試験 ・ マクロ試験 ・ 放射線試験

(10) 不良溶接の補正その他

(a) 不良溶接の補正

- 溶接継手に、融合不良、溶込み不良、スラグ巻き込み、ピット、ブローホールなどの有害な欠陥のある場合は削り取り再溶接する。
- 溶接継手に割れが入った場合は、原則として溶着金属を全長にわたり削り取り再溶接する。適切な検査により、割れの限界を明らかにした場合でも、割れの端から50mm以上を削り取り再溶接する。

- (3) アンダーカット、クレーダのてん不足、溶着金属の大きさ不足、溶接の長さ不足などは補足する。
- (4) オーバーラップ、余盛りの過大などは削り取る。
- (5) 著しく外観の不良な場合は、修正する。
- (6) 超音波探傷試験又は放射線試験の結果が不合格の部分は、削り取って再溶接を行い、更に検査を行う。
- (b) 溶接により母材に割れが入った場合は、原則として母材を取替える。
- (c) 不良溶接の補正溶接棒の径は、4mm以下とする。
- (d) スタッド溶接部は、下記による。

- (1) 母材又はスタッド材軸部に深さ0.5mm以上のアンダーカットの発生したものは、隣接部に打直しを行う。
なお、母材に生じたアンダーカットは、予熱して補正溶接を行う。
- (2) 仕上がりが寸法の不良なものは、不良スタッド材を5~10mm残して除去し、隣接部に打直しを行う。
- (3) 割れ又は折損したスタッド材は、原則として5~10mm残して除去し、隣接部に打直しを行う。

⑥ 装 装

- ① 業地ごしらえ

(a) 種別、工法は6・1・1表による。

6・1・1表 鉄面の業地ごしらえ

工 程	種 別			塗 料	面 の 処 置	摘 要
	A種	B種	C種			
1 汚 れ、付着物除去	○	—	○	—	スクレーパ、ワイヤブラシなどで除去	—
2 油 類 除 去	○	—	—	—	揮発油ぶき、石けん水洗い又は弱アルカリ性液加熱処理湯洗い。水洗い。	—
3 さび落とし	○	—	—	—	酸づけ、中和、湯洗いにより除去。	放置せず次の工程に移る。
	—	○	—	—	ディスクサンダ又はスクレーパ、ワイヤブラシ、研磨紙#100~180で除去。	
4 化学処理	○	—	—	—	りん酸塩処理 りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。	—

(注) A種の場合は工程4、B種の場合は工程3の後放置せず、ただちにショッププライマ塗りをし、次の工程に移る。但し、ショッププライマは上塗りに適したものとする。

- (b) 上記業地ごしらえ完了後は、社内検査を実施し、監督員に結果を報告する。

② さび止め塗料

- (a) さび止め塗料塗り

- (1) 塗装方法は、6・2・1表による。
- (2) 請負者は、塗装状態を確認し、カラー写真を添付し、監督員に報告する。

6・2・1表

場 所	回 数	工 法	時 期
工場塗装	1 回	スプレー塗り	組立て完了後
現場塗装	1 回	はけ塗り	建て方完了し部分的補修塗り後

(b) 鉄面さび止め塗料の種別

- (1) 塗料は下記を確認する。
 - ① 品名、規格、数量、製造年月日密封状況等。
 - ② 製造後1年以上経過したものは、使用しない。
- (2) さび止め塗料の種別は、6・2・2表による。

6・2・2表

種別	さび止め塗料その他				場 所
	規格番号	規格名称	規格種別	塗付量 (kg/m ²)	
下記のいずれかによる。					
A種	JIS K5622の規格品	鉛丹さび止めペイント	1 種	0.19	工場
			2 種	0.14	現場

B種	JIS K5628の規格品	鉛丹ジクロロメートさび止めペイント	2 種	0.10	工場
C種	JIS K5621の規格品	一般用さび止めペイント	1 種	0.11	現場

さび止め塗料の種別使用箇所 6・2・3表

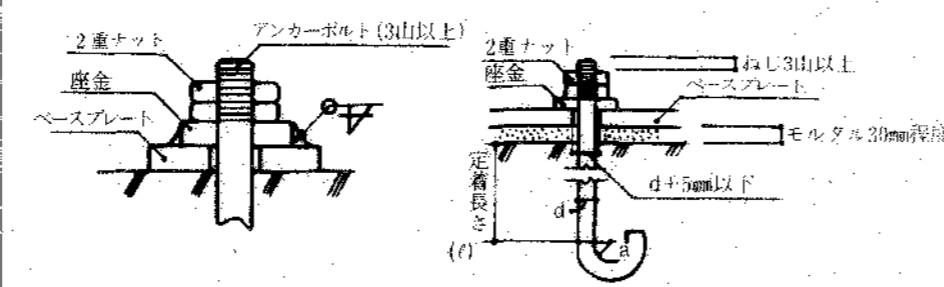
種 別	使 用 箇 所
A 種	屋外に露出する鉄面全て、構造上重要な場合
B、C種	上記以外

- (3) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリプで鉄骨に溶接されたものは、内面に(2)のさび止め塗料を塗布する。
- (4) 組立て後さび止め塗料が困難な箇所は、工場で、(b)による塗料を2回塗布する。
下記の部分は、塗装してはならない。
 - コンクリートに埋込まれる部分
 - 密閉される閉鎖形断面の内面。
 - 高力ボルト接合部の摩擦面。
 - その他塗装することが適切でない部分。
 - ベースプレートの下面。

⑦ アンカーボルト

① 一般事項

- (a) アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ、適切な機器などで正確に行う。
- (b) ベースプレートのボルト穴の径は、ボルトの径に5mmを加えた大きさ以下とする。
- (c) ボルトは、2重ナット及び座金を用い、ボルトの先端は、ねじナットの外に3山以上出るようにする。ただしコンクリートに埋込む場合は2重ナットにしないことができる。
- (d) アンカーボルト穴がずれた場合は、下図に示すような方法で特別な座金を付けて、溶接で固定する。
- (e) アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、下図を標準とする。



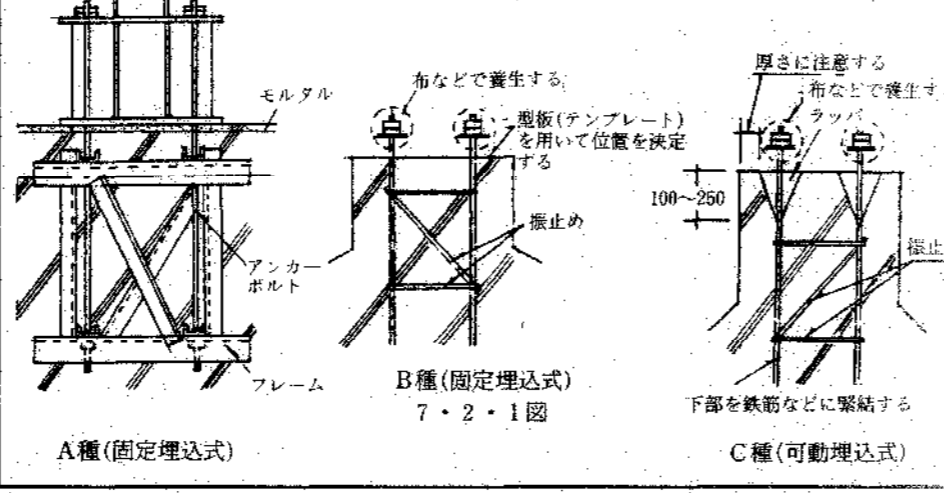
例：アンカーボルト長さℓ：600とは定着長さℓ₀の部分を用いる。 7・1・1図

② ボルトの保持及び埋込みの工法

種 別	保 持 及 び 埋 込 み 工 法
A 種	鋼板9×100(mm)程度のフレーム材を用いて、ボルトの上下を固定できるように、鉄筋などで補強して堅固に組立て、あらかじめ設けた支持材に固定して、コンクリートの打込みを行う。
B 種	ボルトを鉄筋などを用いて組立て、適切な補助材で型枠の類に固定し、コンクリートの打込みを行う。
C 種	ボルトを鉄筋などを用いて組立て、鉄板製漏斗状の筒でボルト頭部を包み、ボルトを据付けコンクリートを打込む。コンクリートが硬化した後筒を取除き、ボルトの位置を修正してモルタルを充てんする。

③ 養生

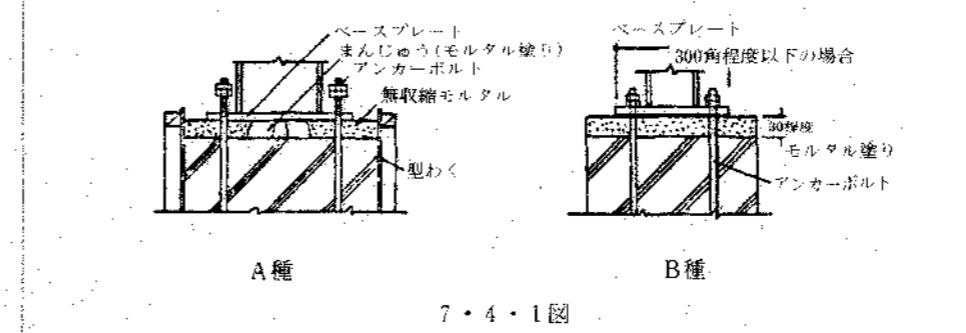
ボルトは、衝撃などにより有害な曲がりが生じないように取扱う。また、ねじ部の損傷さびの発生、汚損を防止するために、布、ビニールテープなどを巻いて養生する。



④ 柱底ならし仕上げ

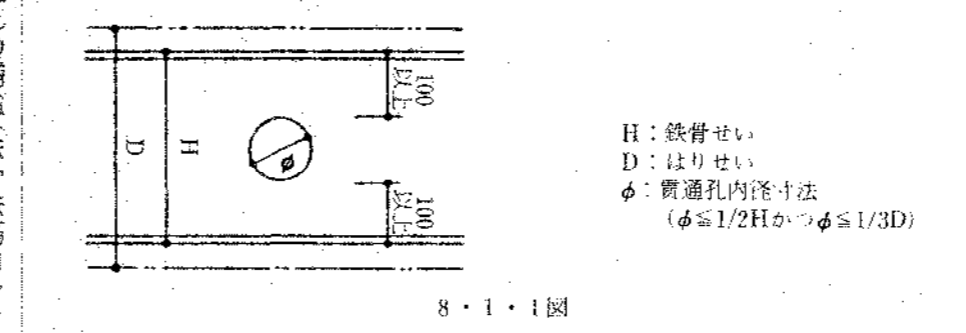
- (a) ならしモルタルは、厚さ30mm程度とし、調合(容積比)は、セメント1：砂1とする。
- (b) コンクリートの表面は、レイタンスなどを除いた後、目荒らしを行う。
- (c) 柱底モルタルを無収縮モルタルとする場合は、製造所の製品とし、その仕様により施工する。
- (d) ならしモルタルの工法は下記による。

種 別	工 法
A 種	柱の建込みに先立ち、その支持に必要な堅固なモルタルを、ベースプレートの中央下部に所要の高さに塗付け、柱の建込後、ベースプレート回りに型枠を設けて、無収縮モルタルをベースプレートの周囲からあふれ出るまで圧入する。
B 種	上記にならない柱を建込み、ベースプレート下全面に十分行きわたるように、適切な方法でモルタルを詰め込む。但し、ベースプレートの大きさが、300mm角程度以下の場合は、モルタルを所要の高さに平滑に仕上げおき、柱を建込むことができる。

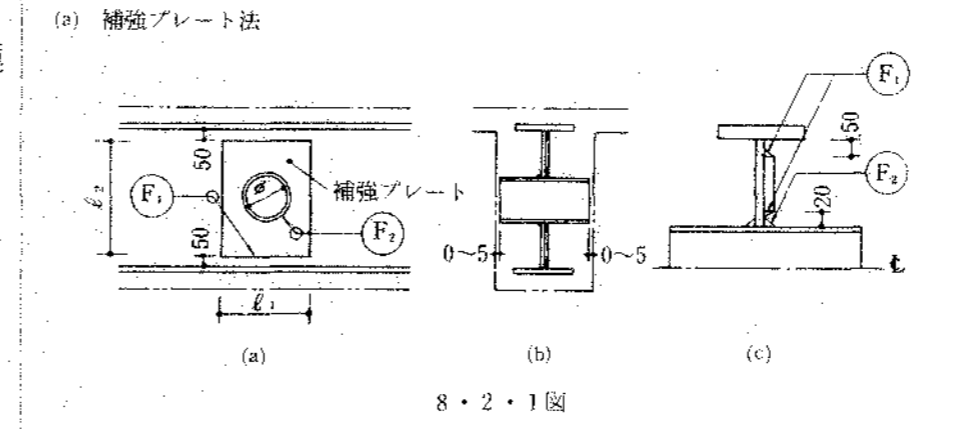


⑤ 梁貫通孔の位置及び大きさ

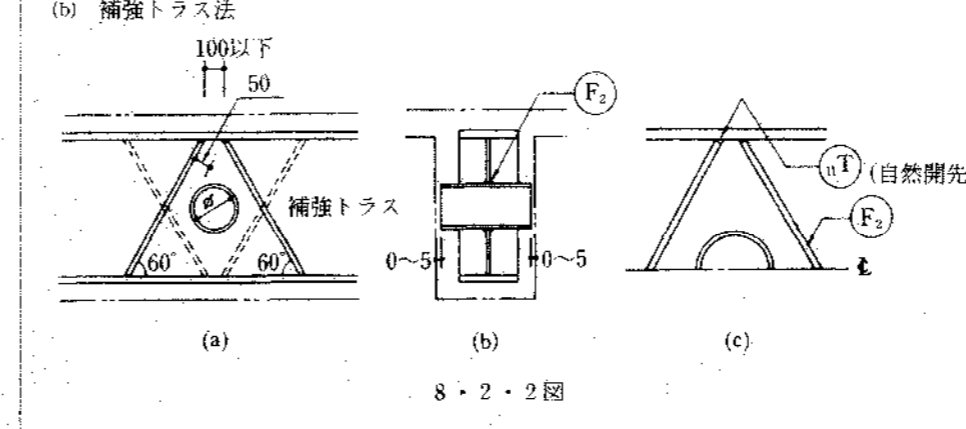
梁貫通孔の内法寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ、鉄筋コンクリートはりせいの1/2以下とする。貫通部分には、鋼管をスリプとして溶接する。



2 補強方法



(注) 1. ℓ₁：3φ又はφ₀のうち小さい方とする。
2. 補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1/2の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。



⑥ 準 備

- (a) 製品は、建て方順序に従って工事現場に搬入する。
この際、必要に応じて、養生を行う。
- (b) 部材に曲がり、ねじれなどを生じた場合は、建て方に先立って修正する。

建 設 方

- ② 建 て 方
 - (a) 仮ボルトは、本接合のボルトと同径のボルト(JIS B1180及びJIS B1181により、ほとんど損傷のないもの)を用い、締付け本数は、一群のボルト数の1/2以上かつ2本以上とする。
なお、高力ボルト接合の場合の仮ボルト数は、4, 9(a)による。溶接接合の場合は、仮ボルト数の全数を締付ける。
 - (b) 本接合に先立ち、ひずみを修正し、建て入れ検査を行い、検査記録を監督員に提出し、必要に応じて監督員の検査を受けて、承諾を受ける。
- ③ 安全 管 理
 - 建て方に際しては、十分な能力を有する機器を用い、その設置、整備及び運転を正しく確実に行う。又、作業員の安全確保、関連施設の整備、周囲の作業の制限など災害防止に對して万全の処置をする。

⑩ 軽 量 形 鋼 構 造

- ① 総 則
 - この節は、冷間成形された軽量形鋼を使用する鉄骨工事に適用し、下記以外は1章~9章による。
- ② 材 料
 - (a) 鋼 材
 - (1) 軽量形鋼は、JIS G3350(一般構造用軽量形鋼)のSSC41の規格品とし、規格証明書を監督員に提出して、承諾を受ける。
 - (2) 丸鋼は、SS41の規格品とする。
 - (3) JISの規格品以外のものは、原則として使用しない。
 - (b) アーク溶接棒は、JIS Z3211(軟鋼用被覆アーク溶接棒)の規格品又はJIS Z3210(薄鋼板用被覆アーク溶接棒)による。溶接棒径と板厚との関係は10・2・1表を標準とする。

10・2・1表

溶接棒径と板厚との関係(mm)	
溶接棒径	板 厚
φ3.2	2.3以上
φ2.6	2.3未満

- すみ肉溶接サイズは、5・7・6表による。
- ③ 工 法
 - 高力ボルト・普通ボルトのピッチ、ヘリあきなどは、3・1・2, 2・2表による。

⑪ 鉄 骨 工 事 の 精 度

- ① 鉄骨工事精度標準
 - この標準は、一般の鉄骨の主要構造部の製作並びに建て方に際して、許容しうる寸法差の一般的な標準を定めたものである。
ただし、下記に示すものには適用しない。
 - (1) 特に、精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分
 - (2) 軽微な構造物あるいは構造物の部分
 - (3) 日本工業規格で定められた鋼材の寸法許容差
 - (4) 監督員の認めた場合あるいは別に定められた場合

⑪ 鉄骨工事の精度

1.2.1 工作及組立て		
名称	図	標準許容差
(1) 丁継手のすき間 (すみ肉溶接) e		$e \leq 5\text{mm}$ ただし、 e が2mmを超える場合はサイズを e だけ増加する。2mmを超えるすき間は全長にわたってはならない。
(2) 重ね継手のすき間 e		$e \leq 2\text{mm}$
(3) 突合せ継手の食違い e		$t \leq 15\text{mm}$ $e \leq 1.5\text{mm}$ $15\text{mm} < t < 30\text{mm}$ $e \leq t/10$ $t \geq 30\text{mm}$ $e \leq 3\text{mm}$ (t は薄い材片の板厚)
(4) ルート間隔 (裏はつり) e		アーク手溶接 $0 < e \leq 4\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $0 < e \leq 1\text{mm}$ ガスシールドアーク半自動溶接 $0 < e \leq 3\text{mm}$ セルフシールドアーク半自動溶接 $0 < e \leq 3\text{mm}$
(5) ルート間隔 (裏あて金付き) Δa		サブマージアーク溶接 $-2\text{mm} \leq \Delta a \leq +2\text{mm}$ アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接・セルフシールドアーク半自動溶接 $-2\text{mm} \leq \Delta a \leq +2\text{mm}$
(6) ルート面 Δa		セルフシールドアーク半自動溶接・アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 裏あてあり $-2\text{mm} \leq \Delta a \leq +1\text{mm}$ 裏あてなし $-2\text{mm} \leq \Delta a \leq +2\text{mm}$ サブマージアーク溶接 $-2\text{mm} \leq \Delta a \leq +1\text{mm}$
(7) ベベル角度 Δa		$-2.5' \leq \Delta a$
(8) 開先角度 Δa		$-5' \leq \Delta a$
(9) ガス切断面のあらし		開先内 200S 自由縁端 200S
(10) ガス切断面のノッチ深さ d		開先内 $d \leq 2\text{mm}$ 自由縁端 $d \leq 2\text{mm}$
(11) ガス切断による切断線の直角度 e/t		$e/t \leq 1/20$
(12) 仕口のずれ (ダイヤフラムとフランジのずれ) e 壁通し型の場合は、 B_1-C_1 、 C_1-B_1 に読みかえる		$B_1 \geq C_1$ の場合 $B_1 \leq 20$ のとき $e \leq B_1/5$ $B_1 > 20$ のとき $e \leq 4$ $B_1 < C_1$ の場合 $B_1 \leq 20$ のとき $e \leq B_1/4$ $B_1 > 20$ のとき $e \leq 5$

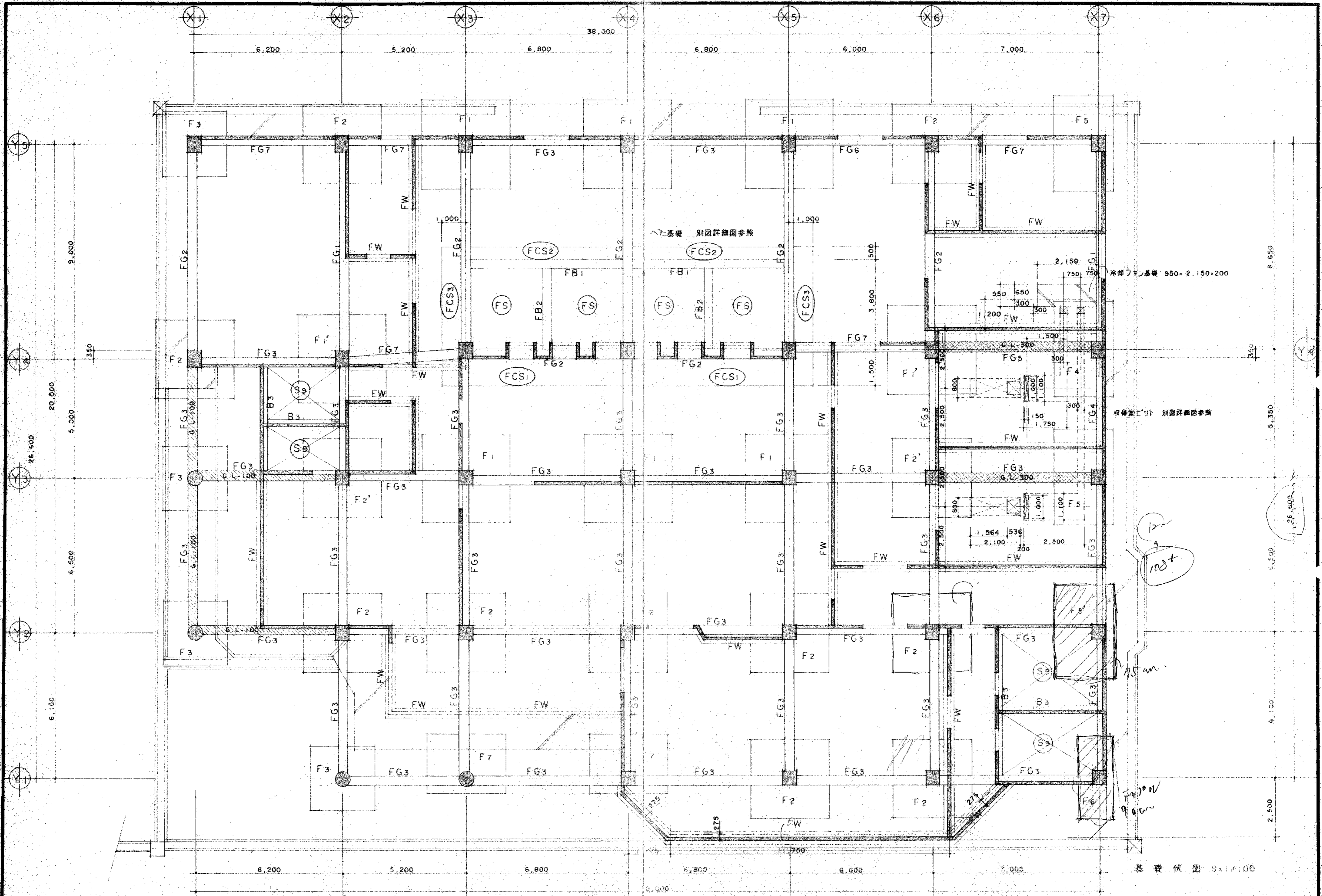
1.2.2 高力ボルト		
名称	図	標準許容差
(1) 穴の心ずれ ΔL		$-1\text{mm} \leq \Delta L \leq +1\text{mm}$
(2) 穴間隔のずれ ΔP		$-1\text{mm} \leq \Delta P_1 \leq +1\text{mm}$ $-2\text{mm} \leq \Delta P_2 \leq +2\text{mm}$
(3) 穴の食違い e		$e \leq 1\text{mm}$
(4) 高力ボルト接合部のはだすき e		$e \leq 1\text{mm}$

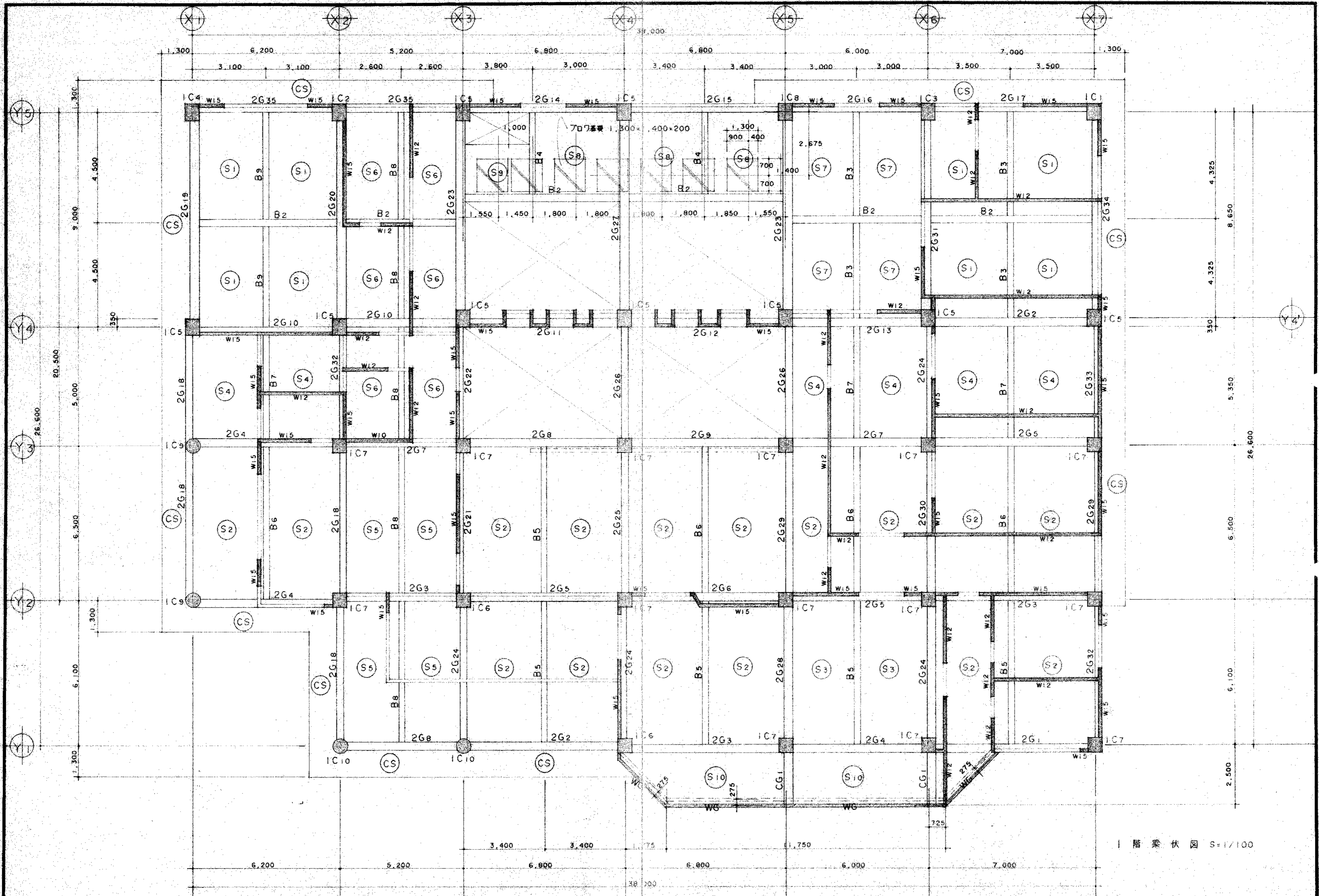
1.2.3 溶接		
名称	図	標準許容差
(1) すみ肉溶接のサイズ ΔS		$0 \leq \Delta S \leq 3\text{mm}$
(2) すみ肉溶接の余盛の高さ Δa		$0 \leq \Delta a \leq 3\text{mm}$
(3) 突合せ溶接の余盛の高さ h		ビード幅 B 余盛高さ h $B < 15\text{mm}$ $h \leq 3\text{mm}$ $15\text{mm} \leq B < 25\text{mm}$ $h \leq 4\text{mm}$ $25\text{mm} \leq B$ $h \leq 4/25B(\text{mm})$ かつ 0.5mm 以上
(4) T形突合せ溶接継手の余盛の高さ e		$0 \leq e \leq 5\text{mm}$
(5) アングカッタ e		$e \leq t/20$ かつ $e \leq 0.5\text{mm}$
(6) ビード表面の不整 e		ビード表面の凹凸の高低差 e_1 は溶接の長さ25mmの範囲で2.5mm以下。 ビード幅の不整 e_2 は溶接の長さ150mmの範囲で5mm以下。
(7) ビット		完全溶込み溶接継手の場合には、あってはならない。 部分溶込み溶接・すみ肉溶接継手の場合は、溶接長さが1m以下のときは1継手3個以下とし、1mを超えるときは、1mにつき3個までを許容する。
(8) スタッド溶接後の仕上がり高さ ΔL		$-2\text{mm} \leq \Delta L \leq +2\text{mm}$ (標準許容差)

1.2.4 製品		
名称	図	標準許容差
(1) はりの長さ ΔL		$-3\text{mm} \leq \Delta L \leq +3\text{mm}$
(2) 柱の長さ ΔL		$L < 10\text{m}$ $-3\text{mm} \leq \Delta L \leq +3\text{mm}$ $L \geq 10\text{m}$ $-4\text{mm} \leq \Delta L \leq +4\text{mm}$
(3) 階高 ΔL		$-3\text{mm} \leq \Delta L_1 \leq +3\text{mm}$ $-3\text{mm} \leq \Delta L_2 \leq +3\text{mm}$ $-3\text{mm} \leq \Delta L_3 \leq +3\text{mm}$
(4) はりの曲り e		かつ $e \leq \frac{L}{1000}$ $e \leq 10\text{mm}$
(5) 柱の曲り e		かつ $e \leq \frac{L}{1500}$ $e \leq 5\text{mm}$
(6) せい ΔH		$H \leq 400\text{mm}$ $-2\text{mm} \leq \Delta H \leq +2\text{mm}$ $400\text{mm} < H < 800\text{mm}$ $-H/200 \leq \Delta H \leq +H/200$ $H \geq 800\text{mm}$ $-4\text{mm} \leq \Delta H \leq +4\text{mm}$ (標準許容差)
(7) 幅 ΔB		$-3\text{mm} \leq \Delta B \leq +3\text{mm}$ (標準許容差)
(8) 接合部のフランジの傾斜 e		$e \leq \frac{B}{100}$ かつ $e \leq 3\text{mm}$
(9) 接合部のフランジの折れ e		$e \leq b/100$ かつ $e \leq 1.5\text{mm}$
(10) 心ずれ e		$e \leq 2\text{mm}$
(11) ウェブの曲り e		$e_1 \leq H/150$ $e_2 \leq B/150$ ただし、 $t \leq 6$ には適用しない。

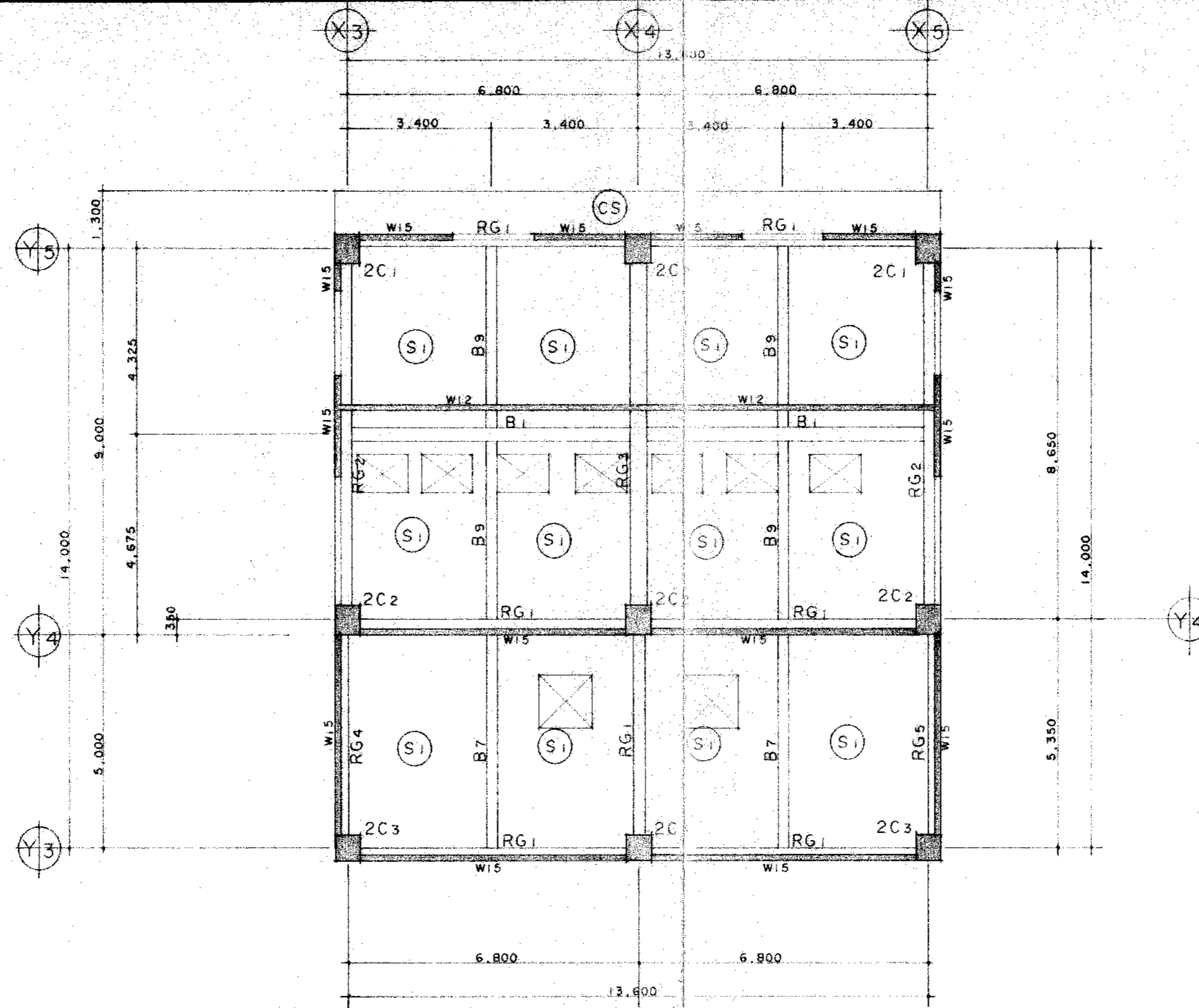
名称	図	標準許容差
(12) 仕口部の角度 e		$e_1, e_2 \leq \frac{L}{300}$ かつ $e_1, e_2 \leq 3\text{mm}$
(13) 仕口部の長さ ΔL		$-3\text{mm} \leq \Delta L \leq +3\text{mm}$
(14) 柱のねじれ d		$d \leq \frac{6H}{1000}$
(15) メタルタッチ e		$e \leq \frac{1.5D}{1000}$

1.2.5 工事場		
名称	図	標準許容差
(1) 建物の倒れ e		$e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$ (標準許容差)
(2) 建物のわん曲 e		$e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$ (標準許容差)
(3) 柱すえ付け面の高さ及びアンカーボルトの位置 e		基準高さよりの誤差は $\pm 3\text{mm}$ 以下 $-1\text{mm} \leq e_1 \leq +1\text{mm}$ $-3\text{mm} \leq e_2 \leq +3\text{mm}$





1階梁伏図 S=1/100



2階梁伏図 S=1/100

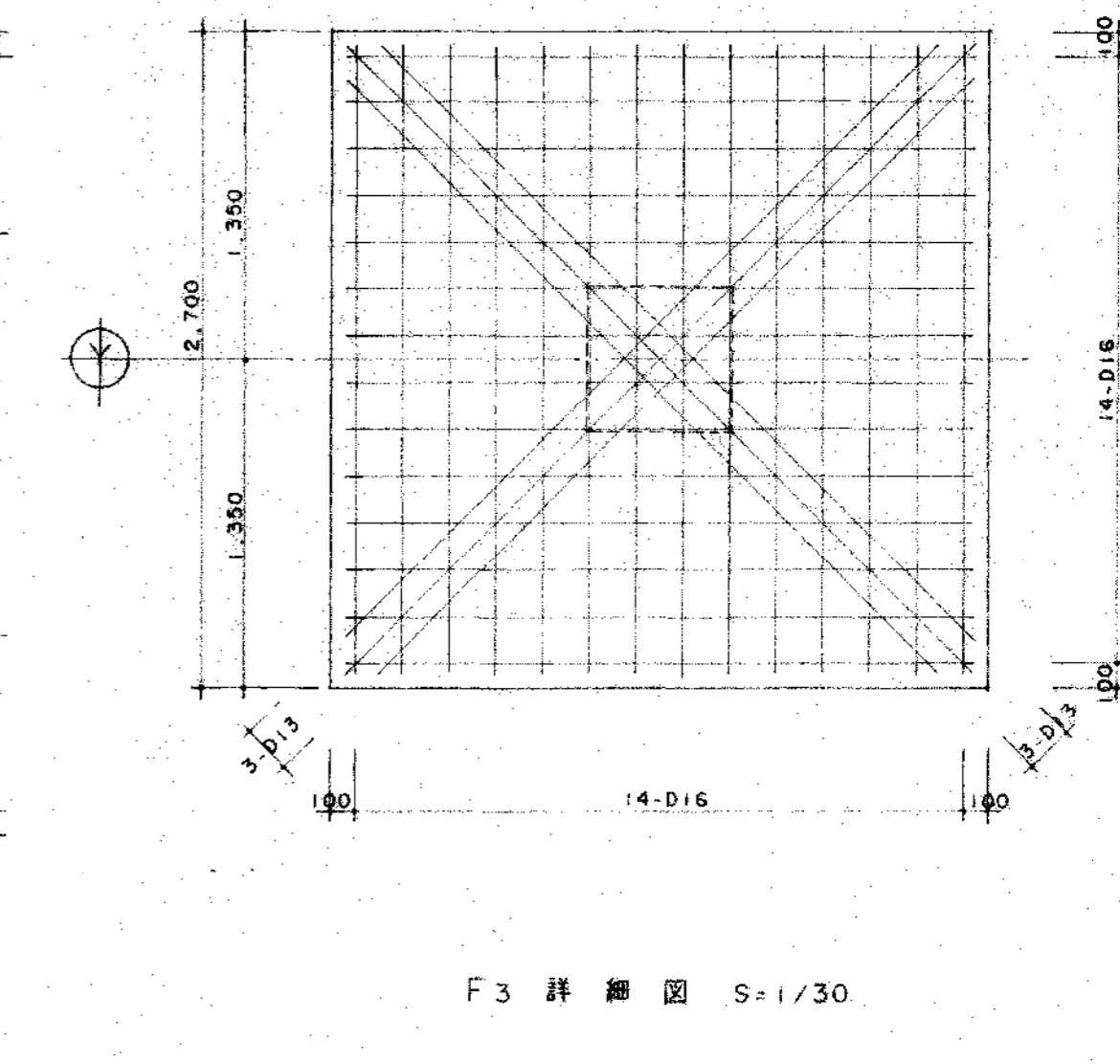
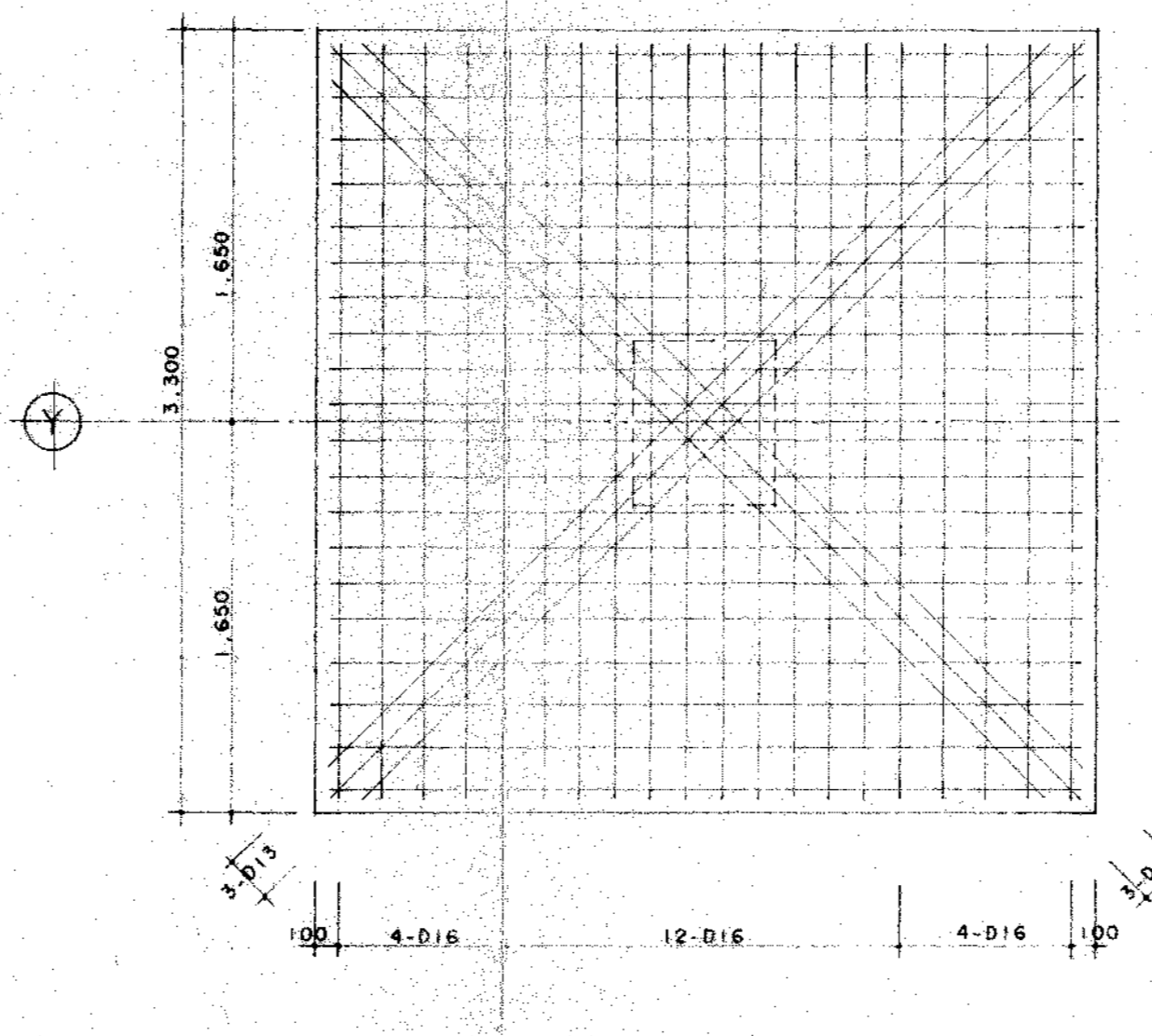
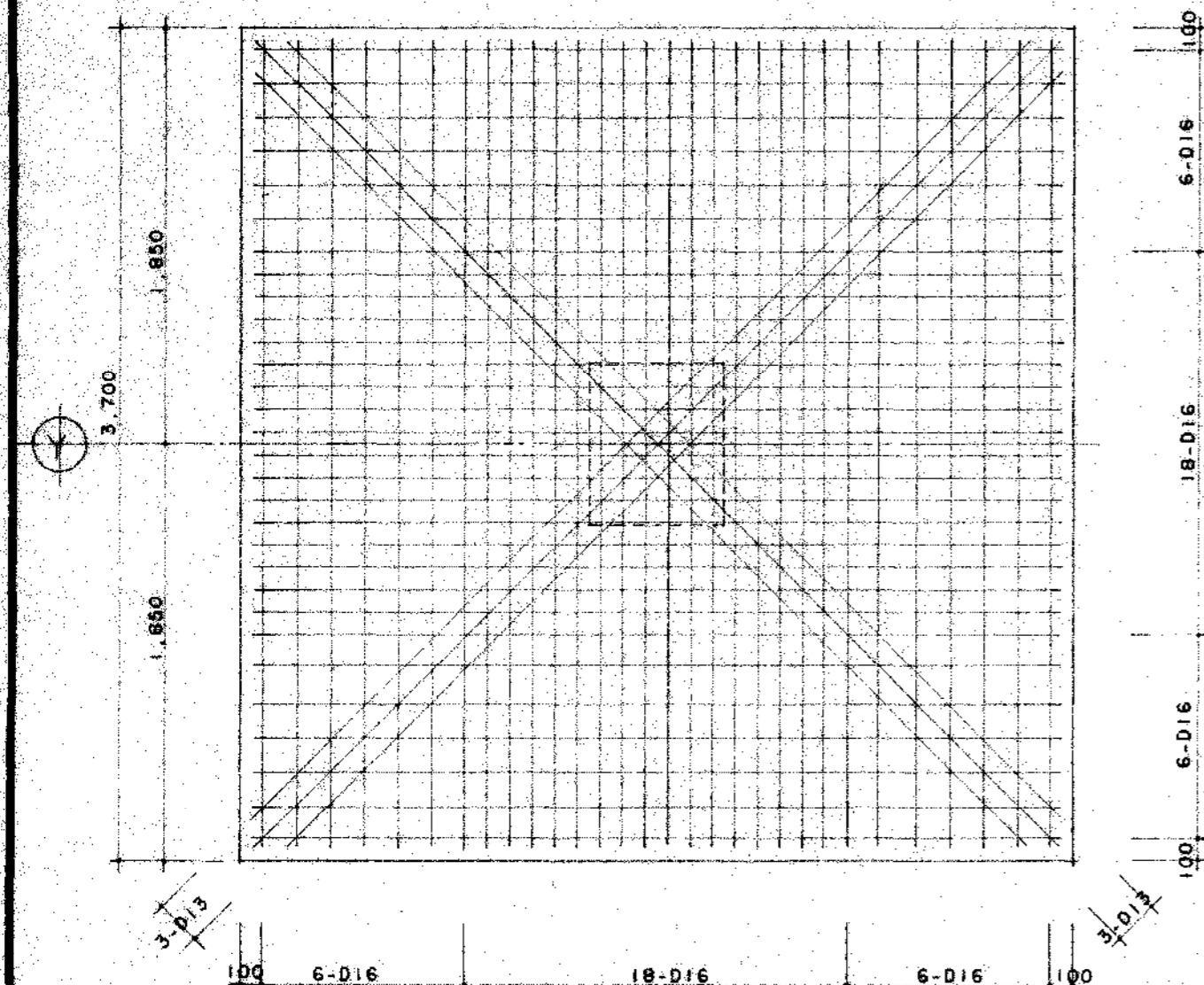
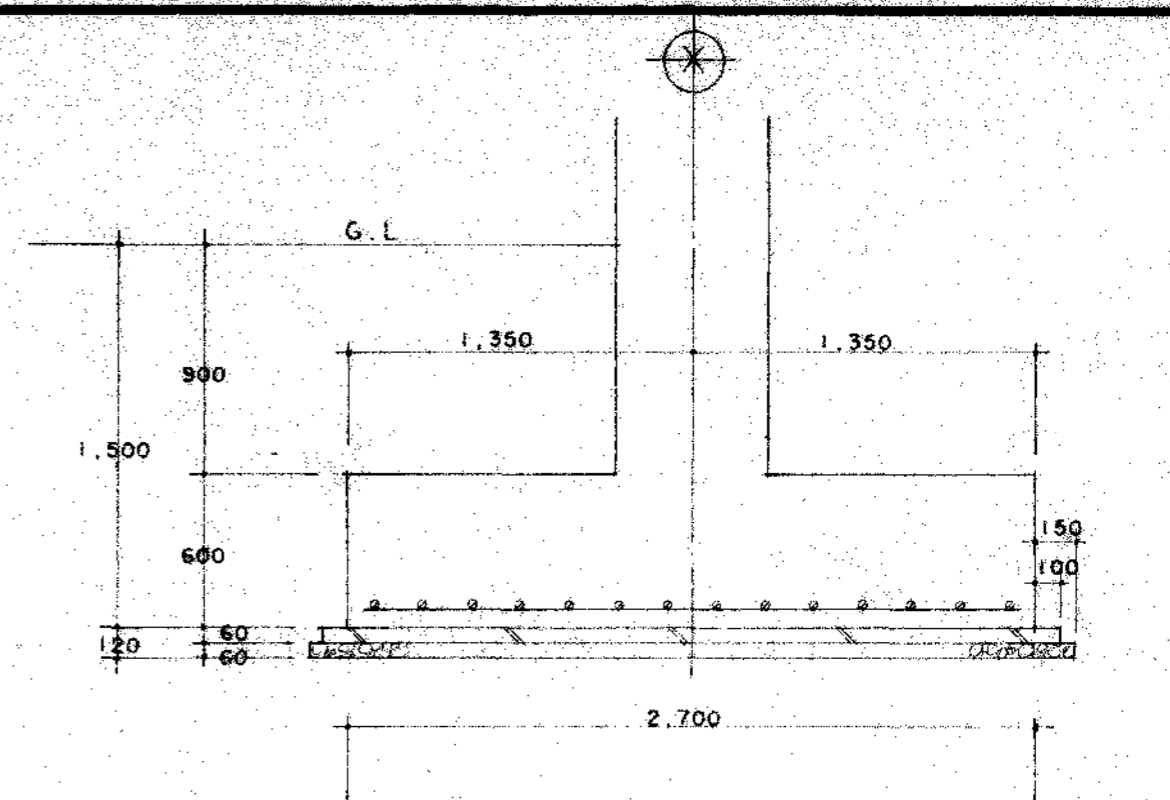
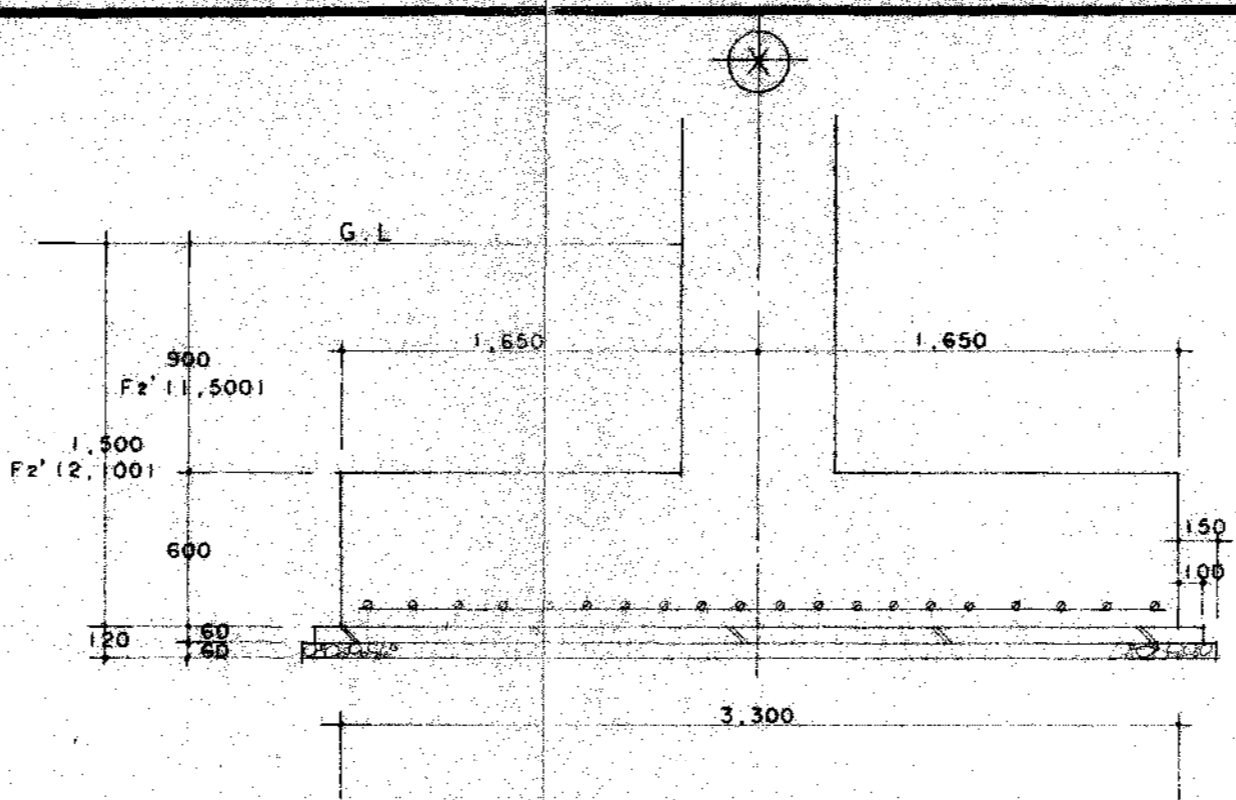
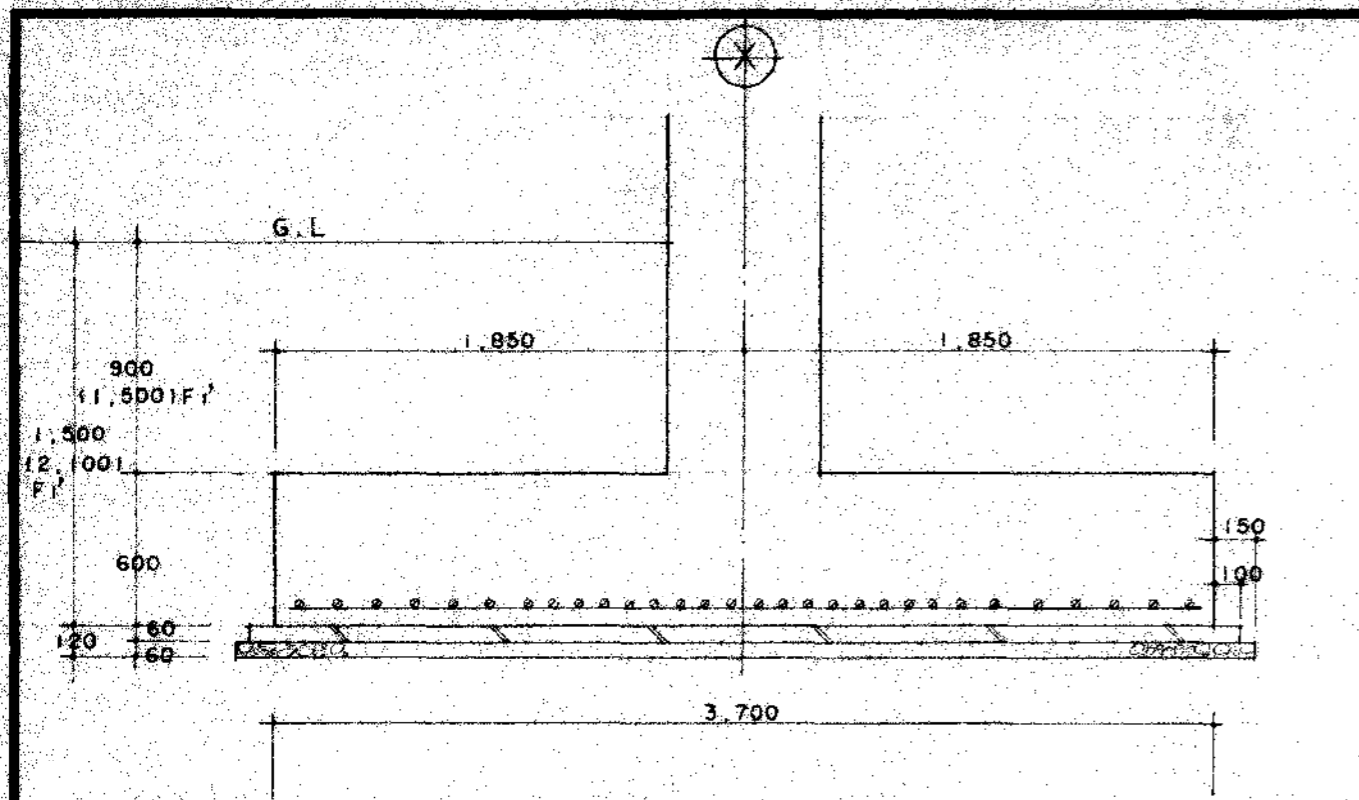
		会津若松市斎場新築		工事設計図		No S-15
製図	図新	2階 梁伏図	S=1/100			

記号	1C1	1C2	1C3	1C4	1C5	1C6	1C7	1C8	1C9	1C10
計算書記号	EC7	EC2	EC6	EC1, DC6	DC1-5, 7, EC3, 4	AC4, BC3	AC5-7, BC2, 4-7, CC2-7	EC5	BC1, CC1	AC2, 3
寸法	600×700	600×700	600×700	600×700	600×700	600×600	600×600	600×700	600φ	600φ
断面図										
主筋	24-D25	16-D25	14-D25	10-D25	8-D25	10-D25	8-D25	10-D25	13-D25	7-D25
H O O P	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°
D I A H O O P	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°
記号	2C1	2C2	2C3							
計算書記号	EC3, 5	DC3-5, EC4	CC3-5							
寸法	600×700	600×700	600×600							
断面図										
主筋	16-D25	8-D25	8-D25							
H O O P	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°	D10 ~ 100°							
D I A H O O P	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°	2-D10 ~ 600°							

記号	2G1			2G2			2G3			2G4		2G5		2G6			
計算書記号	A-2G6			A-2G3, D-2G6			A-2G4, B-2G6, B-2G2			A-2G5, B-2G1, C-2G1		B-2G3, C-2G6, B-2G5		B-2G4			
寸法	350×700			350×700			350×700			350×700		350×700		350×700			
部位	外端	中央	内端	X3, X6, Y3, 外端	中央	X4, X5, Y4, 内端	X4, X2, 内端	中央	X5, X3, 外端	両端	中央	両端	中央	X4	中央	X5	
断面図																	
上筋	4-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25	4-D25	2-D25	5-D25	2-D25	4-D25	
下筋	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	
S.T.P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			
腹筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			
記号	RG1, 2G26		2G7			2G8		2G9		2G10			2G11		RG5		
計算書記号	C-3G3, 4, D-3G3, 4, E-3G3, 4 4-2, 3Gc, 5-2Gc		C-2G2.5			A-2G2, C-2G3		C-2G4, 5-2GA		D-2G1, D-2G2			D-2G3		5-3Gc		
寸法	300×600		350×700			350×700		350×700		350×700			350×700		300×600		
部位	全断面	X2, X6	中央	X3, X5	全断面	X4, 内端, 中央	X5, 外端	外端, X3	中央	内端, X2	X3	中央	X4	Y3, 中央	Y4		
断面図																	
上筋	2-D25	5-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	5-D25	4-D25	2-D25	2-D25	3-D25	6-D25		
下筋	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	6-D25		
S.T.P	D10 ~ 200°	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°		D13 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			
腹筋	2-D10	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10			
巾止筋	D10 ~ 1,000°	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			
記号	2G12			2G13			2G14		2G15			2G16		2G17			
計算書記号	D-2G4			D-2G5			E-2G3		E-2G4			E-2G5		E-2G6			
寸法	350×700			350×700			350×700		350×900			350×700		350×700			
部位	X4	中央	X5	X5	中央	X6	両端	中央	X4	中央	X5	X5	中央	X6	内端	中央	外端
断面図																	
上筋	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	2-D25	5-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	7-D25	3-D25	2-D25	7-D25
下筋	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	5-D25	2-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	7-D25	2-D25	2-D25	7-D25
S.T.P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 150°		D10 ~ 100°			
腹筋	2-D10			2-D10			4-D		4-D10			2-D10		2-D10			
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			

記号	2G18		2G19		2G20		RG2			2G21			2G22			RG4		
計算書記号	1-2G8.c, 2-2G8.b		1-2G9		2-2G9		3-3G9, 5-3G9			3-2G8			3-2Gc			3-3Gc		
寸法	300×600		400×1,000		400×1,000		400×900			350×700			300×600			300×600		
部位	両端	中央	両端	中央	両端	中央	内端	中央	外端	Y2	中央	Y3	Y3	中央	Y4	Y3	中央	Y4
断面図																		
上筋	4-D25	2-D25	4-D25	2-D25	5-D25	3-D25	3-D25	2-D25	5-D25	5-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	6-D25	2-D25	3-D25	5-D25
下筋	2-D25	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	5-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	5-D25	2-D25	3-D25	5-D25
S.T.P	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°			D10 ~ 150°			D13 ~ 200°			D10 ~ 200°		
腹筋	2-D10		4-D10		4-D10		4-D10			2-D10			2-D10			2-D10		
申止筋	D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		
記号	2G23			RG3			2G24			2G25			2G27			2G28		
計算書記号	3-2G9, 5-2G9			4-3G9			3-2G8, 4-2G8, 6-2G8.c			4-2G8			4-2G9			5-2G8		
寸法	400×1,200			400×1,000			350×700			300×600			400×1,000			350×700		
部位	Y4	中央	Y5	内端	中央	外端	外端	中央, 内端	Y2	中央	Y3	内端	中央	外端	外端	中央, 内端		
断面図																		
上筋	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25	5-D25	4-D25	2-D25		
下筋	2-D25	5-D25	3-D25	2-D25	4-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	2-D25		
S.T.P	D10 ~ 150°			D10 ~ 150°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 150°			D10 ~ 200°		
腹筋	6-D10			4-D10			2-D10			2-D10			4-D10			2-D10		
申止筋	3-D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		
記号	2G29		2G30		2G31		2G32			2G33			2G34			2G35		
計算書記号	5-2G8, 7-2G8		6-2G8		6-2G9		7-2G9, 2-2Gc			7-2Gc			7-2G9			E2G1.2		
寸法	300×600		350×700		400×1,000		300×600			300×600			400×1,000			350×700		
部位	両端	中央	両端	中央	両端	中央	外端, 中央, Y4	内端, Y3	Y3	中央	Y4	Y4	中央	Y5	外端, 中央, X3	内端, X2		
断面図																		
上筋	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	5-D25	2-D25	6-D25	4-D25	2-D25	5-D25	3-D25	5-D25		
下筋	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	6-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	6-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	5-D25		
S.T.P	D13 ~ 200°		D10 ~ 200°		D10 ~ 150°		D13 ~ 100°			D13 ~ 100°			D10 ~ 150°			D13 ~ 150°		
腹筋	2-D10		2-D10		4-D10		2-D10			2-D10			4-D10			2-D10		
申止筋	D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		

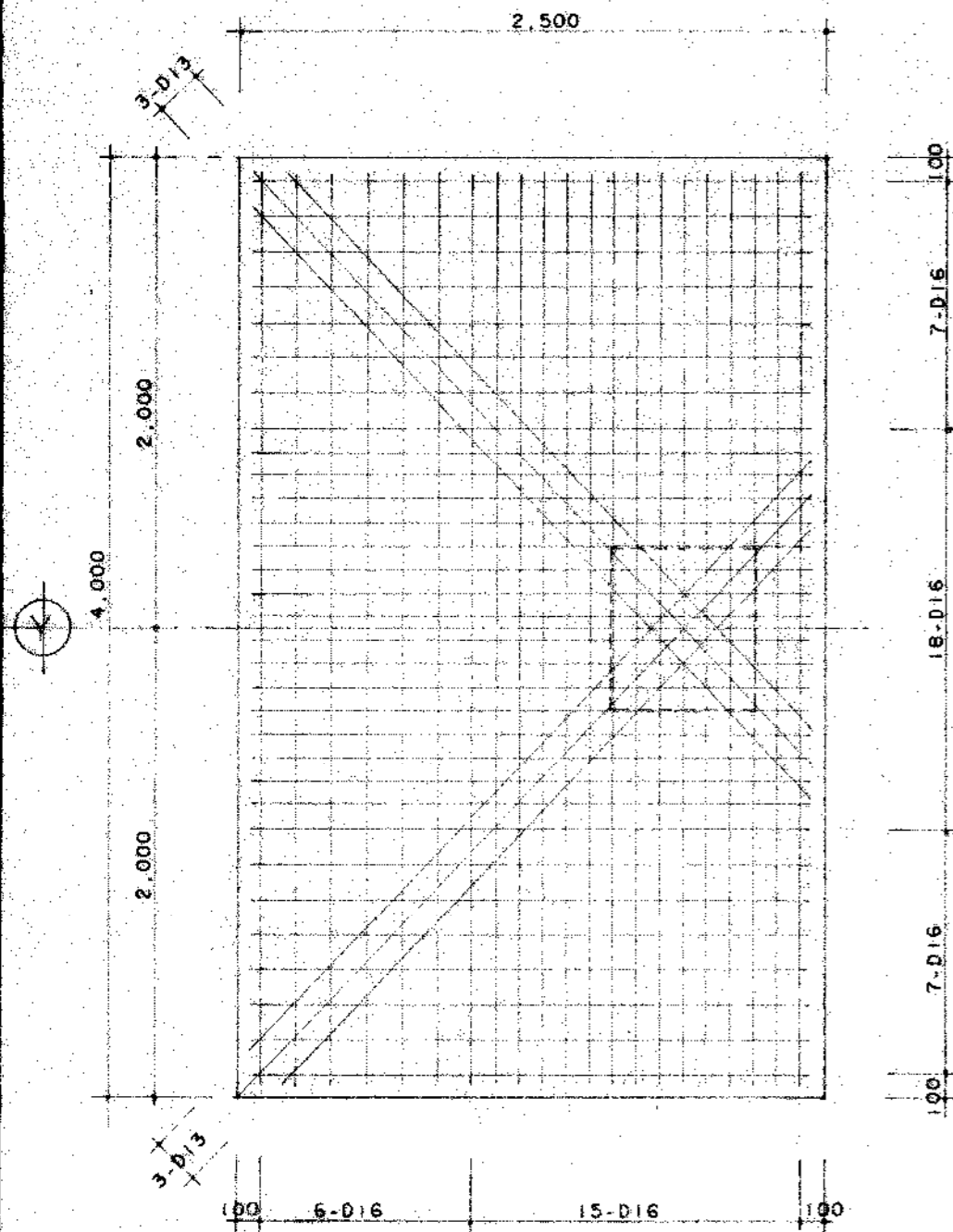
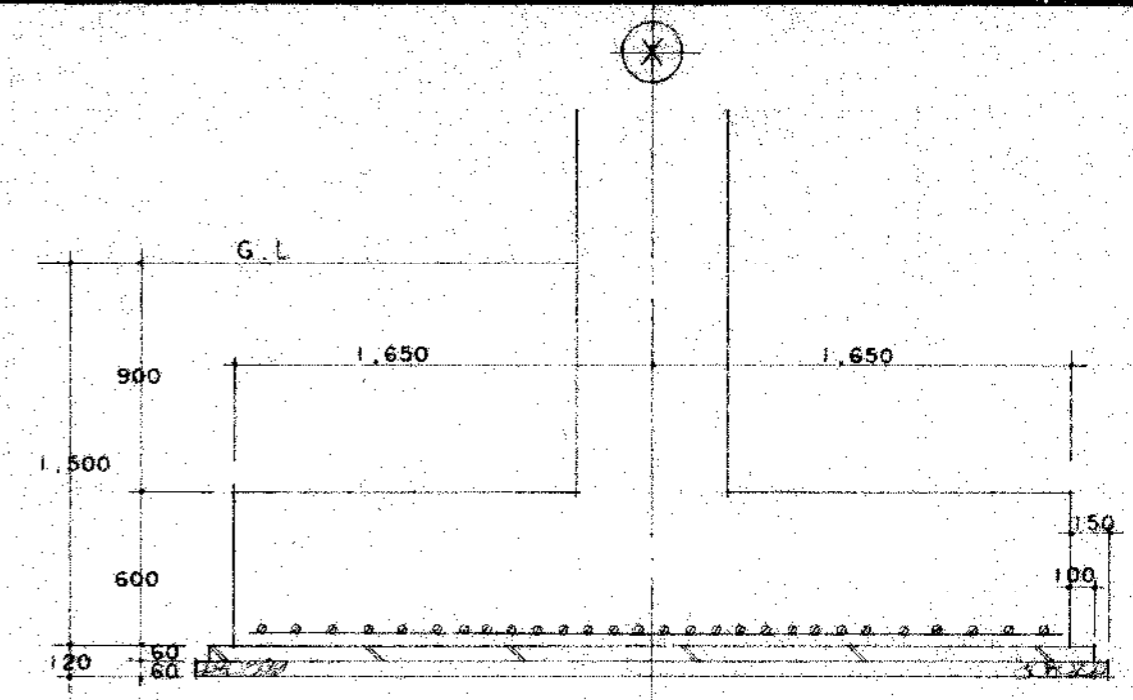
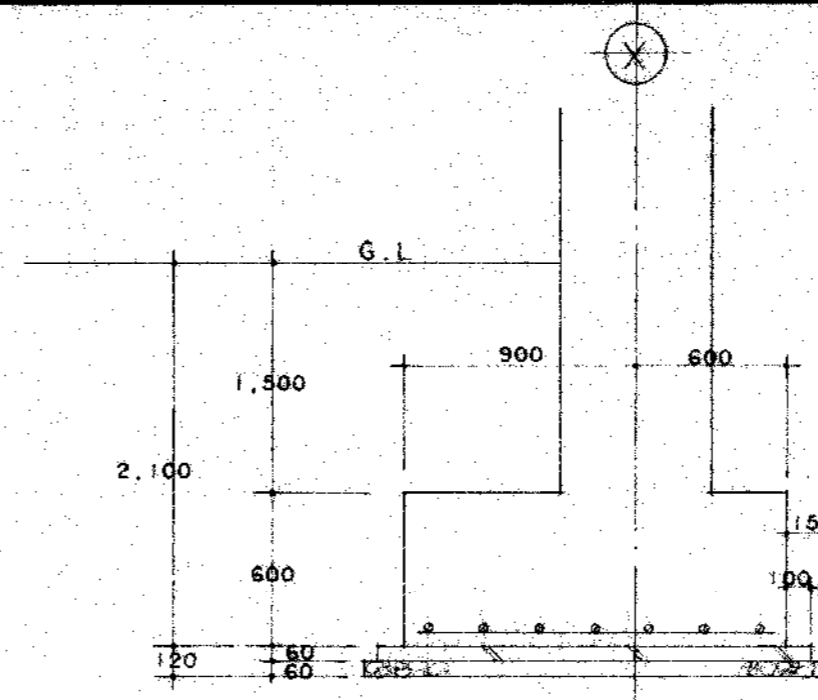
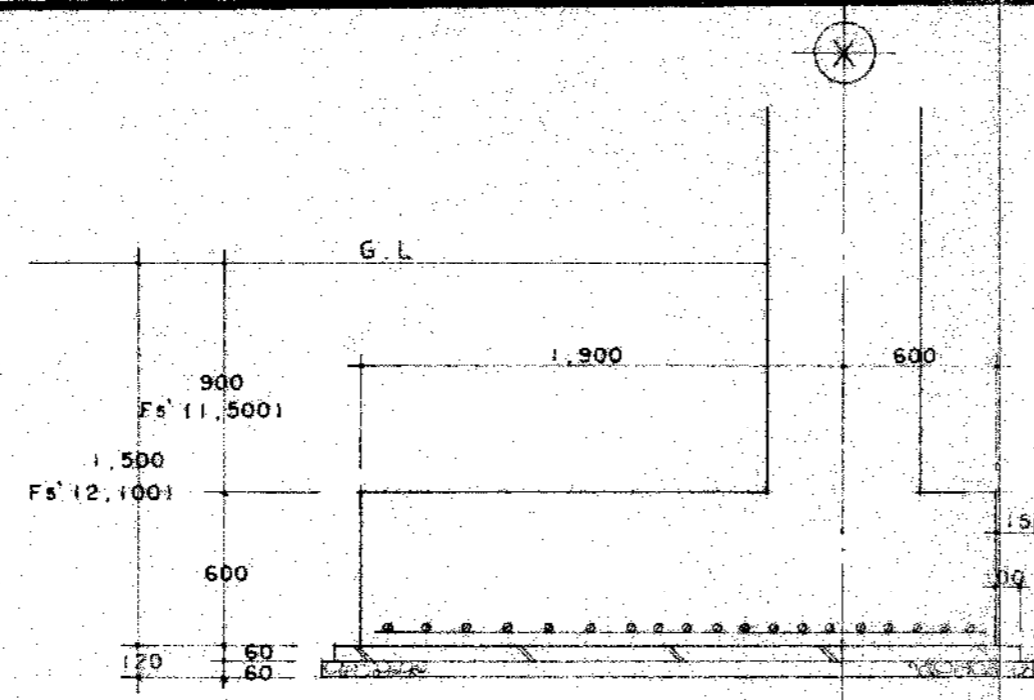
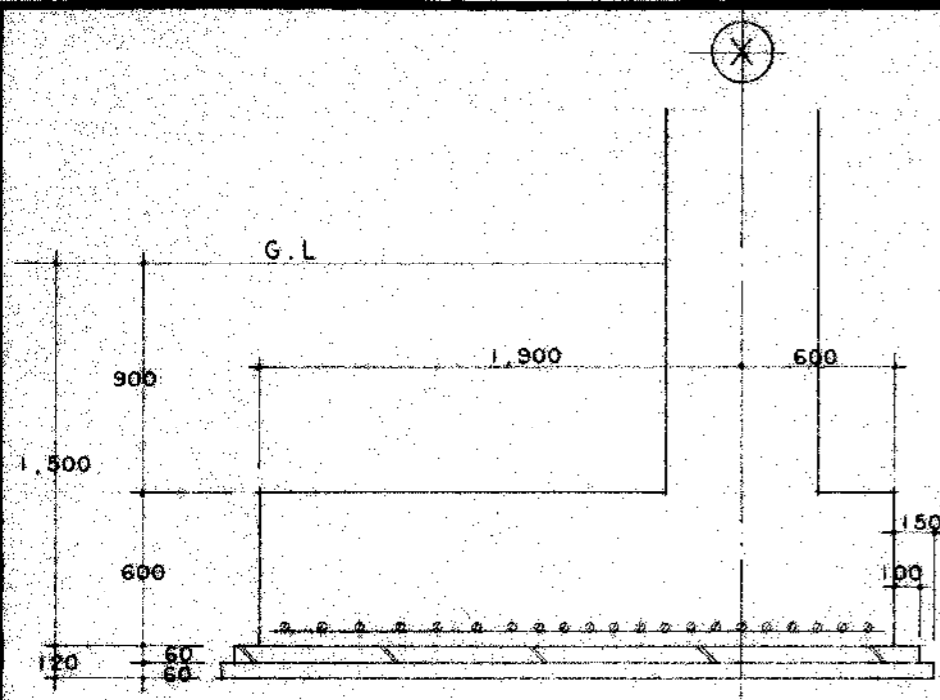
記号	B1			B2			B3		B4			B5			B6	
計算書記号	RB1			B3			B7		B6			B4			B4	
寸法	300×700			300×700			300×500		300×400			250×600			250×600	
部位	外端	中央	内端	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央	
断面図																
上筋	3-D22	2-D22	5-D22	2-D22	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	2-D19	2-D19	3-D22	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	
下筋	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	4-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D19	3-D19	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	
S.T.P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°	
腹筋	2-D10			2-D10								2-D10			2-D10	
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°								D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°	
記号	B7		B8			B9	CG1	WG		FB1			FB2			
計算書記号	B2, B5		B5			B2	CG	壁梁		FB1			FB2			
寸法	250×500		250×500			250×500	350×900	180×1,500		350×1,500			350×1,500			
部位	両端	中央	外端	中央	内端	全断面	全断面	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央		
断面図																
上筋	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22	5-D25	4-D13	2-D13	3-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25		
下筋	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	4-D25	2-D13	3-D13	2-D25	4-D25	3-D25	2-D25	3-D25		
S.T.P	D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°	D10 ~ 150°	D10 ~ 250°		D10 ~ 150°			D10 ~ 150°			
腹筋							4-D10	12-D13		6-D10			6-D10			
巾止筋							2-D10 ~ 1,000°	6-D10 ~ 1,000°		3-D10 ~ 1,000°			3-D10 ~ 1,000°			
記号	FG1		FG2	FG3	FG4		FG5		FG6		FG7					
計算書記号	7-1Gd, 2-1Gd		D-1G3, 4, 1-1Gd, 3-6-1Gd	A-1G2-6, B-1G1-6, C-1G1-6, D-1G1 E-1G3, 4, 1-1Gd, 2-6-1Ga-c, 7-1Ga-b	7-1Gc		D-1G6		E-1G5		E-1G1, 2, E-1G6, D-1G2, 5					
寸法	400×1,200		400×1,200	400×900	400×900		400×900		400×900		400×900					
部位	内端, 中央	外端	全断面	全断面	Y3	中央, Y4	両端	中央	X5,	中央, X6	X1, X3, X6, 中央	X2, X7, X5				
断面図																
上筋	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25				
下筋	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25				
S.T.P	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°	D10 ~ 150°	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°					
腹筋	6-D10		6-D10	4-D10	4-D10		4-D10		4-D10		4-D10					
巾止筋	3-D10 ~ 1,000°		3-D10 ~ 1,000°	2-D10 ~ 1,000°	2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°					



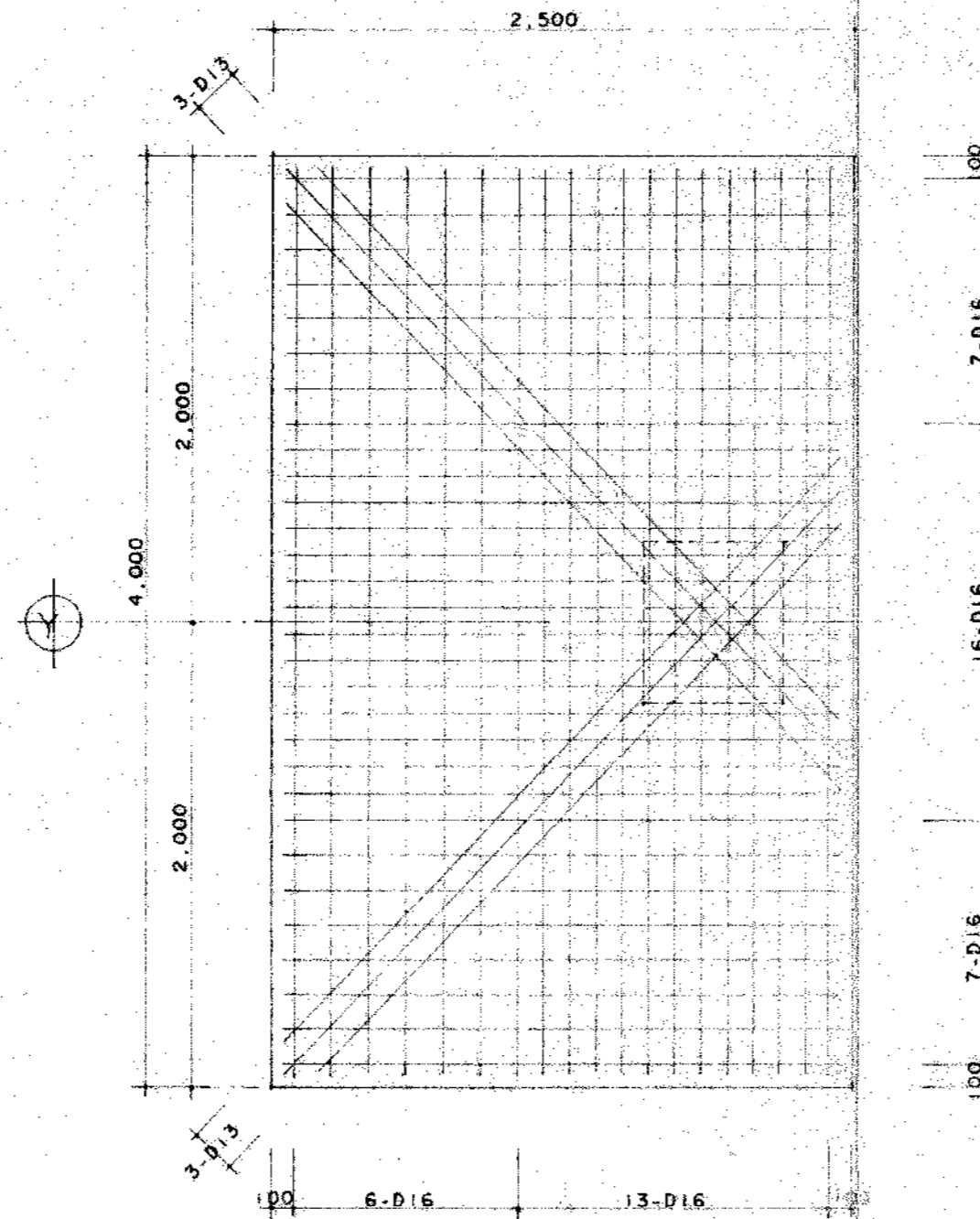
F1, F1' 詳細図 S=1/30

F2, F2' 詳細図 S=1/30

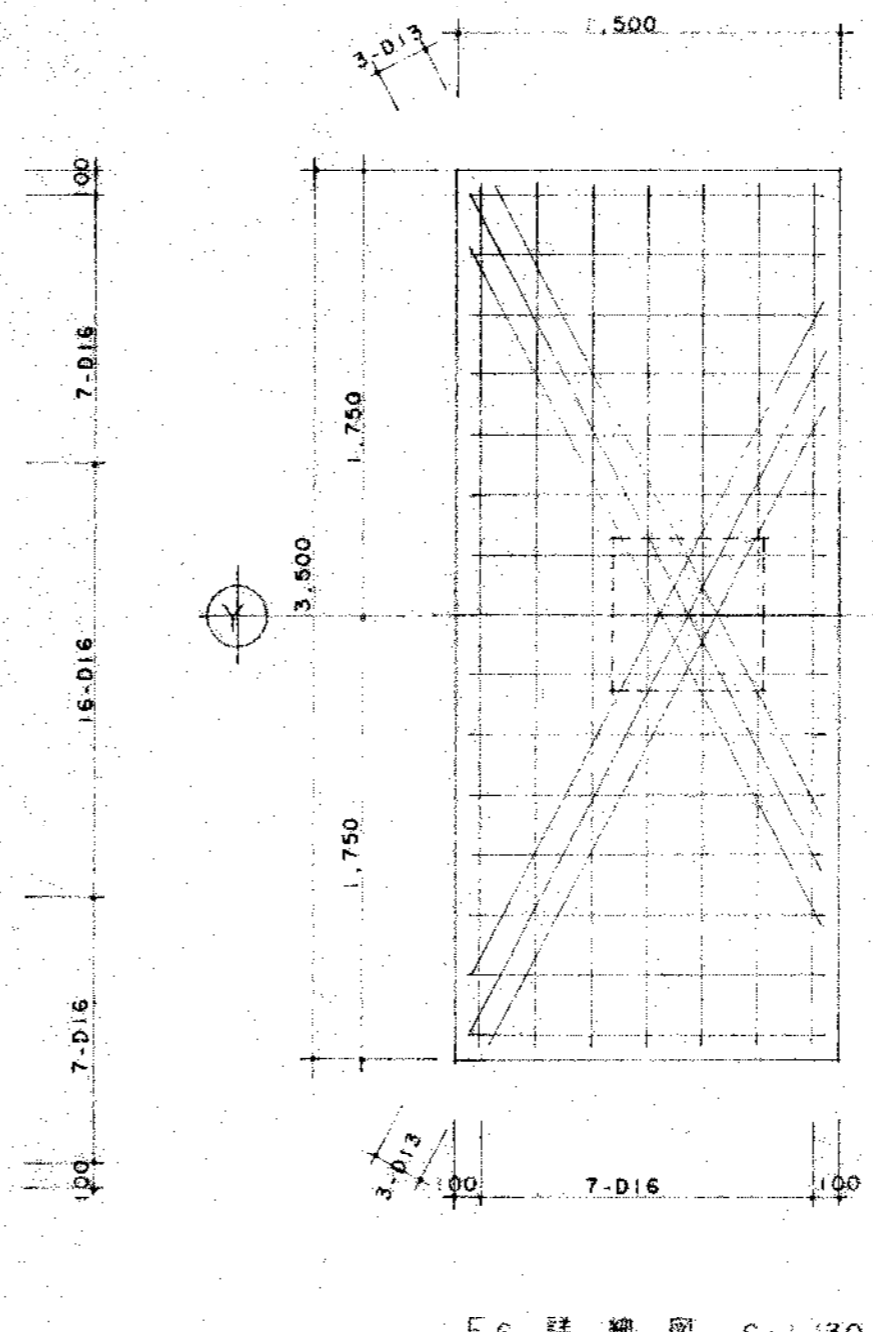
F3 詳細図 S=1/30



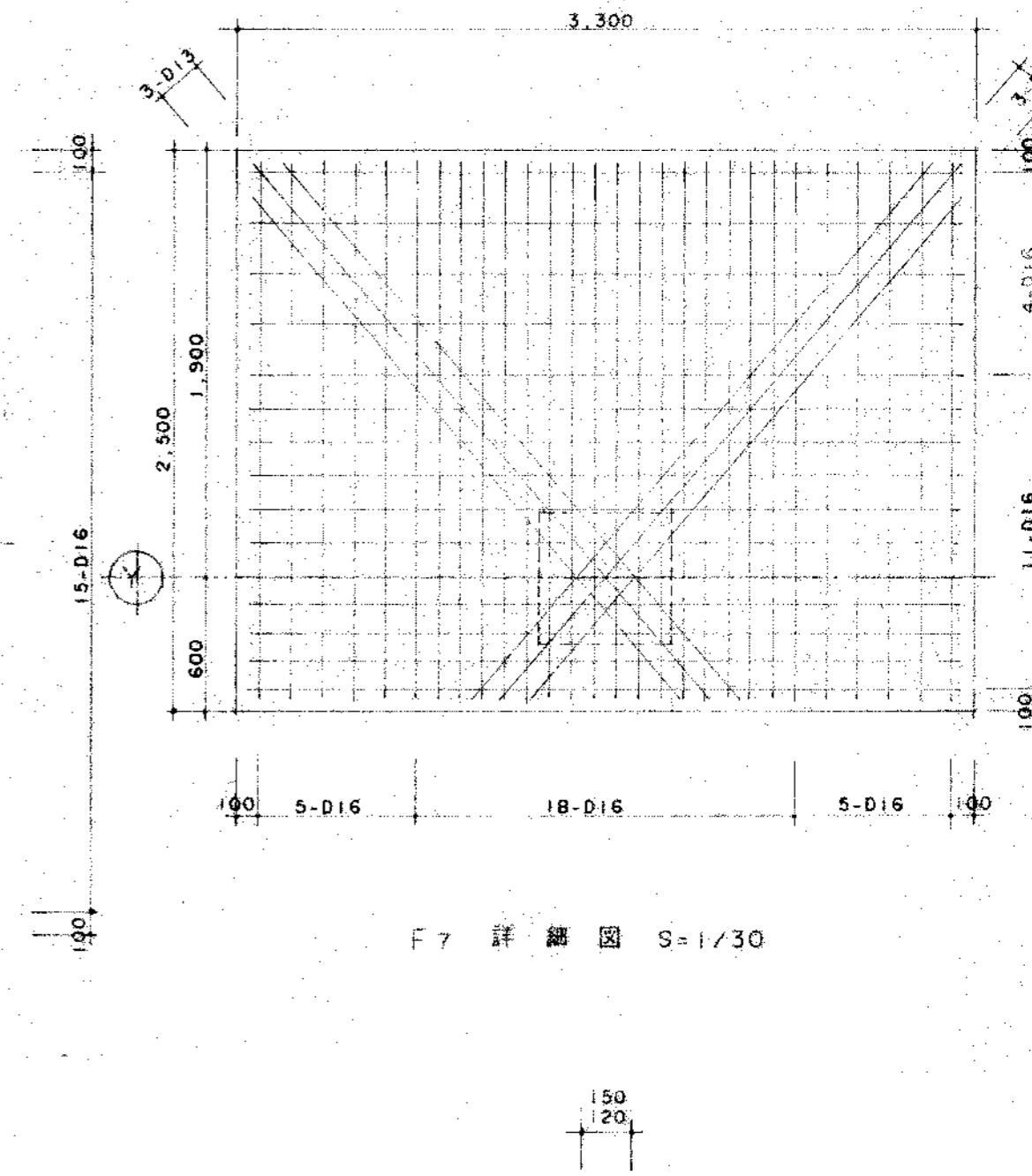
F4 詳細図 S=1/30



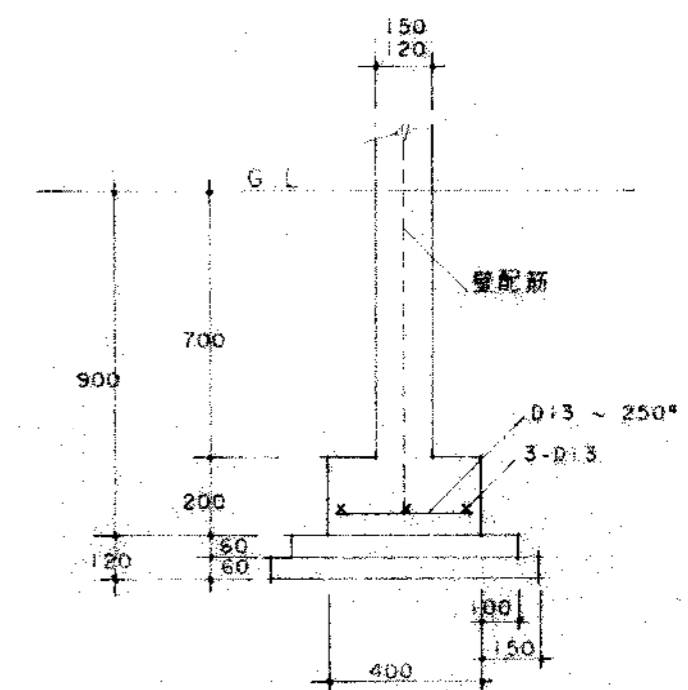
F5, F5' 詳細図 S=1/30



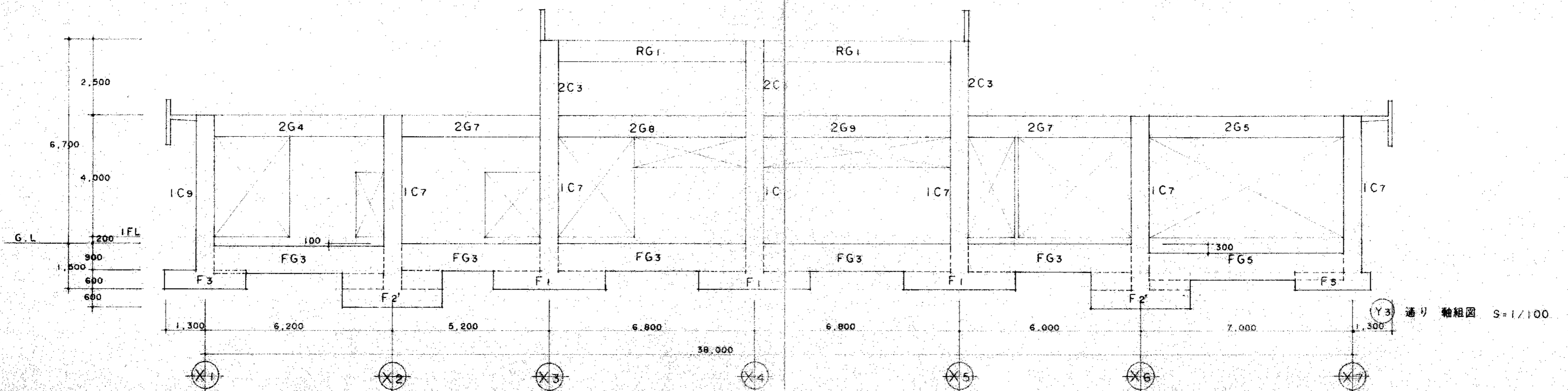
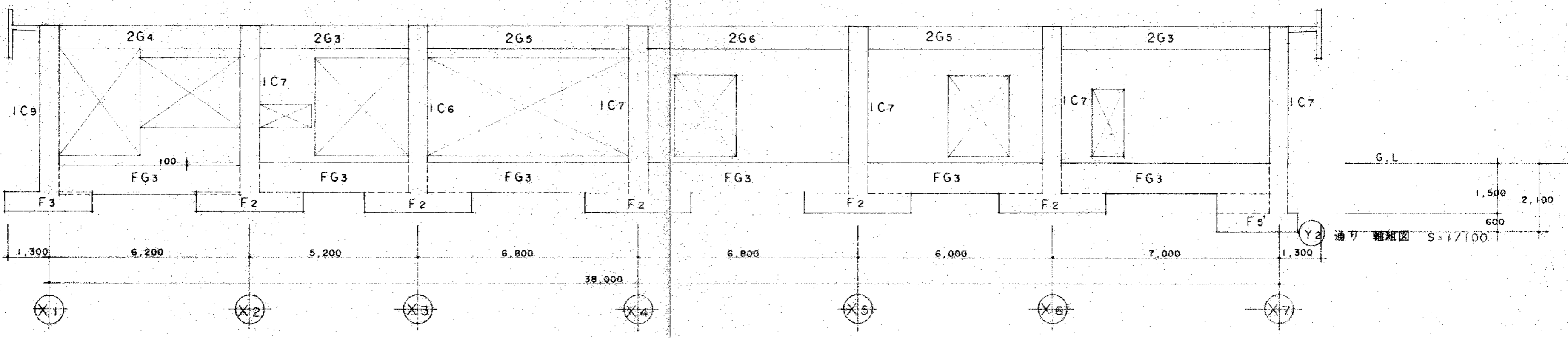
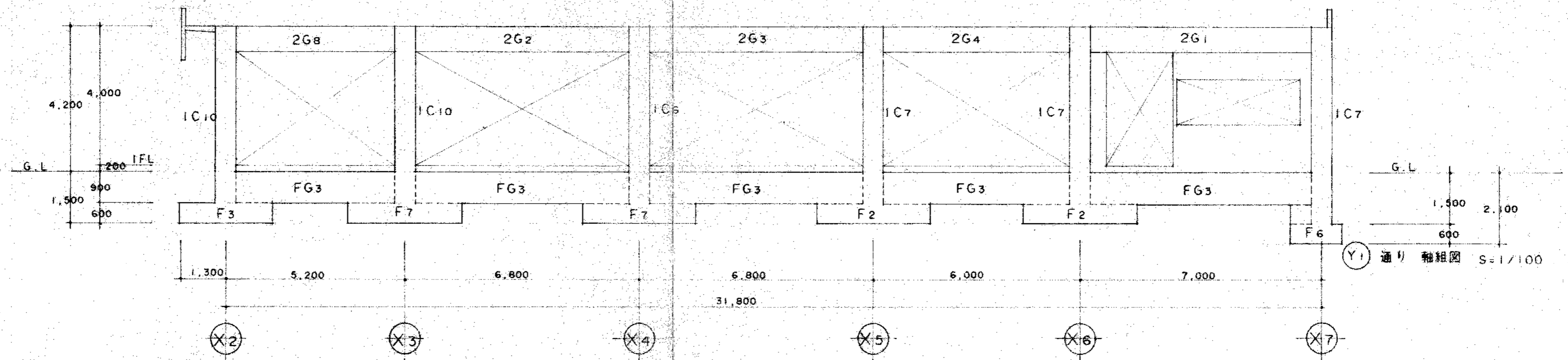
F6 詳細図 S=1/30

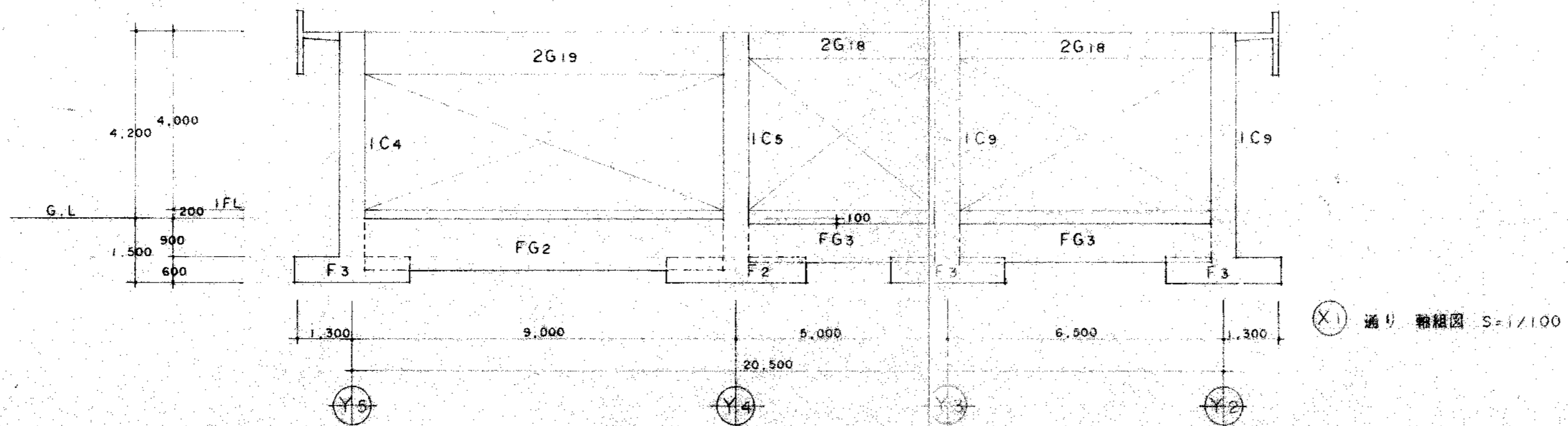
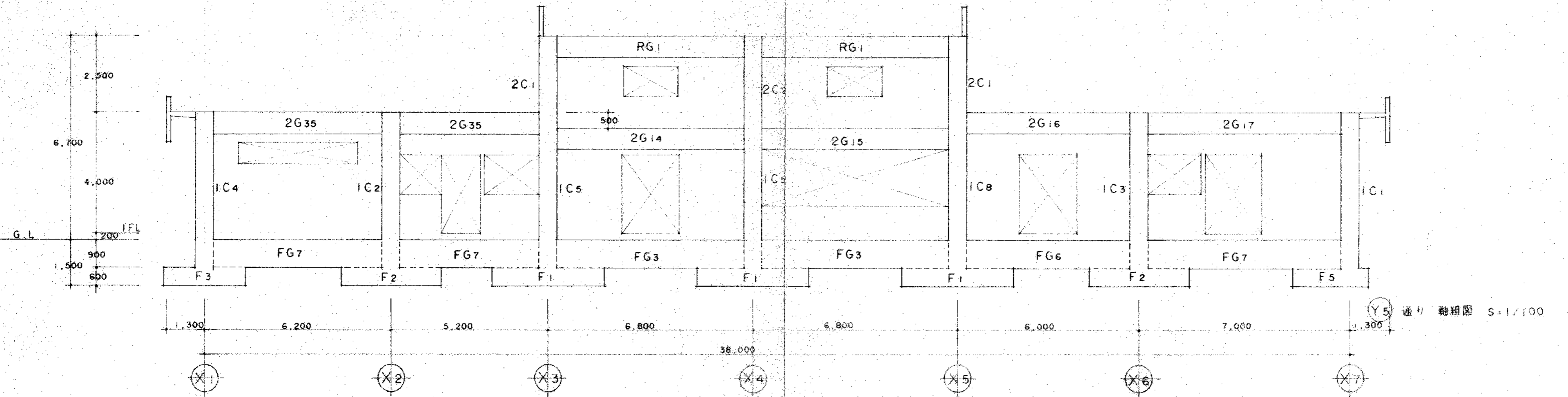
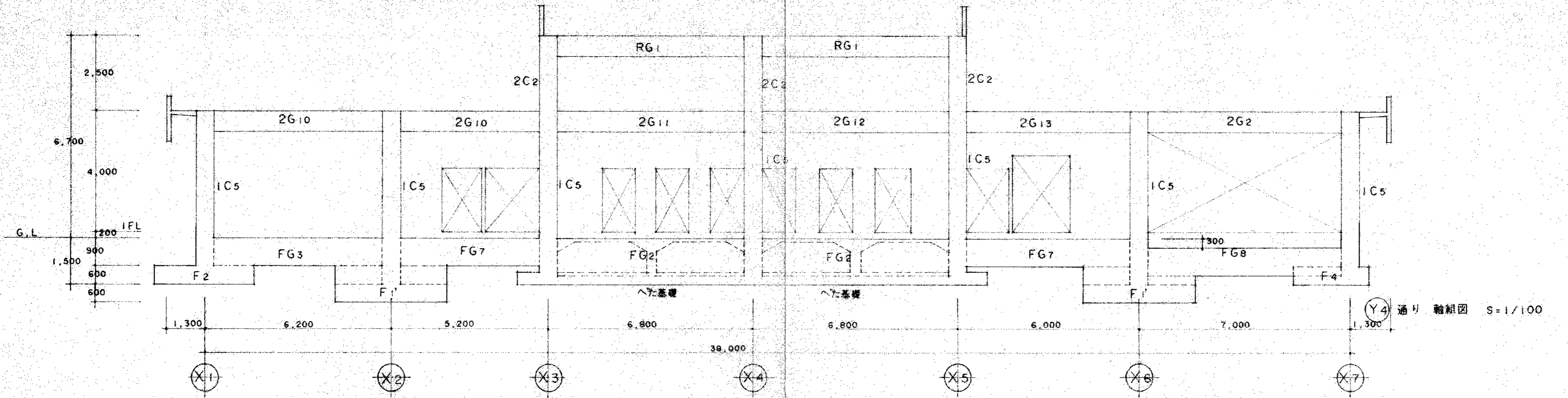


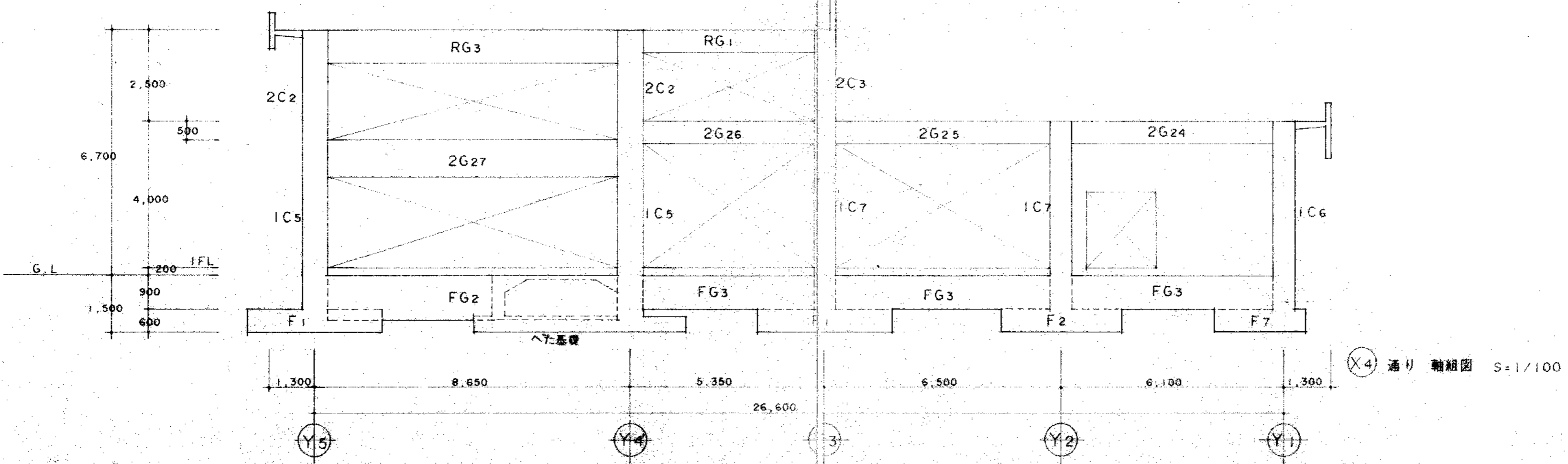
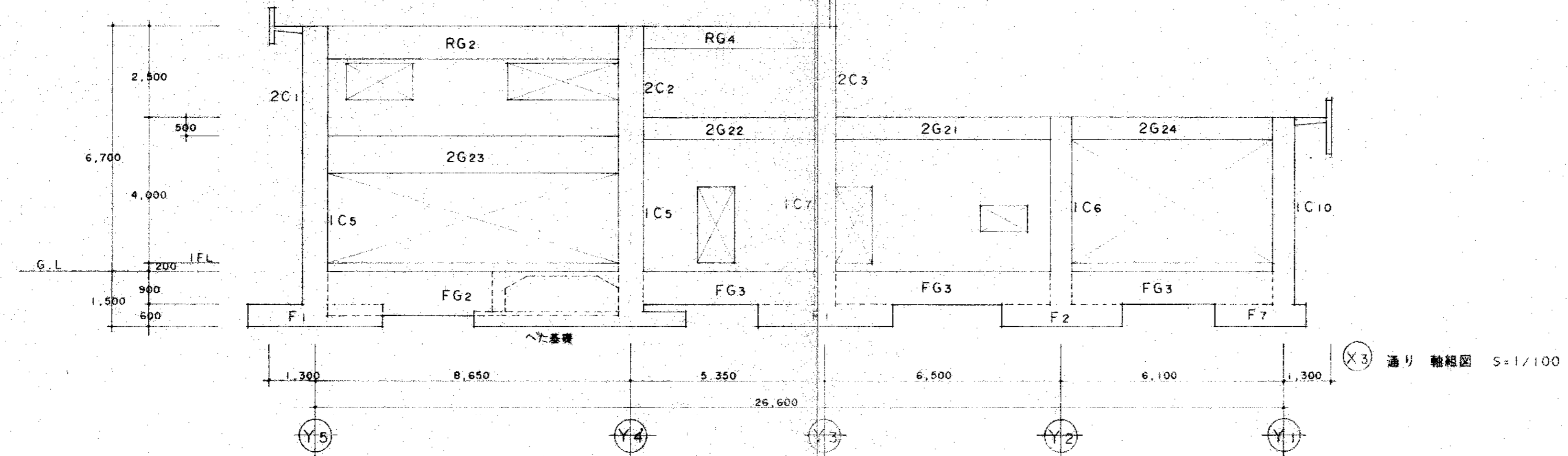
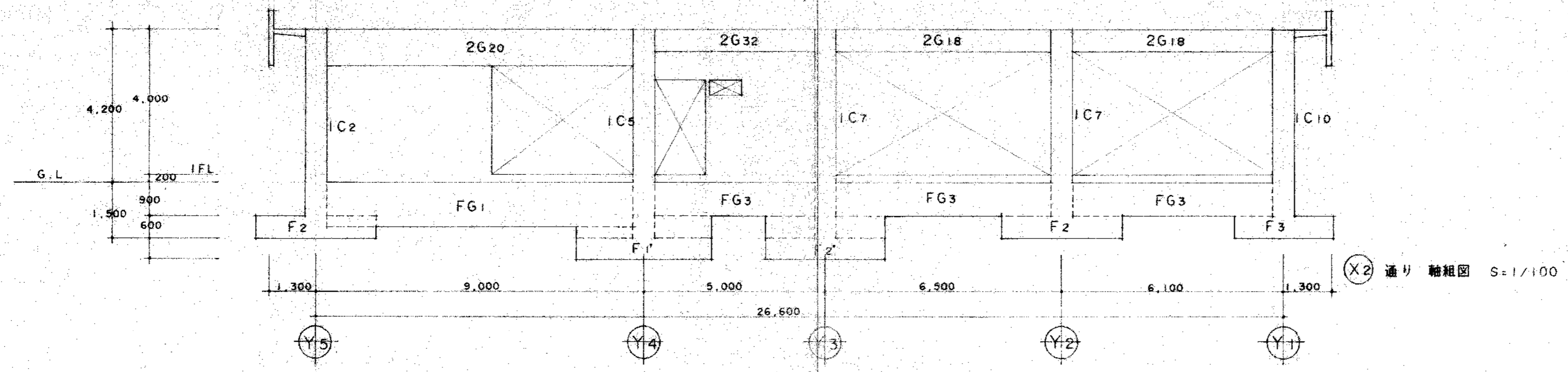
F7 詳細図 S=1/30

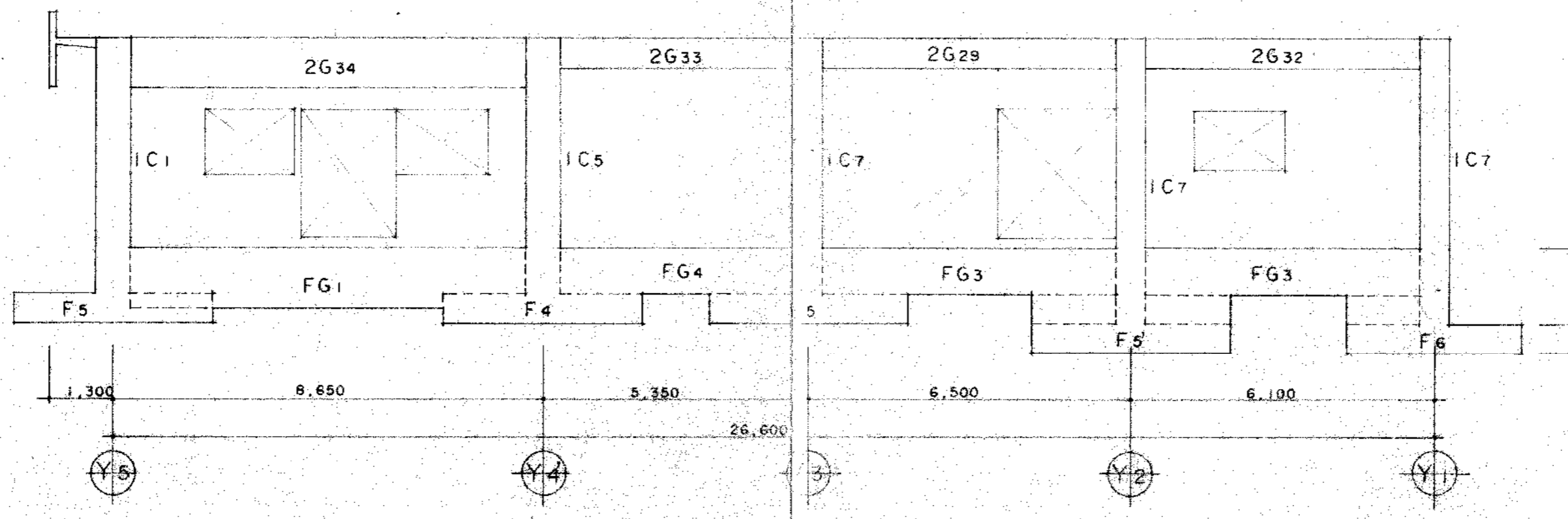
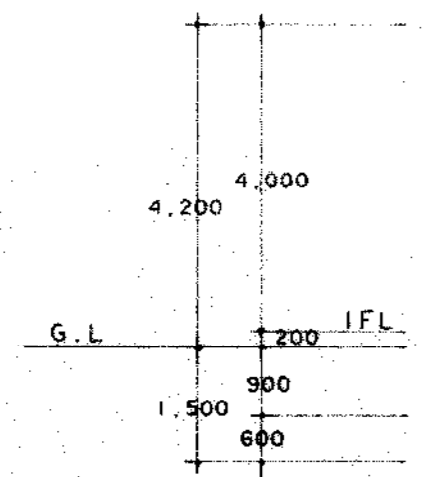
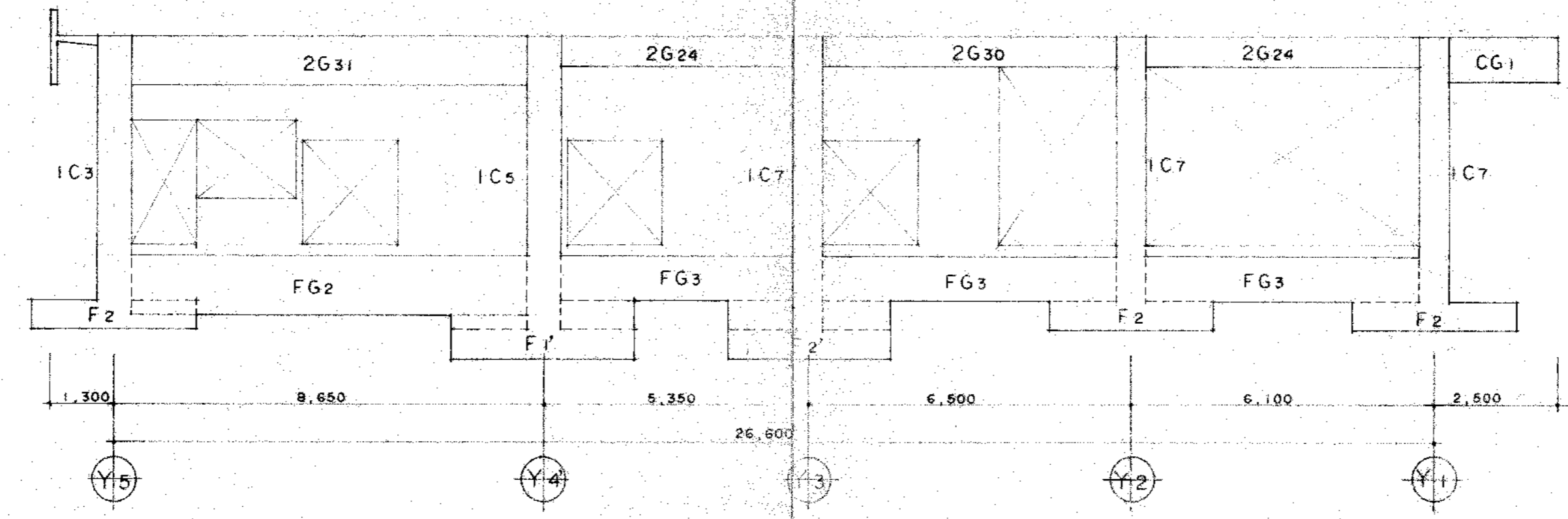
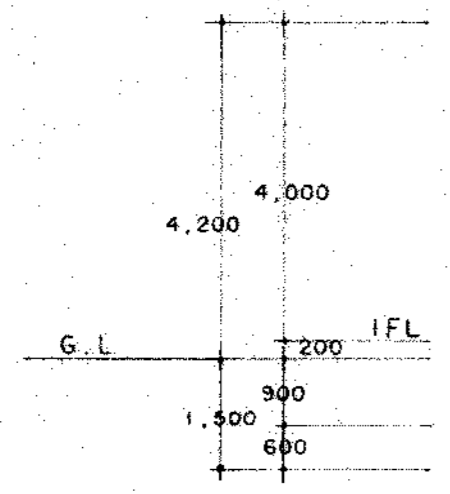
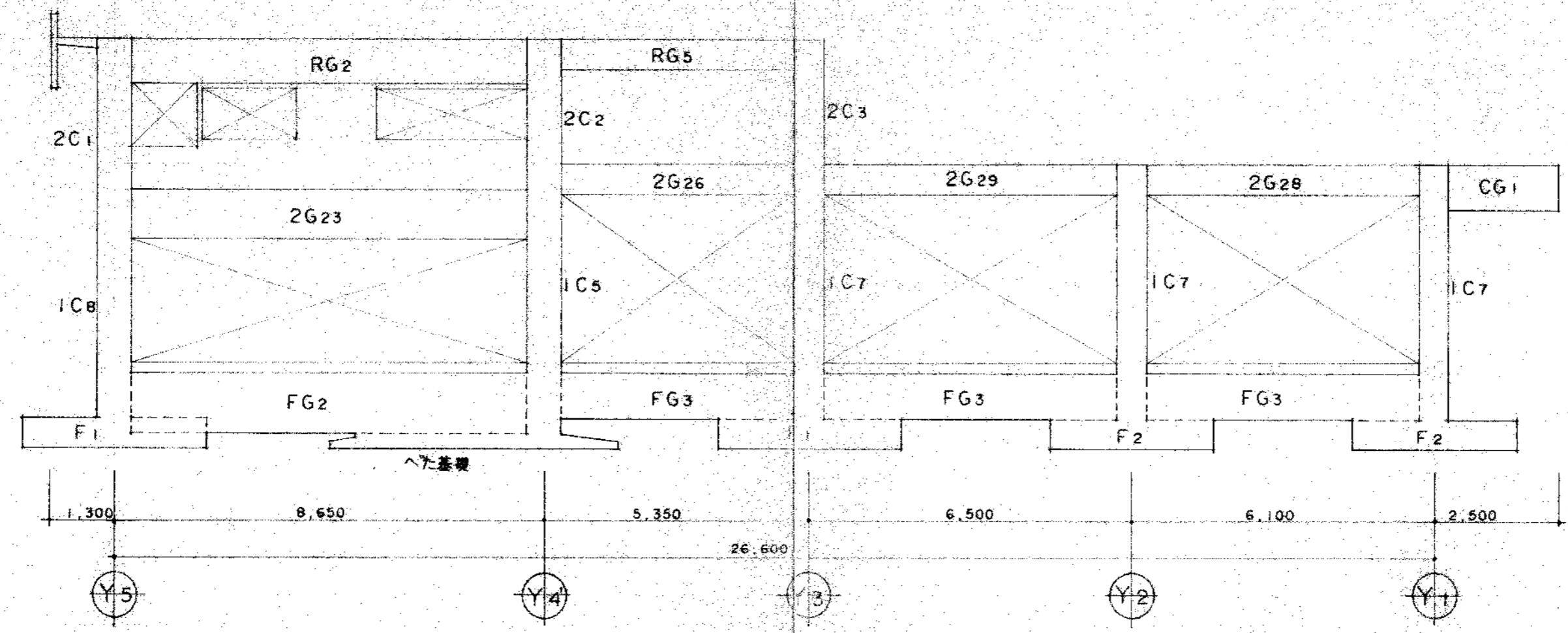
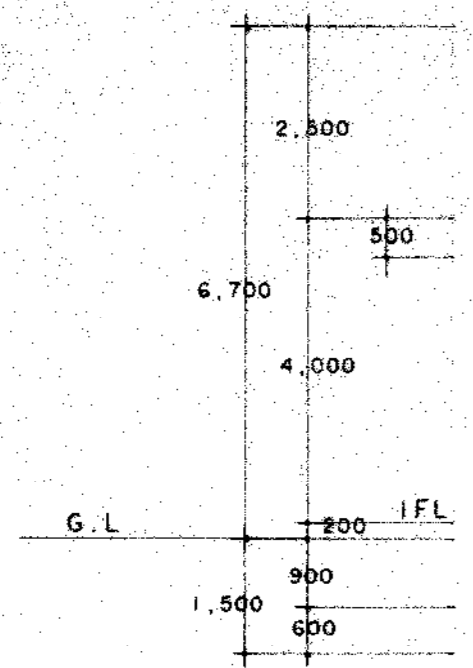


FW 詳細図 S=1/20





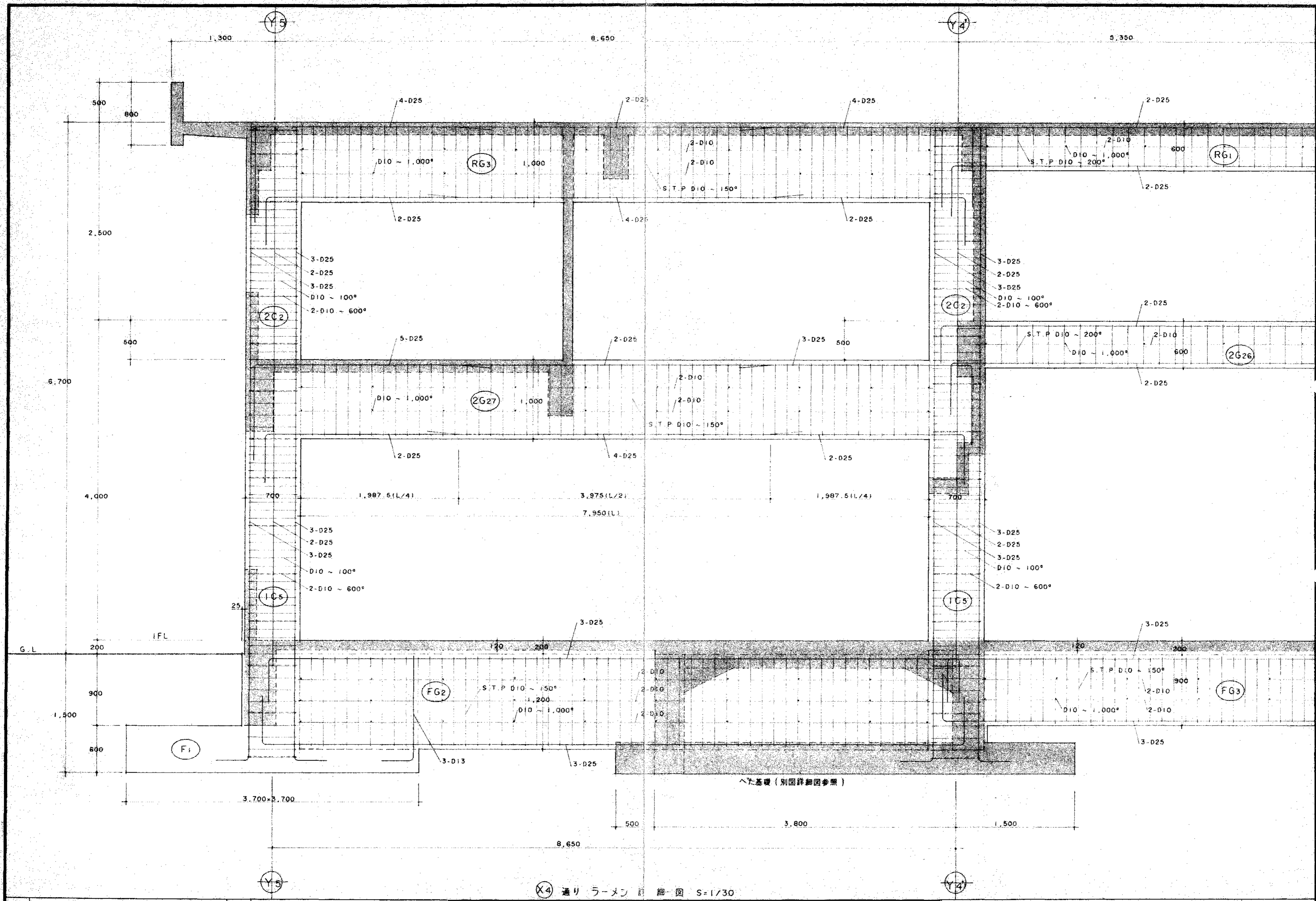




X5 通り 軸組図 S=1/100

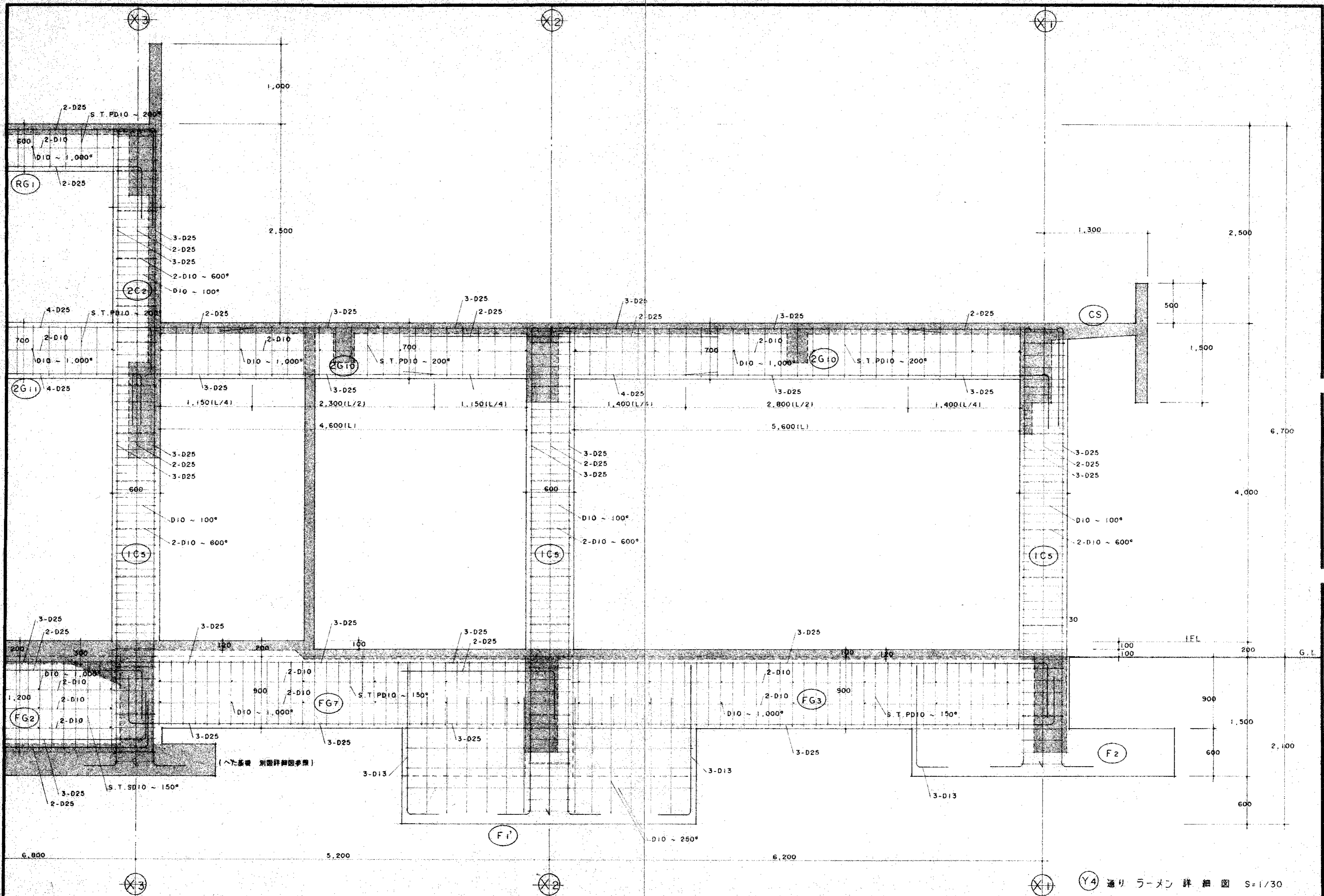
X6 通り 軸組図 S=1/100

X7 通り 軸組図 S=1/100



X4 通り ラーメン 詳細図 S=1/30

会津若松市市場新築		工事設計図	No
製	ラーメン 詳細図 (1)	S=1/30	S-26
図			



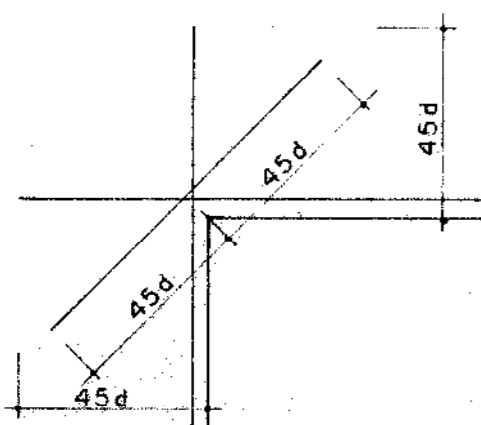
Y4 通り ラーメン 詳細図 S=1/30

床スラブ 配筋リスト

記号	厚さ	部位	短辺方向 主筋			長辺方向 配力筋		
			中央部		端部	中央部		端部
			端部 (A)	中央部 (B)	全域 (C, D)	端部 (D)	中央部 (B)	全域 (A, C)
S1	T=160	上筋	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
S2	T=160	上筋	D10, D13 ~ 100°	D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 100°	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 200°	D10 ~ 100°	D10 ~ 200°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
S3	T=160	上筋	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S4	T=160	上筋	D10, D13 ~ 100°	D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 100°	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 200°	D10 ~ 100°	D10 ~ 200°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
S5	T=160	上筋	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S6	T=160	上筋	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S7	T=160	上筋	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S8	T=160	上筋	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S9	T=160	上筋	D10, D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10, D13 ~ 150°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
S10	T=160	上筋	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°	D10, D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10, D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
CS	T=160	上筋		D13 ~ 150°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 300°			D10 ~ 200°	
S11	T=300	上筋	D13, D16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13, D16 ~ 150°	D13, D16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13, D16 ~ 150°
		下筋	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°

壁配筋リスト

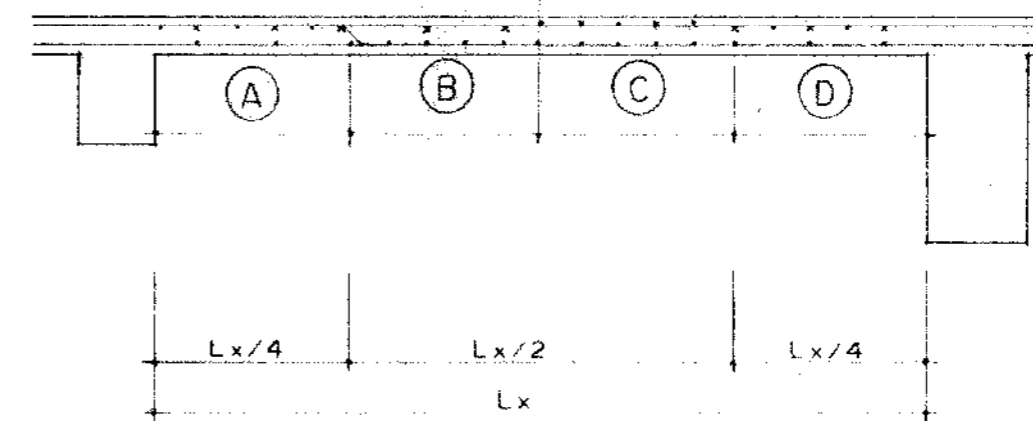
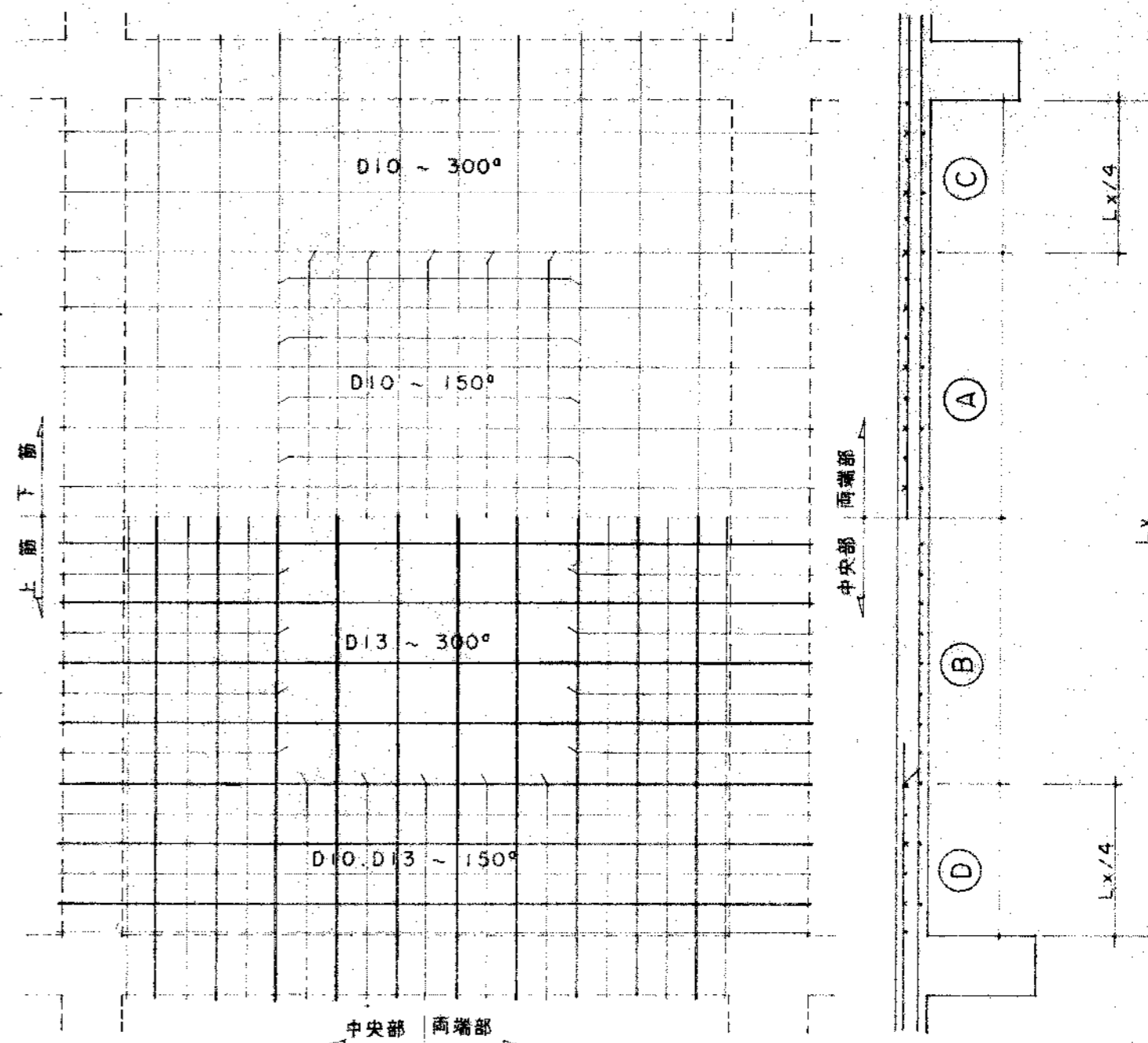
壁厚	補強筋	配筋	補強筋	縦筋	横筋	斜筋
W12	120		D10 ~ 200° シングル (縦筋・横筋 共)	縦筋	1-D13 シングル	
W15	150		D10 ~ 100° シングル (縦筋・横筋 共)	縦筋	3-D19 シングル	
W10	100		D10 ~ 250° シングル (縦筋・横筋 共)	縦筋	1-D13 シングル	



壁開口部補強筋

腰壁, 下り壁 配筋リスト

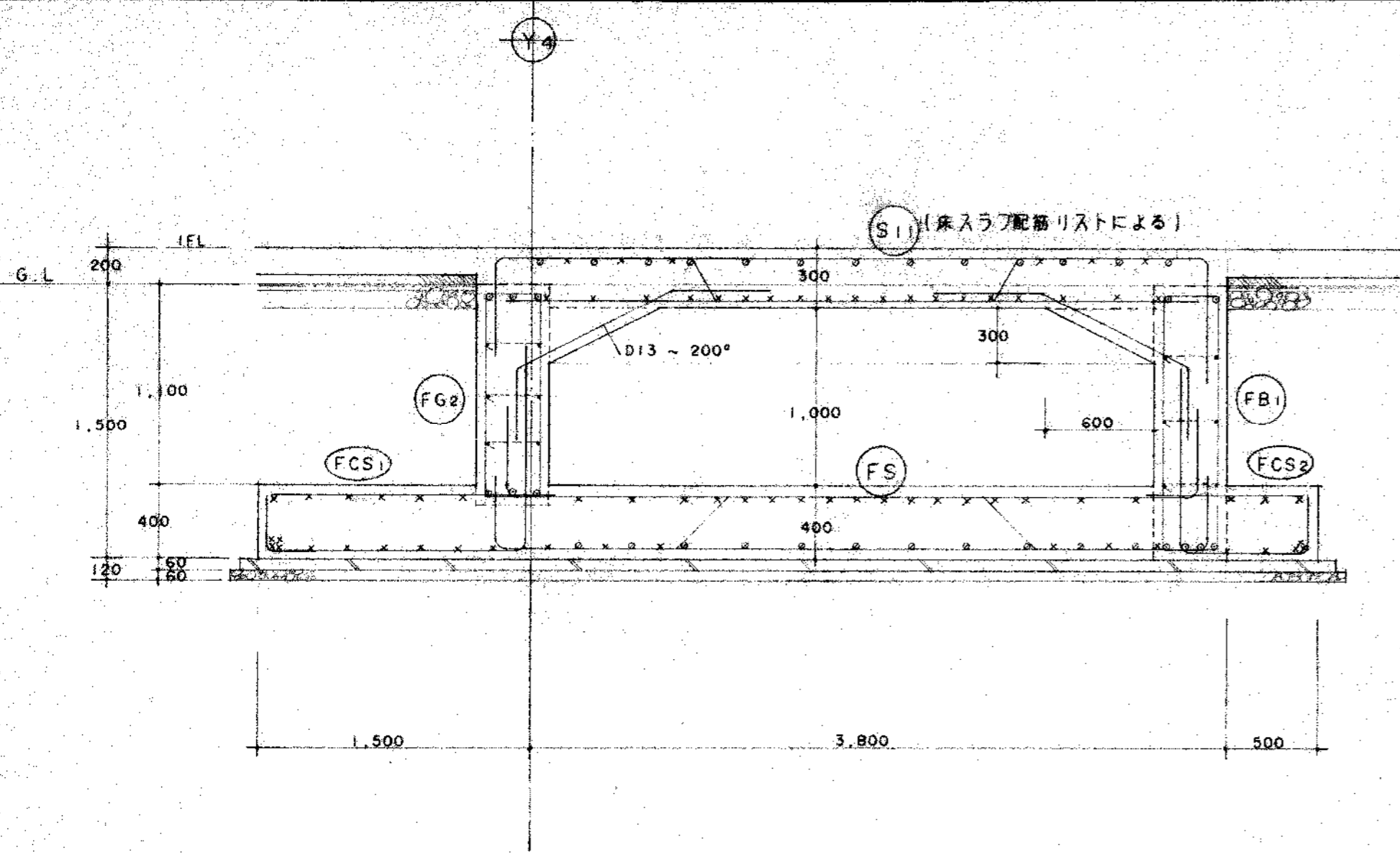
壁厚	縦筋	横筋	先端補強筋
W12	D10 ~ 200° シングル	D10 ~ 100° シングル	2-D13
W15	D10 ~ 150° シングル	D10 ~ 100° シングル	



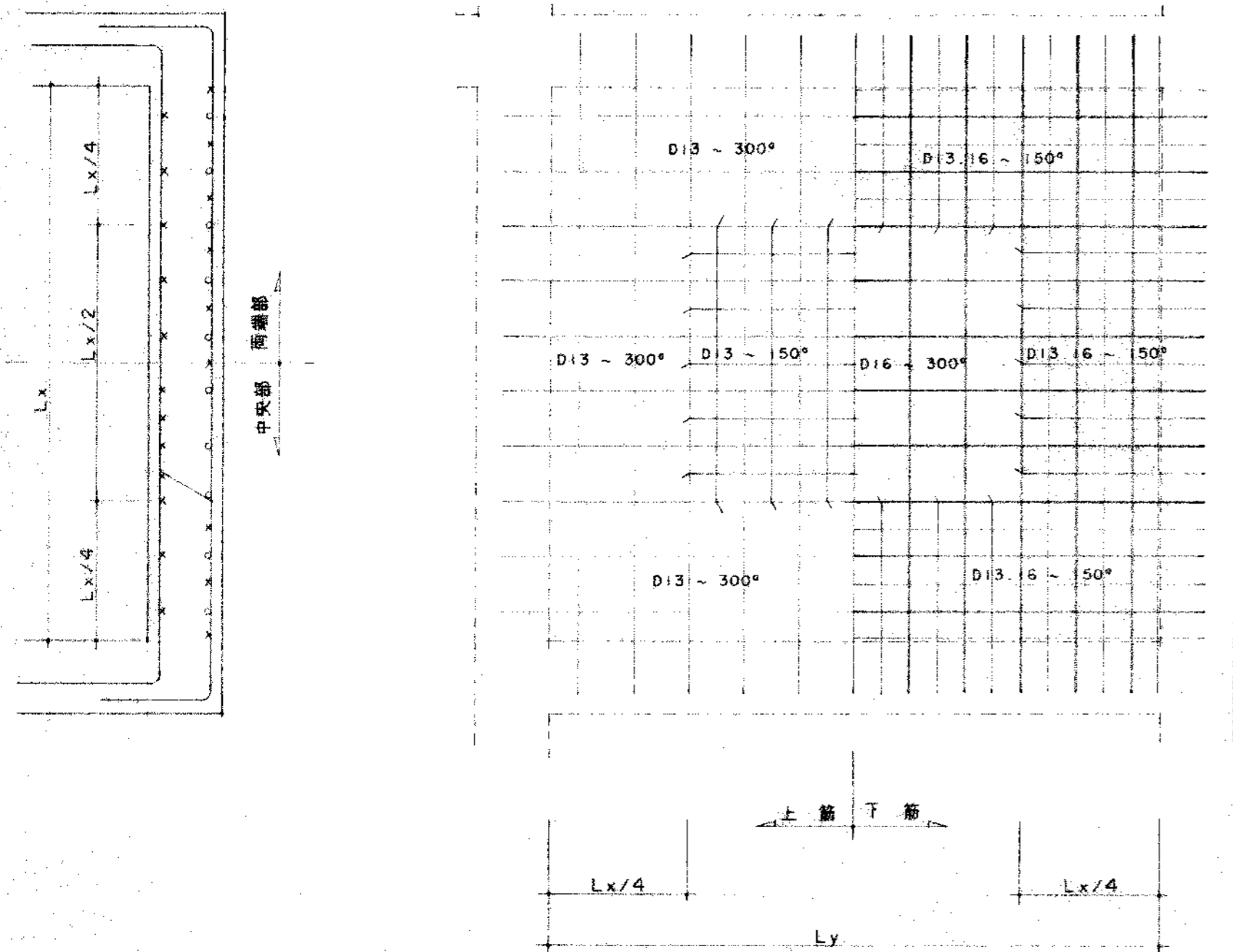
S11 配筋詳細図 S=1/30

土間配筋リスト

縦筋	D10 ~ 250° シングル
横筋	D10 ~ 250° シングル



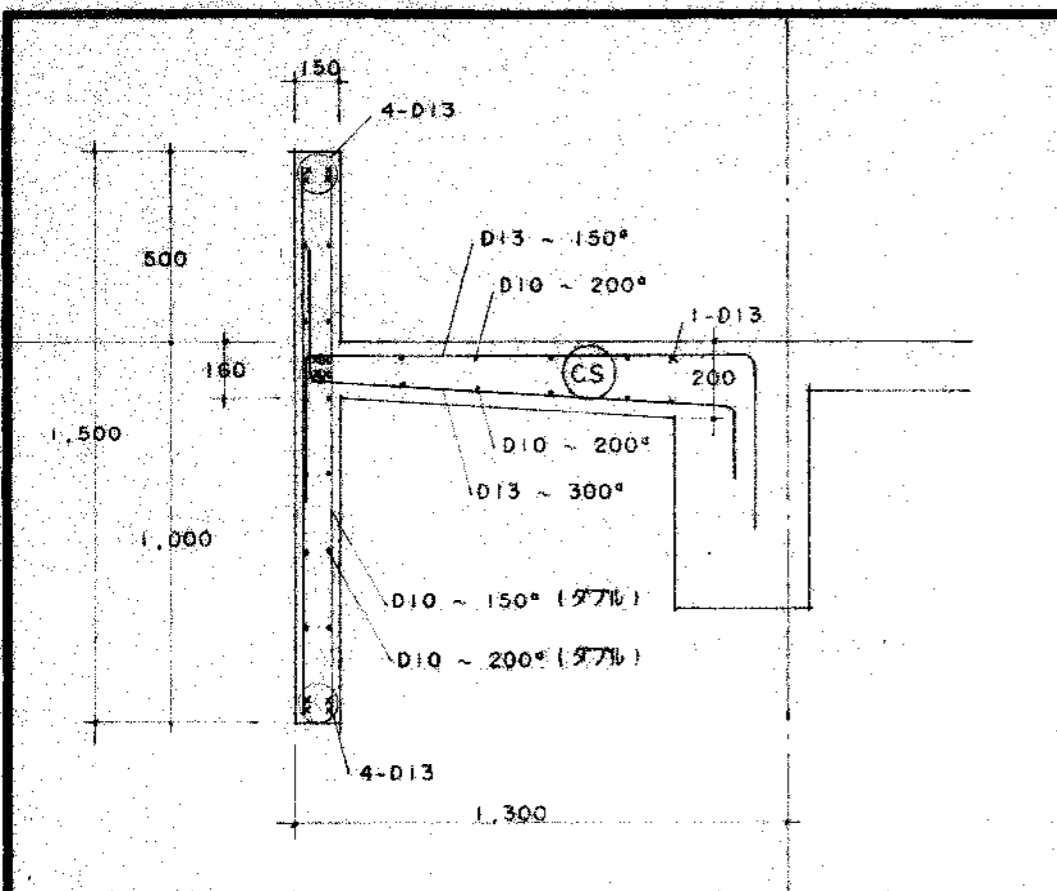
へた基礎 詳細図 S=1/30



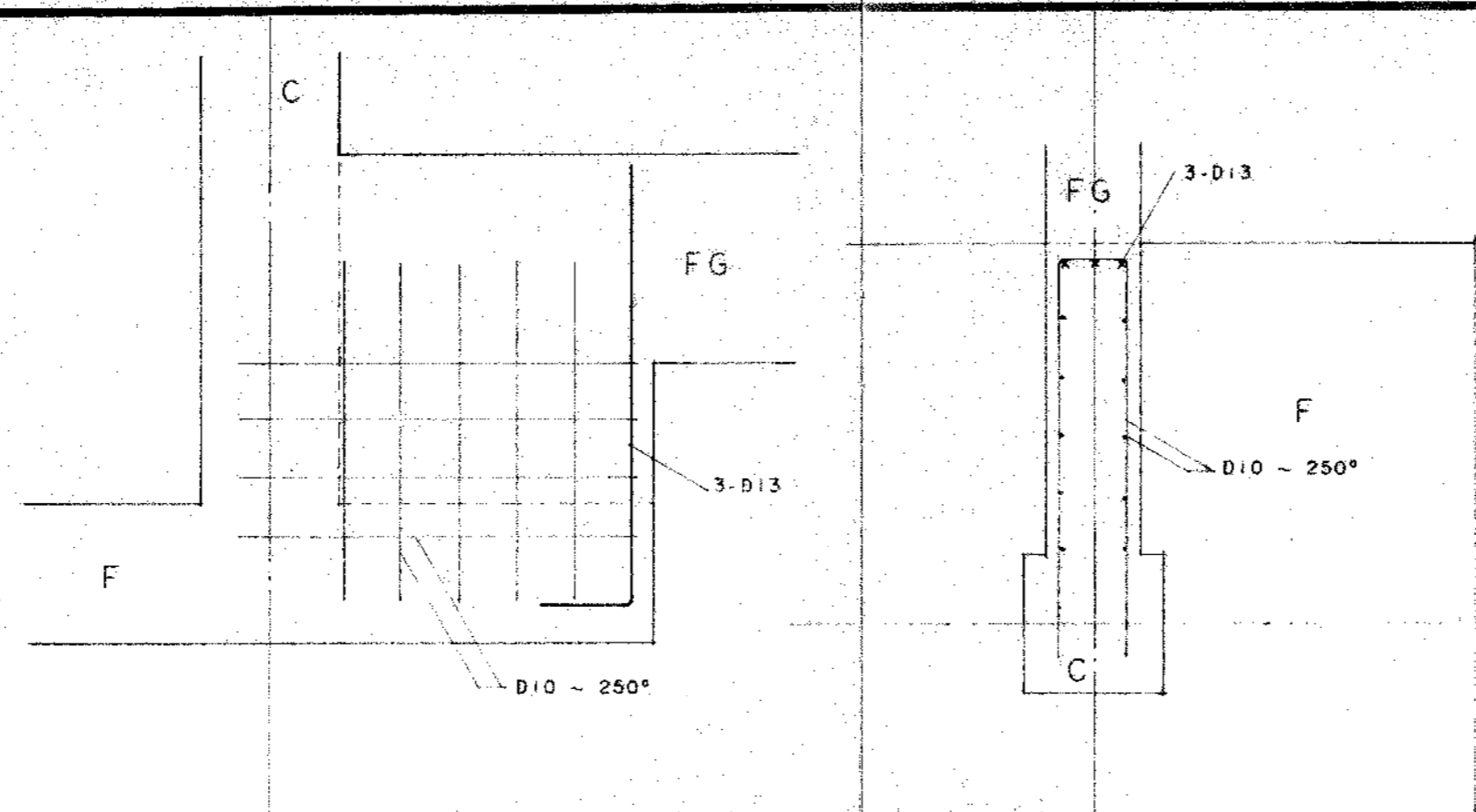
FS 配筋詳細図 S=1/30

へた基礎スラブ配筋リスト

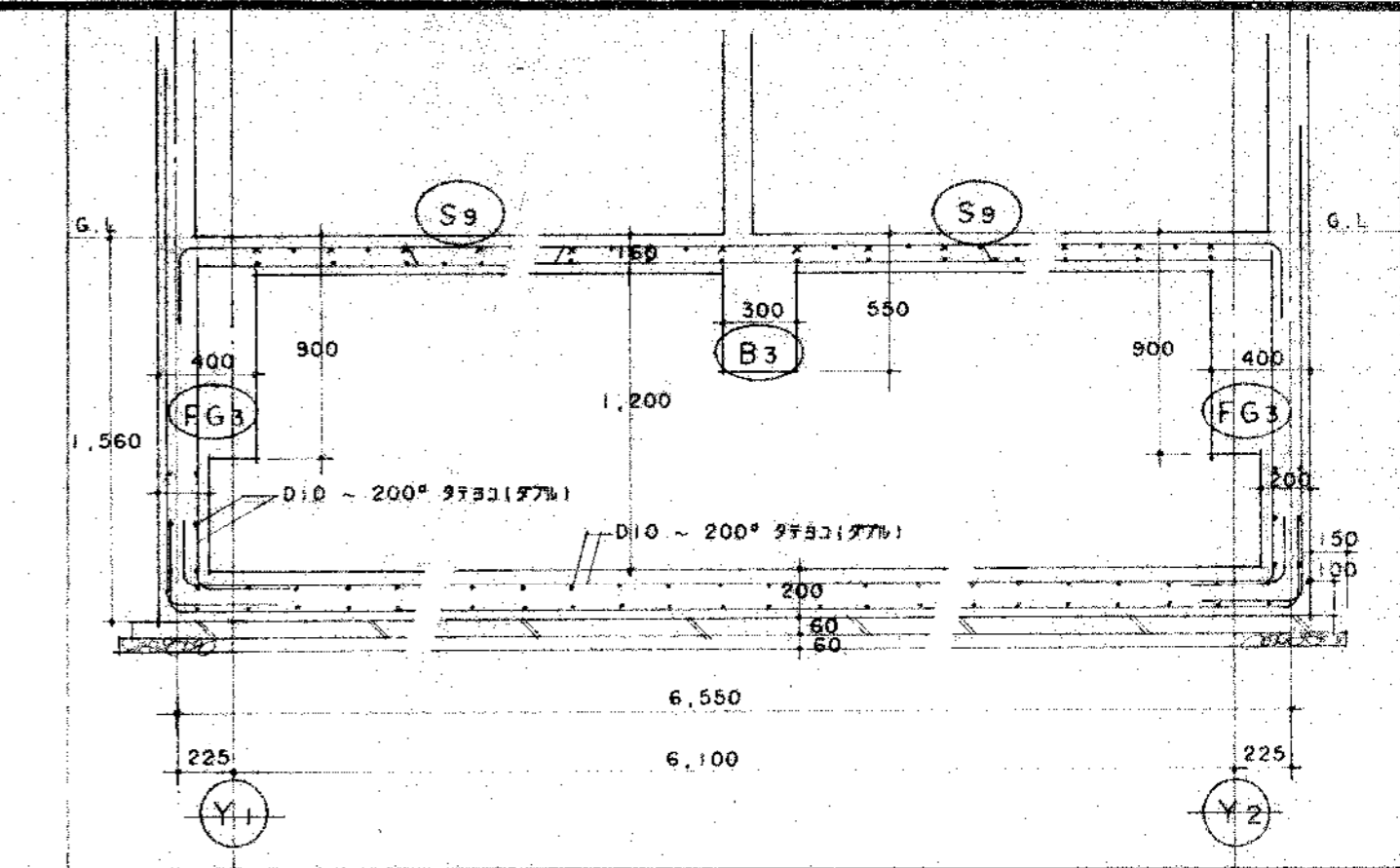
記号	厚さ	部位	短辺方向 主筋			長辺方向 配力筋		
			中央部		両端部	中央部		両端部
			端部	中央部	全域	端部	中央部	全域
FS	T-400	上筋	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°
		下筋	D13.16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.16 ~ 150°	D13.16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.16 ~ 150°
CS1	T-400	上筋		D16 ~ 100°			D13 ~ 200°	
		下筋		D16 ~ 100°			D13 ~ 200°	
CS2	T-400	上筋		D13 ~ 200°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 200°			D10 ~ 200°	
CS3	T-400	上筋		D13 ~ 100°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 100°			D10 ~ 200°	
		上筋						
		下筋						



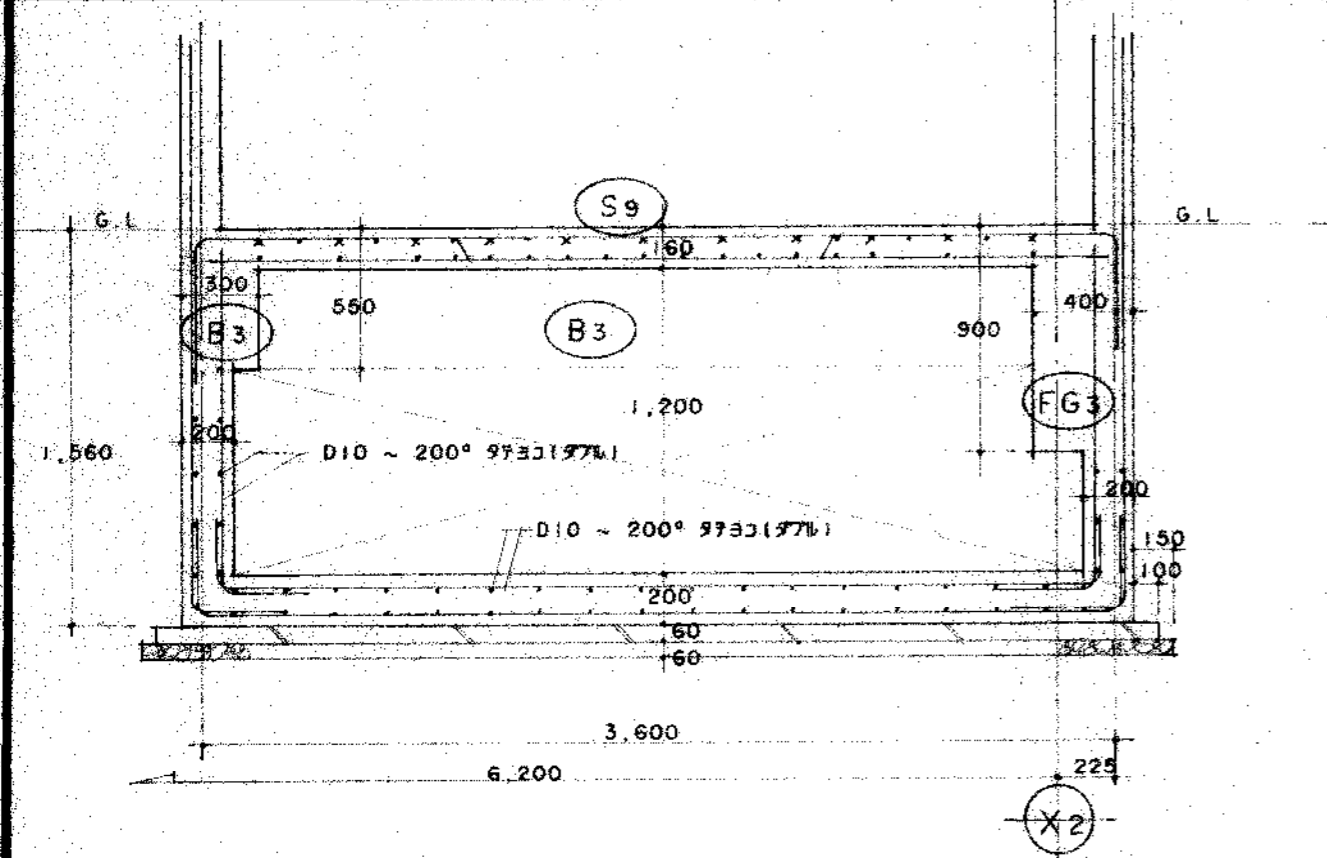
CS, パラペット 配筋詳細図 S=1/20



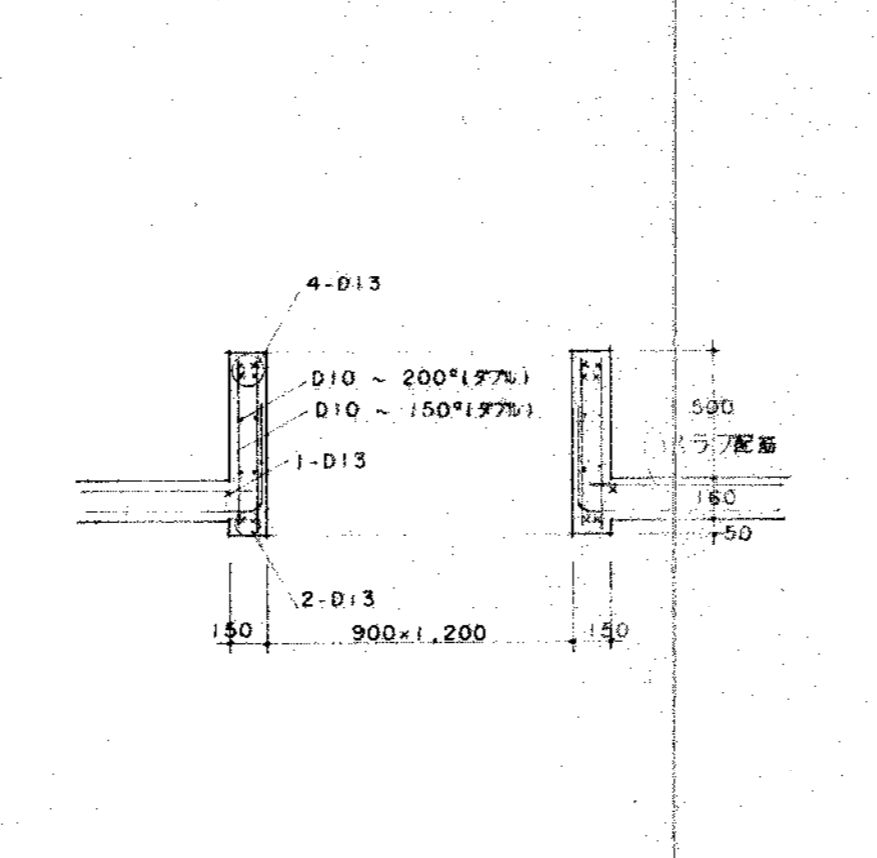
基礎 地中梁 段差部分 配筋詳細図 S=1/30



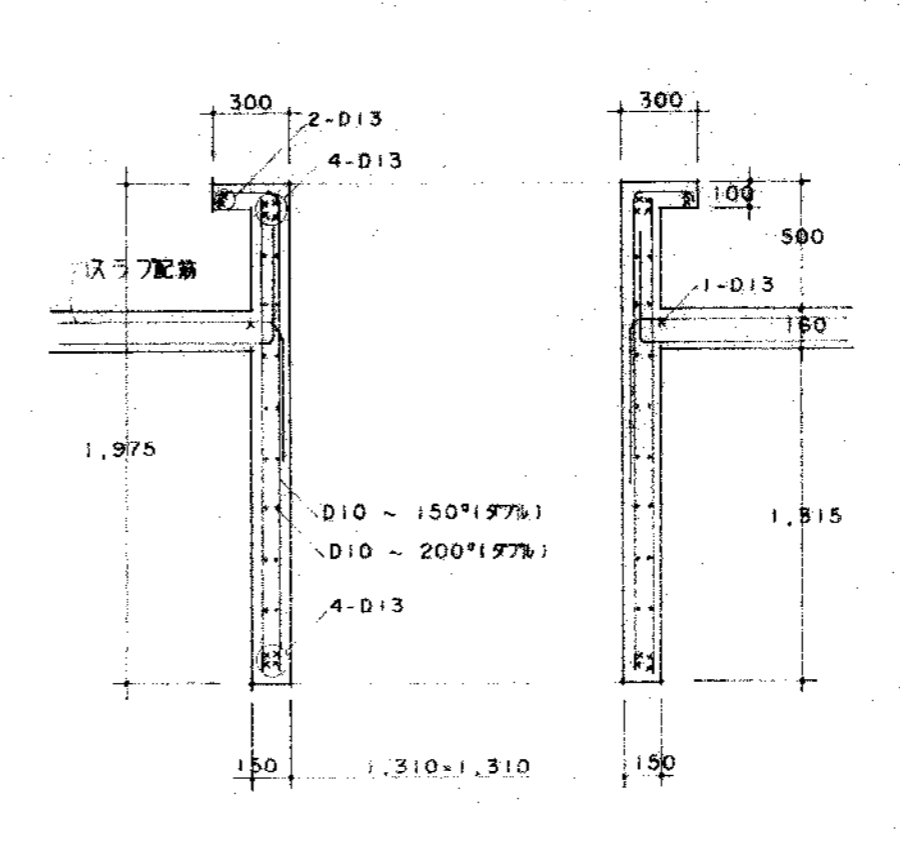
男子, 女子便所ピット 配筋詳細図 S=1/30



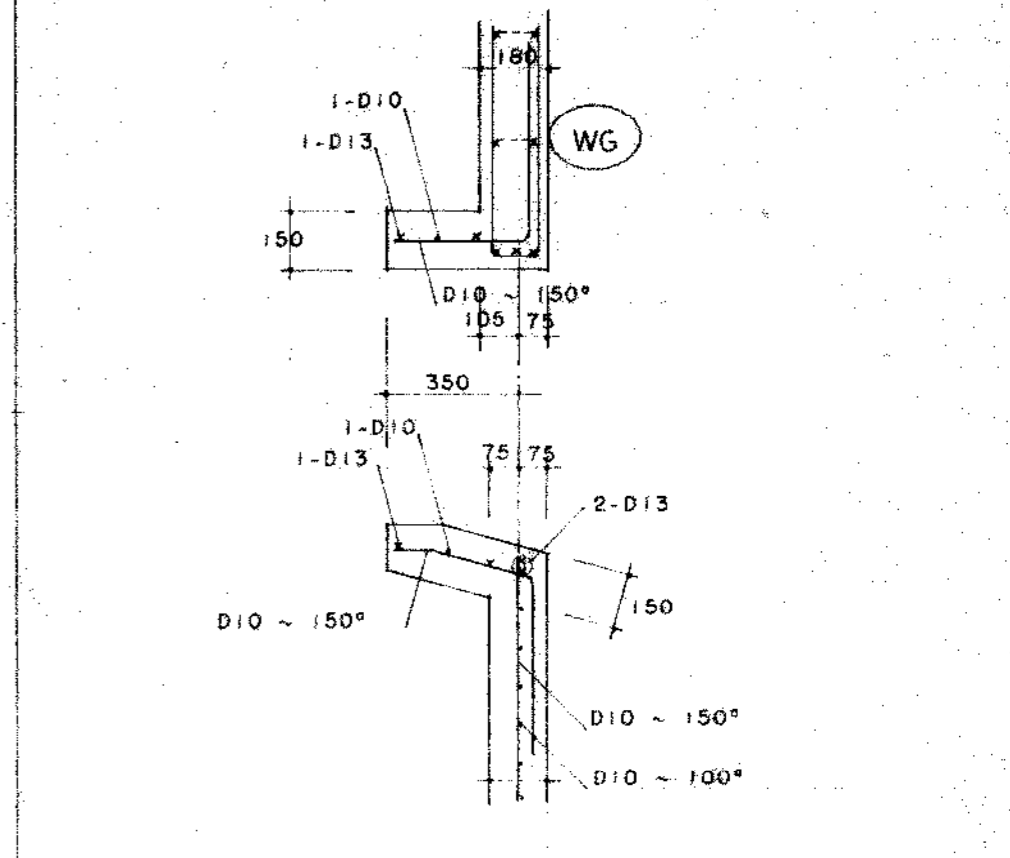
湯沸室, 便所ピット 配筋詳細図 S=1/30



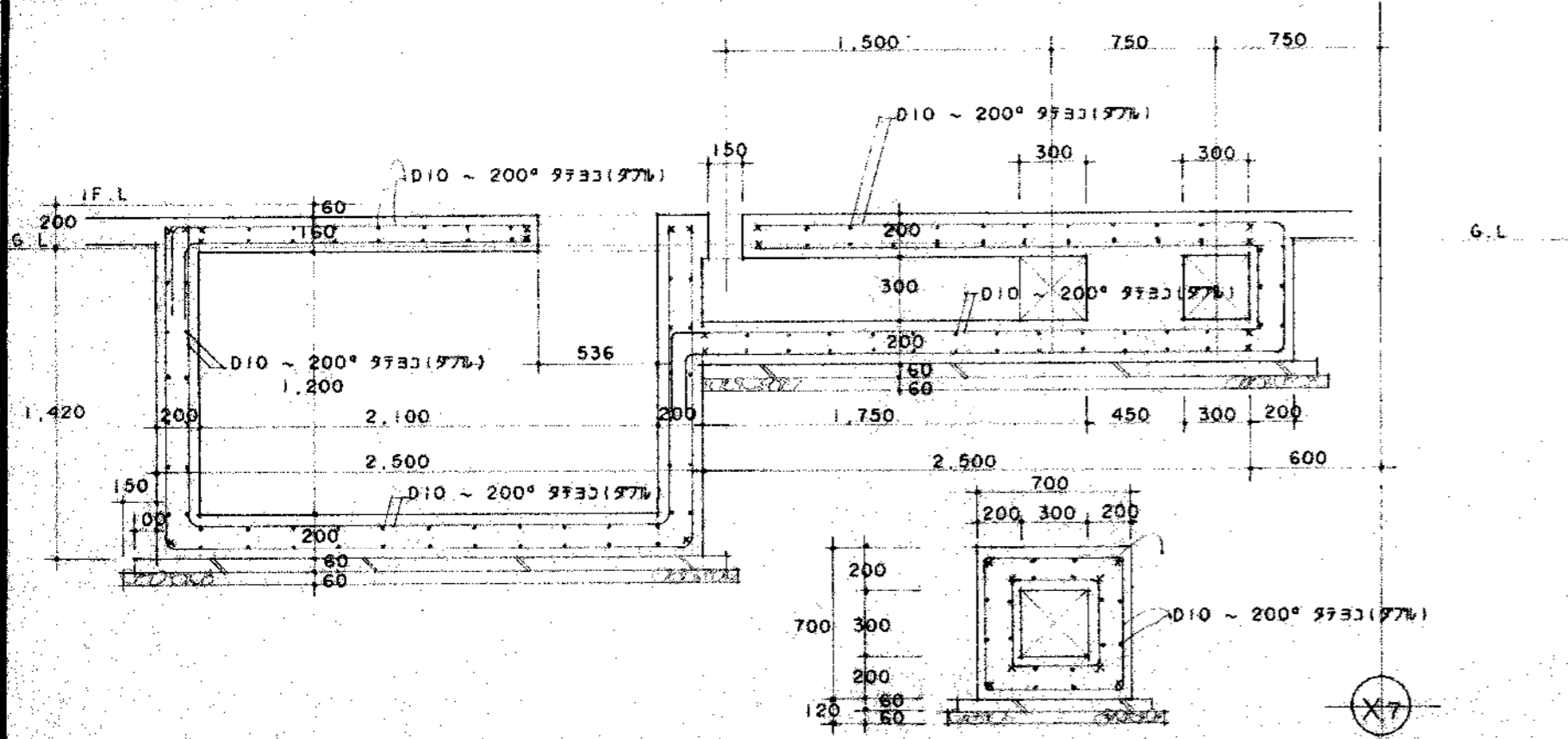
煙突 配筋詳細図 S=1/30



トップライト 配筋詳細図 S=1/30



待合ホ-ル窓 配筋詳細図 S=1/20



収骨室ピット, 排気口 配筋詳細図 S=1/30

